

五 軍法會議不當ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ  
 六 審判ノ公開ニ關スル規定ニ違ヒタルトキ  
 七 法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被告人ノ出廷ナクシテ審判ヲ爲シタルトキ  
 八 公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ  
 九 法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付其ノ出廷ナクシテ審判ヲ爲シタルトキ  
 十 檢察官ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ  
 十一 法律ニ依リ公判ニ於テ取調ヘキ證據ノ取調ヲ爲サザリタルトキ  
 十二 公判ニ於テ爲シタル證據ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲サザリタルトキ  
 十三 法律ニ依リ公判手續ヲ停止又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止又ハ更新セザリタルトキ  
 十四 辯論ノ最終ニ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述ヲ爲サザリタルトキ  
 十五 請求ヲ受ケタル事項ニ付判決ヲ爲サス又ハ請求ヲ受ケタル事項ニ付判決ヲ爲サズタルトキ  
 十六 判決ニ理由ヲ附セ又ハ理由ニ根據アルトキ  
 十七 判決書ニ裁判官ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ  
 第十八 前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響及ボサルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得  
 第十九 判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得  
 第二十 上告ノ提起期間ハ三日トス

前項ノ期間ハ判決告知ノ時ヲ以テ始ル  
 第二十八條 檢察官又ハ被告人ハ上告ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第四百二十一條ニ記載シタル者ノ同意ヲ得ルニ非ラハ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス  
 第二十九條 第四百二十一條ニ記載シタル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上告ノ取下ヲ爲スコトヲ得  
 第三十條 上告ハ對手人ノ同意アルニ非ラハ之ヲ取下タルコトヲ得ス  
 第三十一條 上告拋棄ノ申立ハ原軍法會議ニ之ヲ爲スヘキ  
 第三十二條 上告取下ノ申立ハ高等軍法會議ニ之ヲ爲スヘシ但シ審判高等軍法會議ノ檢察官ニ送付スル前上告ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原軍法會議ニ差出スコトヲ得  
 第三十三條 上告ノ拋棄又ハ取下ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立ハ公判調書ニ記載スヘシ  
 第三十四條 上告ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ上告權ヲ喪失ス  
 第三十五條 第四百二十條乃至第四百二十二條ニ記載シタル者自己又ハ代人ノ責ニ屬スヘカサル事由ニ因リ上告ノ提起期間内ニ上告ヲ爲スコト能ハザリシトキハ原軍法會議ニ上告權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得  
 第三十六條 上告權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル時ヨリ三日内ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
 第三十七條 上告權回復ノ原因タル事實ハ之ヲ説明ス  
 第三十八條 上告權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求同時ニ原軍法會議ニ上告ノ申立書ヲ差出スヘシ  
 第三十九條 原軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ上告權回復ノ請求ヲ爲スヘキ否ヲ決定スヘシ  
 第四十條 上告權回復ノ請求アリタルトキ前條ノ決定ヲ

爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得  
 前項ノ規定ニ依リ裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得  
 第四十一條 上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原軍法會議ニ差出スヘシ  
 第四十二條 監獄ニ在ル者上告ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ其ノ申立書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ上告ノ提起期間内ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ニ差出シタルトキハ上告申立ノ效力ヲ生ス  
 第四十三條 監獄ニ在ル者自ラ申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ之ヲ代書シ又ハ所屬官吏ヲシテ之ヲ代書セザルヘシ  
 第四十四條 監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ原軍法會議ニ申立書ヲ送付シ且之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ  
 第四十五條 前條ノ規定ハ上告ノ拋棄若ハ取下又ハ上告權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス  
 第四十六條 上告ノ申立、拋棄若ハ取下又ハ上告權回復ノ請求アリタルトキハ録事ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スヘシ  
 第四十七條 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第四十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外原軍法會議ハ審判ヲ其ノ軍法會議ノ檢察官ニ送付シ檢察官ハ之ヲ高等軍法會議ノ檢察官ニ送付スヘシ  
 第四十九條 高等軍法會議ハ審判ヲ其ノ軍法會議ニ送付スヘキ  
 第五十條 高等軍法會議ハ遲クとも最初ニ定メタル公判期日ノ三十日前ニ其ノ期日ヲ上告人及對手人ニ通知スヘキ  
 第五十一條 最初ニ公判期日ヲ定ムル前辯護人ノ選任アリタルトキハ被告

人ニ對スル前項ノ通知ハ辯護人ニ對シ之ヲ爲スヘシ  
 第五十二條 上告人ハ遲クとも最初ニ定メタル公判期日ノ十四日前ニ上告趣意書ヲ高等軍法會議ニ差出スヘシ  
 第五十三條 上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十四日前迄上告ヲ爲スコトヲ得  
 第五十四條 上告趣意書ハ高等軍法會議ニ差出スニ依リテ之ヲ爲ス  
 第五十五條 上告趣意書ニハ法令違反ノ理由ヲ明示スヘシ  
 第五十六條 訴訟手續ニ違反スルコトヲ理由トシテハ尙違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ  
 第五十七條 高等軍法會議ニ上告趣意書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ原本ヲ對手人ニ送達スヘシ  
 第五十八條 上告人期間内ニ上告趣意書ヲ差出サザルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ  
 第五十九條 上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ原本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ答辯書ヲ高等軍法會議ニ差出スコトヲ得  
 第六十條 檢察官對手人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ理由ニ付答辯書ヲ差出スヘシ  
 第六十一條 高等軍法會議答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ原本ヲ上告人ニ送達スヘシ  
 第六十二條 裁判長ハ受命裁判官ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ閱シ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得  
 第六十三條 上告ノ審判ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ニ非ラハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
 第六十四條 期日ニハ受命裁判官ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ  
 第六十五條 檢察官及辯護人ハ上告趣意書ニ基キ辯論ヲ爲スヘシ

第四十四條 辯護人出廷セザルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ法律ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢察官ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘキ  
 第四十五條 高等軍法會議ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ關シ調査ヲ爲スヘシ  
 第四十六條 高等軍法會議ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ對シ法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得原判決アリタル後ニ於テ刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ  
 第四十七條 高等軍法會議ハ軍法會議ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續ノ當否ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得  
 第四十八條 前項ノ取調ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サス又ハ他ノ軍法會議ノ檢察官ニ之ヲ囑託スルコトヲ得  
 第四十九條 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ高等軍法會議ハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ  
 第五十條 高等軍法會議ニ上告ヲ理由トシタルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第五十一條 高等軍法會議ニ上告ヲ理由トシタルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第五十二條 判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第五十三條 判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第五十四條 判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第五十五條 判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第五十六條 判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第五十七條 判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第五十八條 判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第五十九條 判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第六十條 判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第六十一條 不當ニ管轄違ラ認メ又ハ公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルコトキハ判決ヲ以テ其ノ事件ヲ原軍法會議ニ差戻スヘシ  
 第六十二條 不當ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルコトキハ判決ヲ以テ其ノ事件ヲ管轄軍法會議ニ差戻スヘシ  
 第六十三條 上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ハ之ヲ判決書ニ記載スヘシ  
 第六十四條 被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ利益ノ爲上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ高等軍法會議ハ原判決ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ヲ宣告スコトヲ得ス  
 第六十五條 師團軍法會議不當ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲サザリシトキハ高等軍法會議ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ  
 第六十六條 事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル軍法會議ハ其ノ事件ニ付高等軍法會議ノ表示シタル法律上ノ意見ニ關東セラル  
 第六十七條 上告ノ審判ニ付テハ本章ニ規定シタルモノヲ除クノ外第二編第二章第四節ノ規定ヲ推用ス  
 第六十八條 軍法會議ノ判決確定後其ノ判決法律ニ於テ罰セザル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ高等軍法會議ノ長官ハ檢察官ヲシテ高等軍法會議ニ非常上告ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第六十九條 非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ高等軍法會議ニ差出スヘシ  
 第七十條 期日ニハ檢察官ハ申立書ニ基キ陳述ヲ爲スヘシ  
 第七十一條 高等軍法會議非常上告ノ理由ヲナシタルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第七十二條 高等軍法會議非常上告ヲ理由トシタルトキハ原判決ヲ破毀シ更ニ判決ヲ爲スヘシ但シ原判決ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス



第四章 再審

第四百七十三條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲メニ爲スコトヲ得

一 原判決ノ證據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ偽造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルキ

第四百七十三條第一號、第二號又ハ第四號ニ記載シタル原由アリトスルキ

第四百八十三條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セ

第四百八十四條 再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ

第四百八十五條 再審ノ請求ハ之ヲ取下ルコトヲ得



第五百八條 特設軍法會議死刑ヲ言渡シタル場合ニ於テハ其ノ執行又ハ執行ノ停止ニ關スル陸軍大臣ノ職務ハ長官之ヲ行フコトヲ得

第五百九條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ラ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ラ受ケタル者ノ所在地ノ軍法會議ノ檢察官ノ指揮ニ依リ其ノ痊愈ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第五百十條 前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ刑ノ言渡ラ受ケタル者第一條ニ記載シタル身分ヲ有セザルトキハ檢察官ハ之ヲ監護職務者又ハ市區町村長ニ交付シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコトヲ得

刑ノ執行ヲ停止セザル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ刑期ニ算入ス

第五百十一條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ラ受ケタル者ノ所在地ノ軍法會議ノ檢察官ノ指揮ニ依リ事故ノ止ム迄懲役禁錮又ハ拘留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ

二 受胎後七月以上ナルトキ

三 分娩後一月ヲ経過セザルトキ

四 刑ノ執行ニ因リ回復スルカサル不利益ヲ生スル虞アルトキ

五 其ノ他重大ナル事由アルトキ

第五百十二條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ラ受ケタル者拘留中ニ非ザルトキハ檢察官ハ執行ノ爲メニ召喚スルシ召喚ニ應ジザルトキハ逮捕狀ヲ發ス

第五百十三條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ラ受ケタル者逃走シタルトキ又ハ逃走スル虞アルトキハ檢察官ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ又ハ陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ請求シ若ハ囑託シテ之ヲ逮捕セシムルコトヲ得

第五百十四條 逮捕狀ニハ刑ノ言渡ラ受ケタル者ノ氏名、住居、年齢、刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢察官又ハ陸軍司法警察官之ニ記名捺印ス

逮捕狀ヲ發スル場合ニ於テ必要アルトキハ人相簿ヲ添附ス

第五百十五條 逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百十六條 逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定ヲ適用ス

第五百十七條 檢察官刑ノ言渡ラ受ケタル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハザルトキハ檢察官又ハ之ニ相當スル官署ニ人相簿ヲ送付シ其ノ搜查及逮捕ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル官署ハ其ノ管轄區域内ノ檢察官又ハ相當官署ヲ手逮捕狀ヲ發シ搜查及逮捕ノ手續ヲ爲サシム

第五百十八條 罰金、料、過料、沒收、沒取、追徴又ハ費用賠償ノ裁判ハ檢察官ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス其ノ執行ヲ受クヘキ者ニ付相續開始アリタルトキハ相續財産ニ就キ執行スルコトヲ得

第五百十九條 前條ノ執行ニ付強制執行ヲ要スルトキハ兵營其ノ他軍用ノ倉庫又ハ艦船内ニ於テ之ヲ爲ス場合ハ除ク外檢察官ノ囑託ニ因リ區域裁判所其ノ他民事裁判ニ付強制執行ヲ爲ス權アル官署ニ於テ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢察官ノ命令ハ執行力ハ債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

囑託ニ因リ爲ス官署ノ執行手續ニ付民事裁判ノ執行ニ關スル規定ヲ適用ス但シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セズ

第五百二十條 前條第二項ノ規定ニ依リ執行ノ費用ハ執行ヲ受ケタル者ノ負擔トシ民事訴訟法ノ規定ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立ツ

第五百二十一條 第四百十三條ノ規定ニ依リ爲シタル賠償ノ言渡ニ付被害者ヨリ強制執行ノ請求アリタルトキハ前三條ノ規定ヲ適用ス

第五百二十二條 沒收物ハ檢察官之ヲ處分ス

第五百二十三條 沒收ノ執行後三月内ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付ヲ請求シタルトキハ檢察官ハ破産又ハ廢棄スヘキ物ヲ除ク外之ヲ交付ス

沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ檢察官ハ公費ニ因リ得タル代價ヲ交付ス

第五百二十四條 偽造又ハ變造ニ係ル物ヲ返還スル場合ニ於テハ偽造又ハ變造ノ部分ヲ其ノ物ニ表示ス

第五百二十五條 偽造又ハ變造ニ係ル物押收セラレタルトキハ之ヲ提出セシメテ前項ノ手續ヲ爲ス

第五百二十六條 偽造又ハ變造ノ部分ヲ公務所ニ通知シテ相當ノ處分ヲ爲サシム

第五百二十七條 押收物ノ返還ヲ受クヘキ者ノ所在不明ナル爲又ハ其ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢察官ハ其ノ旨ヲ公告ス

公告ヲ爲シタル時ヨリ六月内ニ還付ノ請求ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス

第五百二十八條 前項ノ期間内ニ賠償額ナキ物ハ之ヲ廢棄シ保管ニ便ナル物ハ之ヲ公賣シ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第五百二十九條 檢察官ハ必要ナル場合ニ於テハ他ノ軍法會議ノ檢察官、地方裁判所若ハ區域裁判所ノ檢察官又ハ相當官署ニ裁判ノ執行ニ關スル處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五百三十條 刑ノ言渡シタル裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ其ノ言渡ラ受ケタル者ハ言渡ラ爲シタル軍法會議ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百三十一條 刑ノ執行ヲ受ケタル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢察官ノ爲シタル處分ヲ不當トスルト

發シタル拘留狀ト看做ス

第五百四十二條 本法施行前前席判決ヲ受ケタル者ニ對シテハ舊法ニ依リ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得

第五百四十三條 本法施行前前席判決ヲ受ケタル者ニ對シテ發シタル逮捕狀及前條ノ規定ニ依リ發シタル逮捕狀ハ之ヲ本法ニ依リ發シタル拘留狀ト看做ス

第五百四十四條 本法施行前ニ爲シタル檢察ノ處分ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル搜查ノ處分ト看做ス

第五百四十五條 本法施行前檢察ノ處分ニ著手シタル官署本法ニ依リ搜查權ヲ有セザルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官又ハ陸軍司法警察官ニ送付ス

第五百四十六條 第二十九條ノ期間ハ同條施行前犯人ヲ知り又ハ婚姻ノ無効若ハ取消ノ裁判確定シタル場合ニ於テハ同條施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第五百四十七條 本法施行前檢察官申付タル事件ニシテ陸軍治罪法第四十六條ノ手續ヲ爲サルモノハ之ヲ第三百六條又ハ第三百七條ノ規定ニ依リ報告アリタルモノト看做ス

第五百四十八條 本法施行前ニ爲シタル審問ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル豫審ト看做ス

第五百四十九條 本法施行前審問ニ著手シタル事件ハ之ヲ本法ニ依リ豫審ノ請求アリタルモノト看做ス

第五百五十條 本法施行前陸軍治罪法第七十三條第二號ノ規定ニ依リ具申付タル事件ニシテ陸軍大臣又ハ長官ノ命令又ハ認可ナキモノハ之ヲ第三百三十條ノ規定ニ依リ報告アリタルモノト看做ス

第五百五十一條 本法施行前審問ニ於テ免訴ノ言渡ラシタル事件ニ付テハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキハ限り更ニ豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起スルコトヲ得

第五百五十二條 本法施行前判決ニ著手シタル事件ハ之ヲ本

キハ裁判ノ言渡ラ爲シタル軍法會議ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百二十九條 疑義又ハ異議ノ申立ハ其ノ裁判アル迄之ヲ取テ止ムコトヲ得

疑義若ハ異議ノ申立又ハ其ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲ス

第四百二十九條ノ規定ニ疑義若ハ異議ノ申立又ハ其ノ取下ニ之ヲ適用ス

第五百三十條 疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス

第五百三十一條 罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲シタル勞務役場留置ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ適用ス

附則

第五百三十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五百三十三條 本法第二編第二章中報告罪ノ告訴、請求ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ請求及時効ニ關スル規定ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ施行期日ヲ定ム

第五百三十四條 大正十二年勅令第三百號ヲ以テ同十三年一月一日ヨリ施行ス

報告罪ノ告訴、請求ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ請求及時効ニ關シテ前項ノ規定ニ依リ定ムル施行期日ニ至ル迄仍舊前ノ例ニ依ル

第五百三十五條 陸軍治罪法、臺灣陸軍軍法會議法、關東都府府及樺州駐屯軍陸軍軍法會議法及明治二十八年勅令第九十二號ハ之ヲ廢止ス

第五百三十六條 本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ

效力ヲ妨ケス

本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第五百三十五條 本法施行前裁判權ヲ有スル事件ニ付審問、審判又ハ判決ノ命令アリタルトキハ本法ニ依リ軍法會議裁判權ヲ有セザルトキト雖軍法會議之ヲ審判ス

第五百三十六條 本法施行前軍法會議裁判權ヲ有セザル事件ニ付通常裁判所其ノ他ノ官署ニ公訴ノ提起アリタルトキハ本法ニ依リ軍法會議裁判權ヲ有スルトキト雖公訴ヲ受ケタル官署ニ之ヲ審判ス

第五百三十七條 從來ノ軍法會議ハ本法ニ於テ之ニ相當スル軍法會議トス

第五百三十八條 本法施行前審判權ヲ有スル事件ニ付審問、審判又ハ判決ノ命令アリタルトキハ本法ニ依リ審判權ヲ有セザルトキト雖其ノ命令ヲ受ケタル軍法會議之ヲ審判ス

第五百三十九條 本法施行ノ際在職ノ判士長及判士ハ本法ニ依リ判士トス

第五百四十條 本法施行ノ際在官ノ理事ハ別ニ辭令ヲ用キテ陸軍法務官ニ任セラレタルモノトス

本法施行ノ際退職又ハ豫備ノ理事ハ本法ニ依リ退職ノ命令セラレタル陸軍法務官トス

本法施行ノ際限リ第三十九條ノ事由ナキト雖陸軍大臣ハ陸軍法務官ニ休職ヲ命ズルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ休職トナリタル陸軍法務官ノ休職ノ期間ハ三年トシ第三項ノ者ニ在リテハ非職トナリタル時ヨリ之ヲ起算ス

前項ノ休職ノ期間滿期ト爲リタルトキハ退職トス

第五百四十一條 本法施行前發シタル收養狀ハ之ヲ本法ニ依リ

發シタル拘留狀ト看做ス

第五百四十二條 本法施行前前席判決ヲ受ケタル者ニ對シテハ舊法ニ依リ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得

第五百四十三條 本法施行前前席判決ヲ受ケタル者ニ對シテ發シタル逮捕狀及前條ノ規定ニ依リ發シタル逮捕狀ハ之ヲ本法ニ依リ發シタル拘留狀ト看做ス

第五百四十四條 本法施行前ニ爲シタル檢察ノ處分ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル搜查ノ處分ト看做ス

第五百四十五條 本法施行前檢察ノ處分ニ著手シタル官署本法ニ依リ搜查權ヲ有セザルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官又ハ陸軍司法警察官ニ送付ス

第五百四十六條 第二十九條ノ期間ハ同條施行前犯人ヲ知り又ハ婚姻ノ無効若ハ取消ノ裁判確定シタル場合ニ於テハ同條施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第五百四十七條 本法施行前檢察官申付タル事件ニシテ陸軍治罪法第四十六條ノ手續ヲ爲サルモノハ之ヲ第三百六條又ハ第三百七條ノ規定ニ依リ報告アリタルモノト看做ス

第五百四十八條 本法施行前ニ爲シタル審問ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル豫審ト看做ス

第五百四十九條 本法施行前審問ニ著手シタル事件ハ之ヲ本法ニ依リ豫審ノ請求アリタルモノト看做ス

第五百五十條 本法施行前陸軍治罪法第七十三條第二號ノ規定ニ依リ具申付タル事件ニシテ陸軍大臣又ハ長官ノ命令又ハ認可ナキモノハ之ヲ第三百三十條ノ規定ニ依リ報告アリタルモノト看做ス

第五百五十一條 本法施行前審問ニ於テ免訴ノ言渡ラシタル事件ニ付テハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキハ限り更ニ豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起スルコトヲ得

第五百五十二條 本法施行前判決ニ著手シタル事件ハ之ヲ本







海軍刑法 罪 叛亂ノ罪 擅權ノ罪 辱職ノ罪

第二十二條 左ニ記載シタル行為ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス
一 軍隊又ハ艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ敵國ニ交付スルコト
二 敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助スルコト
三 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏洩スルコト
四 敵國ノ爲ニ機密ヲ漏洩シ又ハ地理ヲ指示スルコト
五 敵國ニ降ラシムル爲メ指揮官ヲ強要スルコト
六 敵國ノ爲ニ降ラシムル爲メ又ハ之ヲ逃走セシムルコト
第七十三條 敵國ヲ利スル爲メ左ニ記載シタル行為ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス
一 艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシムルコト
二 水陸ノ通路、橋梁、燈臺、浮標ヲ損壞又ハ壅塞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ艦船、軍隊ノ往來ノ妨害ヲ生セシムルコト
三 指揮官其ノ艦船、軍隊ヲ率テ守所若ハ配置ノ場所ニ就カス又ハ其ノ場所ヲ離ルルコト
四 艦隊、隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ艦船、隊兵ノ連絡ヲ妨害スルコト
五 兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト
六 命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ虚偽ノ命令、通報若ハ報告ヲ爲スコト
七 造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧嘩スルコト

第二十三條 前二條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ死刑ニ處ス
反亂者又ハ内亂者ヲ利スル爲メ前三條ニ記載シタル行為ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
行爲ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
第二十六條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二十七條 第二十條乃至第二十五條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
第二十八條 第二十二條又ハ第二十一條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未遂罪ヲ行ハサル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス
第二十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行為ニ亦之ヲ適用ス
第二章 擅權ノ罪
第三十條 指揮官外國ニ對シテ故ナク戰艦ヲ開始シタルトキハ死刑ニ處ス
第三十一條 指揮官休戰又ハ媾和ノ告知ヲ受ケタル後故ナク戰艦ヲ爲シタルトキハ死刑ニ處ス
第三十二條 指揮官艦外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得ザル理由ナクシテ擅ニ艦船、軍隊ヲ進退シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス
第三十三條 命令ヲ待タズ故ナク戰艦ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス
第三十四條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第三章 辱職ノ罪
第三十五條 指揮官其ノ艦船ニヘキ所ヲ遊サシテ敵ニ降リ又ハ其ノ艦船若ハ守所ヲ敵ニ委シタルトキハ死刑ニ處ス
第三十六條 指揮官敵前ニ於テ其ノ艦船ニヘキ所ヲ遊サシテ艦船、軍隊ヲ率テ逃避シタルトキハ死刑ニ處ス
第三十七條 指揮官其ノ艦船危急ノ時ニ當リ故ナク救護ノ方法ヲ怠ラズ又ハ衆ニ先テ其ノ艦船ヲ退去シタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 敵前ナルトキハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス
二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
第三十四條 第三十五條乃至第三十七條、第四十條乃至第四十二條、第四十六條、第四十九條及第五十一條乃至第五十三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第四章 抗命ノ罪
第三十五條 上官ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セザル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ禁錮ニ處ス
二 戰時又ハ艦船救護ノ爲メ緊要ノ方路ヲ爲ス際ナルトキハ一年以上ノ有期懲役又ハ禁錮ニ處ス
三 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス
第五十六條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
二 戰時又ハ艦船救護ノ爲メ緊要ノ方路ヲ爲ス際ナルトキハ首魁ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上ノ有期懲役又ハ禁錮ニ處ス
三 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス
第五十七條 暴行ヲ爲スニ當リ上官ノ制止ニ從ハサル者ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス
第五章 暴行脅迫ノ罪
第五十八條 上官ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス
二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス
第三十八條 指揮官敵ノ船舶ヲ捕スルニ於テ故ナク之ヲ捕セザルトキハ三年以上ノ禁錮ニ處ス
第三十九條 指揮官敵前ニ於テ帝國又ハ帝國ト共同作戰ニ從テ外國ノ艦船ヲ救護スルニ於テ故ナク之ヲ救護セザルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス
第四十條 指揮官艦外ノ命ヲ受ケタル艦船ヲ故ナク委棄シタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス
二 戰時ナルトキハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス
三 其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以上ノ禁錮ニ處ス
第四十一條 指揮官其ノ艦船、軍隊ヲ率テ守所若ハ配置ノ場所ニ就カス又ハ其ノ場所ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス
二 戰時ナルトキハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス
三 其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以上ノ禁錮ニ處ス
第四十二條 指揮官又ハ乘員故ナク其ノ艦船ヲ破損シタルトキハ死刑ニ處シ之ヲ損壞シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
第四十三條 指揮官出兵ヲ要求スル艦外官意ヲ其ノ要求ヲ受ケ故ナク之ニ應ゼザルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス
第四十四條 指揮官衝突、坐礁其ノ他ノ危難ニ罹リタル艦船アルニ當リ救護ノ請求ヲ受ケ故ナク之ニ應ゼザルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス
第四十五條 部下多衆共同シテ罪ヲ犯スニ當リ鎮定ノ方法ヲ怠ラサル者ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス

海軍刑法 罪 辱職ノ罪 抗命ノ罪 暴行脅迫ノ罪

第六十一條 戰時又ハ事變ニ際シ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシムルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス
第五十二條 健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ配給シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
第五十三條 從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ

第六十二條 戰時又ハ事變ニ際シ偵察ノ勤務ニ服スル者虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス
戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關スル命令、通報又ハ報告ノ傳達ヲ掌ル者其ノ命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ故ナク之ヲ傳達セザルトキ亦前項ニ同シ
第五十四條 軍事機密ノ圖畫、物件ヲ保管スル者危急ノ時ニ當リ之ヲ敵ニ委セザル方法ヲ怠ラサルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス
第五十一條 戰時又ハ事變ニ際シ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシムルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス
第五十二條 健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ配給シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
第五十三條 從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ

第六十一條 戰時又ハ事變ニ際シ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシムルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス
第五十二條 健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ配給シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
第五十三條 從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ

第六十一條 戰時又ハ事變ニ際シ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシムルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス
第五十二條 健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ配給シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
第五十三條 從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ



第六十三條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十四條 守兵ニ對シテ兵器又ハ兇器ヲ用テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 敵前ナルトキハ無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十五條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十六條 上官又ハ守兵以外ノ海軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ヲ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十七條 上官又ハ守兵以外ノ海軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ヲ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十八條 多衆集合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十九條 職務ヲ濫用シテ陵辱ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十條 第五十八條乃至第六十八條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六十條 侮辱ノ罪

第七十一條 上官ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十二條 守兵ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十三條 故チテ職務ヲ離レ又ハ職役ニ就カサル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

第七十四條 戰時ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十五條 艦船ノ乘員故チテ其ノ艦船發航ノ期ニ後レタルトキハ其ノ經過日數ヲ前二條ノ規定ヲ適用ス

第七十六條 敵ニ對シテ兵器又ハ兇器ヲ用テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十七條 第七十三條第一號、第七十四條第一號及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七十八條 海軍ノ艦船、工場、機關ノ用ニ供スル建造物、汽車、電車若ハ橋梁又ハ海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ貯藏スル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

第七十九條 職務ヲ濫用シテ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 戰時ナルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十條 俘虜ヲ看守又ハ護送スル者其ノ俘虜ヲ逃走セシメタルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十一條 俘虜ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條 俘虜ヲ奪取シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十三條 逃走シタル俘虜ヲ隠匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十四條 第九十條乃至第九十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九十五條 守兵ヲ欺キテ守所ヲ通過シ又ハ守兵ノ制止ニ背キタル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十六條 職務ヲ濫用シテ陵辱ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十七條 兵役ヲ免ルル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 艦船ノ危險ニ際シ指揮官ノ指揮ヲ待タズ其ノ艦船ヲ離脱シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 敵前ナルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條 戰時又ハ事變ニ際シ急呼ノ號報アリタル場合ニ故チテ來會セザル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第一百條 政治ニ關シテ上書、建白其ノ他請願ヲ爲シ又ハ演說若ハ文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十條 火藥、汽機其ノ他激發スヘキ物ヲ破壞セシメテ前二條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ燒燬ノ例ニ同シ

第八十一條 海軍ノ艦船ヲ沒又ハ破壞シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十二條 第七十八條ニ記載シタル物又ハ海軍機關ノ用ニ供スル鐵道、電線若ハ水陸ノ通路ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十三條 兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他海軍ノ軍用ニ供スル者ヲ毀棄又ハ偽造シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第八十四條 第七十八條乃至第八十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十五條 本章ノ規定ハ海軍ト共同作戰ニ從テ外國陸海軍ノ軍用物ニ對シテ行爲スルニ亦之ヲ適用ス

第九章 掠奪ノ罪

第八十六條 戰地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條 戰場ニ於テ戰死者又ハ戰傷病者ノ衣服其ノ他ノ財物ヲ掠奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十八條 前二條ノ罪ヲ犯ス者人ヲ擄シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十章 俘虜ニ關スル罪

第九十條 俘虜ヲ看守又ハ護送スル者其ノ俘虜ヲ逃走セシメタルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十一條 俘虜ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條 俘虜ヲ奪取シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十三條 逃走シタル俘虜ヲ隠匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十四條 第九十條乃至第九十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九十五條 守兵ヲ欺キテ守所ヲ通過シ又ハ守兵ノ制止ニ背キタル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十六條 職務ヲ濫用シテ陵辱ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十七條 兵役ヲ免ルル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 艦船ノ危險ニ際シ指揮官ノ指揮ヲ待タズ其ノ艦船ヲ離脱シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 敵前ナルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上五年以下ノ懲役ニ處ス







●海軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

(明治四十一年九月二十四日) 勅令第二百十九號

朕海軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍刑法ヲ適用セサル海軍所屬ノ學生生徒ニ關スル件

(明治四十一年九月二十四日) 勅令第二百二十二號

改正、大八〇勅一九五

朕海軍刑法ヲ適用セサル海軍所屬ノ學生、生徒ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍刑法第九條第二項ニ依リ除外スル者左ノ如シ但シ現ニ海軍ニ在リテ修業中ノ者ヲ除ク

一 海軍軍醫學生、藥劑學生、造船學生、造機學生、造船學生、主計學生(大正八年勅令第九百九十五號ヲ以テ本號ヲ改正)

二 海軍造船生徒、造機生徒、造船生徒(同上本號ヲ改正)

三 海軍預備生徒、豫備機關生徒、豫備練習生(同上本號ヲ改正)

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍軍法會議法

(大正十年四月二十六日) 法律第九十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ海軍軍法會議法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍軍法會議法

第一章 軍法會議

第一節 軍法會議ノ裁判權

第一條 軍法會議ハ左ニ記載シタル者ニ對シ其ノ犯罪ニ付裁判權ヲ有ス

一 海軍刑法第八條第一號、第二號及第九條ニ記載シタル者

二 海軍用船ノ船員

三 前二號ニ記載シタル者ヲ除ク外海軍ノ部隊ニ屬シ又ハ從フ者

四 停廢

前項第二號及第三號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 軍法會議ハ前條ニ記載シタル者ニ對シ其ノ身分發生前ノ犯罪ニ付亦裁判權ヲ有ス

第三條 軍法會議ハ前條ニ記載シタル者其ノ身分ヲ喪失シタルトキト雖身分繼續中檢査ノ報告アリ又ハ逮捕、勾引若ハ拘留セラルトキハ其ノ者ニ對シ亦裁判權ヲ有ス

第四條 軍法會議ハ海軍刑法第八條第三號ニ記載シタル者ニ對シ其ノ犯罪ニ付亦裁判權ヲ有ス

第五條 前條第二項ノ規定ハ前項ニ規定スル犯罪ニ付之ヲ適用ス

海軍軍法會議法 軍法會議ノ裁判權

第四條 軍法會議ハ合圍地境ニ在リ第一條ニ記載シタル以外ノ者ニ對シ左ノ各號ニ規定スル犯罪ニ付裁判權ヲ有ス

一 第十六條第一號又ハ第二號ニ記載シタル者ト共ニ犯シタル同一又ハ別個ノ罪

二 海軍刑法、陸軍刑法、軍艦保護法其ノ他軍事ノ必要ニ因リ特ニ設ケタル法令ノ罪

犯人職權ノ罪、豐運運送ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ハ之ヲ其ノ本犯ト共ニ犯シタルモノト看做ス

第五條 軍法會議ハ戒嚴令ニ定メタル特別裁判權ヲ行フ

第六條 軍法會議ハ戰時事變ニ際シ軍ノ安寧ヲ保持スル爲ニ必要アルトキ第一條ニ記載シタル以外ノ者ニ對シ犯罪ニ付裁判權ヲ行フコトヲ得

第七條 第四條及前條ノ規定ハ陸軍軍法會議法第一條乃至第三條ノ規定ニ依リ陸軍軍法會議ノ裁判權ヲ有スル犯罪ニ付テハ之ヲ適用セズ但シ被告人ノ所在地陸軍軍法會議ノ所在地ト交通斷絶シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二章 軍法會議ノ管轄權

第八條 軍法會議ヲ設ケルコト左ノ如シ

一 高等軍法會議

二 東京軍法會議

三 鎮守府軍法會議

四 要港部軍法會議

五 艦隊軍法會議

六 合圍地軍法會議

七 臨時軍法會議

第九條 高等軍法會議、東京軍法會議、鎮守府軍法會議及要港部軍法會議ハ之ヲ常設ス但シ要港部ニハ軍法會議ヲ設ケルコトヲ得

軍法會議ノ管轄權

第十條 軍法會議ハ必要ニ因リ艦隊司令長官、獨立艦隊司令官若ハ分遣艦隊司令官ノ率ケル艦隊又ハ外國派遣ノ軍艦ニ之ヲ特設ス

第十一條 合圍地軍法會議ハ戒嚴ノ宣告アリタルトキ合圍地境ニ之ヲ特設ス

第十二條 臨時軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ海軍ノ部隊ニ之ヲ特設ス

第十三條 高等軍法會議又ハ東京軍法會議ハ海軍大臣ヲ以テ長官トス

第十四條 鎮守府軍法會議ハ鎮守府司令長官ヲ以テ長官トス

第十五條 要港部軍法會議ハ要港部司令官ヲ以テ長官トス

第十六條 特設軍法會議ハ軍法會議ヲ設置シタル部隊又ハ地域ノ指揮官ヲ以テ長官トス

第十七條 高等軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 海軍ノ將官、勅任文官及勅任文官待遇者或陸軍ノ將官、將官相當官、勅任文官及勅任文官待遇者ニ對スル被告事件

二 上告

三 非常上告

第十八條 東京軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 第十三條第一號、第十四條第一號、第十五條第一號、第十六條第一號及第十七條第一號ノ規定ニ依リ他ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スル以外ノ第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

二 第三百十二條又ハ第三百十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十九條 鎮守府軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 鎮守府司令長官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 海軍區内ニ在リ又ハ海軍區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第



一 條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件  
 第三百十二條又ハ第三百二十三條ノ規定ニ依リ  
 移送アリタル被告事件  
 二 要港部軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス  
 要港部司令官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受ケル者  
 ニ對スル被告事件  
 三 警備區内ニ在リ又ハ警備區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第  
 一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件  
 第三百十二條又ハ第三百二十三條ノ規定ニ依リ  
 移送アリタル被告事件  
 四 艦隊軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス  
 艦隊又ハ外國派遣ノ軍艦ノ長ノ部下ニ屬スル者及  
 監督ヲ受ケル者ニ對スル被告事件  
 五 占領地警備區内ニ在リ又ハ占領地警備區内ニ於  
 テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル  
 被告事件  
 六 占領地警備區内ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被  
 告事件  
 七 合圍地軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス  
 合圍地司令官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受ケル者  
 ニ對スル被告事件  
 八 合圍地境ニ在リ又ハ合圍地境ニ於テ罪ヲ犯シタル第  
 一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件  
 九 第四條及第五條ニ定メタル裁判權ニ屬スル被告事  
 件  
 十 臨時軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス  
 臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ長ノ部下ニ屬  
 スル者及監督ヲ受ケル者ニ對スル被告事件  
 十一 臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ守備地域ニ  
 在リ又ハ其ノ地域ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第

三條記載ノ者ニ對スル被告事件  
 十二 臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ守備地域ニ  
 在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告事件  
 十三 第三百十二條又ハ第三百二十三條ノ規定ニ依リ  
 移送アリタル被告事件  
 十四 管轄ノ異ニスル數個ノ事件連スルトキハ一個ノ事  
 件ニ付管轄權ヲ有スル軍法會議併シテ他ノ事件ヲ管轄スル  
 コトヲ得但シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件及第四條  
 乃至第六條ニ記載シタル事件ハ連連ノ事由ニ因リ併シテ之  
 ヲ管轄スルコトヲ得  
 十五 軍法會議連連事件ニ付公訴ヲ受ケタル場合ニ於テ  
 併シテ審判スルコトヲ必要トセザルモアルトキハ高等軍法會議  
 ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法  
 會議ニ之ヲ移送スルコトヲ得  
 十六 數個ノ軍法會議連連事件ニ付各別ニ公訴ヲ受ケタ  
 ルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之  
 ヲ一ノ軍法會議ニ併合スルコトヲ得  
 十七 高等軍法會議連連事件ニ付公訴ヲ受ケタル場合  
 ニ於テ併シテ審判スルコトヲ必要トセザルモアルトキハ檢察官ノ  
 請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ニ之ヲ  
 移送スルコトヲ得  
 十八 高等軍法會議及他ノ軍法會議連連事件ニ付各  
 別ニ公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ  
 因リ決定ヲ以テ他ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併シテ  
 審判スルコトヲ得  
 十九 數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ連連スルモノトス  
 一 一人數同ノ罪ヲ犯シタルトキ  
 二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ  
 三 數人連連シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ  
 四 數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルト

犯人殺害ノ罪、證據湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定通  
 譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪ト共ニ犯シタルモノ  
 ト看做ス  
 二十四條 數個ノ軍法會議同一事件ニ付公訴ヲ受ケタルト  
 キハ第二十五條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外最初ニ公訴ヲ  
 受ケタル軍法會議ニ之ヲ審判ス  
 二十五條 合圍地軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決  
 定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル軍法會議ニ之ヲ其ノ事件ヲ審判  
 セシムルコトヲ得  
 二十六條 高等軍法會議及他ノ軍法會議同一事件ニ付公  
 訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議ニ之ヲ審判ス  
 前項ノ場合ニ於テ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決  
 定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ニ之ヲ其ノ事件ヲ審  
 判セシムルコトヲ得  
 二十七條 管轄ハ公訴提起後ニ於テハ被告人ノ轉屬、失官  
 其ノ他管轄ヲ定ムル事由ノ變更ニ因リ變更セザルコトヲ得  
 二十八條 被告人第十一條第一號ニ記載シタル身分ヲ取得シタル場  
 合ハ此ノ限ニ在ラス  
 二十九條 第十一條第一號ニ記載シタル者被告人ナル場合  
 ニ於テ其ノ所在地高等軍法會議ノ所在地ト交通斷絶シタ  
 ルトキ又ハ其ノ所在地ト著シク離隔シ且審判ヲ急シテ要スル  
 事ハ被告人ノ所在地又ハ其ノ附近ニ在ル軍法會議被告事  
 件ヲ管轄スルコトヲ得  
 三十條 管轄軍法會議ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事  
 情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキハ高等軍法會議ハ檢  
 察官ノ請求ニ因リ管轄權ヲ決定スルコトヲ得  
 三十一條 軍法會議ノ廢止セラレタルトキハ海軍大臣ハ後繼軍法會  
 議ヲ指定スルコトヲ得  
 三十二條 訴訟手續ハ管轄權ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

第三章 軍法會議ノ職員

第二十一條 軍法會議ニ判士、海軍法務官、海軍録事及海  
 軍醫官ヲ置ク  
 第二十二條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第二十三條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第二十四條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第二十五條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第二十六條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第二十七條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第二十八條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第二十九條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第三十條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第三十一條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第三十二條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第三十三條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第三十四條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第三十五條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第三十六條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第三十七條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第三十八條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第三十九條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ  
 第四十條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ

一 懲戒令ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ  
 二 刑事事件ニ關シテ起訴セラレタルトキ  
 三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生ジタルトキ  
 四 戰時又ハ事變ニ際シテ臨時増員シタル場合ニ於テ其ノ  
 必要止ミ過員ヲ生ジタルトキ  
 五 病氣ノ爲メ職務ヲ離スルコト六月ニ至リタルトキ  
 六 休職ノ期間ハ前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ其ノ事  
 件ノ要領中トシ第三號乃至第五號ノ場合ニ於テハ三年トス  
 七 法務官前條第一項第三號乃至第五號ノ規定ニ  
 依リ休職ヲ命ゼラレ滿期ト爲リタルトキハ退職トス  
 八 法務官ノ任用及懲戒ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ  
 之ヲ定ム  
 九 錄事ハ判任トス  
 十 警務官ハ長官ノ之ヲ命ス  
 十一 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官  
 ハ海軍ノ准士官又ハ下士官ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシメ海  
 軍ノ下士官又ハ兵ヲシテ警務官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得  
 十二 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ノ合圍地境ニ在ル  
 判任文官ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四章 審判機關

第四十六條 軍法會議ハ審判ヲ爲スニ付他ノ干渉ヲ受ケルコトナ  
 シ  
 第四十七條 審判ハ裁判官五人ヲ以テ構成シタル會議ニ於テ之  
 ヲ爲ス  
 第四十八條 裁判官ハ判士及法務官ヲ以テ之ヲ充テ上席判士ヲ裁判長  
 トス  
 第四十九條 特設軍法會議ニ於テハ上席判士及法務官ヲ除クノ外裁判  
 官二人ヲ減スルコトヲ得  
 第五十條 裁判官ハ長官ノ之ヲ定ム  
 第五十一條 東京軍法會議 鎮守府軍法會議、要港部軍法  
 會議及特設軍法會議ニ於テハ判士四人及法務官一人ヲ  
 以テ裁判官トス  
 第五十二條 前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ  
 一 被告人下士官又ハ兵ナルトキハ佐官一人尉官三人  
 又ハ佐官二人尉官二人  
 二 被告人尉官、特務士官、候補生又ハ准士官ナルト  
 キハ佐官二人尉官二人  
 三 被告人佐官ナルトキハ判士一人佐官三人又ハ判士  
 二人佐官二人  
 四 被告人將官ナルトキハ判士四人  
 前項ノ判士ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス  
 第五十三條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ  
 海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ法務官ニ代リ裁判官ノ  
 職務ヲ行ハシムルコトヲ得  
 第五十四條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル  
 高等文官ヲシテ法務官ニ代リ裁判官ノ職務ヲ行ハシムルコト  
 ヲ得  
 第五十五條 高等軍法會議ニ於テハ判士三人及法務官二人  
 ヲ以テ裁判官トス  
 第五十六條 前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ  
 一 被告人下士官又ハ兵ナルトキハ佐官二人尉官一人  
 二 被告人尉官、特務士官、候補生又ハ准士官ナルト  
 キハ判士一人佐官二人  
 三 被告人佐官ナルトキハ判士二人佐官一人又ハ判士  
 三人  
 四 被告人將官ナルトキハ判士三人  
 前項ノ判士ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス  
 第五十七條 被告人軍屬、陸軍軍人又ハ陸軍軍屬ナルトキハ  
 其ノ官等、等級又ハ階級ニ從ヒ第四十九條又ハ前條ノ例



依り判士ヲ區別ス  
第五十四條 被告人第四十九條、第五十二條及前條ニ記載  
シタル者ニ非サルトキハ下士官又ハ兵ニ進シ判士ヲ區別ス  
前項ノ場合ニ於テ長官ハ事情ニ因リ判士ノ區別ヲ變更ス  
ルコトヲ得

被告人停職ナルトキハ第四十九條及第五十二條  
乃至前條ノ規定ニ進シ判士ヲ區別ス  
第五十六條 二個以上ノ長官等、等級又ハ階級ヲ有スル被  
告人ニ付テハ其ノ最高官等、等級又ハ階級ニ從ヒ判士ヲ  
區別ス

官等、等級又ハ階級ヲ異ニスル共同被告人ニ付テ  
ハ其ノ官等、等級又ハ階級ノ最高者ニ從ヒ判士ヲ區別ス  
第五十八條 判士ノ區別ハ被告人ノ身分ニ異動アルモ官等、等  
級又ハ階級ノ高キ身分ヲ取得シタル場合ヲ除ク外變更セラ  
ルコトヲ得

被告ノ身分又ハ再審ノ審判ヲ爲ス場合ノ判  
士ノ區別ハ原軍法會議ノ裁判官ヲ定メタル當時ノ被告人ノ  
身分ニ從フ但シ被告人官等、等級又ハ階級ノ高キ身分ヲ  
取得シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第四百七十三條第三項、第四百七十七條、第  
四百八十八條、第四百三十八條又ハ第五百三十二條ノ決  
定ヲ爲ス場合ノ判士ノ區別ニ之ヲ適用ス

被告ノ身分又ハ再審ノ審判ヲ爲ス場合ニ於テ  
ハ裁判長ノ官等ハ原軍法會議ノ裁判長ヨリ下ルコトヲ得ス

第五節 豫審機關  
第六十一條 豫審ハ豫審官ノ行フ  
第六十二條 豫審官ハ法務官中ヨリ長官ノ之ヲ命ス  
第六十三條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官  
ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシ

ムルコトヲ得  
第六十四條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル  
高等文官ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六章 檢察機關

第六十五條 海軍大臣ハ公訴及搜查ヲ指揮監督ス  
第六十六條 長官ハ所管軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公  
訴ヲ指揮ス

長官ハ所管軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件、之ヲ派連スル事  
件及所管部隊内ノ犯罪事件ニ付搜查ヲ指揮ス

第六十七條 檢察官ハ長官ニ隷屬シ搜查ヲ爲シ公訴ヲ行フ  
第六十八條 檢察官ハ法務官中ヨリ長官ノ之ヲ命ス  
第六十九條 長官ハ法務官試補ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシム  
ルコトヲ得

第七十條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ  
海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシム  
ルコトヲ得

第七十一條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル  
高等文官ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十二條 檢察官ハ海軍司法警察官又ハ司法警察官ヲシ  
テ搜查ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

行フ者ハ搜查ヲ爲スニ付上官ノ命令ニ從フ  
第七十七條 搜查又ハ憲兵卒ハ檢察官又ハ海軍司法警察官  
ノ命令ヲ受テ海軍司法警察吏トシテ搜查ノ補助ヲ爲ス

第七十三條 第二項ノ規定ニ依リ指定セラレタル警察官ノ部  
下ニ屬スル巡查亦前項ニ同シ

第七十八條 檢察官ハ司法警察吏ヲシテ搜查ノ補助ヲ爲サシム  
ルコトヲ得

第七十九條 海軍司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ部下ヲシテ  
搜查ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十條 長官ハ除斥ノ理由其ノ他正當ノ事由アリト認ムルト  
キハ裁判官ヲ變更スヘシ

第八十一條 裁判官職務ノ執行ヨリ除斥セルヘキ場合左ノ如  
シ

一 裁判官被告者ナルトキ  
二 裁判官被告者又ハ被害者ノ配偶者、四親等内ノ  
血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナ  
ルトキ  
三 裁判官被告者又ハ被害者ノ法定代理人、後見監  
督人又ハ保佐人ナルトキ  
四 裁判官事件ニ付被告人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ  
五 裁判官事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人又ハ輔  
佐人ト爲リタルトキ  
六 裁判官事件ニ付長官又ハ檢察官ノ職務ヲ行ヒタル  
トキ  
七 裁判官事件ニ付搜查、豫審又ハ前審ニ干與シタル  
トキ

第五節 豫審機關

第六十一條 豫審ハ豫審官ノ行フ  
第六十二條 豫審官ハ法務官中ヨリ長官ノ之ヲ命ス  
第六十三條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官  
ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシ

第六十四條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル  
高等文官ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六十五條 海軍大臣ハ公訴及搜查ヲ指揮監督ス  
第六十六條 長官ハ所管軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公  
訴ヲ指揮ス

長官ハ所管軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件、之ヲ派連スル事  
件及所管部隊内ノ犯罪事件ニ付搜查ヲ指揮ス

第六十七條 檢察官ハ長官ニ隷屬シ搜查ヲ爲シ公訴ヲ行フ  
第六十八條 檢察官ハ法務官中ヨリ長官ノ之ヲ命ス  
第六十九條 長官ハ法務官試補ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシム  
ルコトヲ得

第七十條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ  
海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシム  
ルコトヲ得

第七十一條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル  
高等文官ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十二條 檢察官ハ海軍司法警察官又ハ司法警察官ヲシ  
テ搜查ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第一章 總則

第一節 裁判官ノ除斥及回避  
第八十條 長官ハ除斥ノ理由其ノ他正當ノ事由アリト認ムルト  
キハ裁判官ヲ變更スヘシ

第八十一條 裁判官職務ノ執行ヨリ除斥セルヘキ場合左ノ如  
シ

一 裁判官被告者ナルトキ  
二 裁判官被告者又ハ被害者ノ配偶者、四親等内ノ  
血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナ  
ルトキ  
三 裁判官被告者又ハ被害者ノ法定代理人、後見監  
督人又ハ保佐人ナルトキ  
四 裁判官事件ニ付被告人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ  
五 裁判官事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人又ハ輔  
佐人ト爲リタルトキ  
六 裁判官事件ニ付長官又ハ檢察官ノ職務ヲ行ヒタル  
トキ  
七 裁判官事件ニ付搜查、豫審又ハ前審ニ干與シタル  
トキ

シ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ  
爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得  
決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調  
ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得  
第一條 裁判ニハ理由ヲ附スヘシ但シ決定又ハ命令ニハ理由  
ヲ附セザルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及其ノ事實ヲ認メタル  
理由並法令ノ適用ヲ示スヘシ

第二節 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其  
ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ勝本ノ送達ニ依リ之ヲ爲スヘシ  
但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二節 訴訟手續

第一節 裁判官ノ除斥及回避  
第八十條 長官ハ除斥ノ理由其ノ他正當ノ事由アリト認ムルト  
キハ裁判官ヲ變更スヘシ

第八十一條 裁判官職務ノ執行ヨリ除斥セルヘキ場合左ノ如  
シ

一 裁判官被告者ナルトキ  
二 裁判官被告者又ハ被害者ノ配偶者、四親等内ノ  
血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナ  
ルトキ  
三 裁判官被告者又ハ被害者ノ法定代理人、後見監  
督人又ハ保佐人ナルトキ  
四 裁判官事件ニ付被告人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ  
五 裁判官事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人又ハ輔  
佐人ト爲リタルトキ  
六 裁判官事件ニ付長官又ハ檢察官ノ職務ヲ行ヒタル  
トキ  
七 裁判官事件ニ付搜查、豫審又ハ前審ニ干與シタル  
トキ

シ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ  
爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得  
決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調  
ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得  
第一條 裁判ニハ理由ヲ附スヘシ但シ決定又ハ命令ニハ理由  
ヲ附セザルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及其ノ事實ヲ認メタル  
理由並法令ノ適用ヲ示スヘシ

第二節 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其  
ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ勝本ノ送達ニ依リ之ヲ爲スヘシ  
但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス



第八條 被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ取調ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對スル訊問及其ノ供述
- 二 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲サルトキハ其ノ事由

調書ハ録事ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違キカ否ヲ問フヘシ

供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第九條 檢査、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作リ之ヲ調書ニ添付スヘシ

第十條 前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者録事ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ軍法會議取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判官タル法務官録事ト共ニ署名捺印スルヲ以テ足ル

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

第十一條 録事ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ録事ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自之ヲ行フヘシ

第十二條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他重要ナル訴訟手續ヲ記載スヘシ

- 一 公判ヲ爲シタル軍法會議及年月日
- 二 裁判官、檢察官及録事ノ官氏名並被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名

- 三 被告人出頭セザルトキ其ノ旨
- 四 辯論ノ公開ヲ禁シタルトキ其ノ旨及理由
- 五 被告事件ノ陳述其ノ他辯論ノ要旨
- 六 第八條第二項ニ記載シタル事項
- 七 朗讀シタル書類及要旨ヲ告ケタル書類
- 八 被告人ニ示シタル證據物
- 九 公判廷ニ於テ爲シタル檢査及押收
- 十 裁判長ヨリ記載ラ命ジタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ラ許シタル事項
- 十一 辯論ノ最終ニ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述ヲ爲サシメタルコト
- 十二 判決其ノ他ノ裁判ヲ爲シタルトキ

第十三條 公判調書ニ付テハ第八條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要セス

第十四條 公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘシ

第十五條 公判調書ニハ裁判官タル法務官録事ト共ニ署名捺印スヘシ

法務官二人ナルトキハ上席者署名捺印シ上席者差支アルトキハ他ノ法務官署名捺印スヘシ

法務官差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シ署名捺印スヘシ

録事差支アルトキハ前三項ノ規定ニ依リ署名捺印スル者其ノ事由ヲ附記シ署名捺印スヘシ

第十六條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

第十七條 裁判官爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラシメ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

第十八條 裁判書ハ裁判官ノ作ルヘシ

第十九條 裁判書ニハ裁判官署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ裁判官其ノ事由ヲ附記シ署名捺印シ他ノ裁判官署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シ署名捺印スヘシ

第二十條 裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齢、職業及住居ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ記載シタル事項ノ外公判ニ干與シタル檢察官ノ官氏名ヲ記載スヘシ

第二十一條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ原本又ハ謄本ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第二十二條 前四條ノ規定ハ豫審官裁判ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス

第二十三條 官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外年月日ヲ記載シ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ

書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

第二十四條 官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス挿入、削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ削除シタル部分ハ讀ミ得ヘキ寫字體ヲ存スヘシ

第二十五條 官吏及公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シ署名捺印スヘシ

第二十六條 官吏及公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代署セシ署名捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ海印スヘシ

他人ヲシテ代署セシタル場合ニ於テ代署シタル者其ノ事由ヲ記載シ署名捺印スヘシ

第二十七條 特設軍法會議ニ於テ審判スヘキ事件ノ書類ニ付テハ本節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五節 送達

第二十八條 送達ハ録事送達吏ヲシテ之ヲ爲サシム但シ海軍司法警察官ノ發スル書類ノ送達ハ其ノ書類ヲ作リタル者之ヲ爲サシム

送達吏ハ海軍司法警察吏ヲ以テ之ニ充ツ

第二十九條 送達ハ郵便ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郵便配達人ヲ以テ送達吏ト爲ス

第三十條 送達ハ之ヲ施行スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ書記又ハ之ニ相當スル官署ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 軍艦、兵營其ノ他軍事用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對スル送達ハ廳舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第一條又ハ陸軍軍法會議法第一條ニ記載シタル者ニシテ前項ニ記載シタル以外ノ場所ニ在ル者ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長若ハ監督者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル送達ハ書類ヲ本人ニ交付シタル旨ノ證書ヲ以テ之ヲ證ス

第三十二條 第一條及陸軍軍法會議法第一條ニ記載シタル以外ノ者被告人、代理人、辯護人又ハ輔佐人ト爲リタルトキハ書類ノ送達ヲ受ケル寫面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ軍法會議ニ届出ツヘシ軍法會議所在地ニ住居及事務所ヲ有セザルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ旨及送達受取人ノ住居又ハ事務所ヲ其ノ者ト共ニ書面ヲ以テ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ在監者ニ付テ之ヲ適用セス

送達受取人ハ送達ヲ受ケキ本人ト看做シ送達受取人ノ住居又ハ事務所ハ本人ノ住居又ハ事務所ト看做ス

第三十三條 前條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スヘキ者其ノ

届出ヲ爲サザルトキハ交付スヘキ書類ヲ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得

前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十四條 檢察官ニ對スル送達ハ書類ヲ其ノ所屬官廳ニ送付シテ之ヲ爲ス

第三十五條 被告人ノ現在地知レザルトキハ公示送達ヲ爲スコトヲ得

被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル爲他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第三十六條 公示送達ハ軍法會議ノ指揮アリタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

公示送達ハ交付スヘキ書類又ハ其ノ抄本ヲ軍法會議ノ揭示場ニ公示シテ之ヲ爲ス

公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ召喚狀ヲ軍法會議ノ揭示場ニ公示シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲ス

前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ掲載シタル時ヨリ三十日其ノ他ノ公示送達ハ揭示場ニ公示シタル時ヨリ七日ノ期間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第三十七條 送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外民事訴訟法ヲ適用ス

第六節 期間

第三十八條 期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ之ヲ起算シ日又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス但シ時效期間ノ初日ハ時間ヲ論セス一日トシテ之ヲ計算ス

月及年ハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

期間ノ末日日曜日、一月一日、二月四日、十二月二十九日、三十日、三十一日、一般ノ休日トシテ指定セラレタル大祭日ヲ除ク

第三十九條 日若ハ祝日又ハ海軍一般ノ休日ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セス但シ時效期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十條 法定ノ期間ハ訴訟行為ヲ爲スヘキ者ノ住居地ト軍法會議所在地トノ距離ニ從ヒ海陸路二十里毎ニ一日ヲ加テ二十里ニ滿タサルモ五里以上ナルトキ亦同シ但シ海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス

外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

第七節 被告人ノ召喚、勾引及勾留

第四十一條 被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出廷シタル被告人ニ對シテ口頭ヲ以テ次同ノ出頭ヲ命ジタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命ジタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

軍艦、兵營其ノ他軍事用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ在ル被告人ノ召喚ハ廳舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人廳舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ軍法會議ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ヲ召喚スル場合ニ之ヲ適用ス

第四十二條 召喚ヲ受ケタル被告人期日ニ出頭セザルトキハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第四十三條 左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

- 一 軍紀ヲ保持スル爲必要アルトキ
- 二 被告人逃走シタルトキ又ハ逃走スル虞アルトキ



三 被告人罪證ヲ確證スル虞アルトキ  
 四 被告人ノ引引ハ勾引ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ  
 四十四條 被告人ノ引引ハ勾引ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ  
 四十五條 勾引シタル被告人ハ軍法會議ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ之ヲ訊問スヘシ其ノ時間内ニ勾引狀ヲ發シタルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ  
 四十六條 第四百三十三條ニ記載シタル事由アルトキハ被告人ヲ勾留スルコトヲ得但シ被告人監獄ニ在ルトキハ其ノ事由ナシト雖之ヲ勾留スルコトヲ得  
 前項ノ規定ハ五百圓ヲ超過セザル罰金、拘留又ハ科料ニ該ルヘキ事件ニ付テハ第四百四十三條第四號ノ場合ヲ除クノ外之ヲ適用セス  
 被告人ノ勾留ハ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ第四百四十三條第一號ノ場合及被告人逃走シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
 四十七條 被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ  
 四十八條 裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第四百四十四條乃至前條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シ又ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得  
 四十九條 裁判長ハ被告人現在地ノ檢察官、檢察官、海軍司法警察官、豫審判事、區裁判所判事、檢事、司法警察官又ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得  
 受託官署ハ更ニ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ海軍司法警察官及司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス  
 受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セザルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ海軍司法警察官及司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス  
 囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ  
 五十條 被告人ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ裁判

長ハ檢察長又ハ之ニ相當スル官署ニ被告人ノ人相寫送付シ其ノ捜査及勾引ヲ囑託スルコトヲ得  
 囑託ヲ受ケタル官署ハ其ノ管轄區域内ノ檢察官又ハ相當官署ヲシテ勾引狀ヲ發シ捜査及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ  
 五十一條 前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ  
 被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル軍法會議ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テハ第四百四十五條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ起算ス  
 五十二條 召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件並被告人ノ氏名及住居ヲ記載シ裁判長又ハ受命裁判官之ニ記名捺印スヘシ  
 勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ  
 召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時及場所並召喚ニ應ゼザルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得又ハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得  
 勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ  
 第四百四十八條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ  
 五十三條 前條第一項及第二項ノ規定ハ第四百四十九條第四項ノ規定ニ依リ豫審官、檢察官又ハ海軍司法警察官ノ發スル勾引狀ニ之ヲ適用スルコトヲ得但シ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及其ノ囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ  
 五十四條 召喚狀ハ之ヲ送達ス  
 五十五條 勾引狀又ハ勾留狀ハ檢察官ノ指揮ニ依リ海軍司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命裁判官又ハ豫審官其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

得  
 監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ監獄官吏之ヲ執行ス  
 勾引狀又ハ勾留狀ハ必要アルトキハ海軍ノ下士官若ハ兵又ハ司法警察官吏之ヲ執行セシムルコトヲ得  
 五十六條 勾引狀ハ數通ヲ作リ之ヲ海軍司法警察官吏、海軍ノ下士官若ハ兵又ハ司法警察官吏數人ニ交付スルコトヲ得  
 五十七條 海軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄地外ニ於テ勾引狀ヲ執行スヘシ又ハ其ノ地ノ海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得  
 五十八條 勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル軍法會議ニ引致スヘシ  
 第四百四十九條第四項及第五百十條第二項ノ場合ニ於テハ勾引狀ヲ發シタル官署ニ引致スヘシ  
 勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ  
 五十九條 軍艦、兵營其ノ他軍用ノ處舍又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ艦船若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ラセムヘシ  
 軍用ノ處舍及艦船ノ外ニ在リテ現ニ陸海軍ノ勤務ニ從事スル者ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ラセムヘシ  
 六十條 軍法會議ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ヲ背セザルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得  
 六十一條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護

送スル場合ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得  
 六十二條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得  
 六十三條 勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シ記名捺印スヘシ  
 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ之ヲ檢察官又ハ執行ヲ指揮シタル官署ニ差出スヘシ  
 勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取リタル檢察官其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ  
 六十四條 檢察官ハ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得  
 六十五條 勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍内ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ヲ授受スルコトヲ得勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同シ  
 六十六條 軍法會議ハ罪證ヲ確證シ、逃走シ又ハ軍用上ノ機密ヲ漏泄スル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類若ハ物ヲ査問シ又ハ其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押アルコトヲ得  
 軍法會議書類又ハ物ヲ査問スルコト能ハサルトキハ檢察官之ヲ爲スコトヲ得  
 六十七條 勾留ノ原由消滅シタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ  
 六十八條 勾留セラレタル被告人第一條第一項第一號、第四號及陸軍軍法會議法第一條第一項第一號、第四號ニ記載シタル以外ノ者ナルトキハ被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得  
 六十九條 保釋ノ請求アリタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意

見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ  
 保釋ノ請求アリタル場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ  
 保釋ノ請求アリタル場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得  
 七十條 保釋ノ請求決定ハ保證金額ヲ差出シタル後之ヲ執行スヘシ  
 檢察官ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金額ヲ差出サシムルコトヲ得  
 檢察官ハ有價證券又ハ軍法會議ノ所在地ニ住居シ保證金額ヲ納ムルニ十分ノ資産ヲ有スル者ノ保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得  
 前項ノ保證書ニハ保證金額及何時ニテモ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘシ  
 七十一條 軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル被告人ヲ責付スルコトヲ得  
 責付ハ被告人部隊内居住者ナルトキハ其ノ所屬部隊ノ長ニ之ヲ爲シ部隊内居住者ニ非サルトキハ親族其ノ他ノ者ニ之ヲ爲スヘシ  
 部隊内居住者ニ非サル者ヲ責付スルニハ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニモ召喚ニ應ジ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ差出サシムヘシ  
 七十二條 被告人部隊内居住者ニ非サルトキハ軍法會議ハ七十三條ノ規定ニ依リ之ヲ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得  
 七十三條 軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ決定ヲ以テ保釋、責付又ハ勾留ノ執行ヲ停止ヲ取消スルコトヲ得  
 保釋中被告人召喚又ハ勾留ノ事由ナクシテ出頭セシ、住居ノ制限ニ違反シ又ハ逃走シタル爲保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒收スヘシ  
 保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行

ノ爲召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セズ又ハ逃走シタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒收スヘシ  
 七十四條 勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ檢察官ハ沒收ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ  
 七十五條 上告提起期間内又ハ上告中ノ事件ニ付勾留ヲ取消シ保釋、責付若ハ勾留ノ執行ヲ停止ヲ爲シ又ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ原軍法會議其ノ決定ヲ爲スヘシ  
 七十六條 豫審官ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ軍法會議又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス  
 七十七條 左ノ場合ニ於テ被告人事件急速ノ處分ヲ要シ軍法會議又ハ豫審官ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢察官又ハ海軍司法警察官ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得  
 一 軍紀ヲ保持スル爲必要アルトキ  
 二 現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在ラサルトキ  
 三 現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ  
 四 死體ノ檢證ニ因リ其ノ事件ノ被告人ヲ發見シタルトキ  
 五 既決ノ囚人又ハ法令ニ依リ拘禁セラレタル被告人逃走シタルトキ  
 六 被告人強盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ  
 七 被告人定リタル住居ヲ有セザルトキ  
 前項ノ規定ニ依リ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ル場合ニ於テハ檢察官ハ之ヲ他ノ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ニ囑託シ海軍司法警察官ハ之ヲ他ノ海軍司法警察官又ハ司法警察官ニ命令シ又ハ囑託スルコトヲ得  
 七十八條 檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ被告人其ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ











五十九條 第六十三條ノ規定ヲ準用ス  
 第六十四條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第二百三十六條第一項ニ記載シタル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ  
 第六十五條 第一項ニ記載シタル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告グヘシ  
 第六十六條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
 第六十七條 宣誓ハ訊問前ニテ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後ニテ爲サシムルコトヲ得  
 第六十八條 宣誓ハ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セザルコトヲ得旨ヲ記載スヘシ  
 第六十九條 訊問後宣誓ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セザルコトヲ得旨ヲ記載スヘシ  
 第七十條 裁判長ハ宣誓ヲ朗讀シ證人ヲシテ署名捺印セシムヘシ  
 第七十一條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽證ノ罰ヲ告グヘシ  
 第七十二條 同一ノ被告事件ニ付數名ノ證人出頭シタル場合ニ於テハ其ノ宣誓ハ同時ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第七十三條 左ニ記載シタル者ニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得  
 一 十五歳未満ノ者  
 二 宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者  
 三 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者  
 四 第二百三十六條第一項ニ記載シタル者ニシテ證言ヲ拒マサル者  
 五 第二百三十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者  
 六 被告人ノ雇人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ヲ適用シテハ犯人嚴懲ノ罪、證據運滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定、通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス  
 第七十四條 第一項ニ記載シタル者宣誓ヲ爲シタルトキ雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラレドモナシ  
 第七十五條 證人ノ供述カ其ノ證人若ハ之ト第二百三十三條第一項ニ規定スル關係アル者ノ罪ニ關シ又ハ其ノ財產上ニ重大ナル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第七十六條 證人ノ訊問ハ後ニ訊問スヘキ證人ノ在ラサル場所ニ於テ各別ニ之ヲ爲スヘシ  
 第七十七條 事實發見ノ爲ニ必要アルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得  
 第七十八條 證人ニハ訊問事項ニ付連絡シタル供述ヲ爲サシムヘシ  
 第七十九條 必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲ニ適當ナル訊問ヲ爲スヘシ  
 第八十條 證人ニハ其ノ實際シタル事實ニ因リ推測シタル事項ヲ供述セシムルコトヲ得  
 第八十一條 前項ノ供述ハ鑑定ニ關スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラレドモナシ  
 第八十二條 第八十八條及第九十條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス  
 第八十三條 證人軍法會議構内ニ在ルトキハ召喚ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第八十四條 證人ハ必要アル場合ニ於テハ軍法會議外ノ指定ノ場所ニテ之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キテ之ヲ訊問スルコトヲ得  
 第八十五條 親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其ノ現在ニ在ル地ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

帝國議會ノ議員議會ノ開期中開會地ニ滞在スルトキハ其ノ滞在ニ於テ之ヲ訊問スヘシ  
 第八十六條 證人正當ノ理由ヲシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百圓以下ノ過料ニ處スヘシ第二百三十九條第一項但書ノ場合ニ於テ虛偽ノ宣誓ヲ爲シタルトキ亦同シ  
 第八十七條 軍法會議ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セザルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得  
 第八十八條 軍法會議外ニ於テ證人ノ訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證人現在地ノ豫審官、豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得  
 第八十九條 受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得  
 第九十條 受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セザルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得  
 第九十一條 受命裁判官又ハ受託豫審官ハ證人訊問ニ付軍法會議又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第二百四十一條及第二百六十二條ノ決定ハ軍法會議亦之ヲ爲スコトヲ得  
 第九十二條 豫審官ハ證人訊問ニ關シ軍法會議又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス  
 第九十三條 檢察官ハ第七十七條、第七十八條及第八十三條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ第二百三十四條乃至第二百六十四條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ海軍司法官ニ之ヲ爲サシムヘシ  
 第九十四條 特別ノ知識ニ因リ知得タル過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知リタル者ヲ訊問スル場合ニハ本節ノ規定ニ依ラス  
 第九十五條 第十一節ノ規定ヲ適用ス

警察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得  
 第九十六條 司法警察官ハ第七十八條及第八十一條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ第二百三十四條乃至第二百六十四條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得  
 第九十七條 檢察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第九十八條 海軍司法警察官ハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第九十九條 檢察官又ハ司法警察官ハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第一百條 檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ證人ニ對シ過料又ハ賠償ノ旨ヲ爲スコトヲ得  
 第一百零一條 證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限ニ在ラス  
 第一百零二條 鑑定

被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アルトキハ軍法會議ハ期間ヲ定メ病院其ノ他相當ノ場所ニ被被告人ヲ留置スルコトヲ得  
 第一百零三條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ軍法會議ノ許可ヲ得テ身體ヲ検査シ、死體ヲ解剖シ又ハ他ノ物ヲ毀滅スルコトヲ得  
 第一百零四條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ軍法會議ノ許可ヲ得テ書類若ハ證據物ノ開覽シ若ハ謄寫シ又ハ被被告人若ハ證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得  
 第一百零五條 鑑定人ハ被被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ許可ヲ得テ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得  
 第一百零六條 軍法會議ハ受命裁判官ヲシテ鑑定ニ付必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ第二百七十三條第三項ノ規定ニ依ル處分ハ此ノ限ニ在ラス  
 第一百零七條 軍法會議ハ鑑定ヲ十分ナラスト思料スルトキハ鑑定人ヲ増加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第一百零八條 檢察官及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得  
 第一百零九條 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第一百一十條 鑑定ニ付テハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外第十一節ノ規定ヲ準用ス  
 第一百一十一條 檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ第二百七十三條第三項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得  
 第一百一十二條 鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定料及立會金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得  
 第一百一十三條 軍法會議ハ官署公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得  
 第一百一十四條 前九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ第二百七十三條第三項ノ規定ニ依リ說明ハ官署公署ノ指定シタル者ヲ得

シテ之ヲ爲サシムヘシ  
 第一百一十五條 特別ノ知識ニ因リ知得タル過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知リタル者ヲ訊問スル場合ニハ本節ノ規定ニ依ラス  
 第一百一十六條 第十一節ノ規定ヲ適用ス  
 第一百一十七條 通譯

第二章 始審

第一節 搜查  
 第一百一十八條 犯罪ニ因リ容ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得  
 第一百一十九條 被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得  
 第一百二十條 被害者死亡シタルトキハ其ノ家督相続人又ハ親族告訴ヲ爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得  
 第一百二十一條 前項ノ規定ハ刑法第八十三條ノ罪ニ之ヲ適用セズ  
 第一百二十二條 前條第二項ノ場合ニ於テ被害者ノ法定代理人被被告人ナルトキ、被告人ノ配偶者ナルトキ又ハ被告人ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

第九十七條 鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシムヘシ  
 第九十八條 宣誓ハ眞實ニ依リ之ヲ爲スヘシ  
 第九十九條 宣誓書ニハ誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ得旨ヲ記載スヘシ  
 第一百條 鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ  
 第一百零一條 鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第一百零二條 書面ヲ以テ報告ヲ爲サシムル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第一百零三條 軍法會議ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ軍法會議外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第一百零四條 前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得

第一百零五條 軍法會議ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得  
 第一百零六條 鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシムヘシ  
 第一百零七條 宣誓ハ眞實ニ依リ之ヲ爲スヘシ  
 第一百零八條 宣誓書ニハ誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ得旨ヲ記載スヘシ  
 第一百零九條 鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ  
 第一百一十條 鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第一百一十一條 書面ヲ以テ報告ヲ爲サシムル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第一百一十二條 軍法會議ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ軍法會議外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第一百一十三條 前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得











第三百八十二條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用キル辯護人ニ對シ同  
 事ニ付引續キ陳述スルコトヲ禁ズルコトヲ得  
 第三百八十三條 前二條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ  
 處分及理由ヲ公判調書ニ記載スヘシ  
 第三百八十四條 前項ノ場合ニ於テ懲戒處分ニ付スヘキモノ思料スルトキハ裁  
 判長ハ公判調書ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨ヲ相當官署ニ通知スヘシ  
 第三百八十五條 辯論ノ指揮ハ裁判長之ヲ行フ  
 第三百八十六條 事實ノ認定ハ證據ニ依ル  
 第三百八十七條 證據ノ證明力ハ裁判官ノ自由ナル判斷ニ任  
 ス  
 第三百八十八條 被告人ノ訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘ  
 シ  
 裁判長以外ノ裁判官ハ裁判長ニ告テ被告人、證人又ハ鑑  
 定人ヲ訊問スルコトヲ得  
 檢察官、被告人又ハ辯護人ハ必要ナル事項ニ付被告人  
 證人又ハ鑑定人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ  
 得  
 第三百八十九條 裁判長ハ共同被告人、證人其ノ他ノ者被告  
 人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシ思料ス  
 ルトキハ其ノ供述中被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得供述終リ  
 ルトキハ被告人ヲ入廷セシメ供述ノ要旨ヲ告ケシ  
 第三百九十條 證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨  
 ヲ告ケ又ハ録事ヲシテ朗讀セシムヘシ  
 第三百九十一條 證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ  
 第三百九十二條 期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物又ハ  
 證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百九十六條又  
 ハ第三百六十一條ノ規定ニ依リ集取シタルモノ亦同シ但シ  
 訴訟關係人異議ナキモノハ之ヲ取調ハサルコトヲ得  
 第三百九十三條 證據調ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ以テ之ヲ  
 爲スヘシ

新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決  
 定ニ依リ之ヲ爲スヘシ  
 第三百九十四條 裁判長被告人ニ對シ第三百八十六條ノ訊問ヲ  
 爲シタル後檢察官ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ  
 前項ノ陳述終リタルトキハ裁判長ハ被告人ノ訊問及證據調  
 ヲ爲スヘシ  
 第三百九十五條 裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ  
 被告人ニ意見アリキヤ否ヲ問フヘシ  
 裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ差出スコト  
 ヲ得ヘキ旨ヲ告ケシ  
 第三百九十六條 證據調終リタル後檢察官ハ事實及法律ノ適  
 用ニ付意見ヲ陳述スヘシ  
 被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得  
 辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述セシムヘシ  
 第三百九十七條 軍法會議ハ必要ナル場合ニ於テハ辯論ヲ再開  
 スルコトヲ得  
 第三百九十八條 軍法會議ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公  
 判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ變命裁判官ヲシテ  
 前項ノ取調ヲ爲シタルコトヲ得  
 一ノ權ヲ有ス  
 受命裁判官ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ  
 第三百九十九條 裁判長ハ裁判官ノ一人ヲシテ被告人ノ訊問、  
 證據調又ハ辯論ノ指揮ニ關スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得  
 第四百條 被告人人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ檢察官ノ  
 意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間公判手續ヲ停  
 止スヘシ  
 被告人疾病ニ因リテ出廷スルコト能ハサルトキハ檢察官ノ意  
 見ヲ聽キ決定ヲ以テ出廷スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ  
 停止スヘシ

第三百六十六條ノ規定ニ依リ代人ヲ出廷セシメタル場合ニ  
 於テハ前二項ノ規定ヲ適用ス  
 第四百零一條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ  
 停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セザ  
 リシ場合ニ於テハ辯論ヲ更新スヘシ  
 第四百零二條 開廷後裁判官ノ更迭アリタルトキハ辯論ヲ更新スヘシ  
 但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス  
 第四百零三條 左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ  
 一 公訴ノ取消アリタルトキ  
 二 被告人死亡シタルトキ  
 三 第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ審判ヲ  
 爲スヘキカラサルトキ  
 第四百零四條 公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタルトキハ再  
 ヒ公訴ヲ提起シ又ハ豫審ヲ請求スルコトヲ得ス  
 第四百零五條 被告事件軍法會議ノ管轄ニ屬セルトキハ判決ヲ  
 以テ管轄權ノ言渡ヲ爲スヘシ  
 第四百零六條 被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ判決ヲ以テ  
 刑ノ言渡ヲ爲スヘシ  
 第四百零七條 被告事件罪ト爲ラズ又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判  
 決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ  
 第四百零八條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘ  
 シ  
 一 確定判決ヲ經タルトキ  
 二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ  
 三 刑ヲ免除スヘキトキ  
 四 大赦アリタルトキ  
 五 時効完成シタルトキ  
 第四百零九條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴棄却ノ言渡ヲ爲  
 スヘシ

スヘシ  
 一 長官ノ命令ナラシテ公訴ヲ提起シタルトキ  
 二 公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違ヒタル爲無効ナルトキ  
 三 第三百三十四條、第三百三十九條又ハ第四百二  
 條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ  
 四 告訴又ハ請求ヲ待テテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ  
 請求ノ取消アリタルトキ  
 五 公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一軍法會議ニ  
 公訴ヲ提起シタルトキ  
 六 被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セザルトキ  
 第四百一十條 被告人陳述ヲ肯セス若ハ許可ヲ受ケシテ退廷シ  
 又ハ秩序維持ノ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命ゼラレタルトキハ其ノ  
 陳述ヲ聽カシテ判決ヲ爲スコトヲ得  
 第四百一十一條 罰金以下ノ刑ニ該ルモノ又ハ罰金以下ノ刑ニ處ス  
 (キモノト認ムル事件ニ付被告人出廷セザルトキハ其ノ後ノ取  
 調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除ク外  
 被告人ノ陳述ヲ聽カシテ判決ヲ爲スコトヲ得  
 第四百一十二條 辯論終結ノ後ハ被告人出廷セスト雖宣告ニ依リ  
 判決ヲ告知ス  
 第四百一十三條 判決ノ宣告ハ公判廷ニ之ヲ爲ス但シ辯論ノ公判  
 ヲ停止スル事件ニ付ハ決定ヲ以テ理由ノ告知ニ限リ公判廷  
 ステ之ヲ爲スコトヲ得  
 第三百七十五條ノ規定ハ前項ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準  
 用ス  
 第四百一十四條 無罪、免訴、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄  
 違ハ又罰金若ハ材料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其ノ事件ニ付勾  
 留セラレタル被告人ニ對シ放免ノ言渡アリタルモノトス  
 公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ軍法會議  
 ハ前ニ發シタル勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得  
 勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴

ヲ提起セシ又ハ管轄軍法會議ノ檢察官ニ事件ヲ送致セザル  
 トキハ檢察官ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ  
 受ケタル檢察官五日内ニ公訴ヲ提起セザルトキ亦同シ  
 第四百一十五條 押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ヲキキハ押收ヲ解  
 ク言渡アリタルモノトス  
 公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ軍法會議  
 ハ押收ヲ存積スルコトヲ得  
 押收ヲ存積シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セシ又ハ管  
 轄軍法會議ノ檢察官ニ事件ヲ送致セザルトキハ檢察官ハ其  
 ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢察官五日内  
 ニ公訴ヲ提起セザルトキ亦同シ  
 第四百一十六條 押收シタル物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明  
 瞭ナルトキハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ  
 贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ヲ請求シタル  
 トキハ前項ノ例ニ依ル  
 假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ヲキキハ還付ノ言渡アリタ  
 ルモノトス  
 第四百一十七條 犯罪ニ因リ生シタル損害ニ付被害者ヨリ被告人  
 ニ對シ其ノ回復ヲ請求シタル場合ニ於テ被告事件ノ取調ニ  
 因リ其ノ請求ヲ相當ナリト認メタルトキハ被告人異議ナキトキ  
 ニ限リ其ノ請求ニ應ズヘキ旨ノ言渡ヲ爲スコトヲ得  
 第四百一十八條 前二條ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關  
 係人ヨリ其ノ權利ノ主張スルコトヲ妨グス  
 第四百一十九條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ  
 刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所  
 在地若ハ所屬部隊ノ軍法會議ノ檢察官其ノ軍法會議ニ  
 請求ヲ爲スヘシ但シ高等軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル  
 事件ニ付テハ高等軍法會議ノ檢察官高等軍法會議ニ請  
 求ヲ爲スヘシ  
 第二十七條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲シタル事件ニ付テハ刑ノ

言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ高等軍法會議ニ前項ノ請求  
 ヲ爲スヘシ  
 前二項ノ請求アリタルトキハ軍法會議ハ被告人又ハ其ノ代  
 理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ  
 第四百二十條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依  
 リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ  
 爲シタル軍法會議ノ檢察官其ノ軍法會議ニ請求ヲ爲スヘシ  
 軍法會議前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ被告人又ハ其ノ代理  
 人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ  
 第四百二十一條 本節中審判ノ公判ニ關スル規定ハ之ヲ特設軍  
 法會議ノ訴訟手續ニ適用ス

**第三章 上告及非常上告**

第四百二十二條 上告ハ東京軍法會議、留守府軍法會議又ハ  
 要港部軍法會議ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得  
 第四百二十三條 上告ハ判決ノ一部ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得  
 部分ヲ限ラサルトキハ判決ノ全部ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得  
 第四百二十四條 上告ハ檢察官又ハ被告人ノ之ヲ爲スコトヲ得  
 第四百二十五條 被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告  
 人ノ爲獨立シテ上告ヲ爲スコトヲ得  
 第四百二十六條 原審ノ辯護人又ハ代人ハ被告人ノ爲上告ヲ  
 爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス  
 第四百二十七條 上告ハ法令違反ノ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲  
 スコトヲ得  
 第四百二十八條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス  
 一 法律ニ從ヒ軍法會議ヲ構成セザリシトキ  
 二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ裁判官審  
 判ニ干渉シタルトキ  
 三 審理ニ干渉セザリシ裁判官判決ニ干渉シタルトキ  
 四 軍法會議不當ニ管轄又ハ管轄違ヲ認メタルトキ



五 軍法會議不當ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ  
 六 審判ノ公開ニ關スル規定ニ違ハルトキ  
 七 法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外被告人ノ出廷ナクシテ審判ヲ爲シタルトキ  
 八 公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ  
 九 法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付其ノ出廷ナクシテ審判ヲ爲シタルトキ  
 十 檢察官ノ爲メ被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ  
 十一 法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲サザレトキ  
 十二 公判ニ於テ爲シタル證據ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲サザレトキ  
 十三 法律ニ依リ公判手續ヲ停止又ハ更新セザレトキ  
 十四 辯論ノ最終ニ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述ヲ爲サズサレトキ  
 十五 請求ヲ受ケタル事項ニ付判決ヲ爲サズ又ハ請求ヲ受ケタル事項ニ付判決ヲ爲シタルトキ  
 十六 判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ  
 十七 判決書ニ裁判官ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ  
 第十八 前條ノ場合ヲ除ク外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響及ボザルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス  
 第十九 判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス  
 第二十 上告ノ提起期間ハ三日トス

前項ノ期間ハ判決告知ノ時ヲ以テ始ル  
 第二十一條 檢察官又ハ被告人ハ上告ノ放棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第四百二十三條ニ記載シタル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ放棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス  
 第二十二條 第四百二十三條ニ記載シタル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上告ノ取下ヲ爲スコトヲ得  
 第二十三條 上告ノ放棄又ハ取下ノ申立ハ審判ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立ヲ公判調書ニ記載スヘシ  
 第二十四條 上告ノ放棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ル者ハ上告權ヲ喪失ス  
 第二十五條 第四百二十二條乃至第四百二十四條ニ記載シタル者自己又ハ代人ノ責ニ屬スヘカサル事由ニ因リ上告ノ提起期間内ニ上告ヲ爲スコト能ハサレトキハ原軍法會議ニ上告權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得  
 第二十六條 上告權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル時ヨリ三日内ニ審判ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
 第二十七條 上告權回復ノ原因タル事實ハ之ヲ証明スヘシ  
 第二十八條 上告權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原軍法會議ニ上告ノ申立書ヲ提出スヘシ  
 第二十九條 原軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ上告權回復ノ請求ヲ許スヘキカヲ決定スヘシ  
 第三十條 上告權回復ノ請求アリタルトキハ前條ノ規定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シテ勾留狀ヲ發スルコトヲ得  
 第三十一條 上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原軍法會議ニ提出スヘシ  
 第三十二條 監獄ニ在ル者上告ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ其ノ申立書ヲ提出スヘシ此ノ場合ニ於テ上告ノ提起期間内ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ニ提出シタルトキハ上告ノ效力ヲ生ス  
 第三十三條 監獄ニ在ル者自ラ申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ之ヲ代書シ又ハ所屬官吏ヲシテ之ヲ代書セシムヘシ  
 第三十四條 前條ノ規定ハ上告ノ放棄若ハ取下又ハ上告權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス  
 第三十五條 上告ノ申立書ノ放棄若ハ取下又ハ上告權回復ノ請求アリタルトキハ該事ハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第三十六條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第三十七條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第三十八條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第三十九條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第四十條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第四十一條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第四十二條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第四十三條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第四十四條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第四十五條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第四十六條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第四十七條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第四十八條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第四十九條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第五十條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ

第四十七條 上告人ハ速クモ最初ニ定メタル公判期日ノ十四日前ニ上告趣意書ヲ高等軍法會議ニ提出スヘシ  
 第四十八條 上告ノ對人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十四日前迄上告ヲ爲スコトヲ得  
 第四十九條 前項ノ上告ハ上告趣意書ヲ高等軍法會議ニ提出スニ依リテ之ヲ爲ス  
 第五十條 上告趣意書ニハ法令違反ノ理由ヲ明示スヘシ  
 第五十一條 訴訟手續ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ尙違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ  
 第五十二條 高等軍法會議ニ上告趣意書ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ對人ニ送達スヘシ  
 第五十三條 上告人期間内ニ上告趣意書ヲ提出サザルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ  
 第五十四條 上告ノ對人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ答辯書ヲ高等軍法會議ニ提出スコトヲ得  
 第五十五條 檢察官對人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ理由ニ付答辯書ヲ提出スヘシ  
 第五十六條 高等軍法會議答辯書ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ對人ニ送達スヘシ  
 第五十七條 裁判長ハ受命裁判官ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ閱シ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得  
 第五十八條 上告ノ審判ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
 第五十九條 期日ニハ受命裁判官ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ  
 第六十條 檢察官及辯護人ハ上告趣意書ニ基キ辯論ヲ爲スヘシ  
 第六十一條 辯護人出廷セザルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキト

キハ法律ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除ク外檢察官ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ  
 第六十二條 高等軍法會議ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ  
 第六十三條 軍法會議ノ管轄、公訴ノ受理及原判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得原判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ  
 第六十四條 高等軍法會議ハ軍法會議ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續ノ當否ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得前項ノ取調ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ又ハ他ノ軍法會議ノ豫審官ニ之ヲ囑託スルコトヲ得  
 第六十五條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第六十六條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第六十七條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第六十八條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第六十九條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第七十條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第七十一條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第七十二條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第七十三條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第七十四條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第七十五條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第七十六條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第七十七條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第七十八條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第七十九條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ  
 第八十條 上告ノ申立書ニ對シテハ速ニ之ヲ對人ニ通知スヘシ

第六十三條 不當ニ管轄違ラ認メ又ハ公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ其ノ事件ヲ原軍法會議ニ送付スヘシ  
 第六十四條 不當ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ其ノ事件ヲ管轄軍法會議ニ送付スヘシ  
 第六十五條 上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ハ之ヲ判決書ニ記載スヘシ  
 第六十六條 被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ利益ノ爲メ上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ高等軍法會議ハ原判決ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス  
 第六十七條 原軍法會議不當ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲サザレトキハ高等軍法會議ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ  
 第六十八條 事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル軍法會議ハ其ノ事件ニ付高等軍法會議ノ表示シタル法律上ノ意見ニ聽束セラレ  
 第六十九條 上告ノ審判ニ付テハ本章ニ規定シタルモノヲ除ク外第二編第二章第四節ノ規定ヲ適用ス  
 第七十條 軍法會議ノ判決確定後其ノ判決法律ニ於テ罰金ナル所爲ニ對シテ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ高等軍法會議ノ長官ハ檢察官ヲシテ高等軍法會議ニ非常上告ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第七十一條 非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ高等軍法會議ニ提出スヘシ  
 第七十二條 期日ニハ檢察官ハ申立書ニ基キ陳述ヲ爲スヘシ  
 第七十三條 高等軍法會議非常上告ヲ理由トシタルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ  
 第七十四條 高等軍法會議非常上告ヲ理由トシタルトキハ原判決ヲ破毀シ更ニ判決ヲ爲スヘシ但シ原判決ニ定メタル



刑罰ノ言渡ヲ受ケルコトヲ得ス

第四百七十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル確定判決ニ對シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得

第四章 再審

- 一 原判決ノ證據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ偽造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ
- 二 原判決ノ證據ト爲リタル証言、鑑定、通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ偽造又ハ虚偽ノ鑑定、通譯若ハ翻譯ナリシコト證明セラレタルトキ
- 三 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ被告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ被告ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル
- 四 原判決ノ證據ト爲リタル裁判確定判決ニ因リ變更セラレタルトキ
- 五 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪又ハ免訴ヲ言渡スヘキ明確ナル證據又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認メヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ
- 六 原判決ニ干與シタル裁判官、原判決ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官若ハ檢察官、豫審官ニ干與シタル豫審官、搜查若ハ公訴ノ提起ニ干與シタル檢察官又ハ第三百四條ノ規定ニ依リ檢察官ノ請求ヲ受ケテ處分ヲ爲シタル豫審官被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前裁判官、豫審官又ハ檢察官ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル軍法會議其ノ事實ヲ知ラザリシトキニ限ル

第四百七十六條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ刑ノ言渡又ハ無罪ノ免訴若ハ公訴棄却ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人トシテ不利ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得

- 一 前條第一號、第二號、第四號又ハ第六號ニ記載シタル原由アルトキ
- 二 無罪又ハ相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケタル者軍法會議又ハ軍法會議外ニ於テ自白シタルトキ見訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ受ケタル者軍法會議又ハ軍法會議外ニ於テ其ノ原由ナカリシコトヲ陳述シタルトキ

第四百七十七條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

- 一 第四百五十八條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百七十五條第一號、第二號又ハ第四號ニ記載シタル原由アルトキ
- 二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官又ハ豫審官ニ第四百七十五條第六號ニ記載シタル原由アルトキ

第四百七十八條 前三條ノ規定ニ從ヒ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審ノ原由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ犯罪ニ付公訴ヲ實行スルコト能ハザルトキハ其ノ事由及犯罪事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百七十九條 再審ノ請求ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第四百八十二條ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテ再審ノ請求ハ左ノ場合ヲ除クノ外始行ノ判決ヲ爲シタル軍法會議其ノ事實ヲ知ラザリシトキニ限ル

軍法會議之ヲ管轄ス

- 一 第四百五十八條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百七十五條第一號、第二號又ハ第四號ニ記載シタル原由アルトキ
- 二 高等軍法會議ノ判決又ハ其ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官又ハ豫審官ニ第四百七十五條第六號ニ記載シタル原由アルトキ

第四百八十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲メ再審ノ請求ハ左ニ記載シタル者之ヲ爲スコトヲ得

- 一 管轄軍法會議ノ檢察官
- 二 刑ノ言渡ヲ受ケタル者
- 三 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人又ハ夫
- 四 刑ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家畜相續人、直系親族又ハ兄弟姉妹

第四百八十二條 檢察官ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得但シ特設軍法會議ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四百八十三條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ終ヘタルトキ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトヲキニ至リタルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十四條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人トシテ不利ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十五條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セズ但シ管轄軍法會議ノ檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ再審ノ請求ニ付テハ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百八十六條 再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本及證據ヲ添ヘ之ヲ管轄軍法會議ニ提出スヘシ

第四百八十七條 再審ノ請求ハ之ヲ取下クルコトヲ得

第四百八十八條 第四百三十二條、第四百三十四條、第四百四十一條及第四百四十三條ノ規定ハ再審ノ請求及其ノ取下ニ之ヲ適用ス

第四百八十九條 第四百六十二條ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテ高等軍法會議及始行ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ニ再審ノ請求アリタルトキハ高等軍法會議ハ決定ヲ以テ始行ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ノ訴訟手續終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ始行ノ確定判決トシテ再審ノ請求アリタルトキ亦同シ

第四百九十條 再審ノ請求法律上ノ方式ニ違ヒタルモノナルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百九十一條 再審ノ請求ヲ理由テシタルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百九十二條 再審ノ請求ヲ理由アリタルトキハ再審開始ノ決定ヲ爲スヘシ

第四百九十三條 第四百八十九條ノ場合ニ於テ始行ノ判決ヲ爲シタル軍法會議再審ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキハ高等軍法會議ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五章 裁判ノ執行

第四百九十四條 再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス場合ニ於テハ請求ヲ爲シタル者及其ノ對人ノ意見ヲ聽クヘシ但シ第四百八十一條第一號第三號ニ記載シタル者再審ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ併シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ意見ヲ聽クヘシ

第四百九十五條 再審開始ノ決定ヲ爲シタル事件ニ付テハ其ノ審級ニ從ヒ更ニ審判ヲ爲スヘシ

第四百九十六條 死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失ノ狀態ニ在ル者ノ利益ノ爲メ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カズ檢察官及辯護人ノ意見ヲ聽キ公判ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ再審ノ請求ヲ爲シタル者辯護人ヲ選任セザルトキハ裁判長ハ第三百七十一條ノ規定ニ從ヒ辯護人ヲ以テ辯護人トシテ之ヲ指定スヘシ

第四百九十七條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲メ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前刑ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

第四百九十八條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲メ再審ノ請求ニ於テハ原判決ニ於テ言渡シタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得

第四百九十九條 再審ニ於テ無罪ノ言渡シタル判決確定シタルトキハ官報ヲ以テ其ノ判決ヲ公示スヘシ

第五百條 裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス

第五百一條 裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官又ハ其ノ裁判ヲ爲シタル豫審官ノ屬スル軍法會議ノ檢察官之ヲ指揮ス但シ其ノ性質上軍法會議、裁判長、受命裁判官又ハ豫審官ノ爲スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス



海軍軍法會議法 訴訟手續 裁判ノ執行

檢察官及監獄ノ長ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ  
 第五百九條 死刑ノ言渡ヲ受ケル者心神喪失ノ状態ニ在ルトキハ海軍大臣ノ命令ニ依リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス  
 死刑ノ言渡ヲ受ケル婦女懷胎ナルトキハ海軍大臣ノ命令ニ依リ分娩ニ至ル迄執行ヲ停止ス  
 前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル者ニ付テハ痊癒又ハ分娩ノ後海軍大臣ノ命令アルニ非サレハ其ノ執行ヲ爲スコトヲ得  
 第五百十條 特設軍法會議死刑ヲ言渡シタル場合ニ於テハ其ノ執行又ハ執行ノ停止ニ關スル海軍大臣ノ職務ハ長官之ヲ行フコトヲ得  
 第五百十一條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケル者心神喪失ノ状態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケル者ノ所在地ノ軍法會議ノ檢察官ノ指揮ニ依リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス  
 第五百十二條 前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケル者第一條ニ記載シタル身分ヲ有セザルトキハ檢察官ハ之ヲ監護義務者又ハ市區町村長ニ交付シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコトヲ得  
 刑ノ執行ヲ停止セザレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ刑期ニ算入ス  
 第五百十三條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケル者ノ所在地ノ軍法會議ノ檢察官ノ指揮ニ依リ事故ノ止ム迄懲役、禁錮又ハ拘留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得  
 一 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保護ゾト能ハサル處ニ在ルトキ  
 二 分娩後七月以上ナルトキ  
 三 分娩後一月ヲ經過セザルトキ  
 四 刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不利益ヲ生ズル處アリ

ル  
 五 其ノ他重大ナル事由アルトキ  
 第五百十四條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケル者拘禁中ニ非ザルトキハ檢察官ハ執行ノ爲メ之ヲ召喚スヘシ召喚ニ應ゼザルトキハ逮捕狀ヲ發スヘシ  
 第五百十五條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケル者逃走シタルトキ又ハ逃走スル虞アルトキハ檢察官ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ又ハ海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ請求シ若ハ囑託シテ之ヲ發シシムルコトヲ得  
 第五百十六條 逮捕狀ハ刑ノ言渡ヲ受ケル者ノ氏名、住居、年齢、刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢察官又ハ海軍司法警察官之ニ署名捺印スヘシ  
 逮捕狀ヲ發スル場合ニ於テ必要アルトキハ人相書ヲ添附スヘシ  
 第五百十七條 逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス  
 第五百十八條 逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定ヲ適用ス  
 第五百十九條 檢察官刑ノ言渡ヲ受ケル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ檢察官又ハ之ニ相當スル官署ニ人相書ヲ送付シ其ノ捜査及逮捕ヲ囑託スルコトヲ得  
 囑託ヲ受ケル官署ハ其ノ管轄區域内ノ檢察官又ハ相當官署ヲシテ逮捕狀ヲ發シ及逮捕ノ手續ヲ爲サシムヘシ  
 第五百二十條 罰金、科料、過料、沒收、沒取、追徴又ハ費用賠償ノ裁判ハ檢察官ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス其ノ執行ヲ受クヘキ者ニ付相續開始アリタルトキハ相續財產ニ就キ執行スルコトヲ得  
 第五百二十一條 前條ノ執行ニ付強制執行ヲ要スルトキハ軍艦、兵營其ノ他軍用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ於テ之ヲ爲ス場合ヲ除ク外檢察官ノ囑託ニ因リ區裁判所其ノ他民事裁判ニ付強制執行ヲ爲ス權アル官署ニ於テ之ヲ爲ス此ノ場合

ニ於テハ檢察官ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス  
 囑託ニ因リ爲ス官署ノ執行手續ニ付テハ民事裁判ノ執行ニ關スル規定ヲ適用ス但シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス  
 第五百二十二條 前條第二項ノ規定ニ依リ執行ノ費用ハ執行ヲ受ケル者ノ負擔トシ民事訴訟法ノ規定ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ  
 第五百二十三條 第四百十五條ノ規定ニ依リ爲シタル賠償ノ言渡ニ付被害者ヨリ強制執行ノ請求アリタルトキハ前三條ノ規定ヲ適用ス  
 第五百二十四條 沒收物ハ檢察官之ヲ處分スヘシ  
 第五百二十五條 沒收ノ執行後三月内ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ヲ交付ヲ請求シタルトキハ檢察官ハ破産又ハ廢棄スヘキ物ヲ除ク外之ヲ交付スヘシ  
 沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ檢察官ハ公賣ニ因リ得タル代價ヲ交付スヘシ  
 第五百二十六條 偽造又ハ變造ニ係ル物ヲ返還スル場合ニ於テハ偽造又ハ變造ノ部分ヲ其ノ物ニ表示スヘシ  
 偽造又ハ變造ニ係ル物押收セラレタルトキハ之ヲ提出セシメテ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但シ其ノ物公務所ニ屬スルトキハ偽造又ハ變造ノ部分ヲ公務所ニ通知シテ相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ  
 第五百二十七條 押收物ヲ返還ヲ受クヘキ者ノ所在不明ナル爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ返付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢察官ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ  
 公告ヲ爲シタル時ヨリ六月内ニ還付ノ請求ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス  
 前項ノ期間内ト雖價值ナキ物ハ之ヲ廢棄シ保管ニ不便ナル物ハ之ヲ公賣シ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第五百二十八條 檢察官ハ必要ナル場合ニ於テハ他ノ軍法會議ノ檢察官、地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢察官又ハ相當官署ニ裁判ノ執行ニ關スル處分ヲ囑託スルコトヲ得  
 第五百二十九條 刑ノ言渡シタル裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ其ノ言渡ヲ受ケル者ハ言渡ヲ爲シタル軍法會議ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
 第五百三十條 刑ノ執行ヲ受ケル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢察官ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ裁判ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
 第五百三十一條 疑義又ハ異議ノ申立ハ其ノ裁判アル迄之ヲ取テスルコトヲ得  
 疑義若ハ異議ノ申立又ハ其ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
 第四百四十一條ノ規定ハ疑義若ハ異議ノ申立又ハ其ノ取下ニ之ヲ適用ス  
 第五百三十二條 疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケル軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ  
 第五百三十三條 罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲シタル勞務役場留置ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ適用ス  
 附則  
 第五百三十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 本法第二編第二章中親告罪ノ告訴、請求ヲ待テテ受理スヘキ事件ニ付テテ請求及時效ニ關スル規定ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ施行期日ヲ定ム  
 親告罪ノ告訴、請求ヲ待テテ受理スヘキ事件ニ付テテ請求及時效ニ關シテハ前項ノ規定ニ依リ定ムル施行期日ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

海軍治罪法及臨時海軍軍法會議法ハ之ヲ廢止ス  
 第五百三十五條 海軍治罪法及臨時海軍軍法會議法ハ之ヲ廢止ス  
 第五百三十六條 本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之ヲ適用ス  
 前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨グ  
 本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス  
 第五百三十七條 本法施行前裁判權ヲ有スル事件ニ付審問、審判又ハ判決ノ命令アリタルトキハ本法ニ依リ軍法會議裁判權ヲ有セザルトキト雖軍法會議之ヲ審判ス  
 第五百三十八條 本法施行前軍法會議裁判權ヲ有セザル事件ニ付通常裁判所其ノ他官署ニ公訴ヲ提起アリタルトキハ本法ニ依リ軍法會議裁判權ヲ有スルトキト雖公訴ヲ受ケル官署之ヲ審判ス  
 第五百三十九條 從來ノ軍法會議ハ本法ニ於テ之ニ相當スル軍法會議トス  
 第五百四十條 本法施行前審判權ヲ有スル事件ニ付審問、審判又ハ判決ノ命令アリタルトキハ本法ニ依リ審判權ヲ有セザルトキト雖其ノ命令ヲ受ケル軍法會議之ヲ審判ス  
 第五百四十一條 本法施行前審判ヲ委シタル事件ハ第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタルモノト看做ス  
 第五百四十二條 本法施行ノ際在職ノ判士長及判士ハ本法ニ依リ判士トス  
 第五百四十三條 本法施行ノ際在官ノ主理ハ別ニ辭令ヲ用ヒテ海軍法務官ニ任セラレタルモノトス  
 本法施行ノ際休職ノ命セラレタル海軍法務官トス  
 本法施行ノ際第三十九條ノ事由ナキト雖海軍大

臣ハ海軍法務官ニ休職ヲ命スルコトヲ得  
 前二項ノ規定ニ依リ休職ト爲リタル海軍法務官ノ休職ノ期間ハ三年トシ第二項ノ者ニ在リテハ本法施行前休職ト爲リタル時ヨリ之ヲ起算ス  
 前項ノ休職ノ期間満期ト爲リタルトキハ退職トス  
 第五百四十四條 本法施行前發シタル收禁狀ハ之ヲ本法ニ依リ發シタル勾留狀ト看做ス  
 第五百四十五條 本法施行前ニ爲シタル檢察ノ處分ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル搜查ノ處分ト看做ス  
 第五百四十六條 本法施行前檢察ノ處分ニ著シタル官署本法ニ依リ搜查權ヲ有セザルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官又ハ海軍司法警察官ニ送付スヘシ本法施行前告訴又ハ告發ヲ受ケル官署亦同シ  
 第五百四十七條 第二百九十二條ノ期間ハ同條施行前犯人ヲ知り又ハ婚姻ノ無効若ハ取消ノ裁判確定シタル場合ニ於テハ同條施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス  
 第五百四十八條 本法施行前檢察具申アリタル事件ニシテ海軍治罪法第五十二條ノ手續ヲ爲サザルトキハ之ヲ第三百六條又ハ第三百七條ノ規定ニ依リ報告アリタルモノト看做ス  
 第五百四十九條 本法施行前ニ爲シタル審問ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル豫審ト看做ス  
 本法施行前審問ニ著シタル事件ハ之ヲ本法ニ依リ豫審ノ請求アリタルモノト看做ス  
 第五百五十條 本法施行前海軍治罪法第七十八條第一號ノ規定ニ依リ具申アリタル事件ニシテ長官ノ命令又ハ認可ナキモノハ之ヲ第三百三十一條ノ規定ニ依リ報告アリタルモノト看做ス  
 第五百五十一條 本法施行前審問ニ於テ告訴ノ言渡アリタル事件ニ付テハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ限り更ニ豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起スルコトヲ得



第五十二條 本法施行前判決ニ著手シタル事件ハ之ヲ本法ニ依リ公訴ノ提起アリタルモノト看做ス

第五十三條 本法施行前判決ヲ終ヘ裁判宣告ヲ爲ササル事件ハ舊法ニ依リ之ヲ終結スヘシ

第五十四條 本法施行前海軍治罪法第一條ノ規定ニ依リ又ハ同法第一百二條各號ニ記載シタル事由ニ因リ再審ノ命令アリタル事件ハ舊法ニ依リ之ヲ終結スヘシ

第五十五條 本法施行前海軍治罪法第一百二條又ハ同法第一百三條ノ規定ニ依リ再審ノ申請又ハ具申アリテ命令ナキ事件ハ之ヲ本法ニ依リ舊法會議ニ再審ノ請求アリタルモノト看做ス

第五十六條 本法施行前提起シタル私訴ハ之ヲ第四百十五條ノ規定ニ依リ損害回復ノ請求ト看做ス

第五十七條 本法施行前提起シタル私訴裁判ノ強制執行ニ付テハ第五百二十三條ノ規定ヲ適用ス

第五十八條 本法施行前進行ラザル私訴ノ時効ハ從前ノ規定ニ從フ

第五十九條 本法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ハ市制町村制ヲ施行セザル地並朝鮮、臺灣、樺太及關東州ニ在リテハ勅令ヲ以テ指定スル官吏員之ヲ行フ

第六十條 本法ニ記載シタル刑法ノ規定ハ朝鮮、臺灣及關東州ニ在リテハ各之ニ相當スル法令ノ規定トス

第六十一條 別段ノ規定アル場合ヲ除ク外他ノ法律中海軍ノ主理トアルハ海軍法務官トス

●海軍軍法會議法第一條第二項ノ規定ニ依リ除外スヘキ者ニ關スル件

(大正十一年三月三十一日勅令 第百二十二號)

海軍軍法會議法第一條第二項ノ規定ニ依リ除外スヘキ者ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍軍法會議法第一條第二項ノ規定ニ依リ除外スヘキ者ハ海軍各部隊所屬ノ職工トス

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●兵役法

(昭和二年三月三十一日法律 第四十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ勅令改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

兵役法

第一章 總則

第一條 帝國臣民タル男子ハ本法ノ定ムル所ニ依リ兵役ニ服ス

第二條 兵役ハ之ヲ常備兵役、後備兵役、補充兵役及國民兵役ニ分ツ

第三條 常備兵役ハ之ヲ現役及豫備役ニ、補充兵役ハ之ヲ第一補充兵役及第二補充兵役ニ、國民兵役ハ之ヲ第一國民兵役及第二國民兵役ニ分ツ

第四條 志願ニ依リ兵籍ニ編入セラルル者ノ兵役ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第五條 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ得ズ

第二章 服役

第六條 現役ハ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年トシ現役兵トシテ徵集セラレタル者ニ服ス

第七條 現役兵ハ現役中ノ之ヲ在營セシム

第八條 豫備役ハ陸軍ニ在リテハ五年四月、海軍ニ在リテハ四年トシ現役ヲ終リタル者ニ服ス

第九條 後備兵役ハ陸軍ニ在リテハ十年、海軍ニ在リテハ五年トシ常備兵役ヲ終リタル者ニ服ス

第十條 第一補充兵役ハ陸軍ニ在リテハ十二年四月、海軍ニ

在リテハ一年トシ現役ニ過スル者ニシテ其ノ年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員ニ服ス

第十一條 第二補充兵役ハ十二年四月トシ現役ニ過スル者ノ中現役又ハ第一補充兵役ニ徵集セラレザル者及海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者ニ服ス但シ海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者ニ在リテハ十一年四月トス

第十二條 第一國民兵役ハ後備兵役ヲ終リタル者及軍隊ニ於テ教育ヲ受ケタル補充兵役ニシテ補充兵役ヲ終リタル者ニ服ス

第十三條 第二國民兵役ハ戶籍法ノ適用ヲ受ケル者ニシテ常備兵役、後備兵役、補充兵役及第一國民兵役ニ在ラザル年齢十七歳七歳以上四十歳迄ノ者ニ服ス

第十四條 年齢二十五歳迄ニ師範學校ヲ卒業シタル者(小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ失ヒタル者ヲ除ク)現役ハ第五條ノ規定ニ拘ラズ五月トシ但シ師範學校ノ教職ヲ修了セザル者ニ在リテハ七月トス

第十五條 前項ノ規定ニ依リ現役ニ服スル者ハ現役中ノ之ヲ短期現役兵ト稱ス

第十六條 短期現役兵其ノ現役ヲ終リタルトキ八直ニ第一國民兵役ニ服ス

第十七條 現役兵ニシテ青年訓練所ノ訓練又ハ之ノ下同等以上ト認ムル訓練ヲ修了シタル者ノ在營期間ハ六月以内ノ之ヲ短縮スルコトヲ得

第十八條 前項ノ規定ニ認定及在營期間短縮ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 現役兵ニシテ前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ在營期間ハ軍事上妨ケナキニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ六十日以内ノ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二十條 現役兵ニシテ一年六月以内ニ於テ教育ヲ修了シ得ル兵種ニ屬スル者ノ在營期間ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ勅令

ノ定ムル所ニ依リ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二十一條 現役兵ニシテ在營中左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ在營期間ハ之ヲ短縮スルコトヲ得

一 品行方正學術勤務ノ成績優秀ナル者

二 定員ニ對シ過剩ト爲リタル者

第二十二條 前四條ノ規定ハ短期現役兵ニ之ヲ適用セズ

第二十三條 第十一條乃至第十四條ノ規定ニ依リ在營期間ヲ短縮スル場合ニ於テハ現役期間内ニ未入營期間又ハ歸休期間ヲ置ク

第二十四條 現役又ハ補充兵役ハ現役兵又ハ補充兵トシテ徵集シタル年十一月一日ヨリ之ヲ起算ス

第二十五條 短期現役兵ノ現役ハ入營ノ月ノ一日ヨリ之ヲ起算ス

第二十六條 戰時又ハ事變ノ際其ノ他必要アル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ起算ノ日ヲ變更スルコトヲ得

第二十七條 第五條乃至第八條、第九條第一項及第十條ニ規定スル服役ハ其ノ期間ニ拘ラズ年齢四十年ヲ以テ限トス

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ服役ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

一 戰時又ハ事變ニ際スルトキ

二 出師ノ準備又ハ守備若ハ警備ノ爲必要アルトキ

三 航海中又ハ外國ニ於テ勤務中ナルトキ

四 重要ナル演習又ハ特別ニ觀兵ノ舉アルトキ

五 天災其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ已ムラ得ザルトキ

第二十九條 前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ次ニ服スベキ兵役ノ期間ニ之ヲ通算ス

第三十條 在營中本人ニ依リ非ザレバ家族(戶主ヲ含ミ本人ト世帯ヲ同シタル者)ニ限リ生活ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ現役ヲ免除ス但シ故意ニ其ノ事故ヲ作爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ







八 第七十六條ニ規定スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者  
前項ニ掲グル者ノ徵集順序ハ第三十三條第一項ノ規定ニ  
依リ抽籤ヲ爲シテ上位トシ同條第四項ノ規定ニ依リ  
徵集セラレベキ者ノ徵集順序ハ前項ニ掲グル者ノ上位トス  
第五十條 第七十四條又ハ第七十六條ニ規定スル罪ヲ犯シ刑  
ニ處セラレタル者ニ對シテハ第四十條乃至第四十二條、第  
四十四條及第四十五條ノ規定ニ依リ延期ヲ爲ス  
第五十一條 戶籍ノ記載ノ抹消又ハ遺漏其ノ他ノ事由ニ因リ  
戶籍ニ記載セラレザル者本籍ヲ有セザル者ニテ徵兵検査ヲ  
受クベキ者ヲ發見シタルトキハ發見ノ年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵  
兵検査ヲ行フ  
徵兵検査ヲ受ケタル者戶籍ニ記載セラレアル出生年月日ノ  
訂正ニ因リ徵兵適齡又ハ徵兵適齡未滿ト爲リタルトキハ左  
ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ除クノ外更ニ徵兵検査ヲ行フ  
一 現役中ノ者又ハ現役ヲ終リタル者  
二 補充兵ニシテ教育ノ爲召集中ノ者又ハ其ノ召集ヲ  
終リタル者  
三 第三十七條ノ規定ニ依リ兵役ヲ免除セラレタル者  
第五十二條 戶籍法ノ適用ヲ受ケタル者ニシテ徵兵適齡ヲ過キ  
戶籍法ノ適用ヲ受ケタル者ノ家ニ入リタル者ニ對シテハ徵集ヲ  
免除ス  
前項ノ規定ハ徵兵適齡ヲ過キ帝國ノ國籍ヲ取得シ又ハ同  
復シタル者ニテ適用ス  
第五十三條 第三十條、第三十六條、第三十九條第三項、  
第四十條第二項若ハ第三項、第四十一條第三項若ハ第  
四項、第四十二條第二項、第四十四條、第四十六條第  
一項又ハ第六十七條ノ規定ニ依リ徵兵検査ヲ受クベキ者  
年齡三十七年ヲ過キタルトキハ徵集ヲ免除ス  
前項ノ規定ハ第十七條第一項又ハ第二項ニ規定スル現役

又ハ補充兵役ノ起算ノ日ニ於ケル年齢トス  
第四章 召集  
第五十四條 歸休兵、豫備兵、後備兵、補充兵又ハ國民兵ハ  
戰時又ハ事變ニ際シ必要ニ應ジテ召集ス  
第五十五條 歸休兵ハ在營兵ノ補闕其ノ他必要アル場合ニ之  
ヲ召集スルコトヲ得  
服役第一年次ノ豫備兵ハ警備其ノ他ノ必要ニ因リ歸休兵  
ヲ召集スルモ尙兵員ヲ要スル場合ニ之ヲ召集スルコトヲ得  
第五十六條 豫備兵及後備兵ハ勤務演習ノ爲豫備役及後備  
兵役ヲ適シ五回以内ニ召集スルコトヲ得  
前項ニ規定スル召集ハ一年一回トシ一回ノ日數ハ陸軍ニ在  
リテハ三十五日以内、海軍ニ在リテハ七十日以内トス  
第五十七條 第一補充兵ハ教育ノ爲百二十日以内ニ召集  
スルコトヲ得  
第五十八條 補充兵ニシテ軍隊ニ於テ教育ヲ受ケタル者ハ勤務  
演習ノ爲之ヲ召集スルコトヲ得  
第五十九條 勤務演習ニ召集セラレタル者召集中犯罪ノ爲又ハ  
正當ノ事由ニテ勤務演習ヲ開キタルトキハ其ノ開キタル日數  
又ハ回數ヲ勤務演習ノ日數又ハ回數ニ算入セズ正當ノ事  
由ナク召集ノ期日ニ後シタルトキ亦同シ  
前項ノ規定ハ教育ノ爲召集セラレタル者ニテ適用ス  
第六十條 歸休兵、豫備兵、後備兵及補充兵ニ對シテハ毎年  
一回歸國點呼ヲ行フコトヲ得  
第六十一條 歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ補充兵ニシテ左  
ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ勤務演習ヲ召集又ハ歸國點  
呼ヲ免除スルコトヲ得  
一 餘人ヲ以テ代テマカサル職ニ在ル官吏又ハ官吏待  
遇者

二 市町村長、助役、收入役其ノ他之ニ準ズベキ職ニ  
在ル者  
三 帝國議會、府縣會、市町村會其ノ他之ニ準ズベキ  
モノノ議員但シ其ノ會期中ニ限ル  
四 帝國外ノ地ニ旅行又ハ在留スル者  
五 帝國外ノ地ニ往復スル帝國船舶ノ船員  
第六十二條 召集セラレタル者疾病其ノ他避クベカラザル事故ニ  
因リ召集ニ應ジ難キトキハ十日以内召集ヲ延期スルコトヲ得  
召集セラレタル者第三十九條第一項各號ノ一ニ該當シ召  
集期日ニ召集ニ應ジ難キトキ又ハ前項ノ規定ニ依リ召集ヲ  
延期セラレタル者其ノ延期期間内ニ召集ニ應ジ難キトキハ召  
集期日又ハ召集年次ヲ變更ス  
前二項ノ規定ハ歸國點呼ニ該當ヲ命セラレタル者ニテ適用  
ス  
召集セラレタル者入營ノ際行フ身體検査ニ於テ疾病其ノ他  
身體又ハ精神ノ異常ニ因リ勤務ニ堪ヘズト認ムル者ナルトキハ  
召集ヲ免除ス  
第六十三條 召集セラレタル者召集ニ因リ家族ノ戸主ヲ含ミ本人  
ト世帯ヲ同シタル者ニ限リ生活ヲ爲スコト能ハサルノ確證  
アル場合ニ於テハ召集ヲ免除ス但シ故意ニ其ノ事故ヲ作爲シ  
タルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第五章 雜則  
第六十四條 第一補充兵ニシテ第四十八條ノ規定ニ依リ現役  
兵ノ補闕ニ充テラレ現役ニ服スルニ至リタル者ノ既ニ服シタル  
第一補充兵役ノ期間ハ之ヲ現役ノ期間ニ通算ス  
第六十五條 第四十六條ノ規定ニ依リ後シテ入營シタル者又ハ  
第四十八條第一項ノ規定ニ依リ補闕トシテ後シテ入營シタル  
者ト雖モ其ノ在營期間ノ計算ニ關シテハ後シテ入營シタル  
モノト看做ス但シ犯罪ノ爲又ハ正當ノ事由ナク後シテ入營

シタル者ハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ規定ハ第六十二條第一項ノ規定ニ依リ召集ヲ延期  
セラレタル者ニシテ其ノ延期期間内ニ召集ニ應ジタル者ニテ  
適用ス  
第六十六條 志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニシテ兵籍ヨリ  
除カルニ至リタル者勅令ノ定ムル期間服役セザル者ナルトキハ  
更ニ徵兵検査ヲ行フ  
前項ノ規定ニ依リ徵兵検査ヲ受ケタル者現役兵トシテ徵集  
セラレタル場合ニ於ケル現役期間ノ計算ハ勅令ノ定ムル所ニ  
依ル  
第六十七條 短期現役兵トシテ現役ヲ終リタル者年齡二十八  
年迄ノ間ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ更ニ徵兵検査  
ヲ行フ此ノ場合ニ於テ現役兵トシテ徵集セラレタルトキハ前  
項ノ規定ニ依リ徵兵検査ヲ受ケタル者現役兵トシテ徵集  
セラレタル場合ニ於ケル現役期間ノ計算ハ勅令ノ定ムル所ニ  
依ル  
第六十八條 志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニシテ兵籍ヨリ  
除カルニ至リタル者勅令ノ定ムル期間服役セザル者ナルトキハ  
更ニ徵兵検査ヲ行フ  
前項ノ規定ニ依リ徵兵検査ヲ受ケタル者現役兵トシテ徵集  
セラレタル場合ニ於ケル現役期間ノ計算ハ勅令ノ定ムル所ニ  
依ル  
第六十九條 短期現役兵トシテ現役ヲ終リタル者年齡二十八  
年迄ノ間ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ更ニ徵兵検査  
ヲ行フ此ノ場合ニ於テ現役兵トシテ徵集セラレタルトキハ前  
項ノ規定ニ依リ徵兵検査ヲ受ケタル者現役兵トシテ徵集  
セラレタル場合ニ於ケル現役期間ノ計算ハ勅令ノ定ムル所ニ  
依ル  
第七十條 本法中本人ヨリ願出ラ爲スベキ場合ニ於テ本人事  
故アルトキハ戸主之ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 本法中戸主ニ關スル規定ハ戸主未成年者又ハ禁  
治產者ナルトキハ戸主ノ法定代理人ニ、戸主若ハ戸主ノ法  
定代理人未タ決定セザルトキ又ハ避クベカラザル事故アルトキハ  
家族中家事ヲ擔當スル者ニテ適用ス  
第七十二條 本法中市長ニ關スル規定(第六十一條ノ規定ヲ  
除ク)ハ區長ヲ以テ戶籍ニ關スル事務ヲ管掌スル者ト爲シタル  
市ニ在リテハ區長ニテ適用ス  
本法中町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ進ズベキ者ニテ適用  
ス  
第七十三條 本法ニ規定スル學校中ニハ帝國外ノ地ニ在リテ帝  
國臣民ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ指  
定シタルモノヲ包含ス  
第六章 罰則  
第七十四條 兵役ヲ免ルル爲逃亡シ若ハ潛匿シ又ハ身體ヲ毀傷  
シ若ハ疾病ヲ作爲シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年  
以下ノ懲役ニ處ス  
第七十五條 現役兵トシテ入營スベキ者正當ノ事由ナク入營ノ  
期日ニ後シテ十日ヲ過キタルトキハ六月以下ノ禁錮ニ處シ戰時  
ニ在リテ五日ヲ過キタルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス  
前項ノ規定ハ志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレ服役スル者ニテ  
適用ス  
第七十六條 正當ノ事由ナク徵兵検査ヲ受ケタル者ハ百圓以下  
ノ罰金ニ處ス  
第七十七條 第二十四條ノ規定ニ依リ届出ラ爲ザル者ハ五十  
圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
第七十八條 前四條ノ規定ハ何人ヲ間ハズ帝國外ニ於テ其ノ罪  
ヲ犯シタル者ニテ適用ス

本法ハ昭和二年十二月一日ヨリ施行ス  
本法施行ノ際現ニ豫備役ニ在ル者ノ服役期間ハ尙尙前ノ規  
定ニ依リ此ノ場合ニ於テハ第五十五條第二項ノ規定ヲ適用  
セズ  
本法施行ノ際現ニ補充兵役ニ在ル者ハ第一補充兵役ニ服ス  
ルモノトス  
本法施行ノ際現ニ徵兵令第二十三條ノ規定ニ依リ入營シタル  
者ニ付テハ尙尙前ノ例ニ依リ其ノ徵集セラレタル場合  
ニ於ケル徵集順序ニ關シテハ第四十九條ノ例ニ依リ  
刑法施行法第二十六條第二號ヲ左ノ如ク改ム  
二 削除



●軍機保護法

(明治三十二年七月十五日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍機保護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍機保護法

第一條 軍機ニ關スル事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收獲シタル者ハ「重懲役」ニ處シ其ノ情輕キ者ハ一等ヲ減ス

第二條 職務ニ因リ軍機ニ關スル事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其ノ秘密タルコトヲ知テ之ヲ他人ニ漏洩交付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ「有期徒刑」ニ處ス

第三條 偶然ノ原因ニ因リ軍機ニ關スル事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其ノ秘密タルコトヲ知テ之ヲ他人ニ傳説交付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ「輕懲役」ニ處ス

第四條 許可ヲ得シテ軍機ニ關スル事項又ハ圖書物件タル者其ノ他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ヲ測量模寫攝影シ又ハ其ノ狀況ヲ採取シタル者ハ一月以上三年以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ二圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 因テ第一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重キニ從テ處斷ス

第六條 許可ヲ得ヌ又ハ詐偽ノ所爲ニ因リ許可ヲ得テ堡壘砲臺水雷衛所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物内ニ入りタル者亦前條ノ例ニ同シ

第七條 本法ニ規定シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケザル者ハ「未遂犯罪」ノ例ニ照シテ處斷ス

第八條 第二條ノ罪ヲ犯サントシテ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ同條ノ刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第九條 本法ノ罪ヲ犯シ因テ財物ヲ得タル者ハ其ノ財物ヲ沒收ス

シ既ニ裁消シタルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第八條 本法ハ刑法第二編第二章第二節「外患ニ關スル罪」陸軍刑法第二編第一章反亂ノ罪海軍刑法第二編第一章反亂ノ罪ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

●防禦海面令

(明治三十七年一月二十三日)

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ防禦海面令ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

防禦海面令

第一條 海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ區域ヲ限リテ本令ニ依リ防禦海面ヲ指定スルコトヲ得其ノ指定及之ヲ解除ハ海軍大臣之ヲ告示ス

第二條 緊急ノ必要アルトキハ鎮守府司令長官、要港部司令官ニ於テ前條ノ指定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ指定及之ヲ解除ハ鎮守府司令長官、要港部司令官之ヲ告示ス

第三條 防禦海面ニ於テハ日没ヨリ日出迄陸海軍ニ屬スルモノヲ除ク外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第四條 防禦海面ニ屬スル軍港及要港ノ区域内ニ於テハ陸海軍ニ屬スルモノヲ除ク外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第五條 防禦海面ヲ出入若ハ通航シ又ハ之ニ碇泊スル船舶ハ其ノ一切ノ行動ニ付所管鎮守府司令長官、要港部司令官ノ指示ニ遵フヘシ

第六條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ必要ト認ムルトキハ防禦海面ニ於ケル漁獵、採藻其ノ他軍事上障害トナルモノヲ行爲ヲ禁止シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ適當ト認メタル船舶ニ對シテ本令ノ禁止又ハ制限ノ全部又ハ一部ヲ解除スコトヲ得

第八條 本令又ハ本令ニ基キ發スル命令ニ違背シタル船舶ニ對シテハ航路ヲ指定シテ防禦海面外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ違ハサルモノニ對シテハ必要ニ應ジ兵力ヲ用ウルコトヲ得

第九條 第三條乃至第五條ノ規定ニ違背シタルトキハ船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執レル者ヲ一年以下ノ「重禁錮」又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第六條ノ禁止又ハ制限ニ違背シタル者ハ六月以下ノ「重禁錮」又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



●要塞地帯法

(明治三十二年七月十五日) 法律 第五十五號

改正、大四一法一七

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テル要塞地帯法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 要塞地帯ハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ
第二條 要塞地帯ノ範圍ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以内ニ於テ之ヲ定ム
第三條 要塞地帯ハ陸地ト海面トヲ開ハス之ヲ三區ニ分テ各區ノ範圍ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣ノ之ヲ定メ之ヲ告示ス

第二章 禁止及制限

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帯内ノ水陸ノ形狀ヲ測量、攝影、模寫、録取シ又ハ要塞地帯内ヲ航空スルコトヲ得ス
第八條 要塞司令官ハ要塞地帯内ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルキハ之ヲ要塞地帯外ニ退去セシムルコトヲ得
第九條 要塞地帯ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獵、採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 附則

第十二條 第一區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノノ左ノ如シ
一 埋葬地
二 水車及風車
三 井
四 容易ニ他ニ移動スヘカラサル機器器具ヲ備フル家屋
五 生垣及木造ノ圍牆
六 第十條第一號ニ於テ禁セサル家屋及倉庫
第十三條 第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノノ左ノ如シ
一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫
二 埋葬地
三 不燃質物ヲ以テ築造セル高さ三尺ヲ超ユル諸般ノ築造物
第十四條 第一區第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ屋内外ト開ハス累積スルコトヲ得サルモノノ左ノ如シ
一 第一區内ニ於テハ高さ五尺、第二區内ニ於テハ高さ八尺以上ノ累積スル不燃質物及石炭類
二 第一區内ニ於テハ高さ一丈三尺、第二區内ニ於テハ高さ一丈七尺以上ノ累積スル薪炭及竹木材
第十五條 第一區第二區内ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ家屋倉庫及諸般ノ築造物ヲ改築増築スルコトヲ得ス
第十六條 各區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノノ左ノ如シ
一 地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル土工即チ堆土、開鑿等
二 溝渠、鹽田、排水及灌漑

要塞地帯法 禁止及制限 罰則

三 公園、育樹場、竹木林、菓園及養茶畑
四 耕作地
第十六條 各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノノ左ノ如シ
堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久橋樑
第十七條 本章ノ禁止制限ニ違背シ新設改築増築變更シタル家屋倉庫其ノ他ノ築造物又ハ累積物等ハ違背者ヲシテ期限ヲ定メテ之ヲ除去セシメ地形ノ變更ニ係ルハ之ヲ復舊セシメ期限内ニ除去復舊セザルキハ其ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ方法宜シキヲ得サルキハ官廳ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得
第十八條 前項義務者ニ於テ負擔スヘキ費用ハ國稅ノ附屬處分ニ關スル規定ニ依リテ之ヲ徴收スルコトヲ得但シ政府ハ國稅ニ次キ先取權ヲ有ス
第十九條 本條ノ處分ハ第十六條ノ違背者ニ就テハ陸軍大臣ノ之ヲ爲シ其ノ他ノ違背者ニ就テハ要塞司令官ノ之ヲ爲ス

第二十條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域内ニ限リ特ニ本章禁止制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルキ亦同シ
第二十一條 本章ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ニシテ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合若ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地力海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ陸軍大臣ノ之ヲ爲ス
第二十二條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域内ニ限リ特ニ本章禁止制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルキ亦同シ
第二十三條 第七條及第九條ノ禁ラレタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ十日以上ノ拘留又ハ五十圓以下ノ罰金若ハ二圓以上ノ科料ニ處ス第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命ゼラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ(大正四年法律第十七號ヲ以テ本條ヲ改正)
第二十四條 第七條及第九條ノ禁ラレタル者ハ未遂罪ノ例ニ照シテ處断ス(同上本條ヲ改正)
第二十五條 第十條乃至第十三條第十五條及第十六條ニ違犯シタル者ハ四十圓以下ノ罰金又ハ二圓以上ノ科料ニ處ス(同上本條ヲ改正)
第二十六條 第十四條ニ違犯シタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス(同上本條ヲ改正)
第二十七條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲ニ設ケタル標石、標木、標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ二月以下ノ懲役若ハ十日以上ノ拘留ニ處シ又ハ五十圓以下ノ罰金若ハ五圓以上ノ科料ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス(同上本條ヲ改正)

第四章 雜則

第二十七條 要塞地帯創設告示ノ當時家屋倉庫築造物等ノ新設、變更、改築、増築ニ係ルモノハ此ノ法律ノ禁止制限ヲ適用セス
第二十八條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル標石、標木若ハ標札ノ類ヲ建設スル爲ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關シテハ明治二十三年法律第二十三號陸地測量條例ノ規定ヲ適用ス
第二十九條 此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
附則
第三十條 此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨グルコトナシ
第三十一條 明治三十一年勅令第七十六號ハ此ノ法律ニ依リ第三條又ハ第六條ノ告示ヲ爲シタル箇所ニ限リ其ノ效力ヲ失フ



●戒嚴令

(明治十五年八月五日)  
本政官布告第三十六號

改正、明一九一〇勅七四

戒嚴令別冊ノ通制定ス  
右奉 勅旨布告候事  
(別冊)

戒嚴令

第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ管轄スルノ法トス

第二條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ應戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第四條 戒嚴令ハ戰時ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第五條 戰時ニ際シ「鎮臺營所」要塞海軍港鎮守府海軍造船所等邊カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルヲ得又戰時上應戰ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官ノヲ宣告スルヲ得

第六條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルヲ得

第七條 軍團長師團長旅團長「鎮臺營所」要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權

第八條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ管轄スルノ法トス

第九條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ應戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第十條 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第十一條 戒嚴令ハ戰時ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第十二條 戰時ニ際シ「鎮臺營所」要塞海軍港鎮守府海軍造船所等邊カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルヲ得又戰時上應戰ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官ノヲ宣告スルヲ得

第十三條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルヲ得

第十四條 軍團長師團長旅團長「鎮臺營所」要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權

第十五條 戒嚴令別冊ノ通制定ス  
右奉 勅旨布告候事  
(別冊)

第十六條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ管轄スルノ法トス

第十七條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ應戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第十八條 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第十九條 戒嚴令ハ戰時ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第二十條 戰時ニ際シ「鎮臺營所」要塞海軍港鎮守府海軍造船所等邊カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルヲ得又戰時上應戰ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官ノヲ宣告スルヲ得

第二十一條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルヲ得

第二十二條 軍團長師團長旅團長「鎮臺營所」要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權

第二十三條 戒嚴令別冊ノ通制定ス  
右奉 勅旨布告候事  
(別冊)

第二十四條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ管轄スルノ法トス

第二十五條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ應戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第二十六條 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第二十七條 戒嚴令ハ戰時ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第二十八條 戰時ニ際シ「鎮臺營所」要塞海軍港鎮守府海軍造船所等邊カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルヲ得又戰時上應戰ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官ノヲ宣告スルヲ得

第二十九條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルヲ得

第三十條 軍團長師團長旅團長「鎮臺營所」要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權

第三十一條 戒嚴令別冊ノ通制定ス  
右奉 勅旨布告候事  
(別冊)

第三十二條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ管轄スルノ法トス

第三十三條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ應戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第三十四條 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第三十五條 戒嚴令ハ戰時ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第三十六條 戰時ニ際シ「鎮臺營所」要塞海軍港鎮守府海軍造船所等邊カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルヲ得又戰時上應戰ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官ノヲ宣告スルヲ得

第三十七條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルヲ得

アル司令官トス(明治十九年勅令第七十四號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直ニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ「本政官」ニ上申ス可シ

但シ其職權ノ所ノ長官ハ別ニ之ヲ具申ス可シ

第八條 戒嚴ノ宣告ハ量シテ之ヲ所ノ應戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルヲ得

第九條 應戰地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十條 合圍地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官、地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十一條 合圍地境內ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍刑ニ於テ裁判ス

刑法

第二章

第一節 謀殺故殺ノ罪

第一條 謀殺故殺ノ罪

第二條 毆打創傷ノ罪

第三條 擄奪ノ罪

第四條 擄奪ノ罪

第五條 擄奪ノ罪

第六條 擄奪ノ罪

第七條 擄奪ノ罪

第八條 擄奪ノ罪

第九條 擄奪ノ罪

第十條 擄奪ノ罪

第十一條 擄奪ノ罪

第十二條 擄奪ノ罪

第十三條 擄奪ノ罪

第十四條 擄奪ノ罪

第十五條 擄奪ノ罪

第十六條 擄奪ノ罪

第十七條 擄奪ノ罪

第十八條 擄奪ノ罪

第十九條 擄奪ノ罪

第二十條 擄奪ノ罪

第二十一條 擄奪ノ罪

第二十二條 擄奪ノ罪

第二十三條 擄奪ノ罪

第二十四條 擄奪ノ罪

第二十五條 擄奪ノ罪

第二十六條 擄奪ノ罪

第二十七條 擄奪ノ罪

第二十八條 擄奪ノ罪

第二十九條 擄奪ノ罪

第三十條 擄奪ノ罪

第三十一條 擄奪ノ罪

第三十二條 擄奪ノ罪

クルノ日迄ハ其效力ヲ有スル者トス  
第十六條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ管轄スルノ法トス

●戒嚴令  
本政官布告第三十六號



徵集ノ期ニ後レタル陸海軍現役兵決定者處罰ノ件

●徵集ノ期ニ後レタル陸海軍現役兵決定者處罰ノ件

(明治四十一年七月二十九日勅令第百八十六號)

朕極密顧問ノ諮詢ヲ經テ徵集ノ期ニ後レタル陸海軍現役兵決定者處罰ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
陸海軍ノ現役兵ニ決定シタル者正當ノ事由ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過キタルトキハ六月以下ノ禁錮ニ處シ戰時ニ在リテ五日ヲ過キタルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス  
前項ノ規定ハ志願ニ依リ陸海軍ノ現役ニ服スル者ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス



刑事訴訟法



●刑事訴訟法目次

●刑事訴訟法(大一一法七五)改正、大一一法七二

第一編 總則

第一章 裁判所ノ管轄……………一

第二章 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避……………二

第三章 訴訟能力……………三

第四章 辯護及輔佐……………三

第五章 裁判……………三

第六章 書類……………三

第七章 送達……………三

第八章 期間……………三

第九章 被告人ノ召喚、勾引及勾留……………三

第十章 被告人訊問……………三

第十一章 押收及搜索……………三

第十二章 檢體……………三

第十三章 證人訊問……………三

第十四章 鑑定……………三

第十五章 通譯……………三

第十六章 訴訟費用……………三

第二編 第一審

第一章 捜査……………三

第二章 公訴……………三

第三章 豫審……………三

第四章 公判……………三

第一節 公判準備……………三

第二節 公判手續……………三

第三節 公判ノ裁判……………三

刑事訴訟法目次

第三編 上訴

第一章 通則……………二〇

第二章 控訴……………二〇

第三章 上告……………二一

第四章 抗告……………二二

第五章 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續……………二二

第六章 再審……………二二

第七章 非常上告……………二二

第八章 略式手續……………二二

第九章 裁判ノ執行……………二二

第一編 私訴……………二二

第一章 通則……………二二

第二章 第一審……………二二

第三章 上訴……………二二

附則……………二二

○刑事訴訟費用法(大一一法六八)……………二二

○證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ旅費日當止宿料給與ノ件(大一一三司令一)……………二二

○司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件(大一一勅五二八)……………二二

○司法警察職務規範(大一一司判訓)……………二二

第一章 總則……………二二

第二章 捜査機關……………二二

第三章 捜査ノ總結

第四章 捜査ノ實行……………三五

第一節 通則……………三七

第二節 通常捜査……………三七

第三節 強制捜査……………三八

第五章 令狀ノ執行……………三九

第六章 捜査事件ノ處理……………三九

第七章 少年ニ關スル特別……………四〇

第八章 外國人ニ關スル特別……………四〇

○外國艦船乗組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法(明三三法六八)……………四二

○逃亡犯罪人引渡條例(明二〇勅四二)……………四二

○刑事交渉法(大一一法九二)……………四五

●遺棄罪即決例(明一八一布告三一)……………四七

●陪審法(大一一法五〇)

第一章 總則……………四八

第二章 陪審員及陪審ノ構成……………四八

第三章 陪審手續……………四八

第一節 公判準備……………四八

第二節 公判手續及公判ノ裁判……………五一

第三節 上訴……………五一

第四章 陪審費用……………五一

第五章 罰則……………五一

第六章 補則……………五一

附則……………五一

○陪審法中一部施行期日ノ件(昭二一勅一四四)……………五三



○陪審法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件(昭二一勅一四五).....	五四
○陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件(昭二一勅一四六).....	五五
○陪審法施行規則(昭二一司令一六).....	五五
●少年法(大一一法四二)	
第一章 通則.....	五七
第二章 保護處分.....	五七
第三章 刑事處分.....	五七
第四章 少年審判所ノ組織.....	五七
第五章 少年審判所ノ手續.....	五八
第六章 裁判所ノ刑事手續.....	五九
第七章 罰則.....	六〇
附則.....	六〇
○少年審判所設置(大一一勅四八八).....	六〇
○假出獄少年取締規則(大一一司令三三).....	六一
●矯正院法(大一一法四三).....	六二
○矯正院處遇規程(大一一司令三四).....	六二
第一章 收容.....	六二
第二章 教導.....	六二
第三章 賞罰.....	六三
第四章 給養.....	六三
第五章 衛生及診療.....	六三
第六章 面會及通信.....	六三
第七章 領置.....	六三
第八章 退院及假退院.....	六三
第九章 逃走及死亡.....	六三
附則.....	六四
●感化法(明三三法三七)改正、明四一法四三、大一一法四四.....	六五
○感化法施行規則(明三四一内令二三)改正、大一一内令二八、昭二一内令二五.....	六六
●監獄法(明四一一法二八).....	六七
第一章 總則.....	六七
第二章 收監.....	六七
第三章 拘禁.....	六七
第四章 戒護.....	六七
第五章 作業.....	六七
第六章 教導及ヒ教育.....	六七
第七章 衛生及ヒ診療.....	六八
第八章 接見及ヒ信書.....	六八
第九章 領置.....	六八
第十章 賞罰.....	六九
第十一章 釋放.....	六九
第十二章 死亡.....	六九
第十三章 附則.....	七〇
○監獄法施行規則(明四一一司令一八)改正、大一一司令一九、大一一司令一、司令一三、司令二四、大一一三司令四.....	七〇
第一章 總則.....	七〇
第二章 收監.....	七〇
第三章 拘禁.....	七〇
第四章 戒護.....	七〇
第五章 作業.....	七〇
第六章 教導及ヒ教育.....	七〇
第七章 衛生及ヒ診療.....	七〇
第八章 接見及ヒ信書.....	七〇
第九章 領置.....	七〇
第十章 賞罰.....	七〇
第十一章 釋放.....	七〇
第十二章 死亡.....	七〇
第十三章 附則.....	七〇
○監獄法施行規則ニ依ル病院及學校指定(大一一司令二五)改正、昭一司令一五.....	七八
○監獄官吏ヲシテ銃ヲ携帯セシムルノ件(明四一一勅二八九)改正、大一一勅三一六.....	七八
○刑務所拘禁ノ種類(大一一司令四二).....	七八
○作業章程(大一一司令七).....	七九
○就業者ノ作業ニ因ル死傷疾病ニ對スル手當金給與規程(大一一司令六).....	八〇
○假出獄取締規則(明四一一司令二五).....	八一

○假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續(明四一一司令七)改正、明四三司令四、大一一司令五.....	八二
○囚人及刑事被告人押送規則(明三〇一勅四一五).....	八三
○囚人及刑事被告人押送細則(明三〇一内令三七)改正、昭二一内令一.....	八四
▲恩赦令.....(憲法).....	一六〇
△恩赦令施行規則.....(憲法).....	一六一



●刑事訴訟法

(大正十一年五月五日) 法律第七十五號

改正、大正一五法七二

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ刑事訴訟法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟法

第一編 總則

第一章 裁判所ノ管轄

第一條 裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現在地ニ依ル

第二條 裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現在地ニ依ル

第三條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件上級裁判所ノ裁判ニ屬スル場合ニ於テ併テ審判スルコトヲ必要トセザルモノアルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第四條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件各別ニ上級裁判所及下級裁判所ノ裁判ニ屬スルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併テ審判スルコトヲ得

第五條 土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル裁判所併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得

刑事訴訟法

總則

裁判所ノ管轄

第六條 土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ裁判ニ屬スル場合ニ於テ併テ審判スルコトヲ必要トセザルモノアルトキハ其ノ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第七條 事物管轄ヲ同シスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ裁判ニ屬スルトキハ各裁判所ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

第八條 事物管轄ヲ同シスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ豫審ニ屬スルトキハ亦前項ニ同シ

第九條 事物管轄ヲ同シスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ事件ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

第十條 數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

一 一人數罪ヲ犯シタルトキ

二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ

三 數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

四 數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人被服ノ罪、證據運送ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第十一條 同一事件事物管轄ヲ異ニスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

第十二條 上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ヲ併テ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十三條 同一事件事物管轄ヲ同シスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲ併テ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十四條 裁判所ハ事實發見ノ爲ニ必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フコトヲ得

第十五條 前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十六條 訴訟手續ハ管轄權ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

第十七條 裁判所ハ管轄權ヲ有セザルトキト雖急遽ヲ要スル場合ニ於テハ事實發見ノ爲ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條 前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十九條 檢事ハ左ノ場合ニ於テ關係アル第一審裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

一 裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所ノ指定スルコトキ

二 管轄權ヲ言渡シタル確定裁判アリタル事件ニ付他ニ管轄裁判所ナキトキ

第十五條 法律ニ依ル管轄裁判所ナキトキ又ハ之ヲ知ルコト能ハサルトキハ檢事總長ハ大審院ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

第十六條 檢事ハ左ノ場合ニ於テ直近上級裁判所ニ管轄權ヲ請求スヘシ

一 管轄裁判所又ハ裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リ定メタル裁判所ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ

二 被告人ノ地位、地方ノ民心、訴訟ノ狀況其ノ他ノ事情ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル虞アルトキ

第十七條 前項第二號ノ場合ニ於テハ被告人亦管轄權ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 犯罪ノ性質、被告人ノ地位、地方ノ民心其ノ他ノ事情ニ因リ管轄裁判所ニ於テ審判ヲ爲スヘキハ公安ヲ害スル



感アリト認ムル場合ニ於テハ檢事總長ハ大審院ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

第十八條 管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シテ檢事前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

第十九條 檢事豫審又ハ公判ニ要スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第二十條 檢事豫審又ハ公判ニ要スル事件ニ付第十六條第一項第二號ニ規定スル事由ノ爲管轄移轉ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ速ニ請求書ヲ附本ヲ被告人ニ交付スヘシ被告人ハ附本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ管轄裁判所ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十一條 被告人管轄移轉ノ請求書ヲ差出スニハ事件ノ繁屬スル裁判所ヲ經由スヘシ

前項ノ裁判所請求書ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

檢事ハ請求書ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第二十二條 豫審又ハ公判ニ要スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタルトキハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第二章 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

一 判事被害者ナルトキ

二 判事私訴當事者ナルトキ

三 判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ配偶者、四親等内ノ血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナルトキ親族關係ノ止ミタル後亦同シ

四 判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

五 判事事件ニ付被告人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

六 判事事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ

七 判事事件ニ付檢事又ハ司法警察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ

八 判事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルトキ但シ受託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 判事職務ヲ執行ヨリ除斥セラルヘキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス感アルトキハ檢事、被告人又ハ私訴當事者ノ之ヲ忌避スルコトヲ得

第二十五條 判事職務ヲ執行ヨリ除斥セラルヘキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス感アルトキ又ハ陳述ヲ爲シタル後偏頗ノ裁判ヲ爲ス感アルトキ又ハ陳述ヲ爲シタル後偏頗ノ裁判ヲ爲ス感アルトキ又ハ陳述ヲ爲シタル後偏頗ノ裁判ヲ爲ス感アルトキ又ハ陳述ヲ爲シタル後偏頗ノ裁判ヲ爲ス感アルトキ

第二十六條 事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後偏頗ノ裁判ヲ爲ス感アルトキ又ハ陳述ヲ爲シタル後偏頗ノ裁判ヲ爲ス感アルトキ又ハ陳述ヲ爲シタル後偏頗ノ裁判ヲ爲ス感アルトキ又ハ陳述ヲ爲シタル後偏頗ノ裁判ヲ爲ス感アルトキ

第二十七條 合議裁判所ノ判事ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲シ豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ニ對スル忌避ノ申立ハ區裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

忌避ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ示スヘシ

忌避ノ理由及前條但書ノ事實ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日内ニ書面ヲ以テ之ヲ証明スヘシ

忌避セラレタル判事ハ第二十八條第四項但書及第二十九條ノ場合ヲ除ク外忌避ノ申立ニ對シ意見書ヲ差出スヘシ

第二十八條 合議裁判所ノ判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所決定ヲ爲スヘシ

忌避セラレタル判事ハ前項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ス

第一項ノ裁判所忌避セラレタル判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直上級裁判所決定ヲ爲スヘシ

豫審判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所、區裁判所判事忌避セラレタルトキハ管轄地方裁判所決定ヲ爲スヘシ但シ忌避セラレタル判事忌避ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ其ノ決定アリタルモノト看做ス

第二十九條 訴訟ヲ遲延セシムル目的ノモリヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用セズ第二十六條又ハ第二十七條第二項第三項ノ規定ニ違反シテ爲シタル忌避ノ申立ヲ却下スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ忌避セラレタル豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ハ忌避ノ申立ヲ却下スル裁判ヲ爲スコトヲ得

第三十條 忌避ノ申立アリタルトキハ前條ノ場合ヲ除ク外訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 忌避ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 忌避ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ第二十四條各號ノ一ニ該當スル者アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十七條第四項及第二十八條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 判事忌避セラルヘキ理由アリト思料スルトキハ回避スヘシ

回避ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ規定ハ回避ニ付之ヲ準用ス

第三十四條 前二條ノ決定ハ第二十四條第八號ノ規定ヲ除ク外裁判所書記ニ之ヲ準用ス

第三十五條 本章ノ規定ハ第二十四條第八號ノ規定ヲ除ク外豫審判事又ハ受命判事ニ附屬スル裁判所書記ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スヘシ

決定ハ裁判所書記所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲スヘシ但シ第二十九條第二項ノ裁判ハ裁判所書記ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スコトヲ得

第三章 訴訟能力

第三十六條 被告人法人ナルトキハ其ノ代表者訴訟行為ニ付之ヲ代表ス

數人共同シテ法人ヲ代表スル場合ト雖訴訟行為ニ付テハ各自之ヲ代表ス

第三十七條 刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用キサル罪ニ該ル事件ニ付被告人意思能力ヲ有セザルトキハ其ノ法定代理人訴訟行為ニ付之ヲ代表ス

第三十八條 前二條ノ規定ニ依リ被告人ヲ代表スル者ナキトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ特別代理人ヲ選任スヘシ特別代理人ハ被告人ヲ代表シテ訴訟行為ヲ爲ス者ナルニ至ル迄其ノ任務ヲ行フ

第四章 辯護及輔佐

第三十九條 被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及配偶者並被被告人ノ親屬ハ其ノ選任ヲ得

第四十條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及夫並被告人ノ親屬ハ其ノ選任ヲ得

第四十二條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第四十九條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第五十條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第五十二條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第五十三條 辯護人ハ別段ノ規定ル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得

第五章 裁判

第四十八條 判決ハ口頭辯論ニ基キ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

決定ハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ之ヲ爲スヘシハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得

決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四十九條 裁判ニハ理由ヲ附スヘシ

上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セザルコトヲ得

第五十條 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ附本ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 裁判ノ宣告ハ裁判長ノ之ヲ爲スヘシ

判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ヲ要旨ヲ告グヘシ

第五十二條 檢事ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ附本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 被告人其ノ他訴訟關係人ハ其ノ費用ヲ以テ裁判















保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シテ目録ニ捺印シテ本及ハ抄本ヲ交付スヘシ

第六十四條 押收物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第六十五條 沒收スルコトヲ附ヘキ押收物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ賣却シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第六十六條 押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待テ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

第六十七條 押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得

第六十八條 押收シタル贓物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルトキニ限リ被告事件ノ終結ヲ待テ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

第六十九條 前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第七十條 押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第七十一條 豫審判事ハ押收及搜索ニ關シ裁判所同一ノ權ヲ有ス

第七十二條 檢事ハ第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第七十三條 司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官押收ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ押收物ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ第六十四條第二項又ハ第三項ノ處置ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

第七十一條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニモ其ノ場所ニ入り犯人ヲ逮捕スル爲搜索ヲ爲スルコトヲ得

第七十二條 司法警察官又ハ司法警察官吏現行犯人ヲ逮捕スル爲追行シタル場合ニ於テ犯人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ進入リタルトキ亦同シ

第七十三條 司法警察官又ハ司法警察官吏執行スル場合ニ於テ必要アルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ入り搜索ヲ爲スルコトヲ得

第七十四條 第四百四十四條乃至第四百四十九條、第五百三十三條、第五百五十五條乃至第五百五十七條及第六十一條乃至第六十七條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外檢事又ハ司法警察官ノ爲ス押收又ハ搜索ニ付テ之ヲ適用ス

第七十五條 第四百四十六條、第四百四十七條、第四百五十五條乃至第五百五十七條及第六十一條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外司法警察官ノ爲ス押收又ハ搜索ニ付テ之ヲ適用ス

第七十六條 第四百四十七條、第四百五十五條乃至第五百五十七條ノ規定ニ依リ發シタル勾引狀ヲ執行スル爲前條ノ規定ヲ爲ス場合ニ於テハ第五百五十七條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

第十二章 檢證

第七十五條 裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲ス

第七十六條 檢證ニ付テハ身體ノ検査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘、物ノ鑑定其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 被告人ニ非サル者ノ身體ノ検査ハ一定ノ證據ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 婦女ノ身體ヲ検査スル場合ニ於テハ醫師又ハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第七十九條 死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テハ禮儀ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知スヘシ

第八十條 日出前、日没後ハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ズ但シ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十一條 日没前檢證ニ著シタルトキハ日没後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第八十二條 第五百五十六條ニ規定スル場所ニ付テハ第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第八十三條 第四百四十七條、第四百五十四條、第五百五十七條乃至第六十二條及第六十八條ノ規定ハ檢證ニ付テ之ヲ適用ス

第八十四條 豫審判事ハ檢證ニ關シ裁判所同一ノ權ヲ有ス

第八十五條 檢事ハ第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第八十一條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニモ其ノ場所ニ入り檢證ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルトキハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事視察ヲ爲スヘシ

第八十三條 前項ノ處分ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

第八十四條 檢事ハ司法警察官ヲシテ前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十五條 第四百四十七條、第四百五十七條、第六十一條、第六十二條、第六十七條及第七十七條ノ規定ハ檢事又ハ司法警察官ノ爲ス檢證ニ付テ之ヲ適用ス

第十三章 證人訊問

第八十四條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第八十五條 公務員又ハ公務員タリシ者ノ知得タル事實ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官ノ承諾アルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ズ但シ當該監督官ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除ク外承諾ヲ拒ムコトヲ得

第八十六條 國務大臣、宮内大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ訊問スルコトヲ得ズ

第八十七條 證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第八十八條 左ニ掲グル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一 被告人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者

二 被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人

三 被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アル者ト雖他ノ共同被告人ノニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第八十九條 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種師、產婆、辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗教若ハ補記ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ秘密ニ關スルモノニ付證言ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十條 證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第八十八條第一項ニ規定スル關係アル者刑事訴訟ヲ受ケタル處アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第九十一條 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ起訴セラレ未タ確定判決ヲ經サルトキ亦前項ニ同シ

第九十二條 證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ説明スヘシ但シ前條ノ場合ニ於テハ其ノ事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ説明ニ代フルコトヲ得

第九十三條 證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ説明スルコト能ハサルトキ又ハ宣誓ヲ爲サルトキハ決定ヲ以テ其ノ申立ヲ却下スヘシ

第九十四條 召喚ノ受ケタル證人正當ノ事由ヲ示シテ出頭セザルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處シ且出頭セザルニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九十五條 召喚ニ應ゼザル證人ニ對シテハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第九十二條 第八十四條及第九十九條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ付テ之ヲ適用ス

第九十三條 第八十八條、第九十條乃至第九十五條及第九十九條ノ規定ハ證人ノ勾引ニ付テ之ヲ適用ス

第九十四條 證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ其ノ氏名及住居、被告人ノ氏名並被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

第九十五條 召喚狀ニハ出頭スヘキ年月日時及場所並出頭セザルトキハ過料ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

第九十六條 召喚狀ヲ送達シ出頭トノ間ニハ少クモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第九十八條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第九十八條 第四百四十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告グヘシ

第九十九條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一百條 宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百零一條 宣誓ハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ但シ訊問後宣誓ヲ爲ス場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

第一百零二條 裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

第一百零三條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽證ノ罰ヲ告グヘシ



第二百一十條 證人ノ宣誓ハ各別ニ之ヲ爲サシムヘシ  
 第二百一十一條 證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシム  
 ステ之ヲ訊問スヘシ  
 一 十六歳未満ノ者  
 二 宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者  
 三 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル  
 者又ハ其ノ嫌疑アル者  
 四 第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ  
 證言ヲ拒マサル者  
 五 第八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者  
 六 被告人ノ雇人又ハ同居人  
 前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人隠匿ノ罪、證據運  
 減ノ罪、偽證ノ罪、虚偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪  
 ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス  
 第一項ニ掲グル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言ヲ  
 ルノ效力ヲ妨ケラレドモナシ  
 第二百一十二條 證人ノ供述證人若ハ之ノ下第八十六條第一項  
 ニ規定スル關係アル者ノ取贓ニ關シ又ハ其ノ財産上ニ重大ナ  
 ル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシムスヘシ之ヲ訊問スル  
 コトヲ得  
 第二百一十三條 證人ハ各別ニ之ヲ訊問スヘシ  
 後ニ訊問スヘキ證人ニ在テハ退廷ヲ命スヘシ  
 第二百一十四條 事實發見ノ爲ニ必要アルトキハ證人ト他ノ證人又ハ  
 被告人ト對質セシムルコトヲ得  
 第二百一十五條 證人ニハ訊問事項ニ付連絡シテ供述ヲ爲サシムヘ  
 シ  
 必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞  
 否ヲ判斷スル爲ニ適當ナル訊問ヲ爲スヘシ  
 第二百一十六條 證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測シタル事項  
 ヲ供述セシムルコトヲ得

第二百一十七條 前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラ  
 ルコトナシ  
 第二百一十八條 第八十五條、第三百三十六條及第三百三十八條ノ  
 規定ハ證人ノ訊問ニ付テハ適用ス  
 第二百一十九條 證人ハ必要ナル場合ニ於テハ裁判所外ニ之ヲ召喚  
 シ又ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得  
 第二百二十條 親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其ノ現在  
 地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ  
 帝國議會ノ議員議會ノ開會中開會地ニ滞在スルトキハ其ノ  
 滞在ノ地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ  
 第二百二十一條 證人正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタルト  
 キハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百圓以下ノ過料ニ處ス第  
 百八十九條第一項但書ノ場合ニ於テ虚偽ノ宣誓ヲ爲シタ  
 ルトキ亦同シ  
 前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
 第二百二十二條 裁判所ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ  
 證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ  
 肯セザルトキハ之ヲ引付スルコトヲ得  
 第二百二十三條 裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問スヘキトキハ部員ヲシ  
 テ之ヲ爲サシム又ハ證人ノ現在地ノ檢察官、區裁判所判  
 事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託ス  
 ルコトヲ得  
 受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得  
 受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セザルトキハ受託ノ權限アル  
 官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得  
 受命判事又ハ受託判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁  
 判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第九十條及第二百  
 十條ノ決定ハ裁判所亦之ヲ爲スコトヲ得  
 第二百二十四條 豫審判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判  
 長ト同一ノ權限ヲ有ス

第二百二十五條 檢事ハ第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯  
 人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ  
 公訴提起前ニ限リ第八十四條乃至第二百一十一條ノ規  
 定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事若ハ司法警  
 察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得  
 司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ第百  
 八十四條乃至第二百一十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ  
 又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ  
 得  
 第二百二十六條 檢事又ハ司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於  
 テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第二百二十七條 司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ司法  
 警察官若シテ立會ハシムヘシ  
 第二百二十八條 第二百十四條ノ規定ニ依リ證人ヲ過料ニ處シ  
 又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキトキハ證人ノ現在地ヲ管轄スル區裁  
 判所ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ  
 第二百二十九條 證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得  
 但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限  
 ニ在ラス  
 第二百三十條 第十四章 鑑定  
 第二百三十一條 裁判所ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ  
 得  
 第二百三十二條 鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシムヘシ  
 宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ  
 宣誓書ハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキコトヲ誓フ旨ヲ  
 記載スヘシ  
 第二百三十三條 鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ  
 依リ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ  
 鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其  
 ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第二百三十四條 裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ  
 裁判所外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコト  
 ヲ得  
 被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アル  
 トキハ裁判所ハ期間ヲ定メ病院其ノ他ノ相當ノ場所ニ被  
 告人ヲ留置スルコトヲ得  
 第二百三十五條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判  
 所ノ許可ヲ受テ身體ヲ検査シ、死體ヲ解剖シ又ハ物ヲ毀壞  
 スルコトヲ得  
 第二百三十六條 第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ  
 之ヲ準用ス  
 第二百三十七條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判  
 長ノ許可ヲ受テ書類及證據物ヲ開覽シ若ハ謄寫シ又ハ被  
 告人若ハ被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ裁判長ノ許可  
 ヲ受テ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得  
 第二百三十八條 裁判所ハ部員ヲシテ鑑定ニ付必要ナル處分ヲ  
 爲サシムルコトヲ得但シ第二百二十二條第三項ニ規定スル  
 處分ハ此ノ限ニ在ラス  
 第二百三十九條 裁判所ハ鑑定ヲ十分ナラストキハ鑑定人  
 ヲ増加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命ジテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第二百四十條 檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得  
 第二百五十條 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十一條 第十三章ノ規定ハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ  
 外鑑定ニ付テハ適用ス但シ檢事及司法警察官ハ第二百  
 二十二條第三項ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得  
 第二百四十二條 鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定料  
 負擔セシムルコトヲ得

及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得  
 第二百四十三條 裁判所ハ官署又ハ公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ  
 得  
 第二百四十四條 第二百二十一條乃至第二百二十三條及第二百二十八  
 條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ第二百二十一條  
 第三項ノ規定ニ依リ鑑定書ノ説明ハ官署又ハ公署ノ指定  
 シタル者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ  
 第二百四十五條 特別ノ智識ニ因リ知得タル過去ノ事實ニ付其  
 ノ事實ヲ知りタル者ヲ訊問スル場合ニハ本章ノ規定ニ依ラス  
 第十三章ノ規定ヲ適用ス  
 第二百五十條 第十五章 通譯  
 第二百五十一條 國語ニ通セザル者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ  
 於テハ通譯ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ  
 第二百五十二條 雙者又ハ哑者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於  
 テハ通譯ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第二百五十三條 國語ニ非サル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯セシムル  
 コトヲ得  
 第二百五十四條 裁判所ハ官署又ハ公署ニ翻譯ヲ囑託スルコト  
 ヲ得  
 第二百五十五條 第十四章ノ規定ハ通譯及翻譯ニ付テハ適用  
 ス  
 第二百五十六條 第十六章 訴訟費用  
 第二百五十七條 刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシテ訴訟費  
 用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムヘシ  
 被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル費用ハ刑ノ言渡ヲ  
 爲サシムル場合ト雖被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得  
 第二百五十八條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シテ之ヲ  
 負擔セシムルコトヲ得

第二百五十九條 告訴又ハ告發ニ因リ公訴ノ提起アリタル事件  
 ニ付被告人無罪又ハ免訴ノ裁判ヲ受ケタル場合ニ於テ告訴  
 人又ハ告發人ニ故意又ハ重大ナル過失アルトキハ其ノ者ヲシ  
 テ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得  
 第二百六十條 親告罪ニ付告訴ノ取消アリタル場合ニ於テハ告  
 訴人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得  
 第二百六十一條 檢事ニ非サル者ノ上訴ノ取下ヲ爲サシムル場合ニ於  
 テハ其ノ者ヲシテ上訴ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得  
 檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ取下ケタル場合ニ於テハ其ノ者  
 ヲシテ再審ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得  
 第二百六十二條 裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告  
 人若シテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ其ノ裁  
 判ヲ爲スヘシ此ノ裁判ニ對シテハ本案ノ裁判ニ付上訴アリタル  
 トキニ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ得  
 第二百六十三條 裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告  
 人ニ非サル者若シテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ  
 別ニ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲ス  
 コトヲ得  
 第二百六十四條 裁判ニ因ラスシテ訴訟手續終了スル場合ニ於  
 テ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ最終ニ事件ノ繫屬シタル裁  
 判所職權ヲ以テ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時  
 抗告ヲ爲スコトヲ得  
 第二百六十五條 訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ於テ其ノ額ヲ  
 定メザルトキハ執行ノ指揮ヲ爲スヘキ檢事ノ之ヲ定ム  
 第二百六十六條 第一章 捜査  
 第二百六十七條 檢事犯罪アリト思料スルトキハ犯人及證據ヲ  
 捜査スヘシ



第二百四十七條 警視總監、地方長官及憲兵司令官ハ各其ノ管轄区域内ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付地方裁判所檢察官ト同一ノ權ヲ有ス但シ東京府知事ハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十八條 左ニ掲クル者ハ檢察ノ輔佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スヘシ

一 廳府縣ノ警察官

二 憲兵ノ將校、准士官及下士

第二百四十九條 左ニ掲クル者ハ檢察又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ司法警察吏トシテ捜査ノ補助ヲ爲スヘシ

一 巡査

二 憲兵卒

第二百五十條 前三條ニ規定スル者ノ外勅令ヲ以テ司法警察官吏ヲ定ムルコトヲ得

第二百五十一條 森林、鐵道其ノ他特別ノ事項ニ付司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百五十二條 第十一條第一項ノ規定ハ檢察及司法警察官吏ノ爲ス捜査ニ付之ヲ適用ス

第二百五十三條 捜査ニ付テハ秘密ヲ保テ被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セザルコトニ注意スヘシ

第二百五十四條 捜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲ニ必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ強制ノ處分ハ別段ノ規定アル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百五十五條 檢察官ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十六條 檢察官ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十七條 檢察官ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十八條 檢察官ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十九條 檢察官ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二百六十條 檢察官ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

コトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

第二百五十六條 判事前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢査ニ送付スヘシ

第二百五十七條 第二百五十五條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル事件ニ付十日内ニ公訴ヲ提起セザルトキハ檢察官ハ速ニ被疑者ヲ釋放スヘシ

第二百五十八條 規定ニ依リ押收ヲ爲シタル事件ニ付公訴ヲ提起セザル處分ヲ爲シタルトキハ檢察官ハ速ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時効完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

第二百五十九條 犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ公訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十條 祖父母又ハ父母ニ對シテハ公訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十一條 被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十二條 被害者死亡シタルトキハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族又ハ兄弟姉妹ハ告訴ヲ爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二百六十三條 前二項ノ規定ハ刑法第八十三條ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二百六十四條 被害者ノ法定代理人被疑者ナルトキ被疑者ノ配偶者ナルトキ又ハ被疑者ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十五條 死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ後裔ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十六條 名譽ヲ毀損シタル罪ニ付被疑者告訴ヲ爲サスシテ死亡シタル

トキ亦前項ニ同シ但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二百六十七條 報告罪ニ付告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナキ場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢察官ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

第二百六十八條 刑法第八十三條ノ罪ニ付テハ婚姻解消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル後ニ非サレハ告訴ヲ爲スコトヲ得再ヒ婚姻ヲ爲シ又ハ離婚ノ訴ヲ取下ケタルトキハ告訴ヲ取消シタルモノト看做ス

第二百六十九條 報告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知りタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百七十條 刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定シタル日ヨリ六月内ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ナシ

第二百七十一條 告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ者ニ對シテ其ノ效力ヲ及ボサス

第二百七十二條 告訴ハ第二審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

第二百七十三條 告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百七十四條 前二項ノ規定ハ請求ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ請求ニ之ヲ適用ス

第二百七十五條 親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シテ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シテ亦其ノ效力ヲ生ス

第二百七十六條 前項ノ規定ハ請求ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ請求又ハ其ノ取消ニ之ヲ適用ス

第二百七十七條 刑法第八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シテ告訴又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ者ニ對シテ亦其ノ效力ヲ生ス

第二百七十八條 何人ト雖犯罪アリト思料スルトキハ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百七十九條 官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料スルトキ

ハ告訴ヲ爲スヘシ

第二百八十條 第二百五十九條ノ規定ハ告訴ニ付之ヲ適用ス

第二百八十一條 告訴ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得告訴ノ取消ニ付亦同シ

第二百八十二條 告訴又ハ告訴ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢察官又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

第二百八十三條 檢察官又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ告訴ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第二百八十四條 第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ付之ヲ適用ス

第二百八十五條 司法警察官告訴又ハ告訴ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ管轄裁判所ノ檢察官ニ送付スヘシ

第二百八十六條 第二百七十二條、第二百七十三條及第二百七十四條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ適用ス

第二百八十七條 犯罪ニ關シ匿名ノ申告又ハ風説アル場合ニ於テハ特ニ其ノ出所ニ注意シ證據ヲ探査スヘシ

第二章 公訴

第二百八十八條 公訴ハ檢察官ノ行フ

第二百八十九條 犯人ノ性格、年齢及境遇犯罪ノ情狀及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必要トセザルトキハ公訴ヲ提起セザルコトヲ得

第二百九十條 公訴ハ檢察官ノ指定シタル被告人以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ボサス

第二百九十一條 時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス

一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三 長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四 長期十年未満ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年

五 長期五年未満ノ懲役又ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

六 刑法第八十五條ノ罪ニ付テハ六月

七 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ一月

第二百九十二條 一以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ主刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪ニ付テハ其ノ重キ刑ニ從ヒ前條ノ規定ヲ適用ス

第二百九十三條 刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ場合ニ於テハ加重又ハ減輕セザル刑ニ從ヒ第二百八十一條ノ規定ヲ適用ス

第二百九十四條 時効ハ犯罪行為ノ終リタル時ヨリ進行ス

第二百九十五條 共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行為ノ終リタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ時効ノ期間ヲ起算ス

第二百九十六條 時効ハ公訴ノ提起、公判若ハ豫審ノ處分又ハ第二審ノ判決ノ規定ニ依リ爲シタル判事ノ處分ニ因リ中斷ス但シ其ノ手續規定ニ違反シタル爲無効アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百九十七條 共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因リ時効ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百九十八條 時効ハ中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ進行ス

第二百九十九條 時効ハ第三百五條第一項第二號ノ規定ニ依リ豫審手續ヲ中止シ又ハ第三百五十二條ノ規定ニ依リ公判手續ヲ停止シタル期間内ニ進行セズ

第三百條 公訴ノ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求スルニ依リ

テ之ヲ爲ス

第三百零一條 拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ罰金以上ノ刑ニ該ル事件ト同時ニ取調ヲ爲スヘキ場合ニ限リ豫審ヲ請求スルコトヲ得

第三百零二條 公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百零三條 豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ口頭又ハ電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審判事裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

第三百零四條 公判開始中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ公判ヲ請求スル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三百零五條 公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及罪名ヲ示スヘシ

第三百零六條 被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レザルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テスヘシ

第三百零七條 公訴ハ豫審終結決定又ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

第三百零八條 公訴ノ取消ハ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百零九條 公訴ノ取消ハ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百一十條 檢察官又ハ相當官署ニ送致スヘシ

第三百一十一條 公訴ノ場合ニ於テ被疑者ニ對シテ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

第三百一十二條 告訴ニ係ル事件ニ付公訴ヲ提起シ又ハ之ヲ提起セザル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ告訴人ニ通知スヘシ

第三百一十三條 公訴ヲ取消シ又ハ事件ヲ他ノ裁判所ノ檢察官ハ相當官署ニ送致シタルトキ亦同シ

第三章 豫審

第三百一十五條 豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付スヘキカ否ヲ決スル



為必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ其ノ目的トス  
 豫審判事ハ公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦取調ヲ為スヘシ  
 第三百九十六條 豫審ニ於テハ取調ノ秘密ヲ保持シ被告人其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セザルコトニ注意スヘシ  
 第三百九十七條 豫審判事豫審中其犯アルコト又ハ他ノ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待テ豫審ニ屬スル處分ヲ為スコトヲ得  
 豫審判事前項ノ處分ヲ為シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ  
 第三百九十八條 檢事前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ豫審ノ請求スヘキモノト思料スルトキハ速ニ其ノ手續ヲ為スヘシ  
 豫審判事檢事ヨリ豫審ヲ請求セザル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ為シタル時ヨリ四十八時間内ニ豫審ノ請求ヲキトキハ前條ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得又被疑者ヲ勾留シタルトキハ釋放ノ決定ヲ為シ押收シタル物アルトキハ還付ノ決定ヲ為スヘシ  
 第三百九十九條 豫審判事ハ豫審處分ニ付テハ裁判所ノ豫審判事ニ補助ヲ求ムルコトヲ得  
 第四百條 豫審判事ハ被告人ヲ訊問スヘシ  
 豫審判事ハ被告人ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得  
 第四百一條 豫審判事ハ豫審終結前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル理由ヲ告知シ辯解ヲ為サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ヲ示シ出頭セザルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 第四百二條 豫審判事公判ニ於テ召喚シ難シト思料スル證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ檢事及辯護人ハ其ノ訊問ニ立會フコトヲ得  
 第四百三條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ豫審中何時ニテモ必要ナル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトヲ得  
 第四百四條 豫審判事ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得  
 第四百五條 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得  
 一 被告人ノ所在不明ナルトキ  
 二 被告人ノ心神喪失ノ状態ニ在ルトキ  
 前項ノ決定ハ之ヲ送達セス  
 第四百六條 豫審判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ書類及證據物ヲ檢事ニ送付シテ其ノ意見ヲ求ムヘシ  
 第四百七條 檢事豫審判事ノ取調十分ナラスト思料スルトキハ事項ヲ指示シテ取調ヲ請求スルコトヲ得  
 豫審判事檢事ノ請求ニ應ジタルトキハ更ニ其ノ取調ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ請求ニ應ゼザルトキハ速ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ  
 第四百八條 檢事前二條ノ規定ニ依リ書類及證據物ヲ送付ラ受ケタルトキハ速ニ意見ヲ付シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ  
 第四百九條 被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管轄違フ旨ヲ通知スヘシ  
 第五百條 豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違フ旨ヲ通知スヘシ  
 第五百一條 豫審判事ハ被告人ノ申立ニ因リニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違フ旨ヲ通知スヘシ  
 第五百二條 公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル旨ヲ通知スヘシ  
 前項ノ決定ニハ罪ト為ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ

要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトヲ得  
 檢事ハ豫審ノ進行ヲ妨ケザル限リ書類及證據物ヲ閱覽スルコトヲ得  
 辯護人ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閱覽スルコトヲ得  
 第五百四條 豫審判事ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得  
 第五百五條 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得  
 一 被告人ノ所在不明ナルトキ  
 二 被告人ノ心神喪失ノ状態ニ在ルトキ  
 前項ノ決定ハ之ヲ送達セス  
 第五百六條 豫審判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ書類及證據物ヲ檢事ニ送付シテ其ノ意見ヲ求ムヘシ  
 第五百七條 檢事豫審判事ノ取調十分ナラスト思料スルトキハ事項ヲ指示シテ取調ヲ請求スルコトヲ得  
 豫審判事檢事ノ請求ニ應ジタルトキハ更ニ其ノ取調ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ請求ニ應ゼザルトキハ速ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ  
 第五百八條 檢事前二條ノ規定ニ依リ書類及證據物ヲ送付ラ受ケタルトキハ速ニ意見ヲ付シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ  
 第五百九條 被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管轄違フ旨ヲ通知スヘシ  
 第六百條 豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違フ旨ヲ通知スヘシ  
 第六百一條 豫審判事ハ被告人ノ申立ニ因リニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違フ旨ヲ通知スヘシ  
 第六百二條 公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル旨ヲ通知スヘシ  
 前項ノ決定ニハ罪ト為ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ

第三百三十三條 被告事件罪ト為ラス又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ旨ヲ通知スヘシ  
 第三百三十四條 左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ旨ヲ通知スヘシ  
 一 確定判決ヲ經タルトキ  
 二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ  
 三 大赦アリタルトキ  
 四 時効完成シタルトキ  
 五 法令ニ於テ刑ヲ免除スルトキ  
 第三百三十五條 左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ  
 一 被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セザルトキ  
 二 第三百三十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ  
 三 公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ  
 四 公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ  
 五 公訴又ハ請求ヲ待テテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ  
 六 公訴ノ取消アリタルトキ  
 七 被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存続セザルニ至リタルトキ  
 八 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ為スヘカラザルトキ  
 九 公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル為無効ナルトキ  
 第三百三十六條 第三百九條及第三百三十三條乃至前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ為スコトヲ得

第三百十七條 免訴ノ決定確定シタルトキハ左ノ場合ニ限リ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得  
 一 新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキ  
 二 決定若ハ其ノ基礎ト為リタル取調ニ關シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト為リタル搜查ニ關シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト為リタル處分ヲ為シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ決定ヲ為ス前判事又ハ檢事ニ對スル公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ決定ヲ為シタル豫審判事其ノ事實ヲ知ラザルトキニ限ル  
 第三百十八條 免訴、公訴棄却又ハ管轄違フ旨ヲ通知スルコトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ旨ヲ通知スルコトヲ得  
 公訴棄却又ハ管轄違フ旨ヲ通知スル場合ニ於テハ豫審判事ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セシ又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セザルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セザルトキ亦同シ  
 第三百十九條 免訴、公訴棄却又ハ管轄違フ旨ヲ通知スル事件ニ付押收物アルトキハ押收ヲ解除シテ之ヲ返還スルコトヲ得  
 必要ナル場合ニ於テハ押收ヲ解除シテ之ヲ返還スルコトヲ得  
 押收ヲ存続シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セシ又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セザルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解除シ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セザルトキ亦同シ

第三百二十條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ  
 公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ  
 第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ付テハ適用ス  
 公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ  
 第三百二十一條 第一回ノ公判期日ト被告人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ少クモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ  
 被告人異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間ヲ存セザルトキヲ得  
 第三百二十二條 裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得  
 公判期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス  
 第三百二十三條 裁判所ハ第一回ノ公判期日ニ於ケル取調準備ノ為メ公判期日前被告人ノ訊問ヲ為シ又ハ部員ヲシテ之ヲ為サシムルコトヲ得  
 檢事及辯護人ハ前項ノ訊問ニ立會フコトヲ得  
 訊問ヲ為スヘキ日時及場所ハ豫メ之ヲ檢事及辯護人ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 第三百二十四條 裁判所ハ公判期日ニ於ケル取調準備ノ為メ公判期日前證據物若ハ證據書類ノ提出ヲ命ジ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ召喚狀ヲ發シタルコトヲ得  
 前項ノ規定ニ依リ召喚狀ヲ發シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ  
 檢事、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ規定ニ依リ處分ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得  
 前項ノ請求ヲ却下スルコトキハ決定ヲ為スヘシ  
 第三百二十五條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ公判期日前證據物又ハ證據書類ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ得  
 第三百二十六條 裁判所ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ公判期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ公判期日前之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス  
 第三百二十七條 裁判所ハ公判期日前鑑定若ハ翻譯ヲ為サシム又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ為スコトヲ得  
 第三百二十八條 裁判所ハ公判期日前公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得  
 第三百二十九條 公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ為スヘシ  
 公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク  
 第三百三十條 被告人公判期日ニ出頭セザルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外開廷スルコトヲ得  
 第三百三十一條 罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ代理人ヲテ出頭セシムルコトヲ得但シ裁判所ハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得  
 第三百三十二條 被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトヲ得但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得  
 第三百三十三條 被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレハ退廷スルコトヲ得  
 裁判長ハ被告人ヲシテ在廷セシムル為相當ノ處分ヲ為スコトヲ得  
 第三百三十四條 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ヲシテ開廷スルコトヲ得但シ判決ノ宣告ヲ為ス場合ハ此ノ限ニ在ラス  
 辯護人出頭セザルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ  
 第三百三十五條 左ノ場合ニ於テ辯護人出頭セザルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スルコトヲ得



一 被告人二十歳未満又ハ七十歳以上ナルトキ  
 二 被告人婦女ナルトキ  
 三 被告人聾者又ハ啞者ナルトキ  
 四 被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ  
 五 其ノ他必要ト認ムルトキ

第三三十七條 證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス  
 第三三十八條 被告人訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スハ  
 陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人、証人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得  
 檢事又ハ辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、証人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得  
 被告人ハ必要トスル事項ニ付共同被告人、証人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得

第三三十九條 裁判長ハ証人其ノ他ノ者被告人又ハ成傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキ其ノ供述中ニテ退廷セシムルコトヲ得被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキ亦同シ  
 前項ノ規定ニ依リ被告人ヲ退廷セシメタル場合ニ於テ共同被告人、証人其ノ他ノ者ノ供述終リタルトキハ被告人ヲ入廷セシメ供述ノ要旨ヲ告ケシ

第三四十條 證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記官之ヲ朗讀セシムヘシ  
 單ニ風説又ハ系行ノ記載シタル書類ニシテ人名譽ヲ毀損スル虞アルモノハ之ヲ朗讀スルコトヲ得ス  
 前項ノ書類ハ之ヲ被告人ニ示シ被告人文字ヲ解セサルトキニ限り其ノ要旨ヲ告ケシ

第三四十一條 證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ  
 證據物中書面ノ意義證據ヲ爲ルモノニ付テハ被告人文字ヲ解セサルトキハ其ノ要旨ヲ告ケシ

第三四十二條 公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作成シ又ハ集取シタルモノニ付亦同シ但シ訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得  
 第三四十三條 被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ録取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ得  
 一 供述者死亡シタルトキ  
 二 疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ  
 三 訴訟關係人異議ナキトキ

第三四十四條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
 新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三四十五條 裁判長被告人ニ對シ第三百三十三條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ  
 前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ  
 第三四十六條 區裁判所ニ於テ被告人自白シタルトキハ訴訟關係人異議ナキトキニ限り他ノ證據ヲ取調ヘサルコトヲ得  
 第三四十七條 裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ被告人ニ意見アリキ否ヲ問フヘシ  
 裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告ケシ

第三四十八條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ裁判長ノ處分ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
 裁判所ハ前項ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘシ

第三四十九條 證據調終リタル後檢事ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ  
 被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得  
 被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第三五十條 裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得  
 第三五十一條 裁判所ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ部員ヲシテ其ノ取調ヲ爲シタルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ檢事判事ト同一ノ權ヲ有ス  
 檢事及辯護人ハ前項ノ取調ニ立會フコトヲ得  
 受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三五十二條 被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ヲ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ但シ無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ事由由明白ナル場合ニ於テハ被告人ノ出頭ヲ待タズ直ニ其ノ裁判ヲ爲スコトヲ得  
 被告人疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出頭スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三五十三條 規定ニ依リ代理人ヲシテ出頭セシメタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セシ

第三五十四條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セザル場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

第三五十五條 開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三節 公判ノ裁判

第三五十五條 被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄適ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三五十六條 地方裁判所其ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄適ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル區裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第三五十七條 裁判所ハ被告人ノ申立ニ因リニ非サレハ土地管轄ニ付管轄適ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス  
 管轄適ノ申立ハ被告事件ニ付供述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三五十八條 被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ第三百五十九條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三五十九條 刑ノ執行猶豫ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三六十條 被告事件ニ付刑ヲ免除スルトキハ判決ヲ以テ其ノ旨ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三六十一條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

第三六十二條 法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

第三六十三條 區裁判所ニ在リテハ上訴ノ申立ナキ場合又ハ判決宣告ノ日ヨリ七日内ニ判決書ノ請求ナキ場合ニ於テ判決主文並罪ト爲ルヘキ事實ノ要旨及適用シタル罰條ヲ公判調書ニ記載セシメ之ヲ以テ判決書ニ代フルコトヲ得

第三六十四條 證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ  
 證據物中書面ノ意義證據ヲ爲ルモノニ付テハ被告人文字ヲ解セサルトキハ其ノ要旨ヲ告ケシ

第三六十五條 公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作成シ又ハ集取シタルモノニ付亦同シ但シ訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得  
 第三六十六條 被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ録取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ得  
 一 供述者死亡シタルトキ  
 二 疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ  
 三 訴訟關係人異議ナキトキ

第三六十七條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
 新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三六十八條 裁判長被告人ニ對シ第三百三十三條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ  
 前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ  
 第三六十九條 區裁判所ニ於テ被告人自白シタルトキハ訴訟關係人異議ナキトキニ限り他ノ證據ヲ取調ヘサルコトヲ得  
 第三七十條 裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ被告人ニ意見アリキ否ヲ問フヘシ  
 裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告ケシ

第三七十一條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ裁判長ノ處分ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
 裁判所ハ前項ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘシ

第三七十二條 證據調終リタル後檢事ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ  
 被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得  
 被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第三七十三條 裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得  
 第三七十四條 裁判所ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ部員ヲシテ其ノ取調ヲ爲シタルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ檢事判事ト同一ノ權ヲ有ス  
 檢事及辯護人ハ前項ノ取調ニ立會フコトヲ得  
 受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三七十五條 被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ヲ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ但シ無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ事由由明白ナル場合ニ於テハ被告人ノ出頭ヲ待タズ直ニ其ノ裁判ヲ爲スコトヲ得  
 被告人疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出頭スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三七十六條 規定ニ依リ代理人ヲシテ出頭セシメタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セシ

第三七十七條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セザル場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

第三七十八條 開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス



明白ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ  
 贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ノ請求アリタ  
 ルトキハ前項ノ例ニ依ル  
 假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ヲ付キハ還付ノ言渡アリタ  
 ルモノトス  
 前三項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其  
 ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス  
 第三七十四條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テ  
 ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地又ハ最後ノ住所地方管轄  
 スル區裁判所ノ檢察官ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ  
 前項ノ請求アリタルトキ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ  
 意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲  
 スコトヲ得

第三七五條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ  
 依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判  
 決ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ  
 前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ  
 意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲  
 スコトヲ得

第三章 上訴  
 第一章 通則

第三七六條 上訴ハ檢察官又ハ被告人ノ之ヲ爲スコトヲ得  
 第三七七條 檢察官又ハ被告人ニ非サル者ニシテ決定ヲ受ケタ  
 ルモノハ抗告ヲ爲スコトヲ得  
 第三七八條 被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告  
 人ノ爲獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得  
 第三七九條 原審ニ於ケル代理人又ハ辯護人ハ被告人ノ  
 爲上訴ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スル

コトヲ得ス  
 第三八〇條 上訴ハ裁判ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ  
 部分ヲ限ラサルトキハ裁判ノ全部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得  
 第三八一條 上訴ノ提起期間ハ裁判告知ノ日ヨリ進行ス  
 第三八二條 檢察官、被告人又ハ第三七十七條ノ規定ス  
 ル者ハ上訴ノ放棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第  
 三百七十八條ノ規定スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ放棄又  
 ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス  
 第三八三條 第三百七十八條ノ規定スル者ハ被告人ノ同  
 意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲スコトヲ得  
 第三八四條 上訴ノ放棄ノ申立ハ原裁判所ニ之ヲ爲スヘシ  
 上訴取下ノ申立ハ上訴裁判所ニ之ヲ爲スヘシ訴訟記録ヲ  
 上訴裁判所又ハ上訴裁判所檢察官ニ送付スル前上訴ノ取  
 下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原裁判所ニ差出スコトヲ  
 得  
 第三八五條 上訴ノ放棄又ハ取下ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ  
 爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此  
 場合ニ於テハ其ノ申立書ニ記載スヘシ  
 第三八六條 上訴ノ放棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ其ノ事件  
 ニ付更ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス  
 第三八七條 第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ規  
 定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル者自己又ハ代理人ノ責ニ歸スヘ  
 カラサル事由ニ因リ上訴ノ提起期間内ニ上訴ヲ爲スコト能  
 サリトキハ原裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得  
 第三八八條 上訴權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル日ヨリ上  
 訴ノ提起期間ニ相當スル期間内ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
 上訴權回復ノ理由タル事實ハ之ヲ説明スヘシ  
 上訴權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原裁判所  
 ニ上訴ノ申立書ヲ差出スヘシ  
 第三八九條 原裁判所ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ上訴權回復ノ

請求ヲ許スヘキカ否ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時  
 抗告ヲ爲スコトヲ得  
 第三九〇條 上訴權回復ノ請求アリタルトキハ原裁判所ハ前  
 條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ  
 得  
 前項ノ決定ヲ爲スコトキハ被告人ニ對シテ勾留狀ヲ發スルコトヲ  
 得  
 第三九一條 監獄ニ在ル被告人ハ上訴ヲ爲スニハ監獄ノ長又  
 ハ其ノ代理人ヲ經由シテ申立書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ  
 上訴ノ提起期間内ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理人ニ  
 差出シタルトキハ上訴ノ提起期間内ニ上訴ヲ爲シタルモノト看  
 做ス  
 被告人自ラ申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其  
 ノ代理人ハ之ヲ代書シ又ハ所屬吏員ヲシテ之ヲ代書セシムヘ  
 シ  
 監獄ノ長又ハ其ノ代理人ハ原裁判所ニ申立書ヲ送付シ且  
 之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ  
 第三九二條 前條ノ規定ハ監獄ニ在ル被告人ハ上訴ノ放棄  
 若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス  
 第三九三條 上訴、上訴ノ放棄若ハ取下又ハ上訴權回復  
 ノ請求アリタルトキハ裁判所書記ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知ス  
 ヘシ

第二章 控訴

第三九四條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シ  
 タル第一審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得  
 第三九五條 控訴ノ提起期間ハ七日トス  
 第三九六條 控訴ヲ爲スニハ申立書ヲ第一審裁判所ニ差  
 出スヘシ  
 第三九七條 控訴ノ申立書法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴

權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ第一審裁判所ハ檢察官ノ意  
 見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時  
 抗告ヲ爲スコトヲ得  
 第三九八條 前條ノ場合外第一審裁判所ハ訴訟  
 記録及證據物ヲ其ノ裁判所ノ檢察官ニ送付シ檢察官ハ之ヲ控  
 訴裁判所ノ檢察官ニ送付スヘシ  
 控訴裁判所ノ檢察官ハ訴訟記録及證據物ヲ其ノ裁判所ニ  
 送付スヘシ  
 被告人監獄ニ在ルトキハ第一審裁判所ノ檢察官ハ被告人ヲ  
 控訴裁判所所在地ノ監獄ニ移スヘシ  
 第三九九條 控訴裁判所ノ檢察官ハ辯論ノ終結ニ至ル迄附  
 帶控訴ヲ爲スコトヲ得  
 第四〇〇條 控訴ノ申立書法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消  
 滅後ニ爲シタルモノナルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ控訴ヲ  
 棄却スヘシ  
 第四〇一條 控訴裁判所ハ前條及第四百二條ノ場合外除ク  
 外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ  
 第一審裁判所不法ニ管轄ラ認メタル場合ニ於テ控訴裁判  
 所其ノ事件ニ付第一審ノ管轄權ヲ有スルトキハ第一審ノ判  
 決ヲ爲スヘシ  
 第四〇二條 第一審裁判所不法ニ管轄ラ認メタル場合ニ於テ  
 棄却シタルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコ  
 トヲ得  
 第四〇三條 被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴  
 ラ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ  
 得ス  
 第四〇四條 被告人出頭セザルトキハ更ニ期日ヲ定ムヘシ被告人  
 正當ノ事由ナクシテ其ノ期日ニ出頭セザルトキハ其ノ陳述ヲ聽  
 カスニテ判決ヲ爲スコトヲ得  
 第四〇五條 控訴裁判所ノ判決ハ第一審ノ判決ニ示シタル事

實及證據ヲ引用スルコトヲ得  
 第四〇六條 第三百六十五條ノ規定ニ該當スル事件ニ付第一  
 審裁判所公訴ヲ棄却セザリトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却ス  
 ヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
 第四〇七條 第二編中公判時規定ハ別段ノ規定アル場  
 合外除ク外控訴ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第三章 上告

第四〇八條 上告ハ第二審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得  
 第四〇九條 上告ハ第四百二條乃至第四百五條ノ規定  
 スル場合外法令ノ違反ヲ理由トスルモノニ限リ之ヲ爲スコト  
 ヲ得  
 第四一〇條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス  
 一 法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリトキ  
 二 職務ノ執行ヨリ除外セラルヘキ判事審判ニ關與シタル  
 トキ  
 三 判事偏頗ノ虞アリトシテ忌避セラレ其ノ忌避ノ申立  
 理由アリト認メラレタルトキ  
 四 審理ニ關與セザリ判事判決ニ關與シタルトキ  
 五 不法ニ管轄又ハ管轄權ヲ認メタルトキ  
 六 不法ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ  
 七 審判ノ公開ニ關シテ規定ニ違反シタルトキ  
 八 別段ノ規定アル場合外除ク外被告人出頭スルコト  
 ナクシテ審判ヲ爲シタルトキ  
 九 公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ  
 十 法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯  
 護人ヲ附シタル事件ニ付辯護人出頭スルコトナクシテ  
 審理ヲ爲シタルトキ  
 十一 不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタルトキ  
 十二 檢察官ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスニテ審判ヲ爲

シタルトキ  
 十三 法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲  
 サザリトキ  
 十四 公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲ス  
 ヘキ場合ニ於テ之ヲ爲サザリトキ  
 十五 公判ニ於テ爲シタル異議ノ申立ニ付決定ヲ爲サ  
 リトキ  
 十六 法律ニ依リ公判手續ヲ停止シ又ハ更新スヘキ事  
 由アル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ更新セザリトキ  
 十七 被告人又ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會アルヘ  
 サザリトキ  
 十八 審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ  
 審判ノ請求ヲ受ケザル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ  
 十九 判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ  
 二十 判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルトキ  
 二十一 判決書ニ判事ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キ  
 タルトキ  
 第四一一條 前條ノ場合外除ク外法令ニ違反シタルコトアリト  
 雖判決ニ影響ヲ及ボサルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由  
 ト爲スコトヲ得ス  
 第四一二條 刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事  
 由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得  
 第四一三條 再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該ル事由アルトキ  
 ハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得  
 第四一四條 重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著  
 ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得  
 第四一五條 判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタ  
 ルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得  
 第四一六條 左ノ場合ニ於テハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ  
 於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ控訴ヲ爲サスニテ上告ヲ爲



スコトヲ得

一 判決ニ依リ定リタル被告事件ノ事實ニ付法令ヲ適用セズ又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トシテスコトヲ得

二 判決アリタル後ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トシテスコトヲ得

第四百十七條 第一審ノ判決ニ對スル上告ハ控訴ノ申立アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ取下又ハ控訴棄却ノ裁判アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百十八條 上告ノ提起期間ハ五日トス

第四百十九條 上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十條 上告ノ申立書上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十一條 前條ノ場合ヲ除クノ外原裁判所ハ訴訟記録ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第四百二十二條 上告裁判所ハ速クモ最切ニ定メタル公判期日ノ五十日前ニ其ノ期日ヲ上告申立人及對手人ニ通知スヘシ

第四百二十三條 最初ニ公判期日ヲ定ムル前辯護人ノ選任アリタルトキハ前項ノ通知ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百二十四條 上告申立人ハ速クモ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前ニ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十五條 上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十六條 附帶上告ハ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四百二十五條 上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ

第四百二十六條 上告裁判所上告趣意書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ

第四百二十七條 上告申立人期間内ニ上告趣意書ヲ差出サザルトキハ上告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百二十八條 上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケル日ヨリ十日内ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得

第四百二十九條 上告裁判所答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ上告申立人ニ送達スヘシ上告申立人辯護人ヲ選任シタルトキハ其ノ送達ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百三十條 裁判長ハ部員ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ檢閲シテ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得

第四百三十一條 上告審ニ於テハ被告人ノ爲ニシテ辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ第四百四十四條第一項ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百三十二條 公判期日ニハ受命判事ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ

第四百三十三條 辯論後ニ爲シタルモノナルトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百三十四條 上告理由ナキトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百三十五條 上告理由アルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百三十六條 前條ノ規定ニ依リ原判決ヲ破毀スルトキハ第四百四十九條及第四百五十條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十七條 不法ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第四百三十八條 破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄控訴裁判所又ハ管轄第一審裁判所ニ移送スヘシ

第四百三十九條 被告人ノ利益ノ爲ニ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ破毀ノ理由上告ヲ爲シタル共同被告人ニ共通ナルトキハ其ノ共同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百四十條 被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ爲ニ上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得

第四百四十一條 判決書ニハ上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ヲ記載スヘシ

第四百四十二條 原裁判所不法ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲サザリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

第四百四十三條 第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告ノ審判ニ付テハ之ヲ適用シ第四百四十四條ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ニ於テハ尙本編第二章ノ規定ヲ準用ス

請スヘシ

第四百三十三條 辯護人出頭セザルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ法律ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢事ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十四條 上告裁判所ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ

第四百三十五條 裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ管轄ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ

第四百三十六條 第二審判決ニ對スル上告事件ニ於テ第四百四十二條乃至第四百四十四條ノ規定ニ付裁奪權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得

第四百三十七條 上告裁判所ハ裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續並第四百三十三條ノ規定ニ付裁奪權ヲ以テ之ハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

第四百三十八條 前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ檢事判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ檢事判事同一ノ權ヲ有ス

第四百三十九條 受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

第四百四十條 受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四百四十一條 第一審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ第四百三十四條第一項及第二項ノ調査ヲ爲シタルトキハ或ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十二條 第二審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ先ツ上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反及第四百四十五條ノ規定ニ付裁奪權ヲ爲スヘシ

第四百四十三條 不法ニ管轄若ハ管轄違ヲ認メ又ハ公訴ヲ受

第四章 抗告

第四百四十六條 抗告ハ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ノ外裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百四十七條 裁判所ノ管轄又ハ訴訟手續ニ關シテ判決前ニ爲シタル決定ニ對シテハ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ヲ除クノ外抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十八條 前項ノ規定ハ拘留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル決定及鑑定ノ爲ニスル被告人ノ留置ニ關スル決定ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四百四十九條 抗告ハ即時抗告ヲ除クノ外何時ニモ之ヲ爲スコトヲ得但シ原決定ヲ取消スモ實益ナキニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百五十條 即時抗告ノ提起期間ハ三日トス

第四百五十一條 抗告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

第四百五十二條 原裁判所抗告ノ理由アリタルトキハ決定ヲ更正スヘシ抗告ノ全部又ハ一部ノ理由ナシトキハ申立書ヲ受取リタル日ヨリ三日内ニ意見書ヲ附シテ之ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

第四百五十三條 抗告ハ即時抗告ヲ除クノ外裁判ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ抗告ノ裁判アルヲ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百五十四條 抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ裁判ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百五十五條 即時抗告ノ提起期間内及其ノ申立アリタルトキハ執行ヲ停止ス

第四百五十六條 原裁判所必要ト認ムルトキハ訴訟記録及證據物ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

第四百五十七條 抗告裁判所ハ訴訟記録及證據物ヲ送付ヲ求ルコトヲ得

第四百五十八條 抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百五十九條 抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百六十條 抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

理シ若ハ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキ場合ニ於テハ他ノ事項ヲ調査セシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ



第四百六十五條 抗告裁判所ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ事實ノ取調ヲ爲シムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

第四百六十六條 抗告ノ手續其ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ抗告理由ヲキテハ抗告ヲ棄却ス

第四百六十七條 抗告裁判所ノ決定ハ之ヲ原裁判所ニ通知ス

第四百六十八條 第四百六十條、第四百六十三條及前條ノ規定ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付テハ適用ス

第四百六十九條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得但シ左ニ掲グル抗告ニ付テハ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

一 公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告  
二 控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テハ決定ニ對スル抗告

三 再審ノ請求ニ付テハ決定ニ對スル抗告  
四 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告

五 裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付テハ決定ニ對スル抗告  
六 證人、鑑定人、通事、翻譯人其ノ他ノ者ノ受ケタル決定ニ對スル抗告

第四百七十條 裁判長、受命判事又ハ豫審判事左ニ掲グル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ不服アル者ハ判事所屬ノ裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

一 忌避ノ申立ヲ却下スル裁判  
二 拘留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル裁判  
三 鑑定ノ爲メ被告人ノ留置ヲ命スル裁判  
四 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對シテ過料又ハ費用ノ賠償ヲ命スル裁判

區裁判所判事前項第一號ノ裁判ヲ爲シ又ハ受託判事トシテ前項第二號乃至第四號ノ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十一條 檢事ノ爲シタル拘留、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ハ不服アル者ハ檢事所屬ノ裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十二條 前二條ニ規定スル請求ヲ爲スニハ請求書ヲ管轄裁判所ニ差出ス

第四百七十三條 第四百六十一條、第四百六十三條、第四百六十四條、第四百六十六條及第四百六十七條ノ規定ハ第四百七十條又ハ第四百七十一條ノ請求アリタル場合ニ之ヲ適用ス

第四百七十四條 第四百七十條及第四百七十一條ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得但シ第四百七十條第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百七十五條 裁判所構成法第五十條第二號ニ掲グル大審院ノ特別権限ニ屬スル罪ニ付テハ檢事總長檢査ヲ爲ス

第四百七十六條 控訴院、地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別権限ニ屬スル罪ニ付檢査ヲ爲ス

第四百七十七條 第二百四十七條、第二百四十八條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察官ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別権限ニ屬スル罪ニ付檢査ヲ爲ス

第四百七十八條 檢事又ハ司法警察官大審院ノ特別権限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ直ニ檢事總長ニ報告スシ急遽ヲ要スル場合ニ於テハ報告前檢査ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四百七十九條 檢事總長檢査ヲ爲シタル後大審院ノ特別権限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ豫審ヲ請求ス

第四百八十條 檢事總長ハ大審院ノ特別権限ニ屬スル事件トシテ速ニ他ノ事件ニ付併シテ豫審ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十一條 大審院ハ檢事總長ノ請求ニ因リ前條ノ規定ニ依リ豫審ヲ請求シタル事件ヲ管轄地方裁判所ノ豫審判事ニ移送スルコトヲ得

第四百八十二條 大審院長ヨリ豫審ヲ命セラレタル判事被告事ニ付取調ヲ終ヘタルトキ意見書ヲ添ヘ書類及證據物ヲ大審院ニ送付ス

第四百八十三條 大審院ハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ左ノ區別ニ

從テ決定ヲ爲ス

一 被告事件公判ニ付スヘキモノト認ムルトキハ公判ヲ開始スル決定

二 被告事件下級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認ムルトキハ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ移送スル決定

三 被告事件前二號ノ規定ニ該當セサル場合ニ於テハ第三百十三條乃至第三百十五條ノ規定ニ進シ免訴シ又ハ公訴ヲ棄却スル決定

第四百八十四條 第二編ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外大審院ノ特別権限ニ屬スル事件ニ付テハ適用ス

第五編 再審

第四百八十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得

一 原判決ノ證據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ偽造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ

二 原判決ノ證據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ虚偽ナリシコト證明セラレタルトキ

三 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ証告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ証告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル

四 原判決ノ證據ト爲リタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定判決ニ因リ變更セラレタルトキ

五 特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ著シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付テハ權利ノ無効ノ審決確定シタルトキ又ハ無効ノ判決アリタルトキ

六 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ヲ言

渡シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

七 原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關シタル判事、豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル檢査ニ關シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決若ハ前審ノ判決又ハ檢事ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決若ハ前審ノ判決所其ノ事實ヲ知ラザリシトキニ限ル

第四百八十六條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、刑ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付刑ノ免除ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決又ハ不法ニ公訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 前條第一號、第二號、第四號又ハ第七號ニ規定スル原由アルトキ

二 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者無罪又ハ相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ受ケタル後後裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ事實ヲ陳述シタルトキ

三 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者刑ノ免除若ハ免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ受ケタル後後裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ原由ナカリシコトヲ陳述シタルトキ

第四百八十七條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ控訴ヲ棄却シ

ル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

三 第一審又ハ第二審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ上告棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十八條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

第四百八十九條 第四百八十五條乃至前條ノ規定ニ從テ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審ノ原由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ證據ナキノ理由ニ因リ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百九十條 再審ノ請求ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外原

判決ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ス

第四百九十一條 判決ノ一部第二審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ控訴裁判所之

ニ於テ決定スルコトヲ得

第四百九十二條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

三 第一審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ控訴棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十八條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

三 第一審又ハ第二審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ上告棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十九條 第四百八十五條乃至前條ノ規定ニ從テ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審ノ原由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ證據ナキノ理由ニ因リ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百九十條 再審ノ請求ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外原

判決ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ス

第四百九十一條 判決ノ一部第二審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ控訴裁判所之

ニ於テ決定スルコトヲ得

第四百九十二條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

三 第一審又ハ第二審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ上告棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十八條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ



ラ管轄ス  
判決ノ一部上告審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審又ハ第二審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ上告裁判所之ヲ管轄ス

第四百九十二條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ左ニ掲ケル者之ヲ爲スコトヲ得

- 一 管轄裁判所ノ檢察官
- 二 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者
- 三 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人及夫
- 四 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ状態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家督相繼人、直系ノ親族及兄弟姉妹

第四百八十五條第七號、第四百八十七條第二號又ハ第四百八十八條第二號ニ規定スル理由ニ因ル再審ノ請求ニシテ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスルモノハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行爲罪ヲ犯スニ至ラシメタル場合ニ於テハ檢事ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十六條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ハ管轄裁判所ノ檢事之ヲ爲スコトヲ得第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ニシテ第一項ノ規定ニ該當セザルモノニ付亦同シ

第四百九十三條 檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第四百九十四條 再審ノ請求ハ刑ノ執行終リ又ハ其ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタルトキト雖之ヲ爲スコトヲ得

第四百九十五條 第四百八十六條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ハ

判決確定後公訴ノ時効期間ニ相當スル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セザルモノニ付亦同シ

第四百九十六條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ管轄裁判所ノ檢察官再審ノ請求ニ付テノ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百九十七條 再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本、證據書類及證據物ヲ添ヘ之ヲ管轄裁判所ニ差出ス

第四百九十八條 再審ノ請求ハ刑ノ取下クルコトヲ得

第四百九十九條 第三百八十五條、第三百九十一條及第三百九十三條ノ規定ハ再審ノ請求又ハ其ノ取下ニ付之ヲ准用ス

第五百條 第四百九十一條第一項ノ場合ニ於テ第一審裁判所ノ控訴裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ控訴裁判所ニ送致ス

第四百九十一條第一項ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ上告裁判所ニ送致ス

第五百一條 第一審ノ確定判決ト控訴ヲ棄却シタル確定判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止ス

第五百一十條 第一審又ハ第二審ノ確定判決ト上告ヲ棄却シタル判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止ス

第六編 非常上告

第五百十六條 判決確定後其ノ事件ノ審判法令ニ違反シタルコトヲ發見シタルトキハ檢察總長大審院ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條 非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ大審院ニ差出ス

第五百十八條 公判期日ニハ檢察官ハ申立書ニ基キ陳述ヲ爲スヘシ

第五百十九條 非常上告ノ理由ナシトシタル判決ヲ以テ之ヲ棄却ス

第五百二十條 非常上告ノ理由アリトシタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ判決ヲ爲ス

- 一 原判判決法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル部分ヲ破毀ス但シ原判決被告人ノ爲ニ利益ナルトキハ之ヲ破毀シ被告事件ニ付判決ヲ爲ス
- 二 訴訟手續法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル手續ヲ破毀ス

第五百二十一條 非常上告ノ判決ハ前條第一號但書ノ規定ニ依リ爲シタルモノヲ除クノ外其ノ效力ヲ被告人ニ及ホサス

第五百二十二條 第四百三十四條第一項及第四百三十五條ノ規定ハ非常上告ニ付之ヲ准用ス

第五百二十三條 區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公判前略式命令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得

第五百三十二條 正式裁判ノ請求ニ因リ判決ヲ爲シタルトキハ略式命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第五百三十三條 略式命令ハ正式裁判ノ請求期間ノ經過又ハ

第五百三十四條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前再審ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セザルモノニ付亦同シ

第五百三十五條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前再審ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セザルモノニ付亦同シ

裁判所書記本人ニ謄本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第五百三十四條 略式命令ノ請求ハ公訴ノ提起ト同時ニ書面ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百三十五條 前條ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件略式命令ヲ爲スコトヲ得又ハ之ヲ爲スコトヲ相當ナラスト患料スルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲ス

第五百三十六條 裁判書ニハ罪ト爲ルヘキ事實、適用シタル法令、科トヘキ刑及附隨ノ處分並謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日ノ内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百三十七條 略式命令ヲ爲シタルトキハ檢事ニ裁判書ノ謄本ヲ送達ス

第五百三十八條 略式命令ヲ受ケタル者ハ謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日ノ内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百三十九條 第三百八十七條乃至第三百九十條ノ規定ハ正式裁判ノ請求ニ付之ヲ准用ス

第五百四十條 正式裁判ノ請求ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取テ之ヲ爲ス

第五百四十一條 正式裁判ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス

第五百四十二條 正式裁判ノ請求ニ因リ判決ヲ爲シタルトキハ略式命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第五百四十三條 略式命令ハ正式裁判ノ請求期間ノ經過又ハ

第五百三十四條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前再審ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セザルモノニ付亦同シ

第五百三十五條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前再審ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セザルモノニ付亦同シ

第五百三十四條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前再審ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セザルモノニ付亦同シ

刑事訴訟法 再審 非常上告

略式手續



其ノ請求ノ取下ニ因リ確定判決同一ノ效力ヲ生ス正式裁判ノ請求ヲ棄却スル裁判確定シタルトキ亦同シ

第八編 裁判ノ執行

第五三十四條 裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五三十五條 裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ノ指揮ス但シ其ノ性質上裁判所又ハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事ノ爲スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第五三十六條 裁判執行ノ指揮ハ審判官以テ之ヲ爲シ之ニ裁判官又ハ裁判書記官又ハ書記官又ハ抄本ヲ添付スヘシ但シ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ヲ除ク外裁判官ノ署名、謄本若ハ抄本又ハ調書ノ謄本若ハ抄本ニ認印シテ之ヲ爲スコトヲ得

第五三十七條 二以上ノ主刑ノ執行ハ罰金及科料ヲ除ク外其ノ重キモノヲ先ニシ但シ後ニ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サズルコトヲ得

第五三十八條 死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令ニ依ル第五三十九條 死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令ニ依ル速ニ訴訟記録ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第五四十條 司法大臣死刑ノ執行ヲ命シタルトキ五日以内ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ

第五四十一條 死刑ノ執行ハ檢察官及裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲スヘシ

トヲ得ス

第五四十二條 死刑ノ執行ニ立會ヒタル裁判所書記ハ執行開始ヲ作リ檢察官及監獄ノ長ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第五四十三條 死刑ノ執行受ケタル者心神喪失ノ状態ニ在リ執行ヲ停止ス

第五四十四條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ状態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ因リ其ノ痊愈ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第五四十五條 前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ檢察官ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ監護義務者又ハ市町村長ニ引渡シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコトヲ得

刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ刑期ニ算入ス

第五四十六條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ニ掲グル事由アルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ因リ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一 刑ノ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スルトキ又ハ生命ヲ保ツコト能ハサル處アルトキ

二 七十歳以上ナルトキ

三 受胎後百五十日以上ナルトキ

四 分娩後六十日以上経過セザルトキ

五 刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不利益ヲ生スル處アルトキ

ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハル場合ニ於テハ檢察官ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

公告ヲ爲シタル時ヨリ六月内ニ還付ノ請求ヲナキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス

前項ノ期間内ト雖價値ナキ物ハ之ヲ廢棄シ保管ニ不便ナル物ハ之ヲ公賣シ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第五四十七條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五四十八條 裁判ノ執行ヲ受ケタル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シテ檢察官ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五四十九條 疑義又ハ異議ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

疑義又ハ異議ノ申立ハ決定アル迄之ヲ取テ下クルコトヲ得

疑義又ハ異議ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

ルトキ

第六 祖父又ハ父母七十歳以上又ハ癡疾ニシテ侍養ノ子孫ナキトキ

第七 其ノ他重大ナル事由アルトキ

第五四十七條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者拘禁中ニ非サルトキハ檢察官ノ執行ヲ爲シテ之ヲ召喚スヘシ

第五四十八條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキハ檢察官ハ直ニ逮捕ヲ命ジ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ發シシムルコトヲ得

第五四十九條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ檢察官ハ檢察官長ニ人相書ヲ送付シ其ノ逮捕ヲ請求スルコトヲ得

第五五十條 速捕ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ氏名、住居、年齢、刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢察官又ハ司法警察官之ニ記名捺印スヘシ

第五五十一條 速捕狀ハ勾引狀同一ノ效力ヲ有ス

第五五十二條 速捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五五十三條 罰金、科料、沒收、追徴、過料、沒收、訴訟費用又ハ費用賠償ノ裁判ハ檢察官ノ命令ニ因リ之ヲ執行ス

第五五十四條 此ノ命令ハ執行力アル債權名義同一ノ效力ヲ有ス

第五五十五條 前項ノ裁判ノ執行ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス但シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五五十六條 沒收又ハ租稅其ノ他ノ公課若ハ專賣ニ關スル法令ノ規定ニ依リ言渡シタル罰金若ハ追徴ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者判決確定後死亡シタル場合ニ於テハ相續財産ニ就

第五五十七條 犯罪ニ因リ身體、自由、名譽又ハ財產ヲ害セラレタル者ハ其ノ損害ヲ原因トスル請求ニ付公訴ニ附帶シ公訴ノ被告人ニ對シテ私訴ヲ提起スルコトヲ得

第五五十八條 私訴ハ公訴ニ付第一審ノ辯論終結スルニ至ル迄之ヲ提起スルコトヲ得但シ豫審中ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五五十九條 公訴ニ付第三條、第四條、第六條、第七條、第九條第二項、第十條第二項、第二十三條又ハ第三百五十六條但書ノ決定アリタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ決定アリタルモノト看做ス

第五六十條 公訴ニ付管轄違背言渡ヲ爲シタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ決定アリタルモノト看做ス

第五六十一條 私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基テ之ヲ爲スヘシ大正十五年法律第七十二號ヲ以テ但書ヲ削除ス

第五六十二條 私訴ニ關スル書類ニハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス但シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五六十三條 民事訴訟法中左ニ掲グル事項ニ關スル規定ハ私訴ニ付之ヲ準用ス但シ即時抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

キ之ヲ執行スルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ受ケタル者死亡ニ非サル事由ニ因リ相續開始シタルトキハ罰金、沒收又ハ追徴ハ相續財産ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

第五五十五條 法人ニ對シ罰金、科料、沒收又ハ追徴ヲ言渡シタル場合ニ於テ其ノ判決確定後合併ニ因リ法人消滅シタルトキハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ニ對シテ執行ヲ爲スコトヲ得

第五五十六條 上訴申立後未決勾留ノ日數ハ左ノ例ニ依リ之ヲ本刑ニ通算ス

一 檢察官ノ上訴アルトキハ勾留日數ノ全部

二 檢察官ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部

前項ノ規定ニ依ル通算ニ付テハ未決勾留一日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス

上告裁判所原判決ヲ破毀シタル後未決勾留ハ上告中ノ未決勾留日數ニ準シテ之ヲ通算ス

第五五十七條 沒收物ハ檢察官之ヲ處分スヘシ

沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ檢察官ハ公賣ニ因リ得テ代價ヲ交付スヘシ

第五五十八條 沒收ノ執行後三月内ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付ヲ請求シタルトキハ檢察官ハ廢棄又ハ廢棄スヘキ物ヲ除ク外之ヲ交付スヘシ



三十一 請求ノ放棄(同上本號ヲ改正)  
 三十二 訴又ハ上訴ノ取下  
 三十三 強制執行  
 第五百七十三條 當事者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ辯護士ニ非サル者ヲシテ訴訟ノ代理ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第五百七十四條 辯護人ハ私訴ニ付被告人ノ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得  
 第五百七十五條 當事者及其ノ訴訟代理人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且之ヲ謄寫スルコトヲ得  
 第五百七十六條 私訴ノ判決ニ對シテ再審ノ訴ハ民事訴訟法ニ依リ原判決ヲ爲シタル裁判所ノ民事部ニ之ヲ爲スヘシ  
 第五百七十七條 私訴ニ付テハ審級ニ從ヒ公訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シタルトキハ民事訴訟法ニ依ル

第二章 第一審

第五百七十八條 私訴ヲ提起スルニハ民事訴訟法ニ準シ訴狀ヲ裁判所ニ差出スヘシ  
 第五百七十九條 訴狀其ノ他對手人ニ交付スヘキ書類ハ裁判所ニ差出スモノノ外對手人ノ數ニ應ジテ之ヲ差出スヘシ  
 第五百八十條 裁判所訴狀ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ被告ニ送達スヘシ  
 公判期日ニ出頭シタル被告ニ對シテ公判廷ニ於テ訴狀ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス  
 第五百八十一條 公訴ノ公判期日ニハ私訴關係人ヲ召喚スヘシ  
 第五百八十二條 原告公判期日ニ出頭シ訴狀ヲ差出スコト能ハサル事由ヲ證明シタルトキハ口頭ヲ以テ私訴ヲ提起スルコトヲ得但シ被告出頭セサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五百八十三條 私訴ノ取調ハ公訴ノ審理ヲ終ヘタル後之ヲ爲スヘシ但シ裁判長ハ公訴ノ審理中ト雖職權ヲ以テ私訴ニ付取調ヲ爲スコトヲ得  
 第五百八十四條 原告ハ請求ノ原因タル事實ヲ陳述シ判決ヲ受クヘキ事項ヲ申立ツヘシ  
 被告ハ答辯ヲ爲スヘシ  
 第五百八十五條 裁判所ハ相當ノ陳述ヲ爲スコト能ハサル當事者、訴訟代理人又ハ輔佐人ニ對シテ決定ヲ以テ其ノ後ノ陳述ヲ禁スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムヘキコトヲ得スヘシ  
 第五百八十六條 公訴ニ付取調ヘタル證據ハ私訴ニ付取調ヘタルモノト看做ス  
 第五百八十七條 裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ノ範圍内ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラルルコトナシ  
 第五百八十八條 檢事ハ私訴ノ審判ニ立會フコトヲ要セス  
 檢事私訴ノ審判ニ立會ヒタル場合ニ於テハ當事者ノ辯論終リタル後意見ヲ陳述スルコトヲ得  
 第五百八十九條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス數多ノ日時ヲ費スニ非サレハ私訴ノ審判ヲ終結シ難キモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス  
 第五百九十條 公訴ニ付無罪、免訴又ハ公訴棄却ノ判決アリタルトキハ判決ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ  
 公訴ニ付公訴棄却ノ決定アリタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ  
 前二項ノ規定ニ依リ私訴ヲ却下シタル判決又ハ決定ニ對シテハ公訴ニ付上訴アリタルトキニ非サレハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス  
 第五百九十一條 略式命令確定判決同一ノ效力ヲ有スルニ至リタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテ

第三章 上訴

第五百九十四條 私訴ニ付區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得  
 第五百九十五條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス  
 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス  
 判決ニ對シテ爲シタル控訴ハ其ノ效力ヲ失フ  
 前二項ノ規定ハ上告ノ取下アリタルトキ、第四百十七條ノ規定ニ依リ上告其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ第四百二十二條、第四百二十七條若ハ第四百四十五條ノ規定ニ依リ上告ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス  
 第五百九十六條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付控訴ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ  
 控訴ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ上告ヲ爲スコトヲ得此ノ上告ハ控訴ニ付前條第三項ノ規定ヲ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ  
 第五百九十七條 左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第二審ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得  
 一 公訴ノ判決ニ對シテ上告アリタルトキ  
 二 法令ノ違反ヲ理由トスルトキ  
 第五百九十八條 左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ控訴ヲ爲サスニ付上告ヲ爲スコトヲ得

一 公訴ノ判決ニ對シテ上告アリタルトキ  
 二 判決ニ依リ定リタル事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ  
 第五百九十九條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ス  
 公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ上告ハ其ノ效力ヲ失フ  
 前二項ノ規定ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ控訴ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス  
 第六百條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付上告ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ  
 上告ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ控訴ヲ爲スコトヲ得此ノ控訴ハ上告ニ付前條第三項ノ規定ヲ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ  
 第六百一條 公訴ノ判決ニ對シテ上告アリタル場合ニ於テ私訴ニ付上告ヲ爲シタルトキハ上告趣意書ヲ差出ササルコトヲ得  
 第六百二條 上告裁判所ニ於テハ辯論ハ辯護士ヨリ選任シタル訴訟代理人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
 第六百三條 當事者訴訟代理人ヲ選任セサルトキ又ハ訴訟代理人出頭セサルトキハ辯論ヲ聽カシメ判決ヲ爲スコトヲ得  
 第六百四條 第四百四十條又ハ第四百四十三條ノ規定ニ依リ公訴ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ言渡アリタルトキハ私訴ニ付同一ノ言渡アリタルモノト看做ス  
 第六百五條 第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ  
 第六百六條 第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ第六百七條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ

以テ原判決ヲ破毀シ事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ  
 第六百七條 前條ノ場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ノ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ  
 第六百八條 公訴ニ付原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ私訴ニ付判決ヲ爲スヘシ  
 一 公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ボスニ變更ヲ爲シタルトキ又ハ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ上告ヲ棄却ス  
 二 公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ボスニ變更ヲ爲サス且私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ第六百九條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第六百十條ノ場合ヲ除クノ外事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ  
 第六百十條 第六百八條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲私訴ノミニ付事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ノ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ  
 第六百十一條 公訴ニ付原判決ヲ破毀シ差戻又ハ移送ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テハ私訴ニ付同一ノ判決ヲ爲スヘシ  
 第六百十二條 上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ決定ヲ以テ事件ヲ其ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス  
 第六百十三條 本編第二章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス

附則

第六百十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十二年勅令第二百十五號ヲ以テ大正十三年一月一日ヨリ施行ス)  
 第六百十五條 明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法及刑事訴訟手續法ハ之ヲ廢止ス  
 第六百十六條 本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之ヲ適用ス  
 前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨ケス  
 本法施行前舊法ニ依リ爲シタル手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス  
 第六百十七條 本法施行前裁判所構成法第十條第一號ノ規定ニ依リ爲シタル管轄指定ノ申請ハ之ヲ管轄移轉ノ請求ト看做ス  
 第六百十八條 本法施行前忌避ノ申請ヲ爲シ其ノ理由ノ證明ヲ爲サザルシ者ハ本法施行ノ日ヨリ三日以内ニ之ヲ爲スヘシ  
 第六百十九條 本法施行前法人ヲ處罰スヘキモノトシテ其ノ代表者ヲ被告人ト爲シタル事件ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ法人ヲ被告人トス  
 第六百二十條 本法施行前始リタル法定期間ニ付訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ加フヘキ期間ハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第六百二十一條 本法施行前簡易判決ヲ受ケタル者ニ對シテハ從前ノ規定ニ依リ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得  
 第六百二十二條 本法施行前保釋ヲ許ササル言渡ニ對シテ爲シタル異議ノ申立ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ  
 第六百二十三條 第二百六十五條ノ規定ニ依リ期間ハ本法施行前犯人ヲ知り又ハ婚姻ノ無効若ハ取消ノ裁判確定シタル場







- 五 國有鐵道ノ驛長又ハ車掌監督タル鐵道局ノ副參事及書記
- 六 北海道廳ノ管林區署勤務ノ技師並管林區署又ハ管林區分署勤務ノ屬 技手及森林主事
- 七 公有林野ノ事務ヲ擔當スル北海道廳產業技手
- 八 狩獵取締ノ事務ヲ擔當スル廳府縣技手
- 九 帝室林野管理局技手補
- 十 獵場監督
- 十一 看守
- 十二 國有鐵道ノ助役又ハ車掌監督助手タル鐵道局書記並國有鐵道ノ車掌タル鐵道局ノ書記、鐵道手及雇員
- 十三 北海道廳河川監督

- 一 前條第一號及第九號ニ掲グル者ニ在リテハ御料林野又ハ其ノ產物ニ關スル罪
- 二 前條第二號及第十號ニ掲グル者ニ在リテハ御獵場ニ於テ狩獵ニ關スル罪
- 三 前條第三號及第十一號ニ掲グル者ニ在リテハ監獄又ハ分監ニ於テ犯罪
- 四 前條第四號ニ掲グル者ニ在リテハ國有林野、部分林、公有林野官行造林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於テ犯罪ニ關スル罪
- 五 前條第五號及第十二號ニ掲グル者ニ在リテハ停車場又ハ列車ニ於テ犯罪
- 六 前條第六號ニ掲グル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル國有林野、部分林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於テ犯罪ニ關スル罪
- 七 前條第七號ニ掲グル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル公

**第一章 總則**

第一條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ居常言行ヲ慎ミ廉潔公正ニシテ法律ノ定ムル所ヲ恪守スルノ外本規範ニ違ハスヘシ

第二條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ法令ノ字句ニ拘泥スルコトナク其ノ精神ニ適合セムコトヲ期スヘシ

第三條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ外議ニ動かサレ私情ニ泥マラス專ラ公明正大ヲ旨トシ非違ヲ匡正スルノ任務ヲ全ウセムコトヲ期スヘシ

第四條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ居常言行ヲ慎ミ廉潔公正世人ノ疑惑ヲ招カサルコトニ注意スヘシ

第五條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ平素社會ノ變遷人心ノ趨向ニ留意シ犯罪ニ關スル諸般ノ現象ヲ攷究シ其ノ職責ヲ盡スニ遺漏ナキコトヲ期スヘシ

第六條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ敏捷ニシテ機宜ヲ失ハス周密ニシテ遺漏ナキコトヲ期スヘシ

第七條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ冷靜ニシテ感情ニ走ラス常ニ中正穩健ヲ旨トスヘシ

第八條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ道義ヲ尊ヒ人情ヲ重シ淳風良俗ヲ善セサルコトニ注意スヘシ

第九條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ秘密ヲ嚴守シテ搜查ノ障礙ト犯行ノ傳播トヲ防止シ且被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第十條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ互ニ連絡協同ヲ保テ共同一致ノ精神ヲ以テ事ニ從フヘシ

第十一條 司法警察ノ職務ハ必要アル場合ニ於テハ執務時間

- ノ内外ヲ開ハス夜間又ハ休日雖之ヲ行フヘキモノトス
- 第十二條 司法警察ノ職ニ在ル者他ノ司法警察ノ職ニ在ル者ヨリ其ノ管轄區域内ニ於テ取扱ヘキ事項ニ付共助ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ應ジ遲滞ナク處理スヘシ
- 第十三條 司法警察ノ職務ハ共助ニ依リ事實發見ノ目的ヲ達スルニ便ナルトキニ限り管轄區域外ニ於テ之ヲ行フコトヲ得
- 第十四條 書類ヲ作成スルニハ文飾ヲ用キス簡明平易ヲ旨トシ眞實ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ
- 第十五條 書類ヲ作成スルニハ法律ニ定メタルモノニ非スト雖年月日ヲ記載シ署名捺印シ每葉ニ製印シ其ノ所屬ノ官署ヲ表示スヘシ
- 第十六條 文字ハ之ヲ改竄スヘカラス挿入削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲其ノ字體ヲ存スヘシ
- 第十七條 被疑者其ノ他ノ關係者ノ陳述ヲ録取シタルトキハ法律ニ定メタル書類ニ非スト雖之ヲ陳述者ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ
- 第十八條 陳述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ趣旨ヲ記載スヘシ
- 第十九條 書類ニハ陳述者ヲ任意ニ署名捺印セシムヘシ陳述者署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記シ捺印スルコト能ハサルトキハ捺印又ハ捺印セシムヘシ
- 第二十條 司法警察ノ職ニ在ル者被疑者又ハ被害者ト親族其ノ他ノ關係ニ因リ他ノ疑惑ヲ招クヘキ處アルトキハ回避スヘシ

- 第二十一條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ檢事ノ指揮命令ニ從ヒ搜查ノ事ニ應ルヘシ
- 第二十二條 警視總監、地方長官(東京府知事ヲ除ク)及憲兵司令官ノ搜查ノ權ハ異常ノ場合ニ於テ之ヲ行フ例トス此ノ場合ニ於テモ成ルヘク其ノ處分ヲ檢事ニ讓ルヘシ
- 第二十三條 司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ニシテ犯罪ノ性質、場所ノ關係又ハ其ノ他ノ事情ニ因リ司法警察官其ノ職務ヲ行フニ便ナル場合ニ於テ搜查ヲ爲スヘキモノトス
- 第二十四條 前項ノ場合ニ於テハ搜查ニ着手シタル司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ於テ搜查ヲ遂行スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ司法警察官ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
- 第二十五條 司法警察官ノ職務ヲ行フ者其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ヲ司法警察官ニ先テ告知シタルトキハ前條ノ場合ニ非スト雖速ニ搜查ニ着手シタル司法警察官ニ通知スヘシ
- 第二十六條 前項ノ場合ニ於テ司法警察官職務ヲ行フニ至リタルトキハ之ニ讓リ且必要ナル援助ヲ爲スヘシ
- 第二十七條 司法警察官司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ先テ其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ヲ覺知シ第二十一條ノ場合ニ該當スルトキハ急遽ヲ要スル處分ヲ爲シタル上速ニ司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ其ノ旨ヲ通知シテ搜查ヲ委ネ且必要ナル援助ヲ爲スヘシ
- 第二十八條 司法警察官司法警察官ノ職務ヲ行フ者搜查ニ着手スルニ當リテハ其ノ事件ノ範圍ニ屬スルヤ否ニ付慎重ナル注意ヲ爲スヘシ
- 第二十九條 通告處分ヲ認メタル犯罪事件ニ付テハ該當官吏ノ告發アル迄ハ司法警察官又ハ其ノ搜查ヲ當該官吏ニ一任スヘシ但シ該當官吏ノ求アルトキハ必要ナル援助ヲ爲スヘシ
- 第三十條 司法警察ノ職ニ在ル者前項ノ犯罪事件アリト思料スルトキハ

**第二章 搜查ノ端緒**

第三十一條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者搜查ニ着手スルニハ現行犯、告訴、告發、自首其ノ他犯罪アリト思料スルニ至リタル原因ノ如何ニ拘ラサルモノトス

第三十二條 新聞紙其ノ他ノ出版物ノ記事、匿名ノ申告又ハ風説ト雖犯罪ニ關係アルモノハ之ヲ看過スルコトナク相當ノ根據アルコトヲ認メタルトキハ搜查ニ着手スヘシ

第三十三條 司法警察官及其ノ職務ヲ行フ者左ニ掲グル犯罪アリト思料スルトキハ速ニ之ヲ檢事ニ報告スヘシ

一 刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪

二 死刑又ハ無期徒刑ニ該ル罪



- 三 軍機ニ關スル重大ナル罪
- 四 高等官、同待遇者、有爵者、從四位、勳三等及功三級以上ノ者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪
- 五 帝國議會、道會、府縣會及市會ノ議員ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪
- 六 辯護士ノ犯シタル罪
- 七 帝國議會、道會、府縣會及市會ノ議員ノ選舉ニ關スル罪
- 八 勞働爭議及小作爭議ニ關スル重大ナル罪
- 九 治安警察法ニ違反スル重大ナル罪
- 十 新聞紙其ノ他ノ出版物ノ朝憲紊亂、秩序紊亂及風俗壞亂ノ記事ニ關スル罪
- 十一 内外國ノ通貨偽造、變造及模造ニ關スル罪
- 十二 爆發物ニ關スル重大ナル罪
- 十三 公務員ノ職務ニ關スル重大ナル罪
- 十四 法人ノ役員ノ職務ニ關スル重大ナル罪
- 十五 無政府主義者、共產主義者其ノ他社會主義者ノ其ノ主義ニ關スル罪
- 十六 各地方ニ連絡アル重大ナル罪
- 十七 外國人ノ犯シタル罪及外國人ニ對シ犯シタル重大ナル罪
- 十八 公衆ノ耳目ヲ惹ク罪
- 十九 檢事ヨリ特ニ報告ヲ命ジタル罪
- 二十 前項ニ掲グル犯罪ニ付告訴又ハ告發アリタルトモノ犯罪アリト思料スル否ニ拘ラス速ニ檢事ニ報告スヘシ
- 第二十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ告訴又ハ告發アリタルトモノ犯罪ニ對シ、被疑者ノ住所其ノ他管轄ヲ定ムヘキ原由所轄區域内ニ存セザル場合ト雖モ之ヲ受理スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ急遽ヲ要スル處分ヲ爲シタル上速滞ナク之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ差出スヘシ

- 第三十三條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ告訴告發其ノ他犯罪ノ申告ニ關スル書類ヲ差出シタルトモハ之ヲ受ケテ速ニ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ送付スヘシ
- 第三十四條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ犯罪ニ關スル申告アリタル場合ニ於テハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハスニテ受理シ實ニ從テ處理スヘシ
- 第三十五條 委任ニ因ル代理人ノ告訴ニ係ルトモハ委任狀ヲ差出サシムヘシ
- 第三十六條 委任ニ因ル代理人ノ告訴ニ係ルトモハ委任狀ヲ差出サシムヘシ
- 第三十七條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發ヲ受ケタル場合ニ於テハ成ルヘク犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被疑者又ハ關係者ノ住居、氏名其ノ他參考ト爲ルヘキ事實ヲ申立テシメテ之ヲ明ニスヘシ
- 第三十八條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發受ケタル場合ニ於テ其ノ趣旨不明ナルトモハ本人ノ意思ニ適合セザルヘシ
- 第三十九條 犯人ヲ指名シタル告訴又ハ告發ニ付テハ該犯人出ツルナキ否及過賞ノ申立ナキ否ニ付特ニ注意スヘシ
- 第四十條 犯罪ニ關スル申告アリタル者申告ヲ爲シタル後難ラ長ルルノ情狀アルトモハ必要ナル場合ノ外被疑者其ノ他ノ關係者ニ申告者ノ氏名ヲ告グルコトヲ避クヘシ
- 第四十一條 告訴又ハ告發ヲ受ケタルトモハ速滞ナク必要ナル捜査ヲ爲スヘシ

- 第四十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發ニ付増減變更ノ申立ヲ受ケタルトモハ本人ヲシテ其ノ趣旨ヲ記載シタル書類ヲ差出サシムヘシ
- 第四十三條 告訴狀又ハ告發狀ハ告訴又ハ告發ノ取消其ノ他何事ノ事由アルモ之ヲ返付スヘシ
- 第四十四條 告訴又ハ告發ノ取消ハ當該告訴又ハ告發ヲ受ケタルニ非サル司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テモ之ヲ受理スヘシ
- 第四十五條 告訴又ハ告發ノ取消ヲ受ケタルトモハ速ニ之ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出スヘシ
- 第四十六條 第三十一條第二項、第三十二條、第三十六條乃至第三十八條及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ハ自首ニ付テ之ヲ適用ス
- 第四十七條 自首ハ他人ヲシテ其ノ罪ヲ免レシムル爲メ自ラ証ヒ又ハ重キ罪ヲ避クルノ目的ヲ以テ故ラニ輕キ罪ヲ首出スル等ノ場合ヲ指シタルヲ以テ其ノ虛實ニ注意スヘシ
- 第四十八條 司法警察官ノ職ニ在ル者逮捕者又ハ變死ノ疑アル死體ヲ發見シタルトモハ速ニ檢事ニ報告シテ指圖ヲ請フヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ檢事ノ指圖アリテ速ニ要スル檢査ヲ爲スヘシ
- 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢査ヲ命令ニ因リ檢視又ハ檢證ヲ爲シタルトモハ速ニ其ノ結果ヲ報告スヘシ
- 檢事ヨリ檢視ト共ニ檢證ノ命令アリタルトモハ檢證ヲ爲シタル上報告ヲ爲スヘシ

第四章 捜査ノ實行

第一節 通則

- 第四十八條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ公訴ノ起否及遂行ノ資料ヲ蒐集保全シ被疑人ノ所在ヲ追跡スルコトヲ防シ目的トシテ捜査ノ事ニ専ルヘシ
- 第四十九條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ平等犯罪ノ趨勢、犯罪ノ手段及罪證採集ノ方法其ノ他捜査ノ參考ト爲ルヘキ資料ヲ調査シ事案アルニ當リ措置ヲ講ルコトヲ期スヘシ
- 第五十條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者犯罪アリト思料スルトモハ檢事ヨリ別段ノ命令アリタル場合ノ外直ニ捜査ニ着手スヘキモノトシ但シ告訴、告發又ハ自首ニ係ル事件ニ付テハ第四十一條ノ規定ニ依ルヘシ
- 第五十一條 捜査ヲ爲スニハ巨悪ヲ逸セザルコトニ努メ警察ニ涉ラサルコトヲ旨トスヘシ
- 第五十二條 捜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲メ必要ナル限度ニ於テ諸般ノ取調ヲ爲スヘシ但シ法律ニ特ニ定メタル場合ノ外強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス
- 第五十三條 捜査ハ穩健妥當ナル方法ニ依リ之ヲ行ヒ且被疑者其ノ他ノ關係者ノ煩累ヲ少カラシムルコトニ注意スヘシ
- 被疑者其ノ他ノ關係者ノ取調ハ成ルヘク夜間ニ於テハ之ヲ行フコトヲ避クヘシ
- 第五十四條 捜査ニ付テハ濫ニ被疑者其ノ他ノ關係者ノ隱微ヲ許コトナキヲ要ス
- 第五十五條 捜査ヲ爲スニ當リテハ濫ニ人心ヲ動搖セシメザルコトニ注意スヘシ

司法警察職務規範 捜査ノ實行

- 第五十六條 被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルニハ濫ニ法律ノ成語其ノ他難解ノ語ヲ用キズ且平易簡明ヲ旨トシ容易ニ問ノ趣旨ヲ理解セシムルコトニ注意スヘシ
  - 第五十七條 被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルニハ穩和ヲ旨トシ其ノ年、性別、性、格、男女ノ別等ヲ斟酌シテ適當ノ取扱ヲ爲シ其ノ言ハムト欲スル所ヲ盡サシムルコトニ注意スヘシ
  - 第五十八條 捜査ヲ爲スニ當リテハ被疑者ニ付テハ事項ヲ明ニス
- 一 氏名、年齢、職業、本籍、住居及出生地
  - 二 性格、經歷、境遇及素行
  - 三 犯罪ノ原因、性質、方法、情狀、日時、場所、被害ノ狀況及犯罪後ノ情狀
  - 四 前科ノ有無若前科アリタルトモハ其ノ罪名、刑名、刑期、金額、裁判ヲ爲シタル處所及年月日
  - 五 爵、位、勳、功、褒章、記章、恩給、年金ノ有無若之ヲ有スルトモハ其ノ種類、等級
  - 六 兵役ノ關係
- 第五十九條 捜査ヲ爲スニ當リテハ豫斷ヲ避ケ被疑者ノ利益ト爲ルヘキ事情ヲ明ニセムコトヲ期スヘシ
  - 第六十條 被疑者犯罪事實ヲ明白シタルトモ雖モ之ニ適應スル證據ノ有無ヲ取調フルコトニ注意スヘシ
  - 第六十一條 共犯者ハ成ルヘク各別ニ之ヲ取調ヘ其ノ通謀ヲ防キ且附和雷同シテ陳述スルノ弊ナカラシムルコトニ注意スヘシ
  - 第六十二條 證據書類又ハ證據物ハ成ルヘク被疑者ニ示シテ辯解ヲ爲サシムルコトヲ期スヘシ
  - 第六十三條 捜査中ノ事件ニ付新聞記事ノ掲載ヲ禁止スルル必要アリト思料スルトモハ速ニ其ノ事情ヲ具シ檢事ニ申報スヘシ

- 第六十四條 捜査上必要ナルトモハ被疑者其ノ他ノ關係者ニ任意出頭ヲ求メ又ハ其ノ所在ニ就キ若ハ承諾ヲ得テ犯所其ノ他ノ場所ニ同行シ其ノ陳述ヲ聽クコトヲ得
- 第六十五條 被疑者其ノ他ノ關係者ノ陳述ヲ聽クタルトモハ自ラ之ヲ録取スヘシ
- 第六十六條 事實簡單ナルカ又ハ特別ノ事情アルトモハ聽取書ヲ作ラシテ任意書面ヲ差出サシムルコトヲ得
- 第六十七條 被疑者其ノ他ノ關係者ノ陳述ヲ聽クタルトモハ被疑事件ノ證據ト爲ルヘキ物ハ所有者、所持者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ取調スルコトヲ得證據ト爲ルコトアルヘシ
- 第六十八條 質屋取締法第十六條又ハ古物商取締法第十七條ニ依リ證據物ニ付テハ其ノ種類、数量、品目、數量、被疑者ノ氏名、住居及領置年月日ヲ記載シタル領置書ヲ作り且領置物ニ付テハ番號及被領置者ノ氏名ヲ表示スヘシ
- 第六十九條 領置物ニ付テハ其ノ種類、番號、品目、數量、被疑者ノ氏名、住居及領置年月日ヲ記載シタル領置書ヲ作り且領置物ニ付テハ番號及被領置者ノ氏名ヲ表示スヘシ
- 第七十條 領置物ハ證據物又ハ沒收スルモノニ非サルコト其ノ他領置ノ必要ナキコト明ナルニ至リタルトモハ差出人ニ還付スヘシ
- 第七十一條 領置物ハ證據物又ハ沒收スルモノニ非サルコト其ノ他領置ノ必要ナキコト明ナルニ至リタルトモハ差出人ニ還付スヘシ
- 第七十二條 領置物ニ付テハ其ノ種類、番號、品目、數量、被疑者ノ氏名、住居及領置年月日ヲ記載シタル領置書ヲ作り且領置物ニ付テハ番號及被領置者ノ氏名ヲ表示スヘシ



領置物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求アルトキハ一時留置ラ解クモ捜査ニ妨ナキ場合ニ限リ假ニ之ヲ請求者ニ還付スルコトヲ得差出人ニ非サル者ノ請求ニ因リ假還付ヲ爲スニハ前項ノ手續ニ依ルヘシ

前二項ノ場合ニ於テ差出人ノ承諾ヲ得タルトキハ承諾書ヲ差出サシムヘシ

領置物ヲ還付シ又ハ假還付ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ領置書ニ記載シ且請書ヲ添付スヘシ

第七十條 犯所其ノ他ノ場所ニ就キ實況ヲ明ニスルノ必要アルトキハ其ノ場所ノ所有者、保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ得テ見分ヲ爲スコトヲ得

實況見分ニ著手シタル後檢事ノ見分又ハ應檢ヲ必要ト思料スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告シ自ラ見分ヲ行フコトト否ラ問ハス原状ヲ保存シ置クヘシ

實況見分シタルトキハ其ノ狀況ヲ録取スヘシ但シ引續キ檢事見分又ハ應檢ヲ爲シ檢事ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條 鑑定ヲ必要トスルトキハ特別ノ學識經驗アル者ニ之ヲ囑託スルコトヲ得鑑定ヲ囑託スルニハ誠實ニ鑑定ヲ爲シ得ヘキ者ヲ選定スルコトニ注意スヘシ

鑑定ハ官署又ハ公署ニモ之ヲ囑託スルコトヲ得

第七十二條 鑑定ニ因リ人ノ權利ヲ害スルニ至ル場合ハ其ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

物ノ原形ヲ變シ又ハ數量ヲ著シク減損スルニ非サレハ鑑定ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ竊取其ノ他ノ原因ニ因リ檢事ノ指揮アル迄其ノ物ヲ保存シ置キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條 鑑定ヲ爲サシムル場合ニ於テハ成ルヘク鑑定ノ現場ニ立會ヒ檢査ノ參考ト爲ルヘキ事實ヲ發見スルコトニ努ムヘシ

但シ鑑定ノ手續ニ付干渉スルコトヲ得ス

第七十四條 鑑定ヲ爲サシムルトキハ鑑定ノ時、場所、手續及結果ヲ記載シタル鑑定書ヲ提出セシムヘシ

鑑定書ニシテ不明又ハ不備ノ點アルトキハ其ノ説明書ヲ提出セシメ鑑定書ニ添付スヘシ

第三節 強制捜査

第七十五條 刑事訴訟法第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若シテ受取リタル場合其ノ他法律ニ定メタル場合ノ外捜査ニ付強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十六條 強制ノ處分ヲ爲サシムルニハ法律ニ定メタル場合ニ該當スルヤ否ニ付慎重ノ考慮ヲ爲シ其ノ場合ニ該當スルコトヲ明認シタル上之ヲ爲スヘシ

強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テモ特ニ其ノ必要アルトキノ外之ヲ爲スコトヲ得

強制ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ嚴ニ必要ノ限度ヲ超エサルコトニ注意スヘシ

第七十七條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者捜査ニ付強制ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ之ニ關スル書類ハ自ラ之ヲ作ルヘシ

被疑者、證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ立會ヒタル司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ調書ヲ末尾ニ其ノ旨ヲ附記シ署名捺印スヘシ

第七十八條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者捜査ニ付判事ノ強制處分ヲ必要トスル事情アリト思料スルトキハ狀ヲ具シテ檢事ニ申報スヘシ

第七十九條 現行犯人ヲ逮捕スルニハ眼メテ適當ノ方法ヲ用キ苦酷ニ涉ラサルコトニ注意スヘシ

現行犯人兇器ヲ持シ抗拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ス劍銃等ヲ使用スルモ決シテ自衛ノ範圍ヲ越ユヘカラス

第八十條 常人ニシテ現行犯人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サシムルモフルトキハ成ルヘク其ノ便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ルヘシ

第八十一條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヨリ其ノ逮捕シタル現行犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕ノ事由ヲ聽取リ逮捕調書ヲ作成スヘシ但シ逮捕手續書ヲ微シテ之ニ代フルコトヲ得

司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者常人ヨリ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ要領ヲ記載シタル逮捕調書ヲ作成スヘシ

司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者常人ヨリ受取リタル現行犯人ヲ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ引致シタルトキハ速ニ逮捕調書ヲ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ差出スヘシ

第八十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ其ノ犯罪報告書ニテ告訴ナキトキハ速ニ告訴權者ニ就キ告訴ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十三條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者刑事訴訟法第二百二十三條各號ノ場合ニ於テ勾引ヲ必要トスル事情アリト思料スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

檢事ノ命令ニ因リ發スル勾引狀ニハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及命令ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第八十四條 被疑者ニ對スル訊問及被疑者ノ供述ハ即時ニ調書ニ記載スヘシ

第八十五條 證據物又ハ沒收スヘキ物ヲ所持スルノ疑アル場合ト雖滅滅ノ成アルトキノ外成ルヘク檢査ヲ爲サシムル人ヲシテ之ヲ差出サシムヘシ

第八十六條 押収又ハ捜査ヲ爲スニハ成ルヘク其ノ範圍ヲ廣クセサルコトニ注意スヘシ

第八十七條 軍事上秘密ヲ要スル場所ニ於テ押収、捜査又ハ檢査ヲ爲スノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル報告書ヲ作り假押収ノ調書及押収物ト共ニ檢事ニ送付シ且其ノ犯罪ノ捜査ニ付機宜ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ

第九十四條 刑事訴訟法第二百六十四條第三項ニ依リ廢棄處分ヲ爲シ又ハ同法第二百六十五條ニ依リ廢棄處分ヲ爲ス場合ニ於テハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ急遽ヲ要スル場合ハ其ノ處分ヲ爲シタル後速ニ檢事ニ報告スヘシ

第九十五條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢事又ハ他ノ司法警察官若ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ命令又ハ囑託ニ因リ押収ヲ爲シタルトキハ速ニ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ押収物ヲ送付スヘシ

刑事訴訟法第二百六十四條第二項ニ依リ看守又ハ保管ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告スヘシ

同條第三項ニ依リ廢棄處分ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告シテ指揮又ハ承諾ヲ受クヘシ但シ急遽ヲ要スル場合ハ其ノ處分ヲ爲シタル後速ニ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告スヘシ

同法第二百六十五條ニ依リ廢棄處分ヲ爲スノ必要アリト思料スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告シテ其ノ處分ニ妥スヘシ

第九十六條 第六十七條乃至第六十九條ノ規定ハ本節ノ押収ニ付之ヲ準用ス

第九十七條 檢査ノ處分ニ因リ原狀ヲ變更シタルトキハ成ルヘク舊態ニ復スヘシ

死體ノ解剖、墳墓ノ發掘又ハ貴重品ノ毀壞ヲ必要トスルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ檢事ノ命令ニ因リ變死者又ハ變死ノ疑アル死體ヲ檢査スル場合ニ於テ解剖ヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テ遺族ナキモ近

親アルトキハ成ルヘク之ニ通知スヘシ

第九十八條 證人ニハ主トシテ見聞其ノ他實際ノ事實ヲ供述セシメ成ルヘク推測ノ事項ヲ供述セシムルコトヲ避クヘシ

第九十九條 證人ヲ被疑者又ハ他ノ證人ト對質セシムルニハ其ノ時機ニ注意シ且兩者間ノ關係ヲ顧慮シテ適當ナル發問ヲ爲シ眞實ノ供述ヲ爲サシムルコトヲ努ムヘシ

第一百條 證人ニ對スル訊問及證人ノ供述ハ即時ニ調書ニ記載スヘシ

證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキ處分ヲ裁判所ニ請求スルニハ其ノ裁判所ノ檢事ヲ經由シテ請求書ヲ差出スヘシ

第一百條 鑑定ニ付死體ノ解剖又ハ貴重品ノ毀壞ヲ必要トシテ鑑定人ヨリ其ノ許可ヲ求メタルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ廢敗其ノ他ノ原因ニ因リ檢事ノ指揮アル迄其ノ物ヲ保存シ置キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

死體ヲ解剖スル場合ニ於テハ鑑定人ト共ニ願意ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知シ遺族ナキモ近親アルトキハ成ルヘク之ニ通知スルノ處置ヲ執ルヘシ

第一百條 第七十一條乃至第七十四條及第一百條ノ規定ハ本節ノ鑑定ニ付之ヲ準用ス

請フヘシ

第八十八條 賭博、竊盜又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルルモノト認ムヘキ場所ノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船ノ内ニ於テ押収、捜査又ハ檢査ヲ爲スニ當リ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ求アリタルトキハ檢査ニ妨ナキ限リ被疑事件ヲ告グヘシ

第九十條 押収又ハ捜査ハ特別ノ事情アル場合ノ外其ノ處分ヲ受クル者ノ業務ヲ妨ケ信用ヲ損シ其ノ他利益ヲ害スルコト多カルヘキ時刻ニ於テハ之ヲ行フコトヲ避クヘシ

人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船ノ内ニ於テ日没前押収又ハ捜査ニ著手シ日没後其ノ處分ヲ繼續スル場合ニハ特ニ迅速ニ之ヲ了スルコトニ注意スヘシ

第九十一條 刑事訴訟法第二百五十六條各號ノ場所ニ於テ日出前、日没後押収又ハ捜査ヲ爲ス場合ニ於テモ成ルヘク住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ求ムヘシ

同條第二號ノ場所ニ於テ公開時間内押収又ハ捜査ニ著手シタルトキハ公開時間外ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得但シ迅速ニ之ヲ了スルコトニ注意スヘシ

第九十二條 押収又ハ捜査ヲ爲スニハ適當ノ方法ヲ用キ蓋ニ建造物、器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス

押収又ハ捜査ヲ爲スニ當リテハ書類其ノ他ノ物ノ紛亂セザルコトニ注意シ且其ノ處分ヲ終ヘタルトキハ成ルヘク原狀ニ復スヘシ

第九十三條 押収又ハ捜査ヲ爲スニ當リテハ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假押収ノ手續ヲ爲スヘシ

第五節 令狀ノ執行

第九十四條 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ノ指揮ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ若シテ其ノ手續遲延スルノ事情アルトキハ其ノ旨ヲ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ

勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ニ指定セラレタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ又ハ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スル虞アルトキハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第五節 令狀ノ執行

第九十四條 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ノ指揮ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ若シテ其ノ手續遲延スルノ事情アルトキハ其ノ旨ヲ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ

勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ニ指定セラレタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ又ハ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スル虞アルトキハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ



司法警察職務規程 令狀ノ執行

前二項ノ規定ハ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者命令若クハ囑託ニ因リ勾引狀ヲ發シ又ハ命令ニ因リ逮捕狀ヲ發シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五條 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ハ指揮ヲ受ケタル當該司法警察ノ職ニ在ル者ノミナラス其ノ官署ニ勤務スル他ノ司法警察ノ職ニ在ル者ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第六條 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ニ指定セラレタル者管轄區域外ニ在ルトキハ其ノ地ヲ管轄スル司法警察官ニ勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ヲ送付シテ執行ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ命令若クハ囑託ヲ爲シタル官署又ハ執行ノ指揮ヲ爲シタル官署其ノ他ノ官署ニ報告ス

第七條 司法警察官命令若クハ囑託ニ因リ發シタル勾引狀又ハ命令ニ因リ發シタル逮捕狀ヲ執行シタルトキハ其ノ原本ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ差出ス

第八條 司法警察官出頭義務ヲ履行セザル證人ニ對シテ自ラ發シタル勾引狀ヲ執行シタルトキハ其ノ原本ヲ調書ト共ニ檢事ニ送付ス

第九條 裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事又ハ區裁判所判事ノ發シタル押收又ハ捜索ノ命令狀ハ之ヲ受ケタル當該司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ノミナラス其ノ官署

第十條 裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事又ハ區裁判所判事ノ發シタル押收又ハ捜索ノ命令狀ハ之ヲ受ケタル當該司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ノミナラス其ノ官署

第十一條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第十三條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

司法警察職務規程 令狀ノ執行

第十四條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第十五條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第十六條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第十七條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第十八條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第十九條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第二十條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第二十一條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第二十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第二十三條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

司法警察職務規程 令狀ノ執行

第二十四條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第二十五條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第二十六條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第二十七條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第二十八條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第二十九條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第三十條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第三十一條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第三十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

第三十三條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付テハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還ス

司法警察職務規程

外國人ニ關スル特別

外國人ニ關スル特別

外國人ニ關スル特別

スル場所ニ於テハ捜査其ノ他ノ處分ヲ爲スヘカラス

第二十七條 重大ナル罪ヲ犯シタル者逃亡シテ前條ニ掲ケタル所ニ入リタル場合ニ於テ猶豫スヘカラストキハ大公使又ハ之ニ代ルヘキ權限アル者ノ許諾ヲ受ケ捜査ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 重大ナル罪ヲ犯シタル者帝國ノ領海ニ在ル外國軍艦ニ現在スル場合ニ於テ急遽ヲ要スルトキハ其ノ艦長ニ對シテ任意ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 外國軍艦ニ屬スル軍人、進軍人其ノ軍艦ヲ離レ帝國内ニ於テ現ニ罪ヲ犯シ猶豫スヘカラス場合ニ於テハ逮捕ノ處分ヲ爲シタル上速ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フ

第三十條 任命國ノ國民タル帝國駐在ノ外國總領事、領事、副領事、領事事務官及代理領事ニ對シテ被疑事件ニ付テハ檢事ノ指揮アルニ非サレハ急遽ヲ要スル處分ト雖之ヲ爲スコトヲ得但シ重大ナル罪ヲ犯シ猶豫スヘカラス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 帝國駐在ノ外國領事官ノ所有又ハ所持スル書類ニシテ職務ニ關係アルモノハ之ヲ檢閲シ又ハ差押フルコトヲ得

第三十二條 帝國領海ニ在ル外國船舶内ノ犯罪ニ付テハ左ノ場合ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ

一 帝國ノ陸上又ハ港内ノ安寧秩序ヲ害スルトキ

二 乗組員以外ノ者又ハ帝國臣民ニ關係アルトキ

前項ニ掲ケタル場合ノ外特ニ捜査ノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フ

第三十三條 帝國ノ領海ニ在ル外國船舶ノ航行ノ停止ヲ必要ナリト認ムルトキハ直ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フ

第三十四條 外國人口頭ヲ以テ告訴、告發、請求又ハ自首ヲ爲サムル場合ニ於テ國語ニ通セザルトキハ成ルヘク通事ヲシテ通譯ヲ爲サシム

第三十五條 外國人ヨリ外國語ヲ以テ記載シタル告訴狀、告發狀其ノ他ノ書類ヲ提出シタルトキハ之ヲ受理シタル上成ルヘク譯文ヲ提出セシム

第三十六條 被疑者外國人ナル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ明ニス

一 國籍

二 帝國ニ來リタル時期及目的

三 本國ヲ去リタル時期

四 外國ニ於テノ受刑ノ有無

五 家族ノ有無及其ノ住居

第三十七條 被疑者其ノ他ノ關係者外國人ニシテ國語ニ通セザルトキハ通事ヲ用テ取調ヲ爲シ其ノ調書ハ通事ニ依リ本人ニ讀聞カセ通事及本人ヲシテ署名又ハ署名捺印セシム

第三十八條 外國ノ公務員又ハ公務員トシテ其ノ知得タル事實ニシテ本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキ又ハ外國人其ノ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ供述ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條 外國人ニ對シテ發シタル召喚狀、勾引狀又ハ逮捕狀ニハ成ルヘク譯文ヲ添付ス

第四十條 外國人ニ對シテ勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ成ルヘク其ノ國語ニ通スル者ヲシテ之ニ當ラシム

第四十一條 外國人ニ對シテ押收調書若ハ押收目録ノ原本若ハ抄本又ハ領置ニ關スル受領書ヲ交付スルトキハ成ルヘク之ニ譯文ヲ添付ス

第四十二條 外國船舶乗組員ノ逮捕、留置又ハ逃亡犯罪人ニ關シテ檢事ノ指揮ニ因リ取扱ヒタル事項ニ付テハ速ニ檢事ニ報告ス

第四十三條 逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ檢事ノ發シタル逮捕狀、假逮捕狀ヲ執行スルニ當リ本人ノ携帶品ヲ差押ヘタルトキハ其ノ目録ヲ作リ本人ト共ニ檢事ニ引渡ス

〔備考〕

本規程ニ於テ司法警察ノ職ニ在ル者ト稱スルハ司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ヲ謂フ

外國人ニ關スル特別











本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第七十八號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行ス)  
明治十八年第十二號布告ハ之ヲ廢止ス

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セザル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス  
第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得  
第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メザル者ハ「一圓ヲ一日」ニ折算シテ之ヲ留置ス其「一圓」ニ滿サル者ト雖モ仍ホ「一日」ニ計算ス  
第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ「一日ヲ一圓」ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サザル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス  
第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セザル時ハ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フ  
第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ  
第十三條 留置ノ日數ハ「一日ヲ一圓」ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

● 違警罪即決例

(明治十八年九月二十四日)  
本政官布告第三十一號

明治十四年九月第四拾四號布告及同年十二月第八拾號布告ヲ廢止シ違警罪即決例別紙ノ通制定ス  
右奉 勅旨布告候事  
(別紙)

違警罪即決例

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル「違警罪」ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒズ被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ  
又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セザル時ハ直チニ其言渡ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ「違警罪裁判所」ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ「違警罪裁判所」檢察官ニ送

達スルコトヲ得

第七條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ「一日ヲ一圓」ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サザル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第八條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セザル時ハ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フ

第九條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十條 留置ノ日數ハ「一日ヲ一圓」ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

違警罪即決例



●陪審法

(大正十二年四月十八日) 法律第五十號

朕極密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル陪審法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 裁判所ハ本法ノ定ムル所ニ依リ刑事事件ニ付陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲スコトヲ得
第二條 死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス
第三條 長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス
第四條 左ニ掲グル罪ニ該ル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ陪審ノ評議ニ付ス
一 大審院ノ特別權限ニ屬スル罪
二 刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪
三 軍機保護法、陸軍刑法又ハ海軍刑法ノ罪其ノ他軍機ニ關シテ犯シタル罪
四 法令ニ依リテ行フ公選ニ關シテ犯シタル罪
第五條 第三條ノ請求ハ第一回公判期日前ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ期日前ト雖最初ニ定ムル公判期日ノ召喚ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得
第六條 被告人ハ檢事ノ被告事件陳述前ハ何時ニテモ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケルコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得
第七條 被告人公判又ハ公判準備ニ於ケル取調ニ於テ公訴事實ヲ認メタルトキハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得但シ

シ共同被告人中公訴事實ヲ認メサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス
第八條 地方ノ情況ニ由リ陪審ノ評議公平ヲ失スルノ虞アルトキハ檢事ハ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得
第九條 陪審員タル者ニ付前項ノ請求アリタルトキハ訴訟手續ヲ停止スヘシ
第十條 前條第一項ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ
第十一條 前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知シ且請求書ノ原本ヲ被告人ニ交付スヘシ
第十二條 被告人ハ勝本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ意見書ヲ差出スコトヲ得
第十三條 管轄裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ
第十四條 管轄移轉ノ請求アリタルトキハ被告人ハ檢事ノ被告事件陳述後ト雖其ノ決定アル迄事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケルコトヲ得
第十五條 被告人事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタルニ因リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘカサルニ至リタルトキハ檢事ノ管轄移轉ノ請求ハ之ヲ取下ケタルモノト看做ス
第十六條 共同被告人中事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタル者アルトキ其ノ被告人ニ關スル管轄移轉ノ請求ニ付亦前項ノ同シ
第十七條 上訴裁判所ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第二章 陪審員及陪審ノ構成

第一條 帝國臣民タル男子ニシテ二十歳以上タルコト
第二條 引續キ二年以上同一市町村内ニ住居スルコト
第三條 引續キ二年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト
第四條 讀ミ書キヲ爲シ得ルコト
前項第二號及第三號ノ要件ハ其ノ年九月一日ノ現在ニ依ル
第十三條 左ニ掲グル者ハ陪審員タルコトヲ得ス
一 禁治産者、準禁治産者
二 破産者ニシテ復權ヲ得サルモノ
三 墮者、啞者、盲者
四 懲役、六年以上ノ禁錮、舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ重禁錮ニ處セラレタル者
第十四條 左ニ掲グル者ハ陪審員ノ職務ニ就カシムルコトヲ得ス
一 國務大臣
二 在職ノ判事、檢事、陸軍法務官、海軍法務官
三 在職ノ行政裁判所長官、行政裁判所評定官
四 在職ノ官内官吏
五 現役ノ陸軍軍人、海軍軍人
六 在職ノ廳府縣長官、郡長、島司、廳支廳長
七 在職ノ警察官吏
八 在職ノ監獄官吏
九 在職ノ裁判所書記長、裁判所書記
十 在職ノ收稅官吏、稅關官吏、專賣官吏
十一 郵便電信電話鐵道及軌道ノ現業ニ従事スル者
十二 市町村長
十三 辯護士、辨理士
十四 公證人、執達吏、代書人
十五 在職ノ小學校教員
十六 神官、神職、僧侶、諸宗教師

第十七條 醫師、齒科醫師、藥劑師
第十八條 學生、生徒
第十五條 陪審員ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ
一 陪審員被審者ナルトキ
二 陪審員私訴當事者ナルトキ
三 陪審員被審人、被審者若ハ私訴當事者ノ親族ナルトキ又ハ親族タルトキ
四 陪審員被審人、被審者又ハ私訴當事者ノ屬スル家ノ戶主又ハ家族ナルトキ
五 陪審員被審人、被審者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ
六 陪審員被審人、被審者又ハ私訴當事者ノ同居人又ハ雇人ナルトキ
七 陪審員事件ニ付告發ヲ爲シタルトキ
八 陪審員事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ
九 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ
十 陪審員事件ニ付判事、檢事、司法警察官又ハ陪審員トシテ職務ヲ行ヒタルトキ
第十六條 左ニ掲グル者ハ陪審員ノ職務ヲ辭スルコトヲ得
一 六十歳以上ノ者
二 在職ノ官吏、公吏、教員
三 貴族院議員、衆議院議員及法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員但シ會期中ニ限ル
第十七條 市町村長ハ毎年陪審員資格者名簿ヲ調製シ九月一日現在ニ依リ其ノ市町村内ニ於テ資格ヲ有スル者ヲ之ニ登錄スヘシ
陪審員資格者名簿ニハ資格者ノ氏名、身分、職業、住居地、生年月日及納稅額ヲ記載スヘシ

市町村長ハ陪審員資格者名簿ノ副本ヲ調製シ之ヲ管轄區裁判所送付スヘシ
第十八條 市町村長ハ十月一日ヨリ七日間其ノ職ニ於テ陪審員資格者名簿ヲ縦覽ニ供スヘシ
第十九條 法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登錄セラレタル者ハ從寬期間内及其ノ後七日内ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登錄セラレタル者ハ前項ノ規定ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
異議ノ申立ハ書面ヲ以テシ其ノ理由ヲ疏明スヘシ
第二十條 市町村長異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ遲滞ナク陪審員資格者名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ管轄區裁判所判事及異議申立人ニ通知スヘシ
市町村長異議ノ申立ヲ不當トスルトキハ遲滞ナク意見ヲ附シ申立書ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ
第二十一條 前條第二項ノ場合ニ於テ區裁判所判事異議ノ申立ヲ理由ナシトスルトキハ其ノ旨ヲ市町村長及異議申立人ニ通知スヘシ異議ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ陪審員資格者名簿ヲ修正スヘキコトヲ命ジ其ノ旨ヲ異議申立人ニ通知スヘシ
前項ノ通知ハ異議申立書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ
第二十二條 地方裁判所長ハ毎年九月一日迄翌年所要ノ陪審員ノ員數ヲ定メ管轄區域内ノ市町村ニ割當テ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ
第二十三條 市町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ整理シタル陪審員資格者名簿ニ基キ抽籤ヲ以テ前條ノ規定ニ依リ割當テラレタル員數ノ陪審員候補者ヲ選定シ陪審員候補者名簿ヲ調製スヘシ
前項ノ抽籤ハ資格者三人以上ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十七條第二項及第三項ノ規定ハ陪審員候補者名簿ニ之ヲ準用ス
第二十四條 區裁判所判事ハ陪審員候補者ノ選定ニ關スル事務ニ付市町村長ヲ監督ス
區裁判所判事ハ前項ノ事務ニ付市町村長ニ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得
第二十五條 市町村長ハ十一月三十日迄ニ陪審員候補者名簿ヲ管轄地方裁判所長ニ送付スヘシ
市町村長ハ陪審員候補者名簿ニ登錄セラレタル者ニ其ノ旨ヲ通知シ且其ノ氏名ヲ告示スヘシ
第二十六條 市町村長前條ノ規定ニ依リ陪審員候補者名簿ヲ送付シタル後其ノ候補者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ遲滞ナク之ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スヘシ
第二十七條 陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付公判期日定リタルトキハ地方裁判所長ハ豫メ定メタル市町村ノ順序ニ依リ各陪審員候補者名簿ヨリ一人又ハ數人ノ陪審員ヲ抽籤シ陪審員三十六人ヲ選定スヘシ
前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
第二十八條 陪審員トシテ呼出ニ應ジタル者ハ其ノ市町村ニ於ケル陪審員候補者名簿ニ登錄セラレタル者四分ノ三呼出ニ應ジタル後ニ非サレハ其ノ年内再ヒ陪審員ニ選定セラレルコトナシ
第二十九條 陪審員ハ十二人ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成ス
第三十條 陪審員ハ檢事被告事件ヲ陳述スル時ヨリ裁判所書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄同一陪審員ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ要ス
第三十一條 裁判長ハ事件二日以上引續キ開廷ヲ要スト思料スルトキハ十二人ノ陪審員ノ外一人又ハ數人ノ補充陪審員



陪審法 陪審手續

三 公判ニ立會ハシムルコトヲ得
補充陪審員ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由
ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ之ニ代ルモノトス
補充陪審員數人アル場合ニ於テ前項ノ職務ヲ行フハ第六
十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ依ル
第三十二條 同日ニ數箇ノ事件ノ公判ヲ開ク場合ニ於テハ數箇
ノ事件ニ付同一ノ陪審員ヲ以テ陪審ヲ構成スルコトヲ得此ノ
場合ニ於テハ最初ノ事件ノ取調前其ノ手續ヲ爲スヘシ
第三十三條 檢察及被告人異議ナキトキハ一ノ事件ノ爲構成セ
ラレタル陪審員同日ニ審理スヘキ他ノ事件ノ爲其ノ職務ヲ
行ハシムルコトヲ得
第三十四條 陪審員ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費、日當及
止宿料ヲ給與ス

第三章 陪審手續

第一節 公判準備

第三十五條 陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付テハ裁判長ハ公判
準備期日ヲ定ムヘシ
第三十六條 被告人公判準備期日前辯護人ヲ選任セザルトキ
ハ裁判長ハ其ノ裁判所所在地ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘ
シ
被告人ノ利害相反セザルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯
護ヲ爲サシムルコトヲ得
第三十七條 公判準備期日ニハ被告人及辯護人ヲ召喚スヘ
シ
公判準備期日ハ之ヲ檢察ニ通知スヘシ
第三十八條 召喚狀ノ送達ノ日ト公判準備期日トノ間ニハ少ク
トモ五日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ
第三十九條 公判期日ヲ定ムル後被告人ノ請求ニ因リ事件ヲ

陪審ノ評議ニ付スヘキモノトシタルトキハ其ノ公判期日ヲ公判
準備期日トス
第四十條 公判準備期日ニ於ケル取調ハ定數ノ判事、檢察及
裁判所書記列席シテ之ヲ爲ス
公判準備期日ニ於テハ辯護人出頭スルニ非サレハ取調ヲ爲
スコトヲ得ズ辯護人數人アルトキハ其ノ一人ノ出頭ヲ以テ足
ル
公判準備期日ニ於ケル取調ハ之ヲ公行セズ
第四十一條 第二條ノ規定ニ依リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルト
キハ裁判長ハ被告人ニ對シ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ
辭シ得ヘキ旨ヲ告知スヘシ
第四十二條 公判準備期日ニ於テハ裁判長ハ公訴事實ニ付
出頭シタル被告人ヲ訊問スヘシ
陪審判事ハ裁判長ニ告ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得
檢察及辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人ヲ訊問スルコト
ヲ得
第四十三條 公判準備期日ニ於テハ裁判所ハ必要ナル證據調
査決定ヲ爲スヘシ
檢察、被告人及辯護人ハ證人訊問、鑑定、檢證又ハ證
據物若ハ證據書類ノ集取ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ヲ却下スルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ
第四十四條 裁判所書記ハ公判準備期日ヲ公判準備期
日ニ於ケル被告人ニ對シ訊問及其ノ供述、檢察被告人
辯護人ノ申立、裁判所ノ裁判其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記
載スヘシ
第四十五條 公判準備期日ニハ前條ノ規定スル事項ノ外被告
事件、被告人及出頭シタル辯護人ノ氏名並手續ヲ爲シタル
裁判所年月日及裁判長陪審判事檢察裁判所書記ノ
官氏名ヲ記載シ被告人出頭セザルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘ
シ

第四十六條 公判準備期日ハ三日内ニ之ヲ整理シ裁判長及
裁判所書記署名捺印スヘシ
裁判長ハ署名捺印前ニ公判準備期日ヲ檢閲シ意見アルト
キハ其ノ旨ヲ記載スヘシ
第四十七條 檢察、被告人及辯護人ハ公判準備期日前第四
十三條第二項ノ請求ヲ爲スコトヲ得公判期日七日前迄亦
同シ
第四十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四十八條 裁判所公判準備期日外ニ於テ證據決定ヲ爲シタ
ルトキハ之ヲ檢察、被告人及辯護人ニ通知スヘシ
第四十九條 公判準備期日外ニ於テ證人又ハ鑑定人ノ訊問ヲ
爲ストキハ被告人モ亦之ニ立會フコトヲ得
裁判所外ニ於テ前項ノ手續ヲ爲ストキハ拘禁セラレタル被告
人ハ之ニ立會フコトヲ得ズ但シ裁判所必要ト認ムルトキハ之
ニ立會ハシムルコトヲ得
第五十條 前條第一項ノ手續ヲ爲スヘキ日時及場所ハ被告人
ニ之ヲ通知スヘシ但シ急遽ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第五十一條 公判準備期日陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付テハ
公判準備期日ニ於テ前項ノ事由生シタルトキハ其ノ期日ヲ
公判期日トス但シ訴訟關係人中出頭セザル者アルトキハ此ノ
限ニ在ラズ
第五十二條 被告人ハ公判準備期日ニ當リ申立ヲ爲スコ
トヲ得
前項ノ申立ハ檢察ヲ經タル事件ニ付テハ檢察判事ニ對シテ
其ノ申立ヲ爲シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ズ
第五十三條 裁判所公判準備期日ニ公訴棄却又ハ當該違ノ
理由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ
第五十四條 裁判所公判準備期日ニ免訴ノ理由アルコトヲ認メ
タルトキハ決定ヲ爲スヘシ

免訴ノ決定確定シタルトキハ同一ノ事件ニ付更ニ公訴ヲ提
起スルコトヲ得ズ
第五十五條 前二條ノ決定ヲ爲スニハ訴訟關係人ノ意見ヲ聽ク
ヘシ
決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第五十六條 第五十一條又ハ第五十三條ノ場合ニ於テ公判
準備中ニ爲シタル手續ハ其ノ效力ヲ失ハズ
第五十七條 公判期日ニハ第二十七條ノ規定ニ依リ選定シ
タル陪審員ヲ呼出スヘシ
第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第五十八條 陪審員ニ對シテ呼出狀ニハ出頭スヘキ日時、場所
及呼出ニ應ゼザルトキハ過料ニ處スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘ
シ
第五十九條 陪審員疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ呼
出ニ應ズルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ職務ヲ辭スルコトヲ得
此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ事由ヲ説明スヘシ

第二節 公判手續及公判裁判

第六十條 陪審構成ノ手續ハ判事、檢察、裁判所書記、被告
人、辯護人及陪審員列席シ公判廷ニ於テ之ヲ行フ
前項ノ手續ハ之ヲ公行セズ
第六十一條 前條第一項ノ手續ハ陪審員二十四人以上出頭
スルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ズ
出頭シタル陪審員二十四人ニ達セザルトキハ裁判長ハ之ヲ補
充スル爲裁判所所在地又ハ其ノ附近ノ市町村ノ陪審員候
補者名簿ヨリ抽籤ヲ以テ必要ナル員數ノ陪審員ヲ選定シ便
宜ノ方法ニ依リ之ヲ呼出スヘシ
前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
第六十二條 陪審員二十四人以上出頭シタルトキハ裁判長ハ
其ノ氏名、職業及住居地ヲ記載シタル書面ヲ示シ檢察及被

告人ニ對シ陪審員中除斥セラルヘキ者アリヤ否ヲ問フヘシ
裁判長ハ陪審員ニ被告人ノ氏名、職業及住居地ヲ告ケ除
斥ノ理由アリヤ否ヲ問フヘシ
檢察、被告人及陪審員除斥ノ理由アリトストキハ其ノ旨ノ
申立ヲ爲スヘシ
除斥ノ理由アリトストキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ
第六十三條 出頭シタル陪審員中第十二條乃至第十四條ノ
規定ニ依リ陪審員タル資格ヲ有セザル者アリトストキハ裁判
所ハ決定ヲ爲スヘシ
第六十四條 檢察及被告人ハ陪審員構成スヘキ陪審員及補充
陪審員ノ員數ヲ超過スル員數ニ付各其ノ半數ヲ忌避スルコ
トヲ得忌避スルコトヲ得ヘキ人員奇數ナルトキハ被告人ハ尙一
人ヲ忌避スルコトヲ得
被告人數人アルトキハ忌避ハ共同シテ之ヲ行フ共同ノ方法ニ
付協議整ハサルトキハ忌避ヲ行ハシムル方法ハ裁判長之ヲ定
ム
第六十五條 裁判長ハ陪審員ノ氏名票ヲ抽籤函ニ入レタル後
檢察及被告人ノ忌避スルコトヲ得シ員數ヲ告知スヘシ
裁判長ハ氏名票一葉宛抽籤函ヨリ抽出シテ之ヲ讀ムヘ
シ
裁判長氏名票ヲ讀ムテタルトキハ檢察及被告人ハ承認又ハ忌
避スル旨ヲ陳述スヘシ其ノ順序ハ檢察ヲ先ニシ被告人ヲ後ニ
シ
忌避ノ理由ハ之ヲ陳述スルコトヲ得ズ
次ノ氏名票ヲ抽籤函ヨリ抽出スルニ至ルニ至ラサルトキハ承
認ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣
言スル迄陳述ヲ爲サザルコトヲ得
陳述ハ次ノ氏名票ヲ抽出シタル後ハ之ヲ取消スコトヲ得ズ裁
判長抽籤終リタル旨ヲ宣言シタル後亦同シ
第六十六條 前條ノ手續ニ依リ陪審員構成スヘキ陪審員及補

充陪審員ノ數ヲ充シタルトキハ裁判長ハ抽籤終リタル旨ヲ宣
言スヘシ
第六十七條 陪審員構成スヘキ陪審員ハ初ニ當籤シタル十二人
ヲ以テ之ニ充テ補充陪審員ハ其ノ他ノ當籤者ヲ以テ之ニ充
テス
第六十八條 陪審員ハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ
順序ニ從ヒ若席スヘシ
第六十九條 裁判長ハ檢察ノ被告事件陳述前陪審員ニ對シ
陪審員ノ心得ヲ諭告シ之ヲ宣誓ヲ爲サシムヘシ
宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ
宣誓書ニハ良心ニ從ヒ公平誠實ニ其ノ職務ヲ行フヘキコトヲ
誓フ旨ヲ記載スヘシ
裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ陪審員ヲシテ之ニ署名捺
印セシムヘシ
第七十條 裁判長ハ陪審判事ノ一人ヲシテ被告人ノ訊問及證
據調ヲ爲サシムルコトヲ得
陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事
及翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得
第七十一條 證據ハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外裁判所ノ直接
ニ取調ヘタルモノニ限ル
第七十二條 左ニ掲グル書類圖畫ハ之ヲ證據ト爲スコトヲ得
一 公判準備手續ニ於テ取調ヘタル證人ノ訊問調書
二 檢證、押收又ハ捜索ノ調書及之ヲ補充スル書類圖
畫
三 公務員ノ職務ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘキ事實ニ付
公務員ノ作リタル書類
四 前號ノ事實ニ付外國ノ公務員ノ作リタル書類ニシテ
其ノ真正ナルコトノ證明アルモノ
五 鑑定書又ハ鑑定調書及之ヲ補充スル書類圖畫
第七十三條 裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事其ノ他

陪審法 陪審手續



陪審法 陪審手續

法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢察、司法警察官又ハ訴訟上ノ補助ヲ爲ス外國ノ官署ノ作リタル取調書及之ヲ補充スル書類圖畫ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一 共同被告人若ハ證人死シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ召喚シ難キトキ

二 被告人又ハ證人公判外ノ取調ニ對シテ爲シタル供述ノ重要ナル部分ヲ公判ニ於テ變更シタルトキ

三 被告人又ハ證人公判廷ニ於テ供述ヲ爲サルトキ

第七十四條 前二條ノ場合ノ外裁判外ニ於テ被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ採取シタル書類又ハ裁判外ニ於テ作成シタル書類圖畫ハ供述者若ハ作成者死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ召喚シ難キトキニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十五條 證據ト爲スコトニ付訴訟關係人ノ異議ヲモテ審判官ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十六條 證據調終リタル後檢察、被告人及辯護人ハ犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上及法律上ノ問題ノミニ付意見ヲ陳述ス

辯護人數人アル場合ニ於テ被告人ノ爲ニスル意見ノ陳述ハ重複シテ之ヲ爲スコトヲ得

公判廷ニ現ハレサル證據ハ之ヲ採用スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フ

第七十七條 前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實並證據ノ要領ヲ説示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ有否及事實ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得

第七十八條 裁判長ノ説示ニ對シテハ異議ヲ申立ツコトヲ得

第七十九條 裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ラズト答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲ス

主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル爲メト爲ス

補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムル場合ニ於テ之ヲ爲ス

犯罪ノ成立ヲ阻却スル事由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルトキハ其ノ問ハ他ノ問ト分別シテ之ヲ爲ス

第八十條 陪審員、檢察、被告人及辯護人ハ問ノ變更ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 裁判長ハ問書ニ署名捺印シテ之ヲ陪審ニ交付ス

陪審員ハ問書ノ讀本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第八十二條 裁判長ハ評議ヲ爲サシムル陪審員ヲ評議室ニ退カシム

裁判長ハ公判廷ニ於テ示シタル證據物及證據書類ヲ陪審ニ交付スルコトヲ得

第八十三條 陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議室

了ル前評議室ヲ出テ又ハ他人ト交通スルコトヲ得

陪審員ニ非サル者ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議室ニ入ルコトヲ得

第八十四條 陪審ノ答申前陪審員ヲシテ裁判所ヲ退出セシムル場合ニ於テハ裁判長ハ陪審員ニ對シ留置ノ場所及他人トノ交通ニ關シ遵守スヘキ事項ヲ指示ス

第八十五條 陪審員第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ指示セラレタル事項ヲ遵守セザルトキハ裁判所ハ其ノ陪審員ニ對シ職務ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

第八十六條 陪審員ハ陪審長ヲ互選ス

第八十七條 陪審ハ評議了ル前更ニ説示ヲ請求スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ公判廷ニ於テ其ノ申立ヲ爲ス

第八十八條 答申ハ問ニ對シ然リ又ハ然ラズノ語ヲ以テ之ヲ爲ス

付然リ又ハ然ラズノ語ヲ以テ答申ス

第八十九條 評議ハ先ツ主問ニ付テ之ヲ爲ス

主問ヲ否定シタル場合ニ於テ補問アルトキハ之ニ付評議ヲ爲ス

第九十條 陪審員ハ問ニ付各其ノ意見ヲ表示ス

陪審長ハ最後ニ其ノ意見ヲ表示ス

第九十一條 犯罪構成事實ヲ肯定スルニハ陪審員ノ過半数ノ意見ニ依ルコトヲ要ス

犯罪構成事實ヲ肯定スル陪審員ノ意見其ノ過半数ニ達セザルトキハ之ヲ否定シタルモノトス

第九十二條 答申ハ問書ニ記載シ陪審長署名捺印シテ之ヲ裁判長ニ提出ス

答申ニ不備又ハ齟齬アルトキハ裁判長ハ問書ヲ返付シ更ニ評議ヲ爲シ答申ヲ訂正スヘキ旨ヲ命ス

第九十三條 裁判長ハ公判廷ニ於テ裁判所書記ヲ問及シ之ニ對シ陪審ノ答申ヲ朗讀セシム

第九十四條 前條ノ手續終リタルトキハ裁判長ハ陪審員ヲ退廷セシム

第九十五條 裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハズ決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得

第九十六條 陪審犯罪構成事實ヲ肯定スルノ答申ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所前條ノ決定ヲ爲サザルトキハ檢察ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述ス

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フ

第五章 罰則

第八十七條 陪審員ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 故ナク呼出ニ應ゼザルトキ

二 宣誓ヲ拒ミタルトキ

三 第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

四 故ナク退廷シタルトキ

五 第八十四條ノ指示ニ違反シタルトキ

第八十八條 陪審員評議ノ結果又ハ各員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ事項ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 裁判長ノ許可ヲ受ケズシテ陪審ノ評議室ニ入り又ハ陪審ノ評議了ル前裁判所内ニ於テ陪審員ト交通シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 陪審ノ評議ニ付セラレタル事件ニ付陪審員ニ對シ請託ヲ爲シ又ハ評議了ル前私ニ意見ヲ述ヘタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條 過料ノ裁判ハ陪審員ヲ呼出シタル裁判所檢察ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

第九十二條 前項ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此ノ抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ適用ス

第六章 補則

第九十三條 市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

陪審法 陪審手續 陪審費用

罰則 補則

第九十七條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ判決ノ言渡ヲ爲スニハ裁判所ハ陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル旨ヲ示ス

有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示ス

無罪ノ言渡ヲ爲スニハ犯罪構成事實ヲ認メサルコト又ハ被告ノ事件罪ト爲ラサルコトヲ示ス

第九十八條 引續キ七日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新ス

陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ補充陪審員ナキトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テハ新ニ陪審員ヲ手續ラシ

第九十九條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハズ公訴棄却、管轄違及ハ免訴ノ裁判ヲ爲スヘキ理由アルコトヲ認メタル場合ニ於テハ陪審ノ評議ニ付セスシテ審判ヲ爲ス

第一百條 裁判所書記ハ陪審員ノ氏名、陪審ノ構成其ノ他陪審ニ關スル訴訟手續及裁判長ノ説示ノ要領ヲ公判調書ニ記載ス

第三章 上訴

第一百條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得

第一百條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ大審院ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第一百條 上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ事實ノ誤認ヲ理由トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一百條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一 法律ニ從ヒ陪審ヲ構成セザリシトキ

二 第十二條第一項第一號又ハ第十三條ノ規定ニ依

第四章 陪審費用

第一百條 左ニ掲グルモノヲ以テ陪審費用トシ訴訟費用ノ一部トス

一 陪審員ノ呼出ニ要スル費用

二 陪審員ニ給與スヘキ旅費、日當及止宿料

三 陪審費用ハ第三條ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スコトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ被告人ノ負擔トス



町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ進スルキモ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ進スルキ者ニ之ヲ適用ス

第十二條ノ直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行前公判期日ノ定リタル事件ニ付テハ本法ヲ適用セス

●陪審法中一部施行期日ノ件

(昭和二年五月二十七日)  
勅令第四百四十四號

陪審法第十二條乃至第十四條、第十七條乃至第二十六條、第二百三條及第二百四條ノ規定ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陪審法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件

(昭和二年五月二十七日)  
勅令第四百四十五號

陪審法第十二條乃至第十四條、第十七條乃至第二十六條、第二百三條及第二百四條ノ規定ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ樺太ニ施行ス

●陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件

(昭和二年五月二十七日)  
勅令第四百四十六號

- 一 地 租
- 二 第三種所得稅
- 三 營業收益稅
- 四 砂 礫 區 稅
- 五 乙種資本利子稅
- 六 鑛 業 稅
- 七 市街宅地稅
- 八 漁 業 稅

本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス  
國稅營業稅ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ營業收益稅ト看做ス

●陪審法施行規則

(昭和二年五月二十八日)  
司法省令第十六號

- 第一條 陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製ス
- 第二條 前條ノ名簿ニハ丁數ヲ記入シ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印ス
- 第三條 陪審員資格者名簿ノ副本ハ毎年九月三十日迄ニ管轄區裁判所事務ニ送付ス
- 第四條 陪審員資格者名簿ノ縦覽期間ニハ日曜日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ヲ算入スルコトヲ得
- 第五條 陪審員資格者名簿ノ修正シタルトキハ其ノ異議ノ申立ノ期間ノ末日日曜日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ニ當ルトキ亦前項ニ同シ
- 第六條 陪審員資格者名簿ハ之ヲ縦覽ニ供シタル後ハ名簿中脫漏誤載等アルモ異議ノ申立又ハ區裁判所事務ノ命ニ依ル場合ノ外市町村長限リ之ヲ修正スルコトヲ得
- 第七條 市町村長陪審員資格者名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ年月日及陪審法第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ削除又ハ追加シタル旨ヲ捺印ス
- 第八條 陪審法第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ陪審員資格者名簿ヲ整理シタル後其ノ資格者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ陪審法第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長八名簿ノ欄外ニ其ノ旨ヲ記入シ之ヲ管轄區裁判所事務ニ通知ス
- 第九條 地方裁判所長ハ豫メ翌年一月乃至十二月ニ於ケル陪審事件ノ總數ヲ推算シ之ニ基キ所要ノ陪審員ノ總數ヲ

- 定メ各市町村ニ於ケル陪審員資格者ノ員數ニ之ヲ按分シテ各市町村ニ割當ツヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ適宜ノ標準ニ依リ割當ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 市町村長地方裁判所長ヨリ割當テラレタル陪審員ノ員數ノ通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者抽籤ノ場所及日時ヲ定メ之ヲ告示ス
- 第十一條 市町村長ハ抽籤ノ立會人ヲ選定シ前項ノ期日ヨリ少クモ五日前ニ之ヲ本人ニ通知ス
- 第十二條 陪審員候補者ノ抽籤ハ陪審員資格者名簿ニ掲ケタル資格者ノ番號ニ符合スル番號票ヲ作製シ之ヲ抽籤筒ニ入レ攪拌シタル後一票宛抽籤筒ヨリ所要員數ニ選スル迄抽出ス
- 第十三條 第八條ニ掲ケル者ハ之ヲ抽籤ヨリ除ク
- 第十四條 抽籤筒及番號票ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製ス
- 第十五條 市町村長陪審員候補者ヲ選定シタルトキハ陪審員候補者選定録ヲ作成ス
- 第十六條 陪審員候補者選定録ニハ左ノ事項ヲ記載シ市町村長抽籤ノ立會人ト共ニ署名捺印シ陪審員候補者名簿ノ副本ト併セテ之ヲ保存ス
- 一 選定ノ日時及場所
- 二 抽籤ニ立會ヒタル立會人ノ住所氏名年齢
- 三 割當テラレタル陪審員候補者ノ員數
- 四 第十二條ニ依リ抽籤ヲ除キタル者アルトキハ其ノ氏名及事由
- 五 抽出シタル番號票ノ番號
- 六 其ノ他市町村長ニ於テ必要ト認ムル事項
- 第十七條 市町村長八區裁判所事務ニ送付スルモノノ外陪審員候補者名簿ノ副本ヲ調製シ其ノ屬ニ保存ス
- 第十八條 陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ノ原本



ハ調製ノ日ヨリ五年間之ヲ保存スヘシ

附則

本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス  
(別記様式略ス)

少年法

少年法

少年法

少年法

(大正十一年四月十七日  
法律第四十二號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル少年法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

少年法

第一章 通則

第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ十八歳ニ滿タル者ヲ謂フ  
第二條 少年ノ刑事處分ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外  
一般ノ例ニ依ル  
第三條 本法ハ第七條、第八條、第十條乃至第十四條ノ規  
定ヲ除ク外陸軍刑法第八條、第九條及海軍刑法第八  
條、第九條ニ據ケタル者ニ之ヲ適用セズ

第二章 保護處分

第四條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル  
行爲ヲ爲ス處アル少年ニ對シテハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
一 訓誡ヲ加フルコト  
二 學校長ノ訓誡ニ委スルコト  
三 書面ヲ以テ戒心ノ誓約ヲ爲サシムルコト  
四 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スコト  
五 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコ  
ト  
六 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト  
七 感化院ニ送致スルコト  
八 矯正院ニ送致スルコト  
九 病院ニ送致又ハ委託スルコト  
前項各號ノ處分ハ適當併シテ之ヲ爲スコトヲ得

少年法

通則

保護處分

刑事處分

少年審判所ノ組織

毛

第五條 前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ二十三歳  
ニ至ル迄其ノ執行ヲ繼續シ又ハ其ノ執行ノ繼續中何時ニテ  
モ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得  
第六條 少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ  
許サレタル者ハ猶豫又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ヲ  
受ケ付ス  
第七條 前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ第四條第一項第四號、第  
五號、第七號乃至第九號ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
第八條 前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處  
分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ノ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ  
停止ス

第九條 前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ二十三歳  
ニ至ル迄其ノ執行ヲ繼續シ又ハ其ノ執行ノ繼續中何時ニテ  
モ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得  
第十條 少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ  
許サレタル者ハ猶豫又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ヲ  
受ケ付ス  
第十一條 前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ第四條第一項第四號、第  
五號、第七號乃至第九號ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
第十二條 前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處  
分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ノ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ  
停止ス

第三章 刑事處分

第七條 罪ヲ犯ス時十六歳ニ滿タル者ニハ死刑及無期刑ヲ  
科セス死刑又ハ無期刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ十年以上十  
五年以下ニ於テ懲役又ハ禁錮ヲ科ス  
第八條 少年ニ對シテ長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ  
以テ處斷スヘキトキハ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ  
定メ之ヲ言渡ス但シ短期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷スヘキト  
キハ短期ヲ五年ニ短縮ス  
第九條 前項ノ規定ニ依リ言渡スヘキ刑ノ短期ハ五年長期ハ十年ヲ  
超ユルコトヲ得ス  
第十條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニハ前二項ノ規定ヲ適  
用セズ  
第十一條 懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル少年ニ對シテハ特ニ設  
ケタル監獄又ハ監獄内ノ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ於テ其ノ  
刑ヲ執行ス  
第十二條 本人十八歳ニ達シタル後ト雖二十三歳ニ至ル迄ハ前項ノ規

定ニ依リ執行ヲ繼續スルコトヲ得  
第十三條 少年ニシテ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ニハ左ノ  
期間ヲ經過シタル後假出獄ヲ許スコトヲ得  
一 無期刑ニ付テハ七年  
二 第七條第一項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ三  
年  
三 第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑  
ニ付テハ其ノ刑ノ短期ノ三分ノ一  
第十四條 少年ニシテ無期刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サ  
レタル後其ノ處分ヲ取消サルコトナクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲シタル  
キハ刑ノ執行終リタルモノトス  
第十五條 少年ニシテ第七條第一項又ハ第八條第一項及第二項ノ  
規定ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ  
處分ヲ取消サルコトナクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲シタル  
ト同一ノ期間ヲ經過シタルトキ亦前項ニ同シ  
第十六條 少年ニ對シテハ勞務場留置ノ言渡ヲ爲ス  
第十七條 少年ノ時犯シタル罪ニ因リ死刑又ハ無期刑ニ非サル  
刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ執行ヲ終ヘ又ハ執行免除ヲ受ケ  
タルモノハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ將來ニ向テ刑  
ノ言渡ヲ受ケザリシモノト看做ス  
第十八條 少年ノ時犯シタル罪ニ付テハ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行猶  
豫ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其ノ猶豫期間中刑ノ執行ヲ終ヘタ  
ルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス  
第十九條 前項ノ場合ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ  
人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ其ノ取消サレタル時刑  
ノ言渡アリタルモノト看做ス  
第二十條 少年ニ對シ保護處分ヲ爲ス爲少年審判所ヲ置ク

第四章 少年審判所ノ組織

第十五條 少年ニ對シ保護處分ヲ爲ス爲少年審判所ヲ置ク







判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第六十六條 裁判所又ハ豫審判事ハ職權ヲ以テ又ハ檢事ノ申立ニ因リ第三十七條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得  
 第三十八條及第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス  
 第六十七條 勾留狀ハ已ムコトヲ得ザル場合ニ非サレハ少年ニ對シテ之ヲ發スルコトヲ得ス  
 拘留監ニ於テハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外少年ヲ獨居セシムヘシ  
 第六十八條 少年ノ被告人ハ他ノ被告人ト分離シ其ノ接觸ヲ避ケシムヘシ  
 第六十九條 少年ニ對スル被告事件ハ他ノ被告事件ト牽連スル場合ト雖審理ニ妨ガキ限リ其ノ手續ヲ分離スヘシ  
 第七十條 裁判所ハ事情ニ依リ公判中一時少年ノ被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得  
 第七十一條 第一審裁判所又ハ控訴裁判所審理ノ結果ニ因リ被告人ニ對シ第四條ノ處分ヲ爲スラ相當ト認メタルトキハ少年審判所ニ送致スル旨ノ決定ヲ爲スヘシ  
 檢事ハ前項ノ決定ニ對シ三日内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得  
 第七十二條 第六十六條ノ處分ハ事件ヲ終局セシムル裁判ノ確定ニ因リ其ノ效力ヲ失フ  
 第七十三條 第四十二條、第四十三條第二項第三項及第四十四條ノ規定ハ公判ノ手續ニ第六十條及第六十一條ノ規定ハ豫審又ハ公判ノ手續ニ之ヲ適用ス

第七章 罰則

第七十四條 少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項又ハ少年ニ對スル刑事事件ニ付豫審又ハ公判ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ス  
 前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則  
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第四百八十七號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行ス)

少年審判所設置

(大正十一年十一月十日 勅令第四百八十八號)

少年審判所設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 第一條 東京市及大阪市ニ少年審判所ヲ設置ス  
 東京少年審判所ハ東京府及神奈川縣ヲ、大阪少年審判所ハ大阪府京都市及兵庫縣ヲ管轄ス  
 第二條 少年審判所ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク  
 少年審判官 專任 八人 奏任  
 少年保護司 專任 十六人 判任 内八人ヲ奏任  
 書記 專任 十四人 判任 内八人ヲ奏任  
 第三條 少年法第二十三條ノ規定ニ依リ少年保護司ヲ囑託セラレタル者ハ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得  
 附則  
 本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

假出獄少年取締規則

(大正十一年十二月十八日 司法省令第三十二號)

假出獄少年取締規則  
 第一條 少年ノ假出獄ニ付テハ本令ニ定ムルモノノ外一般ノ例ニ依ル  
 第二條 假出獄ノ許可アリタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ少年審判所ニ通知スヘシ  
 第三條 假出獄少年ヲ釋放スル場合ニ於テハ其ノ觀察ヲ爲スヘキ少年保護司又ハ保護ヲ引受ケタル者ニ本人ヲ引渡スヘシ  
 第四條 假出獄少年ハ證據ニ記載セラレタル住居ノ地ニ到着ノ日ニ於テ證據ヲ少年保護司ニ呈示シテ認印ヲ受クヘシ  
 天災疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ從フコト能ハサルシトキハ其ノ事由ヲ開示スヘシ  
 少年保護司前項ノ開示ヲ正當ナリト認メタルトキハ之ヲ證據ニ記載シテ認印ヲ爲スヘシ  
 第五條 少年保護司假出獄少年ニ付少年法第六條第二項ノ規定ニ依リ保護處分ヲ爲ス必要アリト思料スルトキハ其ノ事由ヲ少年審判所ニ申述スヘシ  
 第六條 假出獄少年住居ヲ變更シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其ノ事由、行先地及旅行ノ日數ヲ明ニシ少年保護司ノ許可ヲ受クヘシ  
 第七條 假出獄少年外國ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其ノ事由、行先地及旅行ノ日數ヲ記載シ少年審判所ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ受クヘシ  
 第八條 假出獄少年事實ヲ調査シ意見ヲ附スヘシ  
 少年審判所ハ事實ヲ調査シ意見ヲ附スヘシ  
 少年保護司ニ届出ツヘシ

第九條 假出獄ノ取消アリタルトキハ其ノ執行ヲ爲シタル刑務所ノ長ハ其ノ旨ヲ少年審判所ニ通知スヘシ  
 第十條 假出獄少年死亡シタルトキハ少年審判所ハ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申報シ且證據ヲ交付シタル刑務所ニ通知スヘシ  
 附則  
 本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 少年審判所ノ管轄區域外ニ於テハ本令ニ定ムル少年審判所又ハ少年保護司ノ事務ハ刑務所又ハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

假出獄少年取締規則



●矯正院法

(大正十一年四月十七日) (法律第四十三號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル矯正院法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

矯正院法

- 第一條 矯正院ハ少年審判所ヨリ送致シタル者及民法第八百八十二條ノ規定ニ依リ入院ノ許可アリタル者ヲ收容スル所トス
第二條 矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ二十三歳ヲ超ユルコトヲ得ス
第三條 矯正院ニハ特ニ區劃シタル場所ヲ設ケ少年審判所裁判所又ハ豫審判所ヨリ假ニ委託シタル者ヲ置ク
第四條 矯正院ハ收容スヘキ者ノ男女ノ別ニ從テ之ヲ設ケ
第五條 十六歳ニ滿タル者ト十六歳以上ノ者トハ分界ヲ設ケタル場所ニ各別ニ之ヲ收容ス
第六條 矯正院ハ之ヲ圖立トス
第七條 矯正院ハ司法大臣ノ管理ニ屬ス
第八條 司法大臣ハ少クモ六月毎ニ一回官吏ヲシテ矯正院ヲ巡察セシム
第九條 少年審判官ハ隨時矯正院ヲ巡視スヘシ
第十條 在院者ニハ其ノ性格ヲ矯正スル爲メ嚴格ナル紀律ノ下ニ教導ヲ施シ其ノ生活ニ必要ナル實業ヲ練習セシム
第十一條 矯正院ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ在院者ヲ懲戒スルコトヲ得
第十二條 矯正院ノ長ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ未成年ノ在院者及假退院者ノ爲メ親權者又ハ後見人ノ職務ニ屬スル行爲ヲ爲スコトヲ得
第十三條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニ對シ執行ノ目的ヲ達シタルトキハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ之ヲシテ退院セシムヘシ
第十四條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニシテ收容後六月ヲ經過シタルモノニ對シ少年審判所ノ許可ヲ受ケ條件ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ得
第十五條 假退院ヲ許サレタル者ハ假退院ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス
第十六條 假退院者指定ノ條件ニ違背シタルトキハ矯正院ノ長ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ假退院ヲ取消スルコトヲ得
第十七條 在院者又ハ假退院者逃走シタルトキハ少年審判所及矯正院ノ職員ハ之ヲ逮捕スルコトヲ得
第十八條 本法第二十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
第十九條 本法ニ規定スルモノヲ除ク外在院者ノ處遇ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十條 矯正院ノ長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在院者ノ處遇ニ關スル細則ヲ定ムヘシ
第二十一條 前二條ノ規定ハ少年審判所、裁判所又ハ豫審判所ヨリ假ニ委託シタル者ニ付テ之ヲ準用ス

●矯正院處遇規程

(大正十一年十二月十八日) (司法省令第三十四號)

矯正院處遇規程

- 第一章 收容
第一條 少年ノ收容ハ當該官廳ノ送致書、委託書又ハ入院許可ノ裁判書ニ依リ
第二條 少年ヲ收容シタルトキハ送致又ハ委託ヲ爲シタル官廳ニ通知スヘシ
第三條 入院者ニ付テハ各別ニ少年審判所ヨリ之ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ
第四條 院長ハ入院者ニ對シ遵守事項及心得事項ヲ指示スヘシ
第五條 入院者ニ付テハ其ノ性行、境遇、經歷、學術技能ノ程度、心身ノ狀況等身上ニ關スル事情ヲ精査シ其ノ結果ニ基キ居室及修習スヘキ學科、實科ノ種類、程度ヲ定ムヘシ
第六條 在院者ノ處遇ニ關シ必要ナル取調ヲ爲スニ付テハ少年審判所ニ補助ヲ求ムルコトヲ得
第二章 教導
第七條 院長ハ中學校及實業學校程度以下ノ學校ニ準シ課程及教科目ヲ定メ且教科用圖書ヲ選定シ司法大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
第八條 院長ハ在院者ノ矯正ニ有益ナル認ムルモノニ限リ教授外ノ圖書ヲ閱讀セシムルコトヲ得
第九條 休日ニハ在院者ヲ休養セシメ適當ト認ムル方法ニ依リ其ノ心身ヲ修養、鍛鍊ニカムヘシ
第十條 祖父母又ハ父母病篤キトキハ在院者ヲシテ往訪セシム

- ルコトヲ得
第十一條 祖父母又ハ父母死亡シタルトキハ三日間謹慎セシメ適當ト認ムル方法ニ依リ祭祀ヲ行ハシムルコトヲ得祖父母ノ祭日亦同シ
第十二條 一月一日、紀元節及天長節祝日ニハ在院者ヲ參集セシメ左ノ順序ニ從ヒ式ヲ舉グヘシ
一 職員及在院者一君カ代一ヲ合唱ス
二 院長教育ニ關スル勸告ヲ奉讀シ其ノ義ヲ行フ
職員及在院者祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス
三 院長ハ學科及實科ノ成績證明書ヲ授與スルコトヲ得

第三章 賞罰

- 第十四條 院長ハ在院者ノ成績ニ鑑ミ左ニ掲グル等級ノ褒賞ヲ與フルコトヲ得
一 褒狀
二 賞與
三 賞票
院長ハ賞票ニ付更ニ種別ヲ設クルコトヲ得
第十五條 院長ハ成績特ニ優良ナル在院者ニ對シ左ニ掲グル殊遇ヲ與フルコトヲ得
一 特ニ設ケタル居室、器具其ノ他ノ設備ノ使用
二 組長其ノ他名譽トスル地位ノ授與
三 定時又ハ臨時ノ外出
第十六條 在院者紀律ニ違背シタルトキハ院長ハ情狀ニ依リ左ニ掲グル懲戒ヲ行フコトヲ得
一 譴責
二 褒賞ノ剝奪
三 端座
四 直立

- 一 屏居
前項ノ懲戒ニ依リテハ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ體罰ヲ行フコトヲ得
第十七條 懲戒ハ在院者ノ心身ノ狀況ニ注意シテ之ヲ行フヘシ
第四章 給養
第十八條 在院者ニハ衣類、寢具、學用品及雜品ヲ交付ス
第十九條 院長ハ在院者一人ニ對シ食料及給與スヘキ物品ノ種類、員數及使用期間ヲ定メ司法大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
第二十條 食料及給與品ニ付テハ其ノ區別ニ從ヒ食料及雜品ニ別ニ之ヲ給與スルコトヲ得
第二十一條 在院者ノ食料及給與品ノ種類及分量ヲ定メ司法大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
院長ハ主食食物ノ種類及分量ヲ定メ司法大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
副食物ハ每週獻立表ニ依リテ之ヲ定ムヘシ
第二十二條 大祭日、祝日其ノ他院長適當ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス特別ノ食物ヲ給與スルコトヲ得
第二十三條 自辨品ハ在院者ノ紀律、衛生ニ害ナキ限リ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第五章 衛生及診療

- 第二十四條 疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外入院者ヲ入浴セシメ健康診斷ヲ行フヘシ
第二十五條 居室、衣類、寢具等ハ在院者ヲシテ之ヲ整頓セシムヘシ
第二十六條 在院者ニハ院長ノ定ムル所ニ依リ理髮及入浴ヲ爲サシムヘシ
第二十七條 春秋二回在院者ノ體格檢査ヲ行ヒ必要アルトキハ臨時健康診斷ヲ行フヘシ
第二十八條 傳染病發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ豫防ヲ

- 嚴シク應急適切ナル處置ヲ爲スヘシ
第二十九條 傳染病發生シタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ司法大臣ニ申報スヘシ
第三十條 在院者ニハ疾病豫防ノ爲メ必要ナル醫術ヲ行フヘシ
第三十一條 在院者重病ニ罹リタルトキハ直ニ其ノ官委託ヲ爲シタル官廳、親權者、後見人、戶主其ノ他ノ保護者ニ通知スヘシ
第六章 面會及通信
第三十二條 在院者ハ院長ノ許可ヲ受ケ面會又ハ通信ヲ爲スコトヲ得
第三十三條 面會ハ應接室ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得
第七章 領置
第三十四條 院長ハ在院者ノ所有品ヲ領置シ適當ト認ムルトキハ之ヲ其ノ親權者若ハ後見人ニ交付シ又ハ本人ヲシテ賣却其ノ他ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得
第三十五條 領置品簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ
第三十六條 在院者所有ノ金錢ハ本人立會ノ上其ノ金額ヲ計算シ本人ノ名ニ於テ郵便貯金ノ手續ヲ爲シ其ノ通帳ハ院長ノ之ヲ保管シ領置金簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ
第三十七條 在院者ニ寄贈ノ申出ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得
第三十八條 領置ノ金品ハ退院又ハ假退院其ノ他領置ノ必要ナキニ至リタルトキハ之ヲ還付スヘシ但シ在院中ト雖必要アリト認ムルトキハ之ヲ在院者ニ交付スルコトヲ得

第八章 退院及假退院

- 衛生及診療 面會及通信 領置 退院及假退院



第三十八條 院長在院者ノ退院ノ許可ヲ求ムルニハ在院中ニ於ケル行狀及學科資料ノ成績ヲ表示シテ之ヲ爲スヘシ

第三十九條 在院者ノ假退院ノ許可ヲ求ムルニハ前條ニ定ムル事項ノ外假退院後遵守スヘキ條件及保護ヲ引受クヘキ適當ノ者アルトキハ其ノ氏名住居職業假退院者トノ關係、保護ヲ引受クヘキ適當ノ者ナキトキハ其ノ事由ヲ表示スヘシ

第四十條 假退院ノ許可アリタルトキハ直ニ假退院ノ日時ヲ定メ保護ヲ引受クヘキ者及住居ノ地ヲ管轄スル少年審判所ニ通知スヘシ

第四十一條 住居ノ地ヲ管轄スル少年審判所ハ觀察ヲ爲スヘキ少年保護司ヲ定メテ矯正院ニ通知スヘシ

第四十二條 院長ハ假退院ヲ許ス者ニ假退院證ヲ授與シ遵守スヘキ條件ニ付指示シ保護ヲ引受クヘキ者又ハ少年保護司ニ引渡スヘシ

第四十三條 前條ノ引渡ヲ爲シタルトキハ院長ハ之ヲ司法大臣ニ申報シ假退院ヲ許可シタル少年審判所ニ通知スヘシ

第四十四條 假退院者住居ニ到達シタルトキハ其ノ引渡ヲ受ケタル保護者ハ少年保護司ニ届出テ少年保護司ハ矯正院ニ通知スヘシ

第四十五條 少年審判所少年保護司ノ申出ニ依リ假退院者ノ行狀其ノ他ノ事由ニ因リ指定ノ條件ヲ變更スヘキ必要アリト認ムルトキハ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第四十六條 少年審判所假退院者ニ指定シタル條件ヲ變更シタルトキハ之ヲ矯正院ニ通知シ且新ナル條件ヲ文書ニ記載シ少年保護司ヲシテ假退院者ニ交付セムヘシ

第四十七條 少年保護司ハ條件ノ變更ニ付必要ナル指示ヲ爲スヘシ

第四十八條 院長假退院ヲ取消シタルトキハ之ヲ少年保護司ニ通知スヘシ

少年保護司前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ入院ノ手續ヲ爲シ假退院證及前條ノ文書ヲ還納セムヘシ

第四十八條 假退院者逃走又ハ死亡シタルトキハ保護ヲ引受ケタル者ハ直ニ少年保護司ニ届出ツヘシ其ノ軍人軍屬ト爲リタルトキ亦同シ

第四十九條 少年保護司假退院者ノ逃走若ハ死亡シタルコト又ハ軍人軍屬ト爲リタルコトヲ知リタルトキハ速ニ矯正院ニ通知スヘシ

第五十條 退院又ハ假退院ヲ爲ス者ニハ事情ニ依リ貸與品ノ全部又ハ一部ヲ給與シ且歸住旅費又ハ相當ノ衣類ヲ給與スルコトヲ得

第五十一條 在院者ニ付處分ノ取消又ハ變更アリタルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ取扱ヲ爲スヘシ處分ノ效力ヲ失ヒタルトキ亦同シ

**第九章 逃走及死亡**

第五十二條 在院者逃走又ハ死亡シタルトキハ院長ハ直ニ之ヲ司法大臣ニ申報シ送致又ハ委託ヲ爲シタル官廳ニ通知スヘシ逃走者再ヒ入院シタルトキ亦同シ

第五十三條 在院者死亡シタルトキハ院長ハ死體ノ檢視其ノ他必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第五十四條 院長ハ病名、死因及死亡ノ日時ヲ速ニ親權者、後見人、戶主其ノ他ノ保護者ニ通知シ死體ヲ引取ラシムヘシ

第五十五條 死體ノ引取人ナキトキハ院長ハ成規ノ手續ニ依リ之ヲ假葬シ死者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ記シタル墓標ヲ立ツヘシ

附則  
本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

協議ニ依リ之ヲ定ム若協議調ハサルトキハ内務大臣之ヲ定ム

(明治四十一年法律第四十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第十三條ノ三 第五條ニ該當スル者ニシテ別ニ命令ヲ以テ定メタル者ハ之ヲ國立感化院ニ入院セムルコトヲ得

第六條乃至第九條、第十一條、第十二條及第十三條ノ規定ハ國立感化院ニ之ヲ準用ス 同上本條ヲ追加

附則  
第十四條 本法施行ノ期日ハ地方長官ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム(明治四十一年法律第四十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十五條 (同上本條ヲ削除)

附則 (大正十一年法律第四十四號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第四百八十七號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行ス)

第五條第一號ニ規定スル地方長官ノ權限ハ少年法ニ依ル保護處分ノ實施セラレタル地區ニ限リ仍從前ノ例ニ依ル

●感化法

(明治三十三年三月十日) 法律第三十七號

改正、明四一—法四三、大一一—法四四

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ感化法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

感化法

第一條 北海道及府縣ニハ感化院ヲ設置スヘシ

第二條 感化院ハ地方長官ノ管理ス

第三條 感化院ニ關スル經費ハ北海道地方費及府縣ノ負擔トス(明治四十一年法律第四十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四條 北海道及府縣ニ於テハ其ノ區域内ニ團體又ハ私人ニ屬スル感化事業ノ設備アルトキハ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ感化院ニ代用スルコトヲ得

第五條 感化院ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ入院セシム 同上本條ヲ改正

一 滿八歳以上十四歳未滿ノ者ニシテ不良行爲ヲ爲シ又ハ不良行爲ヲ爲スノ虞アリ且ツ適當ニ親權ヲ行フモノナク地方長官ニ於テ入院ヲ必要ト認メタル者(大正十一年法律第四十四號ヲ以テ本條ヲ改正)

二 十八歳未滿ノ者ニシテ親權者又ハ後見人ヨリ入院ヲ出願シ地方長官ニ於テ其ノ必要ヲ認メタル者

三 裁判所ノ許可ヲ經テ懲戒場ニ入ルヘキ者

四 少年審判所ヨリ送致セラレタル者(同上本條ヲ改正)

第六條 入院者ノ在院期間ハ滿二十歳ヲ超ユルコトヲ得ス但シ第五條第三號又ハ第四號ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス(同上本條ヲ改正)

第七條 地方長官ハ何時ニモ條件ヲ指定シテ在院者ヲ假ニ

退院セシムルコトヲ得

假退院者ニシテ指定ノ條件ニ違背シタルトキハ地方長官ハ之ヲ復院セシムルコトヲ得

第八條 感化院長ハ在院者及假退院者ニ對シ親權ヲ行フ 在院者ノ父母又ハ後見人ハ在院者及假退院者ニ對シ親權又ハ後見ヲ行フコトヲ得

第五條第二號及第三號ニ該當スル者ノ財産ノ管理ニ關シテハ前二項ノ規定ヲ適用ス

第九條 感化院長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ在院者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加フルコトヲ得

第十條 行政廳ハ第五條第一號ニ該當スヘキ者アリト認メタルトキハ之ヲ地方長官ニ具申スヘシ此ノ場合ニ於テハ假ニ之ヲ留置スルコトヲ得

前項留置ノ期間ハ五日ヲ超ユルコトヲ得

第十一條 地方長官ハ在院者ノ扶養義務者ヨリ在院費ノ全部又ハ一部ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサル者アルトキハ國稅徵收法ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得

第十二條 國庫ハ道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス(明治四十一年法律第四十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第十三條 在院者ノ親族又ハ後見人ハ在院者ノ退院ヲ地方長官ニ出願スルコトヲ得

前項出願ノ許可ヲ得サル在院者ニ關シテハ六箇月ヲ經過スルニ非サレハ退院ヲ出願スルコトヲ得

第十四條 第五條第一號又ハ第十一條第二項ノ處分ニ不服アル者又ハ第十二條第一項ノ出願ヲ許可セラレサル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十五條 府縣ハ共同シテ感化院ヲ設置スルコトヲ得

前項感化院ノ管理及費用分擔ノ方法ハ關係地方長官ノ

感化法



感化法施行規則

(明治三十四年八月六日) (内務省令第二十三號)

改正、大一一一内令二八、昭二一内令二五

感化法施行規則左ノ通定ム

感化法施行規則

第一條 地方長官ニ於テ感化法第五條第一號第二號及第四號ニ掲クル者ヲ入院セシメントストキハ入院命令書ヲ交付ス(シ) (大正十一年内務省令第二十八號ヲ以テ本項ヲ改正)

感化法第五條第三號ニ掲クル者ニ付テハ親權ヲ行フ父母又ハ後見人ハ裁判所ノ決定書ヲ地方長官ニ呈出シ入院ヲ出願ス(シ) 前項ノ場合ニ於テ入院ヲ許可シタルトキハ入院命令書ヲ交付ス(シ) 本條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ旨ヲ感化院長ニ通知スルコトヲ要ス

第二條 前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ感化院長ハ入院命令書ヲ査閲シタル後入院セシム(シ) 第三條 北海道及府縣ニ於テ感化院ヲ設置セントストキハ其ノ位置名稱其ノ他必要ナル規則ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ク(シ) (同上本條ヲ改正)

第四條 (同上本條ヲ削除) 第五條 在院者ニハ獨立自營ニ必要ナル教育ヲ施シ實業ヲ練習セシメ女子ニテハ家事裁縫等ヲ修習セシム(シ) 第六條 感化院長ハ必要ニ應ジ在院者ヲ適宜公私ノ施設又

監獄法

(明治四十一年三月二十八日) (法律第二十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル監獄法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監獄法

第一章 總則

第一條 監獄ハ之ヲ左ノ四種トス

- 一 懲役監獄 懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
二 禁錮監獄 禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
三 拘留場 拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
四 拘留監獄 刑事被告人及ヒ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘禁スル所トス

拘留監ニハ懲役、禁錮又ハ拘留ニ處セラレタル者ヲ一時拘禁スルコトヲ得 警察官署ニ附屬スル留置場ハ之ヲ監獄ニ代用スルコトヲ得 但懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ一月以上繼續シテ拘禁スルコトヲ得

第二條 二月以上ノ懲役ニ處セラレタル十八歳未満ノ者ハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄内ニ於テ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ之ヲ拘禁ス 前項ノ規定ニ依ル者ハ滿二十歳ニ至ルマテ又滿二十歳ニ至リタル後三月内ニ刑期終了ス可キ者ハ其殘刑期間仍ホ繼續シテ之ヲ拘禁スルコトヲ得 心身發育ノ狀況ニ因リ必要ト認ムル者ハ前二項ノ適用ニ付キ年齡ニ拘ハラサルコトヲ得

第三條 監獄ニ男監及ヒ女監ヲ設ケ之ヲ分隔ス 懲役監、禁錮監、拘留場及ヒ拘留監ノ同一區劃内ニ在

監獄法 總則 收監 拘禁 戒護

ハ私人ニ託シ教育ヲ施サシメ又ハ勞務ニ就カシムルコトヲ得(大正十一年内務省令第二十八號、昭和二年内務省令第二十五號ヲ以テ本條ヲ改正) 第六條 感化院長少年法第三十七條第二項及第六十六條第一項ノ規定ニ依リ委託ヲ受ケタルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ク(シ) (大正十一年内務省令第二十八號ヲ以テ本條ヲ追加) 第七條 在院者ニ對スル懲戒及檢束ノ方法ニ付テハ内務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官ニ之ヲ定ム(シ) 第八條 在院者ノ衣食養護其ノ他必要ナル費用ハ扶養義務者ニ於テ地方長官ノ定ムル所ニ依リ相當ノ額ヲ負擔ス(シ) 地方長官ニ於テ扶養義務者前項ノ金額ヲ支辨スル資力ナシト認メタルトキハ其ノ一部又ハ全部ノ免除ヲ爲スコトヲ得 第九條 地方長官ハ感化院ノ職員養成ノ爲必要ナル設備ヲ感化院ニ附設スルコトヲ得 第十條 前各條ノ規定ハ代用感化院ニ之ヲ準用ス 第十一條 地方長官ハ代用感化院ニ對シ北海道地方費及府縣費ヲ以テ補助ヲ爲スコトヲ得(同上本條ヲ改正)

ルモノハ之ヲ分界ス 第四條 主務大臣ハ少クトモ二年毎ニ一回官吏ヲシテ監獄ヲ巡視セシム可シ 第五條 監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ學術ノ研究其他正當ノ理由アリト認ムル場合ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許可ストヲ得 第六條 本法ニ依リ没入シ又ハ國庫ニ歸屬シタル物ハ之ヲ監獄懲罰ノ用ニ充ツ 第七條 在院者監獄ノ處置ニ對シ不服アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣又ハ巡視官吏ニ情願ヲ爲スコトヲ得 第八條 勞役場ハ之ヲ監獄ニ附設ス 前五條ノ規定ハ之ヲ勞役場ニ準用ス 第九條 本法中別段ノ規定アルモノヲ除ク外刑事被告人ニ適用ス可キ規定ハ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用シ懲役囚ニ適用ス可キ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス 第十條 本法ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ之ヲ適用セス

第十一條 新ニ入監スル者アルトキハ合狀又ハ判決書及ヒ執行指運書其他適法ノ文書ヲ査閲シタル後入院セシム可シ 第十二條 新ニ入監スル婦女其ノ子ヲ携帶シントラ請フトキハ必要ト認ムル場合ニ限り滿一歳ニ至ルマテ之ヲ許スコトヲ得 第十三條 監獄ニ於テ分娩シタル子ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ル 第十四條 新ニ入監スル者傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ヲ施行行必要トスル傳染病ニ罹リタルモノナルトキ之ヲ入院セシムサルコトヲ得 第十五條 新ニ入監スル者アルトキハ其ノ身體及ヒ衣類ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十五條 在院者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモノヲ除ク外之ヲ獨居拘禁ニ付スコトヲ得 第十六條 雜居拘禁ニ在テハ在院者ノ罪質、性格、犯數、年齡等ヲ斟酌シテ其監房ヲ別異ス 第十七條 第一項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ在院者ノ種類ニ依リ其監房ヲ別異ス 第十八條 未滿十八歳ノ者ハ第二項ノ場合ヲ除ク外十八歳以上ノ者ト其監房ヲ別異ス但心身發育ノ狀況ニ因リ其必要トシト認ムルトキハ此限ニ在ラス 第十九條 刑罰執行ニシテ被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノハ互ニ其監房ヲ別異シ監房外ニ於テモ其文通ヲ遮斷ス 第二十條 懲役監、禁錮監、拘留場、拘留監及ヒ勞役場ノ同一區劃内ニ在ル場合ニ於テハ同性者ニ付キ同一ノ病監又ハ教誨堂ヲ使用スルコトヲ得 第二十一條 前項ノ場合ニ於テハ在院者ノ種類ニ因リ監房若ハ座席又ハ診察室若ハ教誨ノ時間ヲ異ニス

第三章 拘禁

第十九條 在院者逃走、暴行若クハ自殺ノ虞アルトキ又ハ監外ニ在ルトキハ戒具ヲ使用スルコトヲ得

第四章 戒護

第二十條 法令ニ依リ監獄官吏ノ攜帶スル劍又ハ銃ハ左ノ各號ノニ該ル場合ニ限り在院者ニ對シ之ヲ使用スルコトヲ得

- 一 人ノ身體ニ對シテ危險ナル暴行ヲ爲シ又ハ脅シ可キ脅迫ヲ加フルトキ
二 危險ナル暴行ノ用ニ供シ得可キ物ヲ所持シ其放棄ヲ







サルトキ又ハ監獄行政ノ便宜ニ因リ後監禁セシムルカガ爲メ歸住  
旅費ノ増加ヲ要スルニ至リタルトキハ衣類又ハ旅費ヲ給與スル  
コトヲ得

第十三章 死亡

第七十一條 死刑ノ執行ハ監獄内ノ刑場ニ於テ之ヲ爲ス  
大祭日、一月一日、二月一日及十二月三十一日ニハ死刑  
ヲ執行セズ

第七十二條 死刑ヲ執行スルトキハ絞首ノ後死相ヲ檢シ仍ホ五  
分時ヲ經ルニ非サレハ絞繩ヲ解コトヲ得ス

第七十三條 在監者死亡シタルトキハ之ヲ假葬ス

第七十四條 死體ハ必要ト認ムルトキハ之ヲ火葬スルコトヲ得  
死體又ハ遺骨ハ假葬後二年ヲ經テ之ヲ合葬スルコトヲ得  
死亡者ノ親族故舊ニシテ死體又ハ遺骨ヲ請フ者ア  
ルトキハ何時ニテモ之ヲ交付スルコトヲ得但合葬後ハ此限ニ在  
ラス

第七十五條 受刑者ノ死體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ解剖ノ爲メ  
病院、學校又ハ其他ノ公務所ニテ之ヲ送付スルコトヲ得

附則

本法ハ刑罰施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
監獄則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍ホ其  
效力ヲ有ス

監獄法施行規則

(明治四十一年六月十六日  
司法省令第十八號)

改正、大一〇一司令一九、大一一一司令  
一、司令一三、司令二四、大一一一  
司令四

監獄法施行規則左ノ通相定ム  
監獄法施行規則

第一章 總則

第一條 逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ拘禁ス可キ者ハ之ヲ拘  
置監ニ拘禁ス  
外國船乗組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ニ依リ監獄ニ  
拘禁シタル者ハ刑事被告人ニ進ス  
監獄ニ入監スル者ハ男子ニハ男監、女子ニハ女監ニ限リ之ヲ  
許ス但司法大臣ヨリ特別ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス  
未成年者ニハ監獄ニ參觀ヲ許サズ  
外國人監獄ニ參觀スルニハ司法大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス  
第二條 監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ典獄ハ其氏名、身分、  
職業、住所、年齢及ヒ參觀ノ目的ヲ調査シ許可ヲ與ヘタル  
者ニハ參觀者心得事項ヲ告知ス可シ  
第三條 司法大臣ニ情願ヲ爲スニハ其官種ヲ記載シタル書面ヲ  
差出スコトヲ要ス  
第四條 情願書ハ本人ヲシテ之ヲ封緘セシメ監獄官吏ハ之ヲ披閱スル  
コトヲ得ス  
情願書ヲ差出シタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ司法大臣ニ進達ス  
可シ  
第五條 巡閱官吏ニハ書面又ハ口頭ヲ以テ情願ヲ爲スコトヲ

得

巡閱官吏ニ情願ヲ爲サンコトヲ豫告スル者アルトキハ典獄ハ其  
者ノ氏名ヲ情願簿ニ記載シ置ク可シ  
前條第二項ノ規定ハ本條ノ情願書ニテ之ヲ適用ス

第六條 巡閱官吏情願ヲ請フニハ必要アル場合ヲ除ク外監獄  
官吏ヲシテ之ヲ立會ハシム可ラス

第七條 巡閱官吏情願ヲ審查シタルトキハ自ラ裁決ヲ爲シ又ハ  
司法大臣ノ裁決ヲ乞フコトヲ得  
巡閱官吏自ラ裁決ヲ爲シタルトキハ情願簿ニ其要旨ヲ記載  
ス可シ

第八條 情願ニ對スル裁決ハ典獄速ニ之ヲ本人ニ告知ス可シ

第九條 典獄ハ每週一回以上面接日ヲ定メ監獄ノ處置又ハ  
一身ノ事情ニ付キ申立ヲ爲サンコトヲ請フ在監者ニ面接ス可  
シ

第十條 前項ノ申立ヲ爲サンコトヲ豫告スル者アルトキハ其氏名ヲ面會  
簿ニ記載シ置キ其ノ順序ニ從ヒ面接シタル後本人ニ開示シタ  
ル意見ノ要旨ヲ面會簿ニ記載ス可シ

第十一條 本則中別段ノ規定アルモノヲ除ク外懲役囚ニ適用ス  
可キ規定ハ勞務留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニテ之ヲ准用ス

第二章 收監

第十二條 新ニ入監スル者ヲ領收シタルトキハ入監者ノ氏名、領  
收ノ年月日時及ヒ領收官吏ノ氏名ヲ記載シタル領收書ヲ  
護送者ニ交付ス可シ

第十三條 新ニ入監スル婦女ニ子ノ携帶ヲ許サル場合ニ於テ  
相當ノ引取人ナキトキハ其子ヲ監獄所在地ノ市區町村役  
場ニ引渡ス可シ  
携帶ヲ許シタル子カ滿一歳ニ達シ又ハ他ニ在監ヲ許ス可カラ  
サル事情アル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキ亦同シ

第十四條 新ニ入監スル者アルトキハ監獄醫其健康ヲ診査ス可  
シ

第十五條 監獄ニ於テ避病監其他傳染病者ノ收容ニ適當ノ  
設備アルトキハ傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要  
トスル傳染病ニ罹ル者ト雖モ之ヲ入監セシム可シ

第十六條 監獄法第十三條ニ依リ入監セシムル場合ニ於テハ  
直ニ其旨ヲ入監ヲ指揮シタル官廳及ヒ監獄所在地ノ警察  
官署ニ通報シ仍ホ其事情ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第十七條 新ニ入監スル者刑事訴訟法第三百十九條第二項  
各號ニ該當スルモノト認ムルトキハ之ヲ入監セシムル上監獄  
醫ノ診査ヲ添ヘ直ニ其旨ヲ檢事ニ通報ス可シ

第十八條 新ニ入監スル者アルトキハ疾病其他已ムコトヲ得サル  
場合ヲ除ク外入浴ヲ爲サシム可シ

第十九條 婦女ノ入浴ニハ女監取締之ニ立會ヒ婦女ノ身體及ヒ衣類  
ノ檢査ハ女監取締之ヲ爲ス可シ

第二十條 前項ノ規定ハ在監中ノ婦女ノ入浴及ヒ身體衣類ノ檢査ニ  
之ヲ准用ス

第二十一條 入監者ニハ番號ヲ付シ在監中其番號票ヲ上衣ノ襟  
又ハ胸部ニ附著セシム可シ但本人監外ニ在ル間ハ番號票ヲ  
除去セシムルコトヲ得

第二十二條 典獄ハ在監者ノ遵守スルべき事項並ニ刑期ノ起算及  
ヒ終了ノ日ヲ入監者ニ告知ス可シ

第二十三條 典獄ハ入監者ノ身上ニ關スル事情ヲ調査シ其結果ヲ身上  
票ニ記載ス可シ

第二十四條 前項ノ調査ヲ爲スニ付キ必要アリト認ムルトキハ裁判所、警  
察官署、市區町村役場又ハ本人ニ緣故アル者ニ照會ヲ爲  
ス可シ

第二十五條 典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ入監者ノ撮影ヲ爲  
ス可シ在監中ノ者ニ付キ亦同シ

第二十六條 新ニ入監シタル者ハ疾病其他已ムコトヲ得サル場合  
ニ於テハ

第三章 拘禁

第二十七條 獨居拘禁ニ付セラレタル者ハ他ノ在監者ト交通ヲ  
遮斷シ召喚、運動、入浴、接見、教誨、診察又ハ已ム  
コトヲ得サル場合ヲ除ク外常ニ一房ノ内ニ獨居セシムヘシ

第二十八條 刑事被告人ハ成ル可ク之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

第二十九條 受刑者ハ本則ニ於テ特ニ規定アル場合ヲ除ク外左  
ノ順序ニ從ヒ之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

一 刑期二月未滿ノ者  
二 二十五歳未滿ノ者  
三 初 犯 ノ 者  
四 入監後二月ヲ經過セザル者

餘罪又ハ刑期限内ノ犯罪ニ因リ審問中ニ在ル受刑者ハ成  
ル可ク之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

第三十條 獨居監房ニ殘餘アルトキハ前二項ニ該當セザル受刑者ト雖モ  
之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第三十一條 在監者ノ精神又ハ身體ニ害アリト認ムルトキハ在監  
者ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第三十二條 獨居拘禁ノ期間ハ二年ヲ超ユルコトヲ得但特ニ  
繼續ノ必要アル場合ニ於テハ爾後六月毎ニ其期間ヲ更新ス  
ルコトヲ妨ケズ

第三十三條 十八歳未滿ノ者ハ特ニ必要アリト認メタル場合ヲ除ク外六  
月以上繼續シテ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得



第四十條 雜居監房ニハ其容積、定員及ヒ現在人員ヲ記載シタル小札ヲ掲ク可シ

第四章 戒護

第四十二條 監獄ニ於テハ出入ノ警戒ヲ嚴シシ必要アリト認ムルトキハ出入者ノ携帶品ヲ検査ス可シ

第四十三條 監獄ノ外門、各出入口、監房、工場及ヒ現在ニ在監者ヲ拘禁スル場所ハ之ヲ閉鎖シ置ク可シ若シ必要ニ因リ一時開放スルトキハ其要所ヲ守衛ス可シ

第四十四條 監獄ノ構内ニ於テハ常ニ視察ノ便ヲ計リ觀望ヲ妨ク其他戒護ノ障礙ト爲ル可キ物ヲ置ク可カラズ

第四十五條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ少クモ毎日一回監房ノ検査ヲ爲サシム可シ

第四十六條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ工場又ハ監外ヨリ還房スル在監者ノ身體及ヒ衣類ノ検査ヲ爲サシム可シ

第四十七條 在監者ニシテ戒護ノ爲メ離隔ノ必要アルモノハ之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

第四十八條 戒具ハ左ノ五種トス

- 一 容衣
二 鉢
三 手錠

四 聯鎖

第五十條 容衣ハ危險ナル暴行ヲ爲ス懲役囚、飲ハ逃走又ハ暴行ノ虞アル懲役囚、手錠及ヒ捕繩ハ暴行、逃走若クハ自殺ノ虞アル在監者又ハ護送中ノ在監者、聯鎖ハ監外ノ作業ニ就ク懲役囚ニシテ必要アリト認ムル者ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

第五十一條 監獄官吏ニ對シテ劔又ハ銃ヲ使用シタルトキハ典獄ハ直ニ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第五十二條 典獄ハ刑期一年以上ノ懲役囚ニシテ刑期ノ半ヲ經過シタル者中ニ就ク豫メ消防ノ用務ニ就カシム可キモノヲ指定スルコトヲ得

第五十三條 監獄法第二十二條ニ依リ在監者ヲ解放スルトキハ出頭ス可キ期間及ヒ場所ヲ告知ス可シ

第五十四條 在監者ヲ他所ニ護送ス可キ場合ニ於テハ監獄醫ラシテ之ヲ診斷セシメ健康ニ害アリト認ムルトキハ其護送ヲ停止ス可シ

第五十五條 護送中ハ男女ヲ同行セシム可カラズ刑事被告人ニシテ被告人及ヒ十八歳未満ノ者ハ護送ノ際他ノ在監者ト

區分ス可シ

第五十六條 在監者逃走シタルトキハ典獄ハ速ニ監獄所在地及ヒ其附近竝ニ逃走者ノ立寄ル可キ見込アル地方ノ警察官署ニ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報ス可シ

第五十七條 前條ノ場合ニ於テハ典獄ハ其事實ヲ司法大臣ニ申報ス可シ逃走者ヲ逮捕シタルトキ亦同シ

第五十八條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣之ヲ定ム(大正十年司法省令第十九號ヲ以テ本項ヲ改正)

第五十九條 作業ノ種類ハ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十條 在監者ニ課スル作業ハ其種類及ヒ一日ノ科程ヲ指定シ之ヲ本人ニ告知ス可シ

第六十一條 作業科程ハ普通一人ノ任上高及ヒ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ標準トシテ等一ニ之ヲ定ム可シ

第六十二條 作業時間ノ全部ヲ通シテ就業セシムルコト能ハサル作業ハ之ヲ他ノ作業ト併課スルコトヲ得

第六十三條 一日ノ作業科程ヲ終了シタル者ト雖モ作業時間内ハ繼續シテ作業ニ就カシム可シ

第六十四條 請求ニ因リ作業ニ就ク者ハ正當ノ事由アルニ非サルハ其作業ヲ中止シ若クハ之ヲ廢止又ハ作業ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

第六十五條 典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在監者ヲ受負作業ニ就カシムルコトヲ得

第六十六條 刑事被告人ハ之ヲ監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得

第六十七條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日一回各就業者ニ就キ作業ノ成績ヲ検査セシム可シ

第六十八條 仕上高ハ毎月末日ニ其月分ヲ積算シ一日ノ平均高トシ一日ノ科程ヲ對照シ作業科程ノ了否ヲ定ム可シ

第六十九條 積算ノ例ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定ム可シ

第七十條 左ニ掲クル者ニハ作業賞與金ノ計算ヲ爲サズ

- 一 入監シタル翌月ヨリ五月ヲ經過セザルモノ
二 釋放ノ月ニ該ルモノ
三 行狀不良ニシテ作業成績劣等ナルモノ

監獄法施行規則 作業 教誨及ヒ教育

第七十一條 作業賞與金ハ行狀、性向、作業ノ種類、成績、科程ノ了否ヲ斟酌シ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ計算ス可シ(同

上本條ヲ改正)

第七十二條 監獄法第二十五條第四項ニ依リ作業ニ就カタル者ニハ前條ニ依リ計算シタル額ヲ增加スルコトヲ得(大正十一年司法省令第二十四號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七十三條 在監者惡意又ハ重大失ニ因リ器具、製品、素品其他ノ物ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其賠償ニ相當スル金額ヲ作業賞與金計算高ノ内ヨリ控除スルコトヲ得

第七十四條 就業者ニハ毎月十五日マデ前月分ノ作業賞與金計算高ヲ告知ス可シ

第七十五條 作業賞與金ハ其計算高ヲ有スル者生計上必要ナルトキハ全部又ハ一部ヲ給與セザルコトヲ得

第七十六條 十圓以上ノ作業賞與金計算高ヲ有スル受刑者其父、母、妻若クハ子ノ扶助、犯罪被害者ニ對スル賠償又ハ書籍ノ購求其他必要アル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ作業賞與金計算高ノ三分ノ一ヲ超セザル金額ヲ給與スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第七十七條 受刑者ノ爲メ必要アリト認ム可キ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラズニニ作業賞與金ヲ給與スルコトヲ得

第七十八條 作業賞與金計算高ヲ有スル在監者逃走後六月内ニ其居所分明セルトキハ其計算高ヲ抹消ス可シ

第七十九條 監獄法第二十一條及ヒ第二十八條ニ依リ手當金ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ給與スヘシ(同上本條ヲ改正)

第六章 教誨及ヒ教育

第八十條 教誨ハ休業日又ハ八日曜日ニ於テ之ヲ爲ス可シ

第八十一條 病監又ハ獨居監房ニ拘禁スル受刑者及ヒ刑事被告人ニハ其居所ニ就キ教誨ヲ爲ス可シ

第八十二條 受刑者父母ノ計ニ接シ就業ヲ免セラレタルトキハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ毎日教誨ヲ爲ス可シ

第八十三條 恩赦假出獄若クハ假出場ノ申渡ヲ爲シ又ハ賞表ヲ付與スルトキハ其式場ニ受刑者ノ全部又ハ一部ヲ集メテ教誨ヲ爲ス可シ

第八十四條 受刑者死亡シタルトキハ本人ト緣故アル受刑者ヲ墓ヲ棺前ニ於テ教誨ヲ爲ス可シ

第八十五條 監獄法第三十條ニ依リ教育ヲ施ス受刑者ニハ毎日四時間以内小學程度ニ依リ修身、讀書、算術、習字其他必要ノ學科ヲ教授ス可シ

第八十六條 前項ノ受刑者ニシテ小學科程ヲ卒業シタルモノ又ハ之ト同等ノ學力アルモノニハ其教育ノ程度ニ應ジ毎日二時間以内相當ノ補習學科ヲ教授ス可シ

第八十七條 文書圖畫ノ閱讀ハ監獄ノ紀律ニ害ナキモノニ限リ之ヲ許ス

第八十八條 新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノハ其閱讀ヲ許サズ

第八十九條 雜居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ同時ニ三箇以上ノ文書圖畫ヲ閱讀セシムルコトヲ得但字書ハ必要ニ因リ其冊數ヲ增加スルコトヲ得

第九十條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ情狀ニ因リ其監房内ニ於テ自辨ニ保リ筆墨紙ヲ使用ヲ許ス可シ







書信用紙及び封筒ハ監獄ニ於テ之ヲ給與スルコトヲ得  
第三十五條 在監者ニ交付シタル信書及ヒ其ノ他ノ文書ハ必  
要ニ因リ十日以内本人ノ手ニ留置セシムルコトヲ得  
第三十六條 信書ノ檢閲、發送及ヒ交付ノ手續ハ成ル可ク速  
ニ之ヲ爲スコシ  
第三十七條 信書ノ發送、交付及ヒ廢棄ノ年月日ハ之ヲ本  
人ノ身分帳簿ニ記載ス可シ  
第三十八條 第三百二十九條ニ定メタル度數ヲ超ニタル信書ニシ  
テ發信ニ保ルモノハ直ニ之ヲ本人ニ返付シ其受領ニ保ルモノハ  
報リニ身分帳簿ニ添附シ置キ次ノ期間ニ於テ順次之ヲ本人  
ニ交付ス可シ  
監獄法第四十七條第一項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ身  
分帳簿ニ添附シ置キ廢棄ス可キモノヲ除ク外釋放ノ際之ヲ  
本人ニ交付ス可シ  
第三十九條 接見ノ立會及ヒ信書ノ檢閲ノ際行刑上參考ト  
爲ル可キ事項ヲ發見シタルトキハ其要旨ヲ本人ノ身分帳簿ニ  
記載ス可シ

第十章 領置

第四十條 領置物ハ其品目及ヒ數量ヲ領置金品基礎ニ記  
載シ領置金品基礎ニハ典獄之ニ蓋印ス可シ  
第四十一條 金錢ニ非サル領置物ハ本人ノ請求ニ因リ之ヲ賣  
却シ其代金ヲ領置スルコトヲ得  
領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付キ本人相當ノ處分ヲ  
爲ササルトキハ請求ナキト雖モ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
第四十二條 在監者ニハ新聞紙、時事ノ論說ヲ記載シタル文  
書及ヒ監獄ノ紀律ヲ著ス可キ物ノ差入ヲ爲スコトヲ得  
第四十三條 受刑者ニハ法令其他典獄ニ於テ有益ト認ムル文  
書、筆墨紙、印紙、郵便切手、郵便蓋書、金錢及ヒ司法  
大臣ニ於テ認可シタル物ヲ除外差入ヲ爲スコトヲ得但自

辨ラ許シタル物ハ此限ニ在ラス  
第四十四條 刑事被告人ニハ前條ニ掲ケタル物ノ外衣類臥  
具、飲食物、手巾及ヒ履物ニ限リ差入ヲ爲スコトヲ得  
第四十五條 衣類臥具ノ差入ニ付テハ第九十二條、飲食物  
ノ差入ニ付テハ第九十八條ノ規定ヲ準用ス  
第四十六條 在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アルトキハ其氏  
名、身分、職業及ヒ住所ヲ調査ス可シ  
第四十七條 在監者ニ宛テ發送シ來リタル物及ヒ差入ヲ爲シタ  
ル物ハ看守長立會ノ上看守之ヲ檢査ス可シ  
第四十八條 自辨又ハ差入ヲ許シタル物ハ本人ニ交付セザルト  
キト雖モ携有物ノ例ニ依リ領置ノ手續ヲ爲スコトヲ得  
第四十九條 飲食物ニ付テハ領置ニ關スル規定ヲ適用セズ  
第五十條 投入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタルトキハ投入廢棄簿  
ニ品目、數量及ヒ處分ヲ爲シタル理由及ヒ年月日ヲ記載シ  
典獄之ニ蓋印ス可シ  
第五十一條 死亡者ノ遺留物ノ交付ヲ受ク可キ者遺地ニ在  
ルトキハ其請求ニ因リ遺留物ヲ賣却シ代金ヲ送付スルコトヲ  
得但遺送費ハ請求者ノ負擔トス

第十一章 賞罰

第五十二條 賞遇ヲ爲スコキ者ニハ賞表ヲ付與ス可シ  
賞表ハ加ハテ二箇ノ超ユルコトヲ得  
第五十三條 賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用キ上  
衣ノ左袖肩間ノ表面ニ縫着セシム可シ  
第五十四條 賞遇ハ左ノ如シ  
一 第三百二十三條ニ定メタル接見ノ度數及ヒ第三百二十  
九條ニ定メタル信書發受ノ度數ヲ一同増加スルコ  
ト  
二 褌衣ノ自辨ヲ許スト

三 作業ノ變更ヲ許スコト  
四 第七十一條ニ依リ作業賞與金計算高ヲ賞表一箇  
毎二十分ノ二宛増加スルコト(大正十一年司法省  
令第二十四號ヲ以テ本號ヲ改正)  
五 特別ノ糧食及ヒ飲料ヲ給與スルコト(同上本號ヲ改  
正)  
第五十五條 賞遇ヲ廢止セラレタル者ニハ賞表ヲ撤奪シ賞遇ヲ  
停止セラレタル者ニハ其期間賞表ヲ除去ス可シ  
第五十六條 在監者左ノ各號ニ該ル行爲アルトキハ五十錢以  
下ノ賞金ヲ給スルコトヲ得  
一 在監者ノ逃走セントスルヲ密告シタルトキ  
二 人命ヲ救護シ又ハ在監者ノ逃走セントスル者ヲ捕拿  
シタルトキ  
三 天災事變又ハ傳染病流行ノ際監獄ノ用務ニ服シ  
功勞アリタルトキ  
第五十七條 減食ハ本人ニ給與スル糧食ノ一回ノ分量ヲ二  
分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス  
第五十八條 懲罰事犯ニ付キ取調中ノ者ハ之ヲ獨居拘禁ニ  
付シ又ハ夜間獨居監房ニ拘禁ス可シ  
第五十九條 懲罰ノ言渡ハ典獄之ヲ爲スコシ  
第六十條 懲罰ハ言渡ノ後直ニ之ヲ執行ス可シ  
戶外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ニ付テハ監  
獄醫ヲシテ本人ヲ診斷セシメ其健康ニ害ナシト認メタルトキニ  
非サレハ懲罰ヲ執行スルコトヲ得  
第六十一條 減食又ハ屏禁ノ執行中ニ在ル者ハ監獄醫ヲシテ  
時時其健康ヲ診斷セシム可シ  
第六十二條 減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者被罰所ノ呼出ニ  
因リ出頭スルトキハ當日ニ限リ懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ  
前項ニ掲ケタル者ヲ後監ノ爲メ他所ニ護送スルトキハ護送ノ  
前日、其當日及ヒ護送中懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ

停止ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セズ  
第六十三條 戶外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル  
者ハ懲罰ノ執行ヲ終リタル後速ニ監獄醫ヲシテ其健康ヲ診  
斷セシム可シ  
第六十四條 懲罰ニ處セラレタル者ヲ後監ニ因リ受領シタル監  
獄ノ典獄ハ收監後三日以内ニ懲罰ノ執行ヲ開始ス可シ  
收監後執行開始ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セ  
ズ  
第六十五條 在監者護送ノ途中ニ於テ紀律違反ノ行爲アリ  
タルトキハ本人ヲ受領シタル監獄ノ典獄ニ於テ之ヲ懲罰ニ處ス  
ルコトヲ得  
第六十六條 在監者ノ賞罰ニ關スル事項ハ身分帳簿及ヒ懲  
罰簿ニ記載ス可シ

第十二章 釋放

第六十七條 刑期ノ終了ニ因リ釋放セラル可キ受刑者ハ釋放  
前三日以内獨居拘禁ニ付シ典獄自ラ釋放後ノ心得ニ付キ  
報告ヲ爲スコシ  
第六十八條 刑期ノ終了ニ因リ釋放セラル可キ受刑者ニ付テハ  
釋放ノ十日前迄ニ釋放後ノ保護ニ關スル事項ヲ調査ス可  
シ  
第六十九條 典獄ニ於テ必要アリト認メタルトキハ釋放セラル可  
キ者ノ性格及ヒ行狀並ニ保護ニ關スル意見ヲ本人居住地ノ  
警察官署、市區町村役場又ハ本人ノ保護ヲ引受ク可キ者  
ニ通報ス可シ  
第七十條 釋放セラル可キ者ノ領置物及ヒ作業賞與金ハ豫メ  
交付ノ準備ヲ爲シ置ク可シ  
第七十一條 釋放ノ際若シ可キ衣類ヲ有セザル者ニハ豫メ本  
人ノ領置金若シハ作業賞與金又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ  
調達セシメ若シ調達スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ給

與ス可シ  
第七十二條 受刑者ヲ釋放シタル場合ニ於テ必要アリト認ムル  
トキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ停車場又ハ乘船所迄同行セシ  
メ本人ニ代リ其歸住地又ハ歸住地ニ最近ノ場所ニ至ル迄  
ノ乘車券又ハ乘船切符ヲ請求シ之ヲ本人ニ交付セシム可シ  
第七十三條 受刑者ニ付テハ假出獄ヲ許ス可キ事情アリト認ムル  
トキハ典獄ハ判決書及ヒ執行指揮書ノ附本並ニ行狀録及ヒ  
身上調査書類ヲ添ヘテ司法大臣ニ具申ス可シ  
受刑者軍法會議ニ於テ處斷セラレタルモノナルトキハ前項ノ具  
申ハ司法大臣及ヒ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ之ヲ爲スコシ  
第七十四條 假出獄ニ因リ釋放セラル可キ場合ニ於テハ一定ノ式  
ニ依リ典獄釋放ノ申渡ヲ爲シ本人ニ證明書ヲ交付ス可シ  
第七十五條 假出獄ニ因リ釋放セラル可キ場合ニ於テハ二十九  
條第一號乃至第三號ニ該ルコトヲ知リタルトキハ典獄ハ速ニ  
意見ヲ具シ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ  
第七十六條 第三百七十三條及第三百七十四條ノ規定ハ刑  
法第三十條ニ依リ假出場ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三章 死亡

第七十七條 在監者死亡シタルトキハ典獄ハ其死體ヲ檢視ス  
可シ  
病死ノ場合ニ於テハ監獄醫ハ其病名、病歴、死因及ヒ死  
亡ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載シ之ヲ署名ス可シ  
自殺其他變死ノ場合ニ於テハ其旨ヲ警察官署ニ通報シテ  
檢視ヲ受ケ檢視者及ヒ立會者ノ官氏名並ニ檢視ノ結果ヲ  
死亡帳ニ記載ス可シ  
第七十八條 死亡者ノ病名、死因及ヒ死亡ノ年月日時ハ速  
ニ之ヲ死亡者ノ家族又ハ親族ニ通報ス可シ死亡者刑事被  
告人ナルトキハ仍水檢事ニ通報ス可シ  
第七十九條 受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付

ヲ請フ者ナキ場合ニ限リ解剖ノ爲メ司法大臣ニ於テ指定シ  
ル病院、學校又ハ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得(大正十  
一年司法省令第十三號ヲ以テ本項ヲ改正)  
死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ト雖モ其  
後ニ至リ交付ヲ請フ者アリト思料ス可キトキ又ハ本人カ生前  
ニ於テ解剖ヲ肯セザル意思ヲ表示シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲  
スコトヲ得  
第八十條 死體ヲ請求者ニ交付シ又ハ解剖ノ爲メ送付シタル  
トキハ其旨ヲ死亡帳ニ記載ス可シ  
第八十一條 死亡後二十四時間ヲ經テ死體ヲ交付ヲ請フ者  
ナキハ第三百七十九條ノ場合ヲ除ク外之ヲ監獄ノ墓地ニ  
假葬ス可シ  
火葬ニ付シタル場合ニ於テハ其遺骨ニ付キ亦同シ  
假葬ノ場所ニハ死亡者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日ヲ記シタル  
木標ヲ立ツ可シ  
第八十二條 死體又ハ遺骨ヲ合葬シタルトキハ合葬者ノ氏名  
及ヒ死亡ノ年月日ヲ合葬簿ニ記載シ合葬ノ場所ニハ墓標ヲ  
立ツ可シ  
墓標ニハ石ヲ用ユ可シ

附則

本則ハ監獄法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
監獄則施行細則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分  
ノ内仍ホ其效力ヲ有ス



### ●監獄法施行規則ニ依ル病院及學校指定

(大正十一年六月二日)  
司法部告示第二十五號

改正、昭二一司告一五

監獄法施行規則第七十九條ニ依リ左記ノ病院及學校ヲ指定ス

- 東京帝國大學醫學部及附屬醫院
- 京都帝國大學醫學部及附屬醫院
- 東北帝國大學醫學部及附屬醫院
- 九州帝國大學醫學部及附屬醫院
- 北海道帝國大學醫學部及附屬醫院
- 新潟醫學科大學及附屬醫院
- 岡山醫學科大學及附屬醫院
- 千葉醫學科大學及附屬醫院
- 金澤醫學科大學及附屬醫院
- 長崎醫學科大學及附屬醫院
- 京都府立醫學科大學及附屬醫院
- 大阪醫學科大學及附屬醫院
- 愛知醫學科大學及附屬醫院
- 熊本醫學科大學及附屬醫院
- 私立慶應義塾大學醫學部及附屬醫院
- 私立東京慈惠會大學
- 私立日本醫學科大學
- 私立日本大學醫學科

### ●監獄官吏ヲシテ銃ヲ携帯セシムルノ件

(明治四十一年十一月二十八日)  
勅令第二百八十九號

改正、大一一一勅三一六

監獄官吏ヲシテ銃ヲ携帯セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監獄官吏ニシテ監獄ノ巡察、監外ノ作業ニ就ク受刑者ノ戒護並見張所及外門ノ警備ニ從事スル者ニハ常ニ銃ヲ携帯セシム司法大臣ノ特ニ定メタル場合ニ於テハ典獄ハ戒護ニ從事スル監獄官吏ニ隨時銃ヲ携帯セシムルコトヲ得

### ●刑務所拘禁ノ種類

(大正十一年十月十四日)  
司法部告示第四十二號

小管刑務所及三池刑務所ハ懲役、禁錮、多數摩刑務所及巢鴨刑務所ハ懲役、禁錮、拘留、其ノ他ノ刑務所ハ監獄法第一條ニ規定シタル各種刑ノ拘禁ヲ爲ス  
勞務場ハ小管刑務所及三池刑務所ヲ除クノ外各刑務所ニ之ヲ附設ス

### ●作業章程

(大正十一年十月十四日)  
司法部訓令第七號

刑務所

作業章程左ノ通相定ム

作業章程

第一條 作業新設認可申請書ニハ作業ノ種目、施業方法、就業人員、作業科程、作業賃金及器具、機械其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ官司作業ニ付テハ收支豫算概算書ヲ添付スヘシ

第二條 作業賃金ハ一般ノ賃金ヲ參照シテ之ヲ定ムヘシ

第三條 作業ノ實施ヲ廢止若ハ休止シ又ハ其ノ施業方法ヲ變更シタルキハ事由ヲ直ニ司法大臣ニ申報スヘシ

第四條 作業科程若ハ賃金ノ變更ニ付テハ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 作業ニ付テハ作業主任及作業擔當者ヲ指定スヘシ

第六條 作業ノ實施ハ所長ノ命令ニ依ル

第七條 作業命令ヲ爲スニハ作業主任ヲシテ第一號乃至第五號書式ノ作業原簿ニ必要ナル事項ヲ記載セシメ所長ニ之ヲ證明スヘシ

第八條 作業主任作業命令ヲ受ケタルキハ速ニ命令ノ趣旨ヲ之ヲ證明セシムヘシ

第九條 作業擔當者作業命令ノ通知ヲ受ケタルキハ速ニ必要ナル事項ヲ指示シ作業ニ着手セシムヘシ

第十條 作業主任ハ豫メ各品目別ニ第六號書式所要求品目標準表ヲ作成シ所長ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 作業原簿ニハ通知ノ年月日ヲ記載シ且作業擔當者ヲシテ之ヲ證明セシムヘシ

第十二條 作業擔當者作業命令ノ通知ヲ受ケタルキハ速ニ必要ナル事項ヲ指示シ作業ニ着手セシムヘシ

第十三條 作業主任ハ豫メ各品目別ニ第六號書式所要求品目標準表ヲ作成シ所長ノ認可ヲ受クヘシ

### 作業章程

物品ノ修繕其ノ他特別ノ事由アルトキハ前項ニ依ラサルコトヲ得

第十四條 作業主任作業原簿ノ交付ヲ受ケタルニハ所要求品目標準表又ハ作業原簿記載ノ品目數量ニ依ルヘシ

第十五條 作業主任ハ毎日始業時ニ於ケル就業人員ヲ調査シ第八號書式ニ依リ作業人員日表ヲ作成スヘシ

第十六條 作業擔當者ハ毎日作業ノ成績ヲ検査シ且終業ノ際作業ニ使用シタル器具、機械ヲ點檢スヘシ

第十七條 作業成績ヲ検査シタルキハ作業擔當者ハ第九號書式ノ日報表ニ其ノ成績ヲ記入シ翌月初ニ之ヲ作業主任ニ差出スヘシ但シ完成期ニ至ル迄作業成績ノ記入ヲ省略スルコトヲ得

第十八條 物品ノ製作若ハ修繕ヲ終リ又ハ農作物ヲ收穫シタルトキハ作業擔當者ハ生産年月日、品目、數量其ノ他必要ナル事項ヲ作業原簿ニ記載シ作業主任ニ成品引渡ノ通知ヲ爲スヘシ

第十九條 前項以外ノ作業ヲ終リタルトキハ作業主任ニ完成ノ通知ヲ爲スヘシ

第二十條 作業主任成品引渡ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ品目、數量及仕上ノ模様ヲ検査スヘシ

第二十一條 作業擔當者成品ノ引渡ヲ終リタルトキハ其ノ都度作業主任ノ證明ヲ求メ作業完了ノ場合ニ於テハ作業原簿ヲ還付スヘシ

第二十二條 作業主任成品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ必要ナル事項ヲ作業原簿ニ記載スヘシ第十一條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキ亦同シ

第二十三條 引渡ヲ受ケタル成品ニシテ受負又ハ委託ニ係ルトキハ受負者又ハ委託者ニ對シ交付ノ通知ヲ爲スヘシ

第二十四條 一人ノ委託ニ係ルトキハ代金ノ納付後ニ非サレハ成品ノ交付ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條 作業主任成品ノ交付ヲ爲スコトキハ作業原簿ニ受領者ノ證明ヲ徴スヘシ但シ證明書ヲ以テ證明ニ代フルコトヲ妨ケス

第二十六條 作業命令ニ記載シタル作業ノ全部ヲ終リタルトキハ所長作業原簿ヲ検査シ完結ノ證明ヲ爲スヘシ

第二十七條 物品ノ製作、修繕又ハ農作物ノ製作ノ經過一月以上ニ渉ルトキハ毎月其ノ検査ヲ爲スヘシ

第二十八條 作業主任ハ第十號書式ノ作業月表及作業賃金計算高報告書ヲ作成スヘシ

第二十九條 作業賃金計算高報告書ハ毎月十四日迄ニ之ヲ所長ニ差出スヘシ

第三十條 官司作業ニ係ル製作品及農作物ニ付テハ材料ノ價格及作業賃金等ヲ參照シ市價ニ依リ賣却價格ヲ算定スヘシ但シ自用ノ物品ニ付テハ市價ニ依ラサルコトヲ得

第三十一條 受負作業ニ付テハ受負期間、就業人員及受負賃金ヲ豫定スヘシ

第三十二條 物品ノ製作又ハ修繕ヲ目的トスル受負作業ニ付テハ一切ノ器具、機械及物品ヲ受負者ヨリ提供セシムヘシ

第三十三條 受負契約ヲ締結スルニハ以下十一條ノ規定ニ準據シ契約證書ニ其ノ趣旨ヲ明記スヘシ

第三十四條 受負期間ハ一年以下ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ期間満了ノ際更新スルコトヲ妨ケス

第三十五條 受負期間ハ特ニ必要ナル場合ニ限リ事由ヲ具シ司法大臣ノ認可ヲ受ケ一年ヲ超エタル範圍ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十六條 就業人員ハ成人ハ一二十人以上百人以上以下ノ其ノ範圍内ニ於テ最多限及最少限ヲ定ムヘシ

第三十七條 受負賃金ハ就業人員一人ニ對シ一日ノ賃金又ハ成品ノ數量ニ對シ賃金ヲ以テ之ヲ定メ毎月二十日迄ニ前月分ヲ支拂ハシムヘシ







假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

二通報ス可シ
假出獄ヲ許サレタル者死亡シタルトキハ監督警察官
署ハ之ヲ第四條ノ檢事及ヒ監票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス
可シ
前項ノ通報ヲ受ケタル監獄ハ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ
附則
本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

改正、明四三—司訓四、六一—司訓五
假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續左ノ通相定ム
假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續
第一條 假出獄ノ具申書ニハ假出獄ヲ許ス可キ者ノ住所、氏
名、年齢、罪名、犯數、刑名、刑期、刑期ノ起算日、
終了日、假出獄條件期間經過ノ日、假出獄ヲ許ス事由、
出獄後ニ於ケル保護者ノ住所、氏名、職業、生活ノ状態
及ヒ保護者ト本人トノ關係ヲ記載ス可シ大正十二年司法
省訓令第五號ヲ以テ本條ヲ改正
不定期刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ刑ノ短期、長期並ニ
各其満了ニ應當スル日ヲ記載ス可シ(同上本項ヲ追加)
第二條 假出獄ノ具申書ニハ假出獄ヲ許ス可キ者ノ住所、氏
名、年齢、罪名、犯數、刑名、刑期若クハ金額、刑期ノ
起算日及ヒ終了日、假出獄ヲ許ス事由ヲ記載ス可シ
第三條 監獄法施行規則第七十二條ニ依リ假出獄ノ具
申書ニ添附ス可キ行狀録ハ身分帳簿乙號行狀録最近一
年六月分ノ寫ヲ以テ之ニ充テ、身上調査書類ハ身上票及
ヒ公務所其他ノ回答書ニシテ特ニ參考ト爲ル可キモノノ寫ヲ
以テ之ニ充ツシ
第四條 刑期三分ノ一ヲ算出スルニハ左ノ例ニ依リ層ニ從ヒ計
算ス可シ
一 刑期三年以下ニシテ年ノミニ係ルトキハ年ヲ月ニ換算
シテ之ヲ三分シ其商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨ
リ計算ス
二 刑期三年以上ニシテ年ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三

分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シ其商ヲ得、
年ノ端數ハ之ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ月ノ商ヲ得、
年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算
ス
三 刑期三年以下ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先ツ年ヲ月
ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘテ其和ヲ三分シ因テ得
タル商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス
四 刑期三年以上ニシテ年ト月トニ跨ル場合ニ於テ其儘
三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ年ノ商ヲ
得、年ノ端數ハ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘ其和
ヲ三分シテ月ノ商ヲ得、月ノ端數ハ次ノ方法ニ依リ
計算ス
(イ) 先ツ刑期起算日ヨリ年ト月トノ商ニ相當スル期
間ヲ曆ニ從ヒ計算シ其期間ノ最終日ヲ定ム
(ロ) 次ニ(イ)號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ月ノ
端數ヲ曆ニ從ヒ計算シ其期間ニ相當スル日數
ヲ算出ス
(ハ) (ロ)號ニ依リ算出シタル日數ヲ三分シテ日ノ商ヲ
得、更ニ(イ)號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ
日ノ商ニ相當スル期間ヲ計算シ其最終日ヲ定
ム但日ノ端數ヲ生スルトキハ商ヲ一日繰上ケルモ
ノトス
五 年ト月ト日トニ跨リ其儘三分スルコト能ハサルトキハ四
號(イ)(ロ)ノ例ニ準シ日數ヲ算出シ其算出シタル日數
ニ刑期ノ日ヲ加ヘ之ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、四號(ハ)
ノ例ニ依リ計算ス
六 月ト日トニ跨リ又ハ日ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三
分スルコト能ハサルトキハ前號ノ例ニ準シ計算ス
七 刑期ニ算入ス可キ日數アルトキハ先ツ全刑期ノ最終
日ヨリ逆テ算入ス可キ日數ヲ控除シ其殘期ノ三分ノ

一 計算ス
第五條 假出獄ノ監票ハ別記第一號書式及ヒ第二號書式
ニ依リ之ヲ作成シ假出場ノ監票ハ別記第三號書式ニ依リ
之ヲ作成ス可シ(大正十二年司法省訓令第五號ヲ以テ本
條ヲ改正)
第六條 假出獄又ハ假出場ニ因リ釋放シタルトキハ許可書到
達ノ年月日時及ヒ釋放シタル年月日時ヲ司法大臣ニ申報
ス可シ
第七條 少年法第十一條ノ適用ヲ受ケ可キ者ニ付テハ前項ノ外向ホ
同條ニ依リ刑ノ執行終ル可キ日ヲ申報ス可シ(同上本項ヲ
追加)
第八條 (明治四十三年司法省訓令第四號ヲ以テ本條ヲ削
除)

附則
本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年司法省訓令第二號假出獄監票ハ本令施行
ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
(別記書式略ス)

囚人及刑事被告人押送規則

(明治三十年十一月二十六日)
(勅令第四百十五號)
囚人及刑事被告人押送規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
囚人及刑事被告人押送規則
第一條 囚人及刑事被告人ノ押送ハ警察署又ハ警察分署ノ
運傳ニ付スルモノトシ但シ十里以内ノ押送汽船汽船ノ便アル
地方間ノ押送又ハ一時多數ノ囚人若ハ刑事被告人ノ押
送其ノ他特別ノ事情アル場合ハ本項ニ依リサルコトヲ得
前項但書ノ場合ニ於テハ看守長看守又ハ憲兵下士卒ヲシ
テ押送セシムルコトヲ得
第二條 同一廳府縣内ニ在ル監獄間囚人ノ押送ハ看守長看
守ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ但シ十里以外ノ押送ハ前條ニ依リ
運傳ニ付スルコトヲ得
第三條 被押送者ノ所持スル貨幣物品ニシテ本人ト同時ニ押
送スルモノハ左ノ例ニ依リ取扱フヘシ
一 物品ハ押送者ニ託シテ之ヲ押送ス但シ危險ノ虞アル
物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラ
ズ
二 貨幣ハ押送者ニ託セシメ保管金寄託證ヲ手續ニ依リ
之ヲ送致ス但シ五圓未満ノ金額若ハ押送期間一
日以上ニ互ニアル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣
ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルコトヲ得
第四條 前條ニ依リ送致中ノ貨幣物品ハ押送者ニ託スル場合
ニ於テハ押送者又ハ各官署ノ保管ニ屬シ押送者ニ託セサル場
合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス
第五條 押送者ノ旅費並ニ囚人及刑事被告人ノ押送費用ハ
押送者又ハ各官署ノ區別ニ從ヒ各其ノ經費ヲ以テ支辨ス但

シ他廳府縣ヨリ囚人ノ送還ヲ求メタル場合ニ於テハ其ノ押送
費用ハ送還ヲ求メタル廳府縣ノ經費ヨリ支辨ス
集治監ニ於テ執行スヘキ刑ノ確定判決ヲ受ケタル囚人ニ係ル
押送費用ハ在府縣獄囚徒費ヲ以テ之ニ充ツ
第六條 被押送者ノ宿泊費額ハ警察署又ハ警察分署ニ於テ
ハ留置人ノ例ニ依リ其ノ他ニ宿泊セシムル場合ニ於テハ内務
大臣ノ定ムル所ニ依ル
第七條 刑事被告人運傳押送ノ場合ニ於テ警察署長若ハ警
察分署長ハ監獄ノ規程ニ從ヒ押送途中ニ必要ナル物品又
ハ飲食物ニ限リ自費ヲ以テ之ヲ購求スルコトヲ許シ又親屬故
舊ニ之ヲ差入ラシムルコトヲ得
第八條 押送途中被押送者死亡シ二十四時間内ニ遺骸ノ
引取人ナキトキハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ假埋葬ヲ
爲スヘシ
第九條 本則ハ軍衙間ニ於ケル囚人及刑事被告人ノ押送ニ
適用ス
附則
第十條 本則ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ内務大臣ノ定ム
前項ノ細則ニ規定シタルモノノ外押送ニ關シ必要ナル指揮ハ
廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ノ之ヲ爲スヘシ
第十一條 本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス
第十二條 明治十五年太政官達第十號ハ本則施行ノ日ヨリ
廢止ス

囚人及刑事被告人押送規則
假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

囚人及刑事被告人押送規則



囚人及刑事被告人押送細則

(明治三十年十二月二十七日) (内務省令第三十七號)

改正、昭二一内令一

囚人及刑事被告人押送細則左ノ通り相定ム  
囚人及刑事被告人押送細則

第一條 囚人及刑事被告人ヲ押送スルトキハ發送官署ニ於テ別記雛形ノ様式ニ從ヒ押送狀ヲ作り被押送者ノ身上ニ關スル書類其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ被押送者ト共ニ押送官吏ニ交付スヘシ

第二條 前項押送ノ場合ニ於テハ押送前若クハ押送ト同時ニ最後ニ送付ヲ受ケル官署ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三條 疾病者妊婦者又ハ分娩後一箇月ヲ経過セサル婦女ハ醫師ニ於テ差支ナシト認ムルニ非サレハ押送スルコトヲ得ス

第四條 刑事被告人ニシテ醫師ニ於テ押送ニ堪ヘサル者ト認ムルトキハ當該裁判官ニ通知スヘシ

第五條 押送ハ汽車汽船ニ依ルモ若クハ特別ノ事由アルトキハ外日出前日以後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 押送ヲ爲ス警察署又ハ警察分署ニ於テハ別記雛形ノ押送帳簿ヲ備ヘ押送ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第七條 被押送者ハ汽車又ハ汽船中ニ在ル場合ノ外警察署又ハ警察分署ニ宿泊セシムヘシ

第八條 囚人及拘留狀ニ依リ拘留スヘキ刑事被告人ハ監獄署所在地ニ於テハ監獄署ニ宿泊セシムルコトヲ得

第九條 前二項ノ場所ニ宿泊セシメ難キ事由アルトキハ其ノ地ノ警察署又ハ市町村長ニ協議シ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第十條 被押送者ヲ警察署又ハ警察分署以外ニ宿泊セシメ又ハ飲食セシムル場合ニ於テハ其ノ費用ハ總テ實費額ニ依ル

但臥具點燈料等宿泊ノ費用ハ一夜金五拾錢食費ハ一同金拾錢ヲ超ユルコトヲ得ス(昭和二年内務省令第一號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十一條 刑事被告人押送途中ニ於テ自費ヲ以テ物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキハ警察署長警察分署長ハ必要ノ有無及其ノ關係ヲ取札シテ之ヲ許可スヘシ

第十二條 拘留狀ニ依リ拘留スヘキ刑事被告人ニ對シ前項ノ購求ヲ必要ト認ムルトキハ發送官署ハ豫メ領置金支出方ニ付當該裁判官ノ允許ヲ受ケ其ノ旨ヲ押送狀ニ記入スヘシ

第十三條 前條ニ依リ購求シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ其ノ保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ認認書ヲ徴スヘシ

第十四條 押送中ノ刑事被告人ニ對シ物品又ハ飲食物ノ差入ヲ請フ者アルトキハ第七條ニ準シテ之ヲ許可スヘシ

第十五條 押送中若クハ押送後疾病シタルトキハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ

第十六條 前項ノ場合ニ於テ押送官吏ハ最寄警察官憲兵又ハ市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得又ハ已ムラ得サル事由アルトキハ被押送者ヲ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スルコトヲ得

第十七條 押送中若クハ押送後死亡シタルトキハ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スヘシ

第十八條 汽車汽船中ニ在テ死亡シタルトキハ最初ノ著船地又ハ停車地ノ警察署又ハ警察分署ニ交付スヘシ但已ムラ得サル場合ニ於テハ其ノ他ノ著船地又ハ停車地ノ警察署警察分署ニ交付スルコトヲ得

第十九條 交付ヲ受ケタル警察署又ハ警察分署ハ醫師ノ死亡證書ヲ徴シ死亡ノ年月日時場所及病名ヲ本籍市町村長(外國人ナラハ領事)發送官署及最後ニ送付ヲ受ケル官署ニ通知シ尚遺骸ノ下附又ハ假埋葬ノ手續ヲ爲シ第一條記載ノ書類ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第二十條 押送中逃走者アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ其ノ地ノ警察

官憲兵及附近ノ各警察署又ハ警察分署ニ通報シ押送官署ハ尚發送官署及最後ニ送付ヲ受ケル官署ニ之ヲ通知シ第一條記載ノ書類ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第二十一條 被押送者ニシテ傳染病流行地ヲ經由シタルトキハ除隔消毒法ヲ行フヘシ

附則

第十四條 本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

附則 (昭和二年内務省令第一號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記雛形略ス)



諸

法

(地方制度、  
產業法規、  
稅法、  
其他)



諸法 (地方制度、税法、産業法規、其他) 目次

〔地方制度〕

●府縣制 (明三二一法六四) 改正、明四一一法二、大三一法三五、大一一法五五、大一一一法七三

- 第一章 總則……………一
- 第二章 府縣會……………一
- 第一款 組織及選舉……………一
- 第二款 職務權限及處務規程……………六
- 第三章 府縣參事會……………七
- 第一款 組織及選舉……………七
- 第二款 職務權限及處務規程……………七
- 第四章 府縣行政……………七
- 第一款 府縣吏員ノ組織及任免……………八
- 第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程……………八
- 第三款 給料及給與……………九
- 第五章 府縣ノ財務……………九
- 第一款 財產營造物及府縣稅……………九
- 第二款 歲入出豫算及決算……………九
- 第五章ノ二 府縣組合……………二一
- 第六章 府縣行政ノ監督……………二一
- 第七章 附則……………二二
- 附則……………三三

○府縣制改正經過規程 (大一一一勅二〇五)……………一四

○府縣制暫行特例 (大一一一勅二〇四)……………一四

○府縣制中改正法律 (大一一一法七三)……………一四

附則第三項ノ規定ニ依ル命令ニ關スル件 (大一一一內令三九)……………一五

○府縣制施行令 (大一一一勅二〇〇) 改正、昭二一勅三六……………一五

- 第一章 府縣會議員ノ選舉……………一六
- 第二款 府縣會議員ノ選舉運動及其費用並ニ公立學校等ノ設備ノ使用……………一七
- 第三款 府縣出納吏及府縣吏員ノ身元保證及賠償責任……………一七
- 第四章 府縣稅ノ賦課徵收……………一七
- 第五章 府縣ノ監督……………一八
- 第六章 府縣ノ經費……………一八
- 第七章 府縣ノ行政ニ關スル特別シタル事項……………一九
- 第八章 府縣ノ行政ニ關スル特別ノ特例……………一九
- 第九章 附則……………一九
- 府縣制施行規則 (大一一一內令一八)……………一九
- 第一章 府縣會議員ノ選舉……………二〇
- 第二章 府縣ノ財務……………二一
- 第三章 附則……………二二
- 別記……………三三

○地方議會議員ノ選舉運動ノ爲ニスル文書圖書ニ關スル件 (大一一一內令二) 改正、昭二一內令四二……………三三

○直接稅及間接稅ノ種類、類別 (大一一一內令六八)……………三四

○府縣吏員服務紀律 (明三五內令三)……………三五

○國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律 (明三〇一法三七)……………三六

○同上法律施行ニ關スル件 (明三一勅一八四)……………三六

●市制 (明四四一法六八) 改正、大一一〇一法五八、大一一一法五六、大一一一法七四……………三七

- 第一章 總則……………三七
- 第一款 市及其ノ區域……………三七
- 第二款 市住民及其ノ權利義務……………三七
- 第三款 市條例及市規則……………三八
- 第二章 市會……………三八
- 第一款 組織及選舉……………三八
- 第二款 職務權限……………三九
- 第三章 市參事會……………三九
- 第一款 組織及選舉……………三九
- 第二款 職務權限……………四〇
- 第四章 市吏員……………四〇
- 第一款 組織選舉及任免……………四〇
- 第二款 職務權限……………四一



諸法（地方制度、税法、産業法規、其他）目次

第五章 給料及給與	四七
第六章 市ノ財務	四七
第一款 財産營造物及市税	四七
第二款 歳入出算及決算	四九
第七章 市ノ一部ノ事務	五〇
第八章 市町村組合	五〇
第九章 市ノ監督	五一
第十章 雜則	五二
附則	五三
○市制第六條ノ市ノ指定ニ關スル件 (明四一勅三三九)	五三
○市制第六條ノ市ノ助役ノ定數(明四一内令一三)	五四
○府縣制準用選舉市區指定令(大一一勅二二)	五四
○六大都市行政監督ニ關スル法律(大一一法一)	五四
○同上特例(大一一勅二二)	五五
○市制第八十二條第三項ノ規定ニ依ル市指定(明四一内令一四)改正、昭二一内令二	五五
○行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件(明三三勅七一)	五五
○都市計畫法(大八法三六)改正、大一一法二七、大一一法二八	五六
○都市計畫法施行令(大八勅四八)改正、大一一勅四一六	五六
○市街地建築物法(大八法三七)	六〇
○市街地建築物法施行令(大九勅四三)改正、大一一勅三九五、大一一勅一五二、勅三〇四	六一
○町村制(明四一法六九)改正、大一一法五九、大一一法七五、勅二〇八	六一
第一章 總則	六一
第一款 町村及其ノ區域	六二
第二款 町村住民及其ノ權利義務	六五
第三款 町村條例及町村規則	六六
第二章 町村會	六六
第一款 組織及選舉	六六
第二款 職務權限	七〇
第三款 町村吏員	七一
第一款 組織選舉及任免	七一
第二款 職務權限	七二
第四章 給料及給與	七三
第五章 財産營造物及町村税	七四
第一款 歳入出算及決算	七六
第二款 町村ノ一部ノ事務	七七
第三款 町村組合	七七
第四款 町村ノ監督	七七
第九章 雜則	七九
附則	七九
○市制町村制改正經過規程(大一一勅二〇)	八〇
○町村制暫行特例(大一一勅二〇九)	八一
○市制町村制ノ施行ニ關スル件(明四一勅二四三)	八一
○市制町村制施行令(大一一勅二〇二)改正、昭二一勅三八	八一
第一章 總則	八一
第二章 市町村會議員ノ選舉	八三
第三章 市制第三十九條ノ市ノ市會議員ノ選舉ニ關スル特例	八四
第四章 市制第三十九條ノ市ノ市會議員ノ選舉運動及其ノ費用並ニ公立學校等ノ設備ノ使用	八五
第五章 市町村吏員ノ賠償責任及身元保證	八六
第六章 市町村税ノ賦課徵收	八六
第七章 市町村ノ監督	八七
第八章 市制第六條ノ市ノ區	八八
第九章 雜則	八九
附則	八九
○市制町村制施行規則(大一一内令一九)	八九
第一章 市町村會議員ノ選舉	八九
第二章 市町村吏員ノ事務引繼	九一
第三章 市町村ノ財務	九二
第四章 市制第六條ノ市ノ區	九三

附則	九三
別記	九三
○市制町村制等ノ規定ニ依ル命令ニ關スル件(大一一内令二)	九三
○市町村内地ノ字名改稱變更取扱規定(明四一内訓二)改正、大一一内訓六、大一一内訓九	九三
○市町村内地ノ字名改稱取扱方(大一一内訓三)	九三
○市町村事務報告例概則(明二五内訓三五〇)	九四
○市町村吏員服務紀律(明四一内令一六)改正、大一一内令二五	九四
○市町村長ヲシテ本籍人ノ犯罪人名簿ヲ整備シ及轉籍者ニ關スル通知ヲ爲サシムル件(大一一内訓一)	九五
○市町村ニ於テ民勢調査ヲ爲スニ當リ妨害シタル者ノ處罰方(明四一内令一五)	九五
〔税法〕	
○國稅徵收法(明三〇法二)改正、明三五法三六、明三八法四六、明四一法三七、大一一法二二	一〇〇
第一章 總則	一〇六
第二章 徵收	一〇六
第三章 滯納處分	一〇七
第四章 罰則	一〇八
附則	一〇八
○國稅徵收法施行規則(明三五勅一三五)改正、明三八勅六七、明四一勅二八二、大一一勅五八八、大一一勅一七〇	一〇九
○地租條例(明一七勅七)改正、明二一法三〇、明三一法三二、明三四法三〇、明三六法一、明三八法三三、明四一法三六、明四三法二、大一一法一八、法一九、大一一法四六、大一一法六	一五二
○地租條例施行規則(明四三勅四四四)改正、大一一勅二六三、大一一勅一三九	一五五
○所得稅法(大一一法一一)改正、大一一法四五、大一一法八、法二九、法四一、大一一法八	一五七
○所得稅法施行規則(大九勅二二六)改正、大一一勅六九、大一一勅一七一、勅一五三、大一一勅七八、大一一勅二三、大一一勅二九	一六四
○營業收益稅法(大一一法一一)	一七一
○資本利子稅法(大一一法一二)	一七三
○資本利子稅法施行規則(大一一勅三)	一七四
○相續稅法(明三八法一〇)改正、明四三法四、大一一法二二、大一一法四八、大一一法一三	一七五
○相續稅法施行規則(明三八勅六八)	一七九
○印紙稅法(明三一法五四)改正、明三四法一六、明四〇法二七、明四二法四二、明四三法一四、明四四法四一、大一一法四七、大一一法二二、大一一法二二、昭二一法七	一八一
○登録稅法(明二九法二七)改正、明三三法八三、明三三法四四、明三四法二六、明三五法八、明三八法九、法五七、法五八、明四二法一四、法三一、明四三法一、法六四、大一一法二一、大一一法一四、大一一法四六、大一一法二一、昭二一法六	一八三
○關稅法(明三一法六一)改正、明四一法四四、大九法四九	一九二
第一章 關稅ノ賦課及徵收	一九二
第二章 船舶	一九二
第三章 貨物	一九二
第一節 總則	一九二
第二節 輸出、輸入及積戻	一九三
第三節 運送	一九三

諸法（地方制度、税法、産業法規、其他）目次



諸法 地方制度、税法、産業法規、其他) 目次

第四節 郵便物……………一九三  
 第五節 收容……………一九四  
 第四章 税關官吏ノ職權……………一九四  
 第五章 異議及訴訟……………一九五  
 第六章 罰則……………一九五  
 第七章 犯則事件ノ調査及處分……………一九六  
 第八章 附則……………一九六  
 ○地方税ニ關スル法律(大一一一法二四)……………一九七  
 ○同法律第二十八條ニ依ル委任ノ件(大一一一勅一四三)……………一九八  
 ○地方税制限ニ關スル法律(明四一法三七)改正、明四三法二七、明四四法三三、大九一法三七、大一一一法三〇、大一一一法二五……………一九八  
 ○同法律第六條ノ規定ニ依ル委任ノ件(大九一勅二八二)……………二〇〇  
 ○府縣稅徵收ニ關スル件(明三三法八二)改正、明三五勅一七三、明四四勅二七四、大一一一勅二四七、大九一勅一六九……………二〇〇  
 ○府縣稅指定ノ件(大九一內令一〇)……………二〇二  
 ○府縣稅家屋稅ニ關スル件(明三三勅二七六)改正、大元一勅四七……………二〇二  
 ○府縣稅戶數割規則(大一一一勅四二二)改正、大一一一勅九二……………二〇三

○同施行細則(大一一一內令二)改正、大一一一內令二、大一一一內令一四……………二〇四  
 ○府縣稅戶數割ニ關スル件(大一一一勅二八二)……………二〇五  
 ○市稅及町村稅ノ賦課ニ關スル件(明四四勅二四一)改正、大四一勅八二、大一一一勅二六三……………二〇六  
 ○市稅及町村稅ノ徵收ニ關スル件(大九一勅一六八)……………二〇六  
 ○市稅及町村稅指定ノ件(大九一內令一)改正、大一一一內令一……………二〇七  
 ○市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件(明三〇勅一九五)改正、明三二勅二一九、明三三勅四八、勅一四五、大七一勅六五、大一一一勅二九五……………二〇八  
 ○町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村稅ノ徵收ニ關スル件(大一一一勅二八六)……………二〇八  
 [産業法規]  
 ○工場法(明四四法四六)改正、大一一一法三三……………二〇九

○工場法施行令(大五勅一九三)改正、大一一一勅四七一、一五一勅一五三……………二一一  
 第一章 通則……………二一一  
 第二章 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助……………二一一  
 第三章 職工ノ雇入及解雇……………二一二  
 第四章 徒弟……………二一二  
 第五章 罰則……………二一二  
 附則……………二一二  
 ○工場法施行規則(大五勅一九)改正、大一一一內令一三……………二一六  
 ○工業勞働者最低年齡法(大一一一法三四)……………二一八  
 ○工場抵當法(明三八法五四)……………二一九  
 ○健康保險法(大一一一法七〇)改正、大一一一法三四……………二一九  
 第一章 總則……………二一九  
 第二章 被保險者……………二二〇  
 第三章 保險者……………二二〇  
 第四章 保險給付……………二二〇  
 第五章 費用ノ負擔……………二二〇  
 第六章 審査ノ請求、訴訟及訴訟……………二二一  
 第七章 罰則……………二二一  
 附則……………二二一  
 ○健康保險法施行令(大一一一勅二四三)改正、大一一一勅三〇、勅二二〇……………二二七

第一章 總則……………二二七  
 第二章 被保險者……………二二八  
 第三章 健康保險組合……………二二八  
 第一節 組合ノ設立……………二二九  
 第二節 組合ノ會議……………二二九  
 第三節 組合ノ役員……………二二九  
 第四節 組合ノ財務……………二三〇  
 第五節 組合ノ分合解散……………二三〇  
 第六節 組合ノ監督……………二三〇  
 第四章 保險給付……………二三一  
 第五章 費用ノ負擔……………二三一  
 第六章 審査ノ請求及訴訟……………二三三  
 第一節 健康保險審査會ノ組織……………二三三  
 第二節 健康保險審査會ノ審査手續……………二三四  
 第三節 雜則……………二三五  
 附則……………二三五  
 ○勞働爭議調停法(大一一一法五七)……………二三六  
 ○勞働爭議調停法施行令(大一一一勅一九六)……………二三七  
 ○礦業法(明三八法四五)改正、明四〇法四一、明四三法一〇、明四四法九、大一一一法二二、昭二一法三六……………二三九  
 第一章 總則……………二三九  
 第二章 鑛業權……………二三九  
 第三章 土地ノ使用……………二四〇  
 第四章 鑛業警察……………二四二

第五章 鑛夫……………二四二  
 第六章 鑛業稅……………二四三  
 第七章 訴訟、訴訟及裁決……………二四三  
 第八章 罰則……………二四三  
 附則……………二四四  
 ○鑛業抵當法(明三八法五五)……………二四五  
 ○砂鑛法(明四二法一三)改正、大一一一法三一……………二四六  
 ○漁業法(明四三法五八)……………二四八  
 ○産業組合法(明三三法三四)改正、明三九法四五、明四二法二七、大六一法二二、大一一一法七三、大一一一法四四、大一一一法五四……………二五〇  
 第一章 總則……………二五二  
 第二章 設立……………二五二  
 第三章 組合員ノ權利義務……………二五三  
 第四章 管理……………二五三  
 第五章 加入及脱退……………二五四  
 第六章 監督……………二五五  
 第七章 解散……………二五六  
 第八章 清算……………二五六  
 第九章 産業組合聯合會及産業組合中央會……………二五七  
 第十章 罰則……………二五八  
 附則……………二五九

○鐵道營業法(明三三法六五)改正、明四三法五〇、大八一法五四……………二六〇  
 第一章 鐵道ノ設備及運送……………二六〇  
 第二章 鐵道保員……………二六一  
 第三章 旅客及公眾……………二六一  
 附則……………二六一  
 ○鐵道抵當法(明三八法五三)改正、大一一一法五六……………二六二  
 第一章 總則……………二六二  
 第二章 登錄……………二六四  
 第三章 強制競賣及強制管理……………二六五  
 第四章 罰則……………二六八  
 附則……………二六八  
 ○森林法(明四〇法四三)改正、明四四法七五……………二六九  
 第一章 總則……………二六九  
 第二章 營林ノ監督……………二六九  
 第三章 保安林……………二七〇  
 第四章 土地ノ使用及收用……………二七〇  
 第五章 森林組合……………二七二  
 第六章 森林警察……………二七二  
 第七章 罰則……………二七三  
 第八章 附則……………二七四  
 ○取引所法(明二六法五)改正、明三三法五八、大一一一法三三、大一一一法六〇……………二七五  
 第一章 取引所ノ設立……………二七五







- 貨幣法(明三〇一法一六)改正、明三九一法二六、明四〇一法六、大五一法八、大七一法四二、大九一法五、大一一一法七三……三七一
- 遺失物法(明三二一法八七)改正、大一一一法四……三七三
- 遺失物法施行細則(明三二一内令四)……三七四
- 古物商取締法(明二八一法一三)改正、明三三一法六〇、明三八一法二四……三七五
- 古物商取締法細則(明二八一内令八)……三七六
- 醫師法(明三九一法四七)改正、明四二一法四四、大三一法三八、大八一法五七、大一一一法一……三七八
- 醫師法施行規則(明三九一内令二七)改正、明四二一内令一七、大八一内令一五……三九九
- 未成年者喫煙禁止法(明三三三法三三)……三八一
- 未成年者飲酒禁止法(大一一一法二〇)……三八二
- 自動車取締令(大八一内令一)改正、大一一一内令四四……三八三
- 同接國稅犯則者處分法(明三三一法六七)改正、明三七一法一一、明四一法八……三八六

- 間接國稅犯則者處分法施行規則(明三三一法五二)改正、明三四一法一七〇、明三五一法一四五、明三七一法九二、明三八一法九、明三三三法一〇四、明三七一法九二、大元一法一三、大三十法一五三、大一一一法五二、大一一一法四〇……三八七
- 計理士法(昭二一法三一)……三八九
- 恩給法(大一一一法四八)
  - 第一章 總則……三九〇
  - 第二章 公務員
    - 第一節 通則……三九一
    - 第二節 恩給金額……三九四
    - 第三章 遺族……三九六
  - 附則……三九七
  - 別表……三九九
- 恩給法施行令(大一一一法三六七)改正、大一一一法五二〇、大一一一法五二一、勅四〇七、大一一一法五三三、大一一一法五三三、勅三〇四、昭二一法三六二……四〇四

府縣制

(明治三十二年三月十六日法律第六十四號)

改正、明四一一法二、大三一法三五、大一一一法五五、大一一一法七三

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ府縣制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 府縣ハ從來ノ區域ニ依リ市町村及島嶼ヲ包括ス(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二條 府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律命令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 府縣ノ廳置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣ノ境界ニ涉リテ市町村境界ノ變更アリタルトキハ府縣ノ境界モ亦自ラ變更ス所屬未定地ヲ市町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ(同條本項ヲ改正)

本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ内務大臣ハ關係アル府縣議會及市町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス(同上本項ヲ改正)

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第四條 府縣會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ市ノ區域又ハ從前郡長若ハ島司ノ管轄シタル區域ニ依ル但シ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定

府縣制 總則 府縣會

シタル市ニ於テハ區ノ區域ニ依ル(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ第二項ヲ改正、第三項及第四項ヲ削除)

第五條 府縣會議員ハ府縣ノ人口七十萬未滿ハ議員三十人ヲ以テ定ム七十萬以上百萬未滿ハ五萬ヲ加フル毎二一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎二一人ヲ増ス

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事ノ之ヲ定ム(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本項ヲ改正)

第六條 府縣ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セズ(同上本項ヲ追加)

第七條 府縣内ノ市町村公民ハ府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者(未ダ入營セザル者及歸休下士官兵ヲ除ク)及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有ス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒(勅令ヲ以テ定ムル者)ヲ除ク及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

市町村公民權停止中ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス在職ノ檢察、警察官吏及收稅官吏ハ被選舉權ヲ有セス選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

府縣ノ官吏及有給ノ吏員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ト相兼スルコトヲ得ス

衆議院議員ハ府縣會議員ト相兼スルコトヲ得ス(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七條 府縣會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本項ヲ改正)

第八條 府縣會議員中副員ヲ生シタルトキハ三箇月以内ニ補選舉行フヘシ但シ其ノ副員ト爲リタル議員カ第三十一條第二項、第三項若ハ第六項ノ規定ニ依ル期限前ニ於テ副員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第二十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザル者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ於テ副員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第二十九條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザル者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ中ニ就キ當選者ヲ定ム(此ノ場合ニ於テ第三十二條第三項ノ規定ヲ適用ス(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ改正))

第三十二條第四項及第五項ノ規定ハ補選選舉ニ之ヲ適用ス(同上本項ヲ改正)

第九條 府縣會議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第十條 府縣會議員ノ選舉ハ其ノ府縣内ニ於ケル市町村會議員選舉人名簿ニ依リテ之ヲ行フ

市町村制第三十八條ノ町村ニ於テハ同法第十八條乃至第十八條ノ五ノ規定ニ準シ選舉人名簿ヲ調製ス(シ)

前項ノ選舉人名簿ハ之ヲ町村會議員選舉人名簿ト稱シ第一項ノ規定ヲ適用ス(同上本條ヲ改正)

第十條 (同上本條ヲ削除)

第十一條 (同上本條ヲ削除)

第十二條 (同上本條ヲ削除)

第十三條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リテ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉舉行ヘキ選舉區役票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ選舉ノ期日前二十日ヨリ之ヲ發ス(シ)(同上本項ヲ改正)

天災事變等ノ爲投票舉行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ府縣知事ハ當該選舉區又ハ投票區ニ付投票舉行ヘキ日時ヲ定メ投票ノ期日前七日ヨリ之ヲ告示ス(シ)(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本項ヲ追



加、同十五年法律第七十三號ヲ以テ改正）

第十三條ノ二 議員候補者タルトスル者ハ選舉ノ期日ノ告示アリタル日ヨリ選舉ノ期日前七日目マテニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第十四條 市町村長ハ投票管理事務所ヲ設ケ投票ノ事務ヲ擔任ス（同上本條ヲ改正）

場所ニテ設ケ

投票管理事務所ハ選舉ノ期日前五日目マテニ投票所ヲ告示スヘシ

第十五條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラルル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理事務所ノ秩序ヲ紊ラズニシテ

第十六條 議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ内ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選舉ノ期日ノ前日マテニ投票管理事務所ニ届出ツルコトヲ得

第十七條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ得ズ但シ投票所ノ事務ニ從事スル者投票所ヲ監視スル職務ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

加、同十五年法律第七十三號ヲ以テ改正）

第十三條ノ二 議員候補者タルトスル者ハ選舉ノ期日ノ告示アリタル日ヨリ選舉ノ期日前七日目マテニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第十四條 市町村長ハ投票管理事務所ヲ設ケ投票ノ事務ヲ擔任ス（同上本條ヲ改正）

第十五條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラルル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理事務所ノ秩序ヲ紊ラズニシテ

第十六條 議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ内ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選舉ノ期日ノ前日マテニ投票管理事務所ニ届出ツルコトヲ得



府縣制 府縣會

前項ノ場合ニ於テ議員候補者ノ被選舉權ノ有無ハ選舉立  
會人ノ意見ヲ聽キ選舉長ノ決定スヘシ(大正十五年法律  
第七十三號ヲ以テ本項ヲ追加)

第三十條 選舉長ハ選舉權ヲ行使シ選舉會ニ關スル事項ヲ記載  
シテ之ヲ朗讀シ二人以上ノ選舉立會人ト共ニ之ニ署名スヘ  
シ  
選舉長、投票録、投票其ノ他ノ關係書類ハ選舉長(府縣  
知事ノ指定シタル官吏選舉長タル場合ニ於テハ府縣知事)  
ニ於テ、府縣會議員選舉ニ用ケル選舉人名簿ハ市町村  
長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ(同上本條ヲ改  
正)

第三十一條 當選者定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當  
選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ且選舉  
録及投票録ノ寫ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ當選者ナ  
キトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且選舉録及投票録ノ寫ヲ添ヘ  
之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ(同上本項ヲ改正)

第三十二條 當選者告知ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ其ノ當選ヲ  
承認スルヤ否ヲ府縣知事ニ申立ツヘシ  
一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告  
知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ選舉區ニ應スヘキカラ府縣  
知事ニ申立ツヘシ  
前二項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲サザルトキハ當選ヲ辭シタルモ  
ト看做ス(大正十五年法律第三十五號ヲ以テ本項ヲ改  
正)

第六條第六項ニ掲グル在職ノ官吏以外ノ官吏ニシテ當選シ  
タル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ  
得ス(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ追加)  
前項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間  
ヨリ十日以内トス(大正十五年法律第五十五號、同十五  
年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ改正)

府縣制 府縣會

府縣ニ對シ前項ノ爲シ又ハ府縣ニ於テ費用ヲ負擔スル事業  
ニ付府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ前項ノ爲ス  
者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無  
限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ請  
負ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行  
爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトナ  
キニ至ルニ非サレハ當選ニ應スルコトヲ得ス(大正十五年法律  
第七十三號ヲ以テ本項ヲ追加)

第三十二條 當選者左ニ掲グル事由ノ一ニ該當スルトキハ三箇  
月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定ニ依リ更ニ  
選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メ得ル場合ハ此ノ限ニ在  
ラズ  
一 當選ヲ辭シタルトキ  
二 數選舉區ニ於テ選舉ニ當リタル場合ニ於テ第三十  
一條第三項ノ規定ニ依リ一ノ選舉區ノ選舉ニ應  
シタル爲他ノ選舉區ニ於テ當選者タルニ至リタルト  
キ  
三 第二十九條ノ二ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ  
四 死亡者ナルトキ  
五 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ當選無効ト爲  
リタルトキ但シ同一人ニ關シテ前各號ノ事由ニ依リ選  
舉又ハ補選選舉ノ告示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在  
ラズ  
六 第三十四條ノ二ノ規定ニ依リ訴訟ノ結果當選無  
効ト爲リタルトキ

第三十三條 當選者其ノ當選ヲ承認シタルトキハ府縣知事ハ直  
ニ當選證書ヲ付與シ及之ヲ住所氏名ヲ告示スヘシ  
當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員  
ノ定數ニ達セザルニ至リタルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨ヲ告  
示スヘシ(同上本項ヲ追加)

第三十四條 選舉人又ハ議員候補者選舉又ハ當選ノ效力ニ  
關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテ  
ハ第三十一條第一項又ハ前條第二項ノ告示ノ日ヨリ十四  
日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得(大正十五年法律  
第三十五號、同十五年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ改  
正)

前項ノ事由第三十一條第二項、第三項若ハ第六項ノ規  
定ニ依リ期限内ニ生シタル場合ニ於テ第二十九條第一項  
但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキ又ハ其ノ期  
限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第二十九條第二項ノ規定  
ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ  
直ニ選舉會ヲ開キ其ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ  
前項ノ場合ニ於テ第二十九條第一項但書ノ得票者ニシテ  
當選者ト爲ラザリシ者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セ  
ザルニ至リタルトキハ之ヲ當選者ト定ムルコトヲ得ス此ノ場合ニ  
於テハ第三十七條第二項ノ規定ヲ適用ス  
第一項ノ期間ハ第三十四條第七項ノ規定ノ適用アル場合  
ニ於テハ選舉ヲ行フコトヲ得サル事由已ミタル日ノ翌日ヨリ之  
ヲ起算ス  
第一項ノ事由議員ノ任期満了前六箇月以内ニ生シタルト  
キハ第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハス但シ議員ノ數其ノ定員ノ三  
分ノ二ニ滿テザルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ(同上本條ヲ  
改正)

府縣制 府縣會

號ヲ以テ本項ヲ改正)  
府縣知事選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項  
申立ノ有無ニ拘ラス第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日  
ヨリ三十日以内ニ府縣知事會ノ決定ニ付スルコトヲ得(大正  
十五年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ改正)

前二項ノ場合ニ於テハ府縣知事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日  
ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ(大正十五年法律第三十五  
號ヲ以テ本項ヲ追加)  
本條府縣知事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴  
スルコトヲ得  
前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事又ハ選舉長ヨリモ亦訴訟ヲ  
提起スルコトヲ得(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本項  
ヲ改正)

第八條、第三十二條又ハ第三十六條第一項若ハ第三項  
ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議申立期  
間、異議ノ決定確定セザル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行  
フコトヲ得ス(大正十五年法律第五十五號ヲ以テ本項ヲ追  
加、同十五年法律第七十三號ヲ以テ改正)  
府縣會議員ハ選舉又ハ當選ニ關シテ決定確定シ又ハ判決  
アルマテハ會議ニ參與スル權ヲ失ハス(大正十五年法律第  
五十五號ヲ以テ本項ヲ追加)

第三十四條ノ二 衆議院議員選舉法第百十條ノ規定ノ適用  
ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ選舉人又ハ議員候補者  
ハ當選者ヲ被告トシ第三十一條第一項ノ告示ノ日ヨリ三十  
日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得  
衆議院議員選舉法第百三十六條ノ規定ノ適用ニ依リ選  
舉事務長同法第百二十二條又ハ第百十三條ノ規定ノ適用  
ニ依リ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルニ因リ當選ヲ無効ナリト認  
ムルトキ選舉人又ハ議員候補者ハ當選者ヲ被告トシ其ノ  
裁判確定ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ

府縣制 府縣會

得  
前二項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコト  
ヲ得  
衆議院議員選舉法第八十五條、第八十七條及第百四  
十一條ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ訴訟ニ之ヲ適用ス(大  
正十五年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ  
異動ヲ生スルノ處ル場合ニ依リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ  
無効トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ處ナキ者ヲ區分シ得ルトキ  
ハ其ノ者ニ限リ當選ヲ失フコトヲ得(大正十五年法律第三十五  
號、同十五年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十六條 選舉無効ト確定シタルトキハ三箇月以内ニ更ニ選  
舉ヲ行フヘシ  
當選無効ト確定シタルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ更ニ當選者ヲ  
定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十二條第三項ノ規定ヲ適用  
ス  
當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選  
舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セザルトキ若ハ定數ニ達セザルニ至  
リタルトキハ三箇月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ  
第三十二條第四項及第五項ノ規定ハ第一項及前項ノ選  
舉ニ之ヲ適用ス

第三十七條 府縣會議員被選舉權ヲ有セザル者ナルトキ又ハ第  
三十一條第七項ニ掲グル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選  
舉權ノ有無又ハ第三十一條第七項ニ掲グル者ニ該當スルヤ  
否ハ府縣會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權  
ヲ有セザル場合ヲ除クノ外府縣知事會其ノ異議ヲ決定ス(大  
正十五年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ改正)  
一 禁治產者又ハ禁禁治產者ト爲リタルトキ  
二 破產者ト爲リタルトキ  
三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

府縣制 府縣會

四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルト  
キ  
府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲被選舉權ヲ失フコトアルモ其  
ノ住所同府縣内ニ在ルトキハ之ヲ其ノ職ヲ失フコトナシ但シ  
同府縣内ニ於テ住所ヲ移シタル後被選舉權ヲ失フヘキ其ノ  
他ノ事由ニ該當スルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ(大正十  
五年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ追加)

府縣知事ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セザル者又ハ第三  
十一條第七項ニ掲グル者アリト認ムルトキハ之ヲ府縣知事ニ  
通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關シテ會議ニ於テ辯明ス  
ルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス(同上本項ヲ改  
正)

府縣知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ七日以内ニ之ヲ府  
縣知事會ノ決定ニ付スヘシ府縣知事ニ於テ被選舉權ヲ有セ  
ザル者又ハ第三十一條第七項ニ掲グル者アリト認ムルトキ亦  
同シ(同上本項ヲ改正)

第三十四條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス(大  
正十五年法律第三十五號ヲ以テ本項ヲ追加)  
本條府縣知事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴  
スルコトヲ得  
前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコト  
ヲ得

府縣會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セズトスル決定確定シ又ハ  
判決アルマテハ會議ニ參與スル權ヲ失ハス(大正十五年法  
律第五十五號ヲ以テ本項ヲ改正)

府縣制 府縣會

第三十八條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴訟ノ判決ハ其ノ  
決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十九條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法  
第十章及第十一章並第百四十條第二項及第百四十二  
條ノ規定ヲ適用ス但シ議員候補者一人ニ付定ムヘキ選舉

府縣會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セズトスル決定確定シ又ハ  
判決アルマテハ會議ニ參與スル權ヲ失ハス(大正十五年法  
律第五十五號ヲ以テ本項ヲ改正)

府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法  
第十章及第十一章並第百四十條第二項及第百四十二  
條ノ規定ヲ適用ス但シ議員候補者一人ニ付定ムヘキ選舉

府縣制 府縣會



府縣制 府縣會

事務所ノ數、選舉委員及選舉事務員ノ數並選舉運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二款 職務權限及處務規定

- 第四十二條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ
一 歳入出豫算ヲ定ムル事
二 決算報告ニ關スル事
三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
四 不動産ノ處分並買賣受讓受贈ニ關スル事
五 積立金數等ノ設置及處分ニ關スル事
六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
七 財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
八 其ノ他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項

府縣制 府縣會

第四十七條 府縣會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉ス(シ)

- 第四十三條 府縣會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フ(シ)
第四十四條 府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ内務大臣ニ呈出スルコトヲ得
第四十五條 府縣會ハ官廳ノ諸問アルトキハ意見ヲ答申ス(シ)
府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會召集ニ應ゼス若ハ成立セズ又ハ意見ヲ呈出セザルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タズシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得
第四十六條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受ケ(カラ)ス

府縣制 府縣會

加ハルノ權ヲ失ハス(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ追加)

- 第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ會議ニ參與スルコトヲ得但シ府縣會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本條ヲ改正)
第五十五條 法律命令ノ規定ニ依リ府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外一名毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者一名ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤ニ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤ニ之ヲ定ム
前項ノ場合ニ於テハ第十八條及第二十七條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣會之ヲ議決ス(同上本條ヲ改正)
第五十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
一 府縣知事ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
二 議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ
前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決ス(シ)
第五十七條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定員ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍舊會議ヲ開カサルトキハ第四十八條ノ例ニ依ル(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本項ヲ追加)

- 第四十九條 府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス
第五十條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
第五十一條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長若ハ第四十九條ノ例ニ依リ議長注意ヲ喚起スルコトヲ得
第五十二條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隷屬シテ庶務ヲ處理セシム
書記ハ議長ノ委任ス
第六十三條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シ會議ノ頭末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシム(シ)會議録ハ議長及議員二名

以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ定ム(シ)議長ハ會議録ヲ添(會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告ス(シ))

- 第六十四條 府縣會ハ會議規則及傍聴人取締規則ヲ設ク(シ)(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本項ヲ改正、同十五年法律第七十三號ヲ以テ第二項ヲ削除)
第六十五條 府縣會ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)
第六十六條 名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)
第六十七條 府縣會ニ於テ議長及名譽職參事會員十人ヲ以テ之ヲ組織ス(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)
第六十八條 名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)
第六十九條 府縣會ハ名譽職參事會員同數ノ補充員ヲ選舉ス(シ)前二項ノ場合ニ於テハ第十八條第二十七條及第二十九條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣會之ヲ議決ス(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本項ヲ改正)
第七十條 名譽職參事會員中副員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補充ス其ノ順序ハ選舉ノ時ヲ異ニスルトキ選舉ノ前後ニ依リ選舉同時ナルトキハ得票數ニ依リ得票同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ抽籤ニ依リ仍舊副員アル場合ニ於テハ臨時補充選舉ヲ行フ(同上本項ヲ改正)
名譽職參事會員及其ノ補充員ハ隔年之ヲ選舉ス(シ)(大

第三章 府縣參事會

第一款 組織及選舉

- 第七十一條 府縣參事會ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)
第七十二條 府縣參事會ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)
第七十三條 府縣參事會ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)
第七十四條 府縣參事會ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)
第七十五條 府縣參事會ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)
第七十六條 府縣參事會ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)
第七十七條 府縣參事會ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)
第七十八條 府縣參事會ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)
第七十九條 府縣參事會ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)
第八十條 府縣參事會ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉ス(シ)

第二款 職務權限及處務規定

- 第八十一條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ
一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急務ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣會ニ代テ議決スル事(同上本條ヲ改正)
三 府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財產及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事
四 府縣會ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
五 府縣會ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事
六 其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項
第七十九條 府縣參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ府縣ニ係ル出納ヲ検査セシムルコトヲ得

府縣制 府縣會 府縣參事會



前項ノ検査ニハ府縣知事又ハ其ノ任命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第七十條 第四十四條第四十五條第四十九條第五十一條第三項第五十五條第五十七條第一項及第六十二條ノ規定ハ府縣參事會ニテ之ヲ準用ス(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七十一條 府縣參事會ハ府縣知事ニテ之ヲ召集ス若シ名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ召集スヘシ

第七十二條 府縣參事會ノ會議ハ傍聴ヲ許サズ

第七十三條 府縣參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ第二項ヲ削除)

府縣參事會ノ議事ハ名譽職參事會員ノ過半數ヲ以テ決ス可ク同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル(同上本項ヲ改正)

會議ノ議案ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第七十四條 第五十四條ノ規定ハ議長、其ノ代理者及名譽職參事會員ニテ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六十六條第四項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ補充員ニ充テシ(大正三年法律第三十五號、同十五年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ改正)

議長及其ノ代理者共ニ除席セラレタルトキ八年長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ

第四章 府縣行政

第一款 府縣吏員ノ組織及任免

第七十五條 府縣ニ有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得

前項ノ府縣吏員ハ府縣知事ニテ之ヲ任免ス

第七十六條 府縣ニ有給ノ府縣吏員ノ中ニ就キ府縣知事ニテ之ヲ命ス

第七十七條 府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得(大正十一年法律第五十五號ヲ以テ本項ヲ改正)

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事ニテ之ヲ定ム(同上本項ヲ改正)

第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程

第七十八條 府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス

府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 府縣會ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事

二 府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事

三 財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之ヲ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

五 證書及公文書類ヲ保管スル事

六 法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使用料手數料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職務ニ屬スル事項

第七十九條 (大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ前除)

第八十條 府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ市町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得(同上本項ヲ改正)

府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣ノ官吏吏員ニ委任シ又ハ府縣吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得(大正十一年法律第五十五號ヲ以テ本項ヲ改正)

第八十一條 府縣知事ハ府縣吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ罰金二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ或給料ヲ支給セザルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ府縣ノ公職ニ選舉セラレ若ハ任命セラレルコトヲ得ス

第八十二條 府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本項ヲ改正)

前項ノ取消處分ハ府縣會又ハ府縣參事會開會中ニ非サルトキハ之ヲ告示スヘシ(大正十一年法律第五十五號ヲ以テ本項ヲ追加)

第一項ノ取消處分ニ不服アル府縣會若ハ府縣參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(同上本項ヲ改正)

府縣會若ハ府縣參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

但シ場合ニ依リ再議ニ付セシテ直ニ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第八十四條 府縣知事ハ期日ヲ定メテ府縣會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第八十五條 府縣會若ハ府縣參事會召集ニ應ゼス又ハ成立セザルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ其ノ議決ニ付キ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十四條第七十四條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セザルトキハ前項ノ例ニ依ル(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本項ヲ改正)

府縣參事會ノ議決若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴訟及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣會若ハ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十六條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時應行ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十七條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條 官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中ノ規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

依ル

第八十九條 府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第九十條 府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九十一條 委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處理ス

第九十二條 府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事ニテ之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第九十三條 有給府縣吏員ノ給料額並放費額及其ノ支給方法ハ府縣知事ニテ之ヲ定ム

第九十四條 府縣會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲メ要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事ニテ之ヲ定ム(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本項ヲ改正)

第九十五條 有給府縣吏員ノ退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ前條第二項ノ例ニ依リテ之ヲ定ム(同上本條ヲ改正)

第九十六條 退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得(同上本項ヲ改正)

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ改正)

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十三條 府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

但シ場合ニ依リ再議ニ付セシテ直ニ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第八十四條 府縣知事ハ期日ヲ定メテ府縣會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第八十五條 府縣會若ハ府縣參事會召集ニ應ゼス又ハ成立セザルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ其ノ議決ニ付キ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十四條第七十四條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セザルトキハ前項ノ例ニ依ル(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本項ヲ改正)

府縣參事會ノ議決若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴訟及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣會若ハ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十六條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時應行ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十七條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條 官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中ノ規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

依ル

第八十九條 府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第九十條 府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九十一條 委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處理ス

第九十二條 府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事ニテ之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第九十三條 有給府縣吏員ノ給料額並放費額及其ノ支給方法ハ府縣知事ニテ之ヲ定ム



異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴訟法ノ規定ニ依ル...

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三箇月以内ニ...

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三箇月以内ニ...

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三箇月以内ニ...

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三箇月以内ニ...

府縣吏員ノ服務規律ハ內務大臣ノ之ヲ定ム...

府縣吏員ノ服務規律ハ內務大臣ノ之ヲ定ム...

府縣吏員ノ服務規律ハ內務大臣ノ之ヲ定ム...

府縣吏員ノ服務規律ハ內務大臣ノ之ヲ定ム...

府縣吏員ノ服務規律ハ內務大臣ノ之ヲ定ム...

府縣吏員ノ服務規律ハ內務大臣ノ之ヲ定ム...

神戶縣ニ施行ス...

神戶縣ニ施行ス...

神戶縣ニ施行ス...

神戶縣ニ施行ス...

神戶縣ニ施行ス...

神戶縣ニ施行ス...

第四十二條 本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適...

第四十三條 第四條第二項但書ノ市ニ於テハ第二章第一款...

第四十四條 町村組合ニシテ町村ノ事務全部又ハ役場事務...

第四十五條 從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域内ニ於テ市...

附則(大正三年法律第三十五號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム...

附則(大正十一年法律第五十五號附則)

本法中選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ...

附則(大正十五年法律第七十三號附則)

本法中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ...

附則(大正十五年法律第七十三號附則)

本法中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ...

市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ總選舉ニ至ルマテ...

市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ總選舉ニ至ルマテ...

市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ總選舉ニ至ルマテ...

市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ總選舉ニ至ルマテ...

市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ總選舉ニ至ルマテ...

市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ總選舉ニ至ルマテ...



對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ  
(大正三年法律第三十五號、同十一年法律第五十五號  
ヲ以テ本條ヲ改正)

第七條 納稅者ノ府縣外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地  
家屋物件若ハ其ノ收入又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル  
營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ス  
住所所在同時ニ府縣ノ内外ニ涉ル者ノ前項以外ノ收入ニ  
對シテ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各府縣ニ平分シ其ノ  
一部ニノ賦課スヘシ(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本  
條ヲ改正)

第八條 府縣ノ内外ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業又ハ其ノ  
收入ニ對シテ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シテ關稅府縣ニ於テ  
營業稅附加稅所得稅附加稅又ハ礦產稅附加稅ヲ賦課ス  
ルトキハ關稅府縣知事協議ノ上其ノ歩合ヲ定ム若協議調ハ  
サルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第九條 府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依  
リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得  
市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリテ期限內ニ其  
ノ議決ヲ爲サルトキ若ハ不適當ノ議決ヲ爲サルトキハ府縣  
參事會之ヲ議決スヘシ

第十條 府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅  
令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依  
リ  
府縣ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル場合  
ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ府縣稅ヲ課セサルコトヲ得(大  
正十五年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ追加)

第十一條 府縣ノ一部ニ對シテ利益アル事件ニ關シテハ府  
縣ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ府縣ノ一部ニ對シテ賦課ヲ爲ス  
コトヲ得(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十二條 府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ府縣内一部  
ノ市町村其ノ他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課ス  
ルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞務役ヲ課スルコトヲ  
得ス  
夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘ  
シ  
夫役課課セラルル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又  
ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ  
除ク外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十三條 府縣稅ノ減免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル  
者ニ限リ府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコト  
ヲ得

第十四條 詐偽其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ  
免レ又ハ府縣稅ヲ逃脫シタル者ニ付テハ府縣知事ハ府縣會  
ノ議決ヲ經テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ逃脫シタル金額ノ三倍ニ相  
當スル金額(其ノ金額五圓未満ナルトキハ五圓)以下ノ過料  
ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十五條 府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ  
錯誤アリト認ムルトキハ徵收令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後  
三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第十六條 府縣稅ノ賦課ニ關シテ必要アル場合ニ於テハ當該行  
政廳ハ日出ヨリ日没マテノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業  
時間家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲ス  
コトヲ得

第十七條 府縣稅ノ使用料、手數料、夫役又ハ現品ニ代フル金、過  
料其ノ他ノ府縣稅ノ收入ノ定期內ニ納メサル者アルトキハ期限  
ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ  
督促ノ場合ニ於テ夫役又ハ現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ履  
行ヲ爲サルトキハ更ニ之ヲ金額ニ換算シ期限ヲ指定シ其ノ  
納付ヲ命ズヘシ

第十八條 規定ニ依ル督促又ハ前項ノ規定ニ依リ命令ヲ受ケ  
タル者其ノ指定ノ期限ヲ完了セサルトキハ國稅滯納處分  
ノ例ニ依リ處分スヘシ  
第二項及第三項ニ規定スル府縣稅ノ徵收金ノ先取特權ノ順  
位ハ國稅徵收金ニ次クモノトス

第十九條 府縣稅ノ徵收金ニ關スル時効ニ付テハ國稅ノ收入金  
及支拂金ノ例ニ依ル

府縣知事ノ委任ヲ受ケタル官吏員カ第四項ノ規定ニ依リ  
爲シタル處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決  
又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スル  
コトヲ得

第二十條 府縣知事ハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官  
吏員ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得  
第四項ノ規定ニ依リ處分ニ係ル差押物件ノ公賣ハ處分ノ  
確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス(大正十一年法律第五十五  
號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十一條 府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ府縣ノ永久ノ利  
益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ爲メ必要ナル  
場合ニ限リ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得  
府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併せて起債ノ方  
法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

第二十二條 府縣ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲メ本條ノ例ニ依ラス府縣參事  
會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加  
若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 府縣會ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施  
行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ府  
縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年々各年度ノ支出額ヲ定メ繼續  
費ト爲スコトヲ得

府縣制 府縣ノ財務 府縣組合

第二十五條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲  
メ

第二十六條 府縣ノ一部ニ對シテ利益アル事件ニ關シテハ府  
縣ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ府縣ノ一部ニ對シテ賦課ヲ爲ス  
コトヲ得(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十七條 府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ府縣内一部  
ノ市町村其ノ他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課ス  
ルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞務役ヲ課スルコトヲ  
得ス  
夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘ  
シ  
夫役課課セラルル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又  
ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ  
除ク外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二十八條 府縣稅ノ減免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル  
者ニ限リ府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコト  
ヲ得

第二十九條 詐偽其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ  
免レ又ハ府縣稅ヲ逃脫シタル者ニ付テハ府縣知事ハ府縣會  
ノ議決ヲ經テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ逃脫シタル金額ノ三倍ニ相  
當スル金額(其ノ金額五圓未満ナルトキハ五圓)以下ノ過料  
ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十條 府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ  
錯誤アリト認ムルトキハ徵收令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後  
三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

府縣行政ノ監督

第三十一條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第三十二條 府縣ノ行政ハ其ノ他規程ヲ變更セムトキ又ハ府縣組合  
ヲ解カムトキハ關稅府縣知事ノ協同ニ依リ内務大臣ノ許可  
ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財產處分ヲ要スルトキハ關稅府縣  
知事ノ協同ニ依リ之ヲ定ム(大正十五年法律第七十三號ヲ以  
テ本條ヲ改正)

第三十三條 前二條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣會ノ  
議決ヲ經ルコトヲ要ス

第三十四條 公益上必要ナル場合ニ於テハ内務大臣ハ關  
稅府縣會ノ意見ヲ徵シ府縣組合ヲ設ケ若ハ之ヲ解キ組  
合規程ヲ定メ若ハ之ヲ變更シ又ハ財產處分ノ方法ヲ定ムル  
コトヲ得

第三十五條 府縣組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規  
定アル場合ヲ除ク外府縣ニ關スル規定ヲ準用ス但シ府縣組  
合ニハ參事會ヲ置カス其ノ權限ニ屬スヘキ事項ハ組合事務ヲ  
管理スル府縣知事之ヲ行フ

第三十六條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第三十七條 府縣ノ行政ハ其ノ他規程ヲ變更セムトキ又ハ府縣組合  
ヲ解カムトキハ關稅府縣知事ノ協同ニ依リ内務大臣ノ許可  
ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財產處分ヲ要スルトキハ關稅府縣  
知事ノ協同ニ依リ之ヲ定ム(大正十五年法律第七十三號ヲ以  
テ本條ヲ改正)

第五章ノ二 府縣組合

第三十八條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第三十九條 府縣ノ行政ハ其ノ他規程ヲ變更セムトキ又ハ府縣組合  
ヲ解カムトキハ關稅府縣知事ノ協同ニ依リ内務大臣ノ許可  
ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財產處分ヲ要スルトキハ關稅府縣  
知事ノ協同ニ依リ之ヲ定ム(大正十五年法律第七十三號ヲ以  
テ本條ヲ改正)

第四十條 前二條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣會ノ  
議決ヲ經ルコトヲ要ス

第四十一條 公益上必要ナル場合ニ於テハ内務大臣ハ關  
稅府縣會ノ意見ヲ徵シ府縣組合ヲ設ケ若ハ之ヲ解キ組  
合規程ヲ定メ若ハ之ヲ變更シ又ハ財產處分ノ方法ヲ定ムル  
コトヲ得

第四十二條 府縣組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規  
定アル場合ヲ除ク外府縣ニ關スル規定ヲ準用ス但シ府縣組  
合ニハ參事會ヲ置カス其ノ權限ニ屬スヘキ事項ハ組合事務ヲ  
管理スル府縣知事之ヲ行フ

第六章 府縣行政ノ監督

第四十三條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第四十四條 府縣ノ行政ハ其ノ他規程ヲ變更セムトキ又ハ府縣組合  
ヲ解カムトキハ關稅府縣知事ノ協同ニ依リ内務大臣ノ許可  
ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財產處分ヲ要スルトキハ關稅府縣  
知事ノ協同ニ依リ之ヲ定ム(大正十五年法律第七十三號ヲ以  
テ本條ヲ改正)

第四十五條 前二條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣會ノ  
議決ヲ經ルコトヲ要ス

第四十六條 公益上必要ナル場合ニ於テハ内務大臣ハ關  
稅府縣會ノ意見ヲ徵シ府縣組合ヲ設ケ若ハ之ヲ解キ組  
合規程ヲ定メ若ハ之ヲ變更シ又ハ財產處分ノ方法ヲ定ムル  
コトヲ得

第四十七條 府縣組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規  
定アル場合ヲ除ク外府縣ニ關スル規定ヲ準用ス但シ府縣組  
合ニハ參事會ヲ置カス其ノ權限ニ屬スヘキ事項ハ組合事務ヲ  
管理スル府縣知事之ヲ行フ

第四十八條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第四十九條 府縣ノ行政ハ其ノ他規程ヲ變更セムトキ又ハ府縣組合  
ヲ解カムトキハ關稅府縣知事ノ協同ニ依リ内務大臣ノ許可  
ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財產處分ヲ要スルトキハ關稅府縣  
知事ノ協同ニ依リ之ヲ定ム(大正十五年法律第七十三號ヲ以  
テ本條ヲ改正)

府縣制 府縣ノ財務 府縣組合

府縣行政ノ監督



異議ノ申立ニ開スル期間ノ計算ニ付テハ訴訟法ノ規定ニ依  
ル  
異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ有起スヘキ事由アリト認  
ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得  
異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シテ之ヲ申立  
人ニ交付スヘシ  
異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セズ但シ行政廳ハ  
其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ  
之ヲ停止スルコトヲ得(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本  
條ヲ改正)  
第二十八條ノ二 異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノ  
ヲ除ク外其ノ決定ニ付セラレタル日ヨリ三箇月以内ニ之ヲ爲  
スヘシ  
府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三箇月以内  
ニ之ヲ裁決スヘシ(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本條  
ヲ追加)  
第二十九條 內務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背反セザル  
ヤ又ハ公益ヲ害セザルヤ否ヲ監視スヘシ(內務大臣ハ之ヲ爲行  
政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ檢査シ置地ニ就  
キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス)  
內務大臣ハ府縣行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ  
爲スノ權ヲ有ス  
第三十條 內務大臣ハ府縣ノ豫算中不適當ト認ムルモノアル  
トキハ之ヲ削減スルコトヲ得  
第三十一條 內務大臣ハ勅令ヲ經テ府縣會ノ解散ヲ命スルコ  
トヲ得  
府縣會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ  
解散後始メテ府縣會ヲ召集スルトキハ府縣知事ハ第五十條  
第二項ノ規定ニ拘ラス內務大臣ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定  
ムルコトヲ得

第三十二條 府縣吏員ノ服務規律ハ內務大臣之ヲ定ム  
第三十三條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ  
要ス  
一 (大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本號ヲ削除)  
二 使用料ノ新設シ増額シ又ハ變更スル事(大正十一  
年法律第五十五號ヲ以テ本號ヲ改正)  
三 (大正三年法律第三十五號ヲ以テ本號ヲ削除)  
四 第四百一十一條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ  
府縣ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコト(大正十五年法律  
第七十三號ヲ以テ本號ヲ改正)  
五 (大正三年法律第三十五號ヲ以テ本號ヲ削除)  
六 繼續賦課ヲ定メ若ハ變更スルコト  
七 (同上本號ヲ削除)  
第三十四條 府縣債ヲ起シ又ハ起債ノ方法利息ノ定率若ハ  
償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更セムトスルトキハ內務大臣及大藏  
大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第百十七條第三項ノ借入金  
ハ此ノ限ニ在ラス(大正三年法律第三十五號ヲ以テ本條ヲ  
改正)  
第三十五條 府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事  
項ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範  
圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得  
第三十六條 府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事  
項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ許可ヲ經シテ處  
分スルコトヲ得  
第七章 附則  
第三十七條 此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十五號府  
縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ  
施行シ其ノ他ノ府縣ニ開スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具  
申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム(明治四十二年四月一日ヨリ

沖繩縣ニ施行ス)  
第三十八條 島嶼ニ開スル府縣ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特  
例ヲ設クルコトヲ得  
町村制ヲ施行セザル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉  
ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル  
沖繩縣ニ於テハ第十三條中二十日トアルハ三十日、七日  
トアルハ十日、第十五條中五日トアルハ十日、第三十一條  
中十日トアルハ二十日、二十日トアルハ三十日、第三十四  
條及第五十一條中十四日トアルハ二十五日トス(明治四  
十一年法律第二號ヲ以テ本項ヲ追加、大正十一年法律  
第五十五號ヲ以テ改正)  
第三十九條 町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ開  
スル規定ハ町村ニ進スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村  
長ニ進スヘキモノニ、町村吏員ニ關スル規定ハ町村吏員ニ進  
スヘキモノニ、町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ進スヘキモ  
ノニ之ヲ進用ス(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ第一  
項ヲ削除)  
第四十條ノ二 第四十九條及第七十六條ノ規定ニ依リ府  
縣知事ノ職權ハ東京府ニ在リテハ警視總監亦之ヲ行フ(大  
正三年法律第三十五號ヲ以テ本條ヲ追加)  
第四十條 從前都市經濟ヲ興ニシタル府縣ノ財產處分ニ關  
スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム  
特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ市郡部  
部ノ經濟ヲ分別シ市郡部會都部會市郡部參事會都部參事會  
ヲ置キ其ノ他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ  
得  
第四十一條 「明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收  
法及」地方稅ニ關スル從前ノ規定ハ此ノ法律ニ依リ變更シ  
タルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルマデ其ノ效力  
ヲ有ス

第四十二條 本法中官吏ニ開スル規定ハ特選官吏ニ之ヲ適  
用ス(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)  
第四十三條 第四條第二項但書ノ市ニ於テハ第二章第一款  
中市ニ開スル規定ハ區ニ、市長ニ開スル規定ハ區長ニ、市役  
所ニ開スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス(同上本條ヲ改正)  
第四十四條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事  
務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ一町村、其  
ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏  
員、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス(同上本條ヲ  
改正)  
第四十五條 從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域内ニ於テ市  
ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ區域ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境  
界ノ變更アリタルトキハ其ノ區域モ亦自ら變更シタルモノト看  
做ス  
從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ境界ニ涉リテ町村ノ  
設置アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ町村ノ屬スヘ  
キ區域ハ內務大臣之ヲ定ム(同上本條ヲ改正)  
第四十六條 明治十三年第十五號布告府縣會規則明治  
十四年第八號布告區郡部會規則明治二十二年法律第  
六號府縣會議員選舉規則其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル法  
規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ  
第四十七條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ勅令ヲ以  
テ之ヲ定ム  
附則(大正三年法律第三十五號附則)  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正三年勅令第百  
二十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ之ヲ施行ス)  
名譽職參事會員及其ノ補充員ノ任期ニ關シテハ次ノ總選舉  
マデ仍從前ノ規定ニ依ル

附則(大正十一年法律第五十五號附則)  
本法中選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他  
ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令  
第二百五十五號ヲ以テ選舉ニ關スル以外ノ規定ハ同年五月  
十五日ヨリ之ヲ施行ス)  
大正十年法律第五十八號又ハ法律第五十九號中公民權  
ニ關スル規定ハ之ヲ施行セザル市町村ニ於テハ府縣制中市町  
村公民ニ開スル規定ノ適用ニ付テハ施行シタルモノト看做ス  
本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ニ關シ  
第九條乃至第十二條ノ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキ  
ハ勅令ヲ以テ別ニ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ  
次ノ選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス  
附則(大正十五年法律第七十三號附則)  
本法中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其  
ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年  
勅令第二百三號ヲ以テ議員選舉ニ關スル規定ヲ除クノ外同  
年七月一日ヨリ施行ス)  
次ノ總選舉ニ至ルマデノ間從前ノ第九條、第十二條、第十  
四條、第二十一條、第二十三條乃至第二十五條、第三  
十條及第三十四條ノ規定ニ依リ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ  
特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得  
大正十五年市制中改正法律又ハ町村制中改正法律中公  
民權ニ關スル規定ハ之ヲ施行セザル市町村ニ於テハ府縣制中  
市町村公民ニ開スル規定ノ適用ニ付テハ施行シタルモノト看做  
ス此ノ場合ニ於テ議員ノ選舉ニ必要ナル選舉人名簿ニ關シテハ  
勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得  
大正十五年市制中改正法律又ハ町村制中改正法律中公  
民權ニ關スル規定ハ之ヲ施行シタル市町村ニ於テハ府縣制中

市町村公民ニ開スル規定ノ適用ニ付テハ總選舉ニ至ルマデノ  
間未ダ之ヲ施行セザルモノト看做ス  
本法施行ノ際大正十四年法律第四十七號衆議院議員選  
舉法未ダ施行セザル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法  
ハ既ニ施行セザルモノト看做ス  
本法施行ノ際必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム







府縣制施行令

(大正十五年六月二十四日) 勅令 第二百號

改正、昭二一勅三六

府縣制施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣制施行令

第一章 府縣會議員ノ選舉

- 第一條 府縣制第六條第二項ノ規定ニ依リ除外スベキ學生徒左ノ如シ
  - 一 陸軍各部依託學生生徒
  - 二 海軍軍醫學生藥劑學生主計學生造船學生造船學生進兵學生並ニ海軍豫備生徒及海軍豫備練習生
- 第二條 府縣制第十五條第四項ノ規定ニ依リ市町村ノ區域ヲ分テテ數投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ヲ合テテ一投票區ヲ設ケタルキハ府縣知事ハ直ニ其ノ區域ヲ告示スベシ
- 第三條 府縣制第十五條第四項ノ規定ニ依リ市町村ノ區域ヲ分テテ數投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル
  - 一 投票管理區ハ投票區ノ一ニ於テハ市町村長トシ其ノ他ノ投票區ニ於テハ市町村長ノ指定シタル市町村吏員ヲ以テ之ニ充ツ
  - 二 市町村長ハ選舉人名簿ニ依リ投票區(市町村長投票管理區)投票區ヲ除ク)毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製シ選舉ノ期日ヲ告示アリタルキハ直ニ之ヲ關係投票管理區ニ送付スベシ
  - 三 市町村長ノ指定シタル市町村吏員投票管理區タル投票區ニ於テハ府縣制第十八條第三項及第二十條ノ規定ニ依リ之ヲ適用ス

- 四 一條並ニ本令第八條中選舉人名簿トアルハ選舉人名簿ノ抄本トス
- 五 選舉人名簿ノ抄本ハ市町村長ニ於テ議員ノ任期間ニ於テ保存スベシ
- 第六條 府縣制第十五條第四項ノ規定ニ依リ數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル
  - 一 投票管理區ハ府縣知事ニ於テ關係町村長ノ中ニ就キ之ヲ指定ス
  - 二 町村長ハ選舉ノ期日ノ告示アリタルキハ直ニ選舉人名簿ヲ投票管理區ニ送付スベシ
  - 三 町村長ヲ以テ支辨スベキ投票所ノ費用ハ之ヲ關係町村ニ分付スベシ
- 第七條 府縣制第十八條第七項ノ規定ニ依リ百人ガ投票ニ關スル記載ニ使用スルコトヲ得ル點字ハ市制町村制施行令別表ノ定ムル所ニ依ル
- 第八條 點字ニ依リ投票ラ爲サントスル選舉人ハ投票管理區ニ對シ其ノ旨ヲ申立ツベシ、此ノ場合ニ於テハ投票管理區ハ投票用紙ニ點字投票ナル旨ヲ捺捺シテ交付スベシ
- 第九條 點字ニ依リ投票ノ拒否ニ付テハ府縣制第十九條ノ例ニ依ル、此ノ場合ニ於テハ封筒ニ點字投票ナル旨ヲ捺捺シテ交付スベシ
- 第十條 前項ノ規定ニ依リ假ニ爲サシタル投票ハ府縣制第二十五條第二項及第三項ノ規定ニ適用ニ付テハ同法第十九條第二項及第四項ノ投票ト看做ス
- 第十一條 府縣制第二十三條ノ規定ニ依リ開票區ヲ設ケタルキハ府縣知事ハ直ニ其ノ區域ヲ告示スベシ
- 第十二條 開票管理區ハ府縣知事ノ指定シタル官吏又ハ吏員ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十三條 開票管理區ハ開票ノ開スル事務ヲ擔任ス
- 第十四條 開票所ハ開票管理區ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

- 第十五條 開票管理區ハ豫メ開票ノ場所及日時ヲ告示スベシ
- 第十六條 開票區ノ區劃内ノ投票管理區ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ町村ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ、市ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票前、投票後及選舉人名簿ヲ開票管理區ニ送致スベシ
- 第十七條 投票ノ點檢終リタルキハ開票管理區ハ直ニ其ノ結果ヲ選舉長ニ報告スベシ
- 第十八條 開票管理區ハ開票録ヲ作り開票ノ開スル前未ラ記載シテ之ヲ朗讀シ二人以上ノ開票立會人ト共ニ之ニ署名シ直ニ投票録及投票ト併セテ之ヲ選舉長ニ送致スベシ
- 第十九條 開票管理區ハ第九條ノ報告ヲ爲シタルキハ直ニ選舉人名簿(選舉人名簿ノ抄本アルトキハ併セテ其ノ抄本)ヲ町村長ニ返付スベシ
- 第二十條 選舉長ハ總テノ開票管理區ヨリ第九條ノ報告ヲ受タル日若ハ其ノ翌日又ハ總テノ投票前ノ送致ヲ受ケタル日若ハ其ノ翌日)選舉會ニ於テ選舉立會人立會人上其ノ報告ヲ調査シ府縣制第二十五條第三項ノ規定ニ依リ爲シタル點檢ノ結果ト併セテ各議員候補者ノ得票總數ヲ計算スベシ
- 第二十一條 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於テハ選舉長ハ前條ノ規定ニ進シ其ノ部分ニ付前條ノ手續ヲ爲シ他ノ部分ニ於テ各議員候補者ノ得票總數ト併セテ其ノ得票總數ヲ計算スベシ
- 第二十二條 開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選舉長ハ府縣制第三十一條第一項ノ報告ニ開票録ノ寫ヲ添付スベシ
- 第二十三條 第四條第一項若ハ第七條第一項又ハ府縣制第二十三條第一項ノ規定ニ依リ投票管理區、開票管理區又ハ選舉長ヲ指定シタルキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ告示スベシ
- 第二十四條 前項ノ規定ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ市町村長ニ於テ投票管理區ヲ指定シタル場合ニ之ヲ適用ス

- 第十六條 府縣制第十六條ノ規定ハ開票立會人ニ、同法第十七條第一項及第二項ノ規定ハ開票所ニ、同法第二十二條、第二十五條、第二十六條及第二十八條ノ規定ハ開票所ニ於ケル開票ニ之ヲ適用ス

第二章 府縣會議員ノ選舉運動及其ノ費用並ニ公立學校等ノ設備ノ使用

- 第十七條 選舉事務所ハ議員候補者一人ニ付選舉區ノ配當議員數ヲ以テ選舉人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除ク得タル數一萬以上ナルトキハ三箇所ヲ、一萬未満ナルトキハ二箇所ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 第十八條 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行フ場合又ハ府縣制第十三條第二項ノ規定ニ依リ投票ラ行フ場合ニ於テハ選舉事務所ハ前項ノ規定ニ依リ數ラ超エザル範圍内ニ於テ府縣知事(東京府ニ於テハ警視總監)ノ定メタル數ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 第十九條 府縣知事(東京府ニ於テハ警視總監)ハ選舉ノ期日ノ告示アリタル後直ニ前二項ノ規定ニ依リ選舉事務所ノ數ヲ告示スベシ
- 第二十條 選舉委員及選舉事務員ハ議員候補者一人ニ付選舉區ノ配當議員數ヲ以テ選舉人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除ク得タル數一萬以上ナルトキハ通シテ二十人ヲ、一萬未満ナルトキハ通シテ十五人ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 第二十一條 前條第二項及第三項ノ規定ハ選舉委員及選舉事務員ニ之ヲ適用ス
- 第二十二條 選舉運動ノ費用ハ議員候補者一人ニ付左ノ各額ノ額ヲ超ユルコトヲ得ズ

- 一 選舉區ノ配當議員數ヲ以テ選舉人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除ク得タル數ヲ四十錢ニ乘ジテ得タル額
- 二 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ選舉區ノ配當議員數ヲ以テ選舉人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除ク得タル數ヲ四十錢ニ乘ジテ得タル額
- 三 府縣制第十三條第二項ノ規定ニ依リ投票ラ行フ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ進シ算出シタル額但シ府縣知事(東京府ニ於テハ警視總監)必要アリト認ムルトキハ之ヲ減額スルコトヲ得
- 第二十三條 府縣知事(東京府ニ於テハ警視總監)ハ選舉ノ期日ノ告示アリタル後直ニ前項ノ規定ニ依リ額ヲ告示スベシ
- 第二十四條 衆議院議員選舉法施行令第八章、第九章及第十二章ノ規定ハ府縣會議員ノ選舉ニ之ヲ適用ス

- 第二十五條 府縣出納吏ニ對シ身元保證ヲ徵スルノ必要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ其ノ種類、價格、程度其ノ他必要ナル事項ヲ定ムベシ

第三章 府縣出納吏及府縣吏員ノ身元保證及賠償責任

- 第二十六條 府縣出納吏其ノ管掌ニ屬スル現金、證券其ノ他ノ財產ヲ亡失又ハ毀損シタルキハ府縣知事ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムベシ但シ避クベカラザル事故ニ原因シタルトキ又ハ他ノ者ノ使用ニ供シタル場合ニ於テ合規ノ監督ヲ怠ラザリトキハ府縣知事ハ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スベシ
- 第二十七條 府縣出納吏以外ノ吏員其ノ職務上必要ナル物品ノ交付ヲ受ケ故意又ハ怠慢ニ因リ之ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ府縣知事ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムベシ
- 第二十八條 前二條ノ規定ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ異議ヲ申立ラ爲スコトヲ得
- 第二十九條 府縣知事ニ異議ヲ申立ラタルキハ府縣知事ハ七日以内ニ之ヲ前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内ニ之ヲ

- 第三十條 府縣ハ臨時少額ノ費用ノ爲メニ賦課徵收ヲ爲スル場合ニ於テハ當該年度ノ府縣稅賦既定額ノ十分ノ一ノ範圍内ニ於テ其ノ費用ヲ府縣内市町村ニ分賦スルコトヲ得
- 第三十一條 前條分賦ノ割合ハ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル市町村ノ直接國稅及直接府縣稅ノ賦課額ニ依リ但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣知事ハ府縣會議員ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ分賦方法ヲ設クコトヲ得
- 第三十二條 市部會及郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣會議員ノ議決ヲ經テ其ノ市部ニ屬スル部分ニ賦課スベキ額ヲ市ニ分賦スルコトヲ得
- 第三十三條 第二十七條ノ規定ニ依リ直接國稅及直接府縣稅ノ種類左ノ如シ
  - 一 國稅
  - 二 所得稅(所得稅法第三條第二種ニ係ル所得稅ヲ)

府縣制施行令

府縣會議員ノ選舉運動及其ノ費用並ニ公立學校等ノ設備ノ使用 府縣出納吏及府縣吏員ノ身元保證及賠償責任 府縣費ノ分賦



府縣制施行令 府縣稅ノ賦課徵收

府縣ノ監督

除之 營業稅 營業收益稅 鑛業稅 砂鑛區稅 取引所營業稅 府縣稅 特別地稅 戶數割 家屋稅 營業稅 雜種稅(遊興稅及觀覽稅ヲ除ク)

第五章 府縣稅ノ賦課徵收

第三十條 府縣ノ内外ニ涉リ營業所ヲ定メテ爲ス營業ニ付營業收益稅ヲ分別シテ納ムル者ニ對シテ營業收益稅附加稅ノ賦課ニ關シテハ府縣制第八條第一項ノ例ニ依リ...

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ直ニ納稅人ニ對シテ徵稅令書ヲ發シテ得...

第三十九條 府縣ハ內務大臣及大藏大臣ノ指定シタル府縣稅ニ付テハ第三十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得...

第六章 府縣ノ監督

第四十六條 府縣行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲グルモノハ其ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス...

二 市部會及郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スベキ事件ニシテ其ノ市部郡部ト利益ノ程度ヲ異ニシ均一ノ賦課ヲ爲シ難キ事情アルトキ其ノ費用ニ限リ不均一ノ賦課ヲ爲スコト

三 支出總額五十萬圓以內ノ總額費ニ關スルコト 四 元本總額五十萬圓ニ達スル迄ノ府縣債ニ關スルコト 五 借入ノ翌年度ニ於テ償還スル府縣債ニ關スルコト但シ借入金ヲ以テ償還スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ...

第七章 市部及郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ノ行政ニ關スル特例

第四十七條 從來市部及郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於テハ內務大臣ハ其ノ區域ニ依リ市部及郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會及市部連事會並ニ郡部會及郡部連事會ヲ設ケシムル...

府縣制施行令

市部及郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ノ行政ニ關スル特例 鳥嶼ニ於ケル府縣ノ行政ニ關スル特例 雜則 附則

コトヲ得

第四十八條 市部會及郡部會ハ各市部郡部ニ於テ選出シタル府縣會議員ヲ以テ之ヲ組織ス...

第八章 鳥嶼ニ於ケル府縣ノ行政ニ關スル特例

第五十五條 鳥嶼ノ經濟ト所屬本地ノ經濟トハ府縣會ノ議決ヲ經テ內務大臣ノ許可ヲ受ケテ之ヲ分別スルコトヲ得...

附則

本令中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ、其ノ他ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ施行ス...







府縣制施行規則 府縣ノ財務

一 納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年  
度ニ賦課スルコトヲ得ザルガ爲メ特ニ納期ヲ定メタル  
收入ハ又ハ隨時ノ收入ニシテ賦課令書、賦課令書  
又ハ納額告知書ヲ發シテモハ合書又ハ告知書ヲ發  
シタル日ノ屬スル年  
三 隨時ノ收入ニシテ賦課令書、賦課令書又ハ納額告知  
書ヲ發シタル日ノ屬スル年ノ收入ノ額ハ其ノ年  
度但シ別ニ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期  
日ノ屬スル年  
二 通信運搬費、土木建築費其ノ他物件ノ購入代價  
ノ類ハ契約ヲ爲シタル時ノ屬スル年但シ契約ニ依リ  
定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年  
度  
三 府債ノ元利金ニシテ支拂期日ノ定アルモノハ其ノ  
支拂期日ノ屬スル年  
四 補助金、寄附金、負擔金ノ類ハ其ノ支拂期日ノ屬スル  
年  
五 賦課補填ハ其ノ補填ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年  
度  
六 前各號ニ掲グルモノヲ除ク外ハ總テ支拂命令ヲ發シ  
タル日ノ屬スル年  
第三十四條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入

ニ編入スベシ  
第三十五條 府縣稅ハ徵稅令書、徵稅傳令書ニ依リ夫役現  
品ハ賦課令書ニ依リ負擔金、使用料、手数料、過料、  
過怠金及物件ノ賃貸料ノ類ハ納額告知書ニ依リ之ヲ徵收  
シ其ノ他ノ收入ハ納付書ニ依リ收入スベシ但シ府縣制施行  
令第三十三條第三項又ハ第三十九條ノ規定ニ依リ徵收  
スル府縣稅及急迫ノ場合ニ賦課令書ニ依リ之ヲ徵收  
又ハ納付書ニ依リ之ヲ徵收スルモノハ其ノ限ニ在ラス  
第三十六條 支出ハ債主ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス  
第三十七條 左ノ經費ニ付テハ府縣ノ官吏吏員ヲシテ現金支拂  
ヲ爲サズル爲メ其ノ資金ヲ當該官吏吏員ノ前渡スルコトヲ得  
一 府債ノ元利支拂  
二 外國ニ於テ物品ヲ購入スル爲メ必要ナル經費  
三 遠隔ノ地又ハ交通不便ノ地ニ於テ支拂ヲ爲ス經費  
特別ノ必要アルトキハ前項ノ資金前渡ハ府縣ノ官吏吏員以  
外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得  
第三十八條 旅費及訴訟費用ニ付テハ概算拂ラ爲スコトヲ得  
第三十九條 前二條ニ掲グルモノノ外必要アルトキハ府縣參事會  
ノ議決ヲ經テ資金前渡又ハ概算拂ラ爲スコトヲ得  
第四十條 前金支拂ニ非ザレバ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難キ  
モノニ付テハ前金拂ラ爲スコトヲ得  
第四十一條 歲入ノ課納額納付シタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收  
入シタル歲入ヨリ支拂フシ  
第四十二條 歲入ノ課納額納付シタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收  
入シタル歲入ヨリ支拂フシ  
第四十三條 繼續費ハ毎年度ノ支拂額額ヲ繼續年度ノ終リ迄

過次繰越使用スルコトヲ得  
第四十四條 歲入歳出豫算ハ之ヲ經營臨時ノ一部ニ別テ且各  
部ヲ款項ニ區分スベシ  
第四十五條 歲入歳出豫算ハ各項ノ各目ニ區分シ其ノ豫算  
ノ基所ヲ詳記シタル豫算說明ヲ附スベシ  
第四十六條 特別會計ニ屬スル歲入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調  
製スベシ  
第四十七條 府縣歳入歳出豫算ハ別記府縣歳入歳出豫算  
様式ノ一ニ依リ之ヲ調製スベシ  
府縣制第四百十條ノ府縣ニ於テハ府縣歳入歳出豫算ハ  
別記府縣歳入歳出豫算様式ノ二ニ依リ、其ノ市部又ハ郡  
部限リ豫算ハ別記府縣歳入歳出豫算様式ノ三ニ依リ之  
ヲ調製スベシ  
第四十八條 繼續費ノ年及支出方法ハ別記繼續費ノ年  
期及支出方法様式ニ依リ之ヲ調製スベシ  
第四十九條 豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲  
スコトヲ得  
第五十條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得  
豫算各項ノ金額ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコ  
トヲ得但シ機密費ハ此ノ限ニ在ラス  
第五十一條 府縣ノ收入支出ニシテ命令ヲ發スルモノハ  
府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員其ノ他ノ職員ニ  
於テ之ヲ發ス  
第五十二條 府縣ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖  
ス  
第五十三條 府縣ノ出納ニ關スル事項ハ會計年度經過後三月  
以内ニ之ヲ完結スベシ  
第五十四條 決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ  
對スル過不足ノ說明ヲ附スベシ

第五十五條 會計年度經過後ニ至リ歲入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ  
足ラザルトキハ翌年度ノ歲入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ  
得  
第五十六條 府縣出納吏ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ府縣知  
事ニ於テ検査員ヲ命ジ少クモ毎年度一回之ヲ検査セシムベ  
シ  
府縣出納吏ニ異動アリタルトキハ府縣知事ハ検査員ヲシテ現  
金及帳簿ヲ検査セシムベシ  
第五十七條 府縣ニ屬スル現金ノ出納及保管ノ爲メ府縣金庫ヲ  
置ク  
第五十八條 府縣金庫ハ府縣本金庫府縣支金庫トス  
府縣本金庫ハ府縣廳所在地ニ之ヲ置キ府縣支金庫ハ府  
縣知事ニ於テ必要ト認ムル地ニ之ヲ置ク  
府縣本金庫ハ府縣支金庫ヲ總轄ス  
第五十九條 金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムベキ銀行ハ府縣知事之  
ヲ定ム  
第六十條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ定ムル所ニ  
依リ擔保ヲ提出スベシ  
第六十一條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ定ムル所ニ  
依リ擔保ヲ提出スベシ  
第六十二條 府縣知事ハ豫算ニ屬スル現金ヲ支出ニ妨ケナキ限  
度ニ於テ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ニ運用ヲ許スコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ  
定ムル所ニ依リ利子ヲ府縣ニ納付スベシ  
第六十三條 府縣知事ハ府縣金庫ヲ監督シ検査員ヲシテ定期  
及臨時ニ現金帳簿ヲ検査セシム又必要アリト認ムルトキハ臨  
機ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十四條 本章ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ府縣知事  
之ヲ定ム  
第三章 雜則  
第六十五條 府縣制第四條第二項但書ノ市ニ於テハ本令第  
六條第一項、第二項及第二十條中市ニ關スル規定ハ區  
ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス  
第六十六條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務  
ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ  
組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス  
附則  
本令中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリシテ施行シ其  
ノ他ノ規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ施行ス  
左ノ內務省令ハ之ヲ廢止ス  
明治二十四年內務省令第十二號  
明治三十二年內務省令第六號  
明治三十二年內務省令第二十九號  
明治三十三年內務省令第七號  
大正三年內務省令第九號  
大正三年內務省令第十號  
大正三年內務省令第十一號  
大正十一年內務省令第十五號  
從前ノ規定ニ依リ手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタル  
モノト看做ス  
本令中議員選舉ニ關スル規定施行ノ際市制町村制施行規  
則中議員選舉ニ關スル規定未ダ施行セラザル場合ニ於テハ本  
令ノ適用ニ付テハ同規定ハ既ニ施行セラザルモノト看做ス

(別記)  
立會人ノ届出書様式  
立會人(開票立會人)(選舉立會人)届  
立會人 氏 名  
住 所 何府縣(何市)(何郡)(何町)(何大字)(何町)  
何番地  
生年月日 何年何月何日  
選 舉 大正何年何月何日執行ノ府(縣)會議員  
右別紙本人ノ承諾書相添届出候也  
大正何年何月何日 議員候補者 氏 名 名印  
投票管理者(開票管理者)(選舉長) 氏 名 名印  
立會人ノ届出書ニ添付スベキ承諾書様式  
投票立會人(開票立會人)(選舉立會人)承諾書  
大正何年何月何日執行ノ府(縣)會議員選舉ニ於ケル投  
票立會人(開票立會人)(選舉立會人)タルコトヲ承諾候也  
大正何年何月何日 何府(縣)何市(何郡)(何町)(何大字)(何町)  
何番地 氏 名 名印  
議員候補者 氏 名 名印  
議員候補者ノ届出書様式  
府(縣)會議員候補者届  
議員候補者 氏 名  
職 業 何々(官公吏、陸海軍軍人ニ在リテハ成ル  
可ク明細ニ記載スルコト)

府縣制施行規則 附則 立會人ノ届出書様式 立會人ノ届出書ニ



















府縣制施行規則 府縣歲入歳出豫算樣式

Table of income and expenditure items for the prefecture level, including items like 'Second item: Police expenses', 'Third item: Police salaries', etc.

Table of income and expenditure items for the prefecture level, including items like 'Second item: Expenses for prefectural planning', 'Third item: Expenses for prefectural planning', etc.

Table of income and expenditure items for the prefecture level, including items like 'Third item: Expenses for prefectural planning', 'Fourth item: Expenses for prefectural planning', etc.

府縣歳入歳出豫算樣式之二

Table of income and expenditure items for the prefecture level, including items like 'Income', 'Expenditure', 'First item: Police expenses', etc.

Table of income and expenditure items for the prefecture level, including items like 'First item: Expenses for prefectural planning', 'Second item: Expenses for prefectural planning', etc.

Table of income and expenditure items for the prefecture level, including items like 'First item: Expenses for prefectural planning', 'Second item: Expenses for prefectural planning', etc.

府縣制施行規則 府縣歳入歳出豫算樣式

府縣制施行規則 府縣歳入歳出豫算樣式



●地方議會議員ノ選舉運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件

(大正十五年六月二十四日) 內務省令第二十一號

改正、昭二一内令四二  
北海道會法第十四條、府縣制第三十九條、市制第三十條、町制第三十六條、二級北海道一級町制第一條及北海道二級町制第四十七條ニ依リ選舉運動ノ爲ニシテ又ハ揭示スル文書圖畫ノ制限ニ關スル件左ノ通定ム

北海道會、府縣會、市會(市制第六條ノ市ノ區ノ區會ヲ含ム)、町村會並北海道一級町村及北海道二級町村ノ町村會ノ議員ノ選舉ニ付テハ大正十五年內務省令第五號選舉運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件ヲ準用ス但シ同令第三條中百箇トアルハ左ノ各號ニ依ル

一 北海道會議員、府縣會議員及市制第三十九條ノ二ノ市(又ハ區)ノ市會議員(又ハ區會議員)ノ選舉ニ付テハ三十箇  
二 前號ノ市(又ハ區)以外ノ市(又ハ區)ノ市會議員(又ハ區會議員)、町村會議員並北海道二級町村及北海道二級町村ノ町村會議員ノ選舉ニ付テハ十箇

附則 (昭和二年內務省令第四十二號附則)  
本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

●直接税及間接税ノ種類、類別

(大正十五年五月七日) 內務省令第六十八號

北海道會法第十五條、府縣制第四百五條、市制第七十五條、町制第五百五條、北海道一級町制第二百二十三條、北海道二級町制第七十條及島嶼町制第二百二條ノ規定ニ依リ直接税及間接税ノ種類、類別左ノ通定ム

一 北海道會法第十五條直接税ノ種類  
地租 所得税(所得税法第三條第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ依ル所得税ヲ除ク)營業稅 營業收益稅 資本利子稅(資本利子税法第二條甲種ノ資本利子中無記名債券ノ資本利子ニ係ル資本利子稅ヲ除ク)釐金稅 砂鑛區稅 取引所營業稅

一 府縣稅  
左ノ諸稅ヲ直接税トシ其ノ他ヲ間接税トス  
地租 所得税(所得税法第三條第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得税ヲ除ク)營業稅 營業收益稅 資本利子稅(資本利子税法第二條甲種ノ資本利子中無記名債券ノ資本利子ニ係ル資本利子稅ヲ除ク)釐金稅 砂鑛區稅 取引所營業稅

一 町村稅  
左ノ諸稅ヲ直接税トシ其ノ他ヲ間接税トス  
地租 所得税(所得税法第三條第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得税ヲ除ク)營業稅 營業收益稅 資本利子稅(資本利子税法第二條甲種ノ資本利子中無記名債券ノ資本利子ニ係ル資本利子稅ヲ除ク)釐金稅 砂鑛區稅 取引所營業稅

一 市町村稅  
左ノ諸稅ヲ直接税トシ其ノ他ヲ間接税トス  
地租 所得税(所得税法第三條第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得税ヲ除ク)營業稅 營業收益稅 資本利子稅(資本利子税法第二條甲種ノ資本利子中無記名債券ノ資本利子ニ係ル資本利子稅ヲ除ク)釐金稅 砂鑛區稅 取引所營業稅

●府縣吏員服務紀律

(明治三十五年二月十四日) 內務省令第三號

府縣吏員服務紀律左ノ通定ム  
府縣吏員服務紀律  
一 府縣吏員ハ其ノ職務ニ付指揮監督者ノ命令ヲ遵守ス

二 府縣吏員ハ其ノ職務ノ内外ヲ問ハズ職權ヲ濫用シ廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷ラフ所爲アルヘカラス  
三 府縣吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ズ其ノ職務ヲ退クノ後ニ於テ亦同シ但シ裁判所ノ召喚ニ依リ職務上ノ必要ニ付訊問ヲ受ケル場合ニ於テ指揮監督者ノ許可ヲ得タル事件ニ付テハ此限ニ在ラス

四 府縣吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ズ  
五 府縣吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ズ

六 府縣吏員ハ其ノ職務ニ關シ指揮監督者ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ズ

七 府縣吏員ハ其ノ職務ニ關シ指揮監督者ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ズ

●府縣吏員服務紀律

(明治三十五年二月十四日) 內務省令第三號

府縣吏員服務紀律左ノ通定ム  
府縣吏員服務紀律  
一 府縣吏員ハ其ノ職務ニ付指揮監督者ノ命令ヲ遵守ス

二 府縣吏員ハ其ノ職務ノ内外ヲ問ハズ職權ヲ濫用シ廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷ラフ所爲アルヘカラス  
三 府縣吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ズ其ノ職務ヲ退クノ後ニ於テ亦同シ但シ裁判所ノ召喚ニ依リ職務上ノ必要ニ付訊問ヲ受ケル場合ニ於テ指揮監督者ノ許可ヲ得タル事件ニ付テハ此限ニ在ラス

四 府縣吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ズ  
五 府縣吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ズ

六 府縣吏員ハ其ノ職務ニ關シ指揮監督者ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ズ

七 府縣吏員ハ其ノ職務ニ關シ指揮監督者ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ズ

●府縣吏員服務紀律

(明治三十五年二月十四日) 內務省令第三號

府縣吏員服務紀律左ノ通定ム  
府縣吏員服務紀律  
一 府縣吏員ハ其ノ職務ニ付指揮監督者ノ命令ヲ遵守ス

二 府縣吏員ハ其ノ職務ノ内外ヲ問ハズ職權ヲ濫用シ廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷ラフ所爲アルヘカラス  
三 府縣吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ズ其ノ職務ヲ退クノ後ニ於テ亦同シ但シ裁判所ノ召喚ニ依リ職務上ノ必要ニ付訊問ヲ受ケル場合ニ於テ指揮監督者ノ許可ヲ得タル事件ニ付テハ此限ニ在ラス

四 府縣吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ズ  
五 府縣吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ズ

六 府縣吏員ハ其ノ職務ニ關シ指揮監督者ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ズ

七 府縣吏員ハ其ノ職務ニ關シ指揮監督者ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハズ自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ズ

●國庫ニ關スル公債

直接税及間接税ノ種類、類別  
府縣吏員服務紀律



國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律

國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律

(明治三十年四月一日) 法律第三十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律施行ニ關スル件

國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律施行ニ關スル件

(明治三十一年八月二日) 勅令第百八十四號

朕明治三十年法律第三十七號ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市制

(明治四十四年四月七日) 法律第六十八號

改正、大一一〇—法五八、大一一一—法五六、大一一五—法七四

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ市制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 市ハ從來ノ區域ニ依ル... 第二條 市ハ法人トシテ...

市制 總則

市制

(明治四十四年四月七日) 法律第六十八號

改正、大一一〇—法五八、大一一一—法五六、大一一五—法七四

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ市制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二章 市住民及其ノ權利義務

第八條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス... 第九條 帝國臣民タル年滿二十五年以上ノ男子ニシテ...

市制



市制 市會

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ執行ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者(未ダ入營セザル者及...

第二章 市會

第一節 組織及選舉
第十三條 市會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人ノ...

超ニル市ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員四人ヲ增加ス...

第十四條 市公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者...

第十五條 (大正十五年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ削除)

第十六條 市ハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得...

内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

第十七條 市會議員ハ其ノ職責ニシテ在職中ノ者ハ其ノ...

第十八條 選舉權ヲ有スル市公民ハ被選舉權ヲ有ス...

第十九條 市會議員ハ其ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ起算ス...

用ス

補選議員ハ其ノ前任者ノ任期期間在任ス

選舉區ノ場合ニ於テハ補選議員ハ前任者ノ選舉權ヲシテ...

第二十一條 市長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ選舉人名...

第六條ノ市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項ノ例ニ依リ選舉...

第二十二條 市長ハ十一月五日ヨリ十五日間市役所(第...

第六條ノ市ニ於テハ區役所)又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ...

市長ハ被選舉開始ノ日前三日ヨリ起シ選舉ノ場所ヲ告示ス...

第一項ノ決定及前項ノ執行ニ付テハ市長ヨリモ訴訟又ハ訴...

第二十二條 市長ハ選舉ノ期日前七日目(第三十九條ノ二ノ...

用ス

選舉人名簿ハ次年ノ十二月二十四日迄之ヲ據置クハシ...

前項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ...

第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告示セシム...

第二十一條 市長ハ選舉ノ期日前七日目(第三十九條ノ二ノ...

市ニ於テハ二十日ヨリ起シ選舉會場(投票分會場)ヲ會ム...

第一項ノ規定ニ依リ名簿ノ調製、變更、確定及異議申立...

第二十二條 市長ハ選舉ノ期日前七日目(第三十九條ノ二ノ...

市ニ於テハ二十日ヨリ起シ選舉會場(投票分會場)ヲ會ム...

第一項ノ規定ニ依リ名簿ノ調製、變更、確定及異議申立...

用ス

投票分會場ノ日付更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシム...

各選舉區ノ選舉會ハ市長又ハ其ノ指名シタル吏員(第六條...

市長(第六條ノ市ニ於テハ區長)ハ選舉人名簿ニ登錄セラ...

市長ハ選舉會場外ニ退出セシムル者ハ(同上本項ヲ改正)

市長ハ選舉會場外ニ退出セシムル者ハ(同上本項ヲ改正)

市長ハ選舉會場外ニ退出セシムル者ハ(同上本項ヲ改正)

市長ハ選舉會場外ニ退出セシムル者ハ(同上本項ヲ改正)

市長ハ選舉會場外ニ退出セシムル者ハ(同上本項ヲ改正)

市長ハ選舉會場外ニ退出セシムル者ハ(同上本項ヲ改正)